那須烏山市埋蔵文化財調査報告 第10集

曲畑遺跡

２０２５.３

栃木県那須烏山市教育委員会

曲畑（そりはた）遺跡

２０２５．３

栃木県那須烏山市教育委員会

序

栃木県の中東部に位置する那須烏山市は、平成17年に那須郡烏山町と同南那須町が合併し誕生しました。八溝山地の西麓、喜連川丘陵の南端に位置し、南北に那珂川、北西から荒川・江川が丘陵を縫うように流れ、市南端の向田地区で合流します。これらの河川の段丘や丘陵上には、長者ヶ平官衙関連遺跡、烏山城跡などの国指定史跡をはじめ、旧石器時代から中世まで300以上の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、古より緑豊かな住みよい場所であったであろうことは想像に難くありません。

さて、平成 2〜4 年に行われた曲畑遺跡の発掘調査では、旧石器・縄文・古墳時代の遺構・遺物が数多く発見されました。特に、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑、そしてそこから出土した遺物は質・量とも充実しており、県東部のこの時期の地域性を考えるうえで貴重な資料であります。当時は写真図版編（1999年）の刊行を行いましたが、ここに実測図版を含む本文編を加え報告書が完了いたしました。

本報告書は、発掘調査の成果をまとめたものでありますが、本書が郷土の歴史を理解する一助になるとともに、広く活用していただければ幸いです。

結びに、発掘調査から報告書刊行にいたるまで多大なる御理解・御協力をいただきました栃木県生活文化スポーツ部文化振興課をはじめ関係機関、関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

令和７年３月

那須烏山市教育委員会

教育長　　内藤　雅伸

例　言

1．本書は栃木県那須烏山市大字曲畑 147 番地他に所在する曲畑遺跡の発掘調査報告書（実測図・本文編）である。写真図版編については平成 11 年に、南那須町文化財報告書第 14 集として刊行している。
2．発掘調査は、株式会社本田ロック研究所造成事業に伴うもので、南那須町教育委員会が平成 2 年 10 月 1 日から平成 4 年 3 月 23 日まで実施した。
3．遺構・遺物等の報告（本文編）については平成 12 年度に刊行を予定していたが、諸事情で中断してしまった。再整理・報告書（本文編）の刊行は令和 4 年度から 6 年度に国庫補助事業として行った。
4．再整理・報告書作成までの担当者は、以下のとおりである。

生涯学習課課長　水上和明（令和 4 年度）　黒尾明美（令和 5・6 年度）
文化財グループ総括　小峯洋一　　学芸員係長　鈴木芳英　　学芸員主査　石下翔子
総括技術専門員　後藤信祐　　学芸員主任　川又隆一郎(令和 6 年度)
業務補助員　桑原恵美子　墨野倉弘美　豊田裕美子

5．本書の執筆は、第 1 章第 1 節を鈴木が行い、その他の執筆及び編集は後藤が行った。なお、第 3 章第 1 節については、川田均の原稿を後藤が加筆修正した。
6．本報告書作成にあたっては、栃木県生活文化スポーツ部文化振興課の指導を受けるとともに、公益財団法人栃木県未来づくり財団埋蔵文化財センターのほか、下記の方々にご指導・ご協力を賜った。

上野修一　内山敏行　海老原郁雄　木下実　鈴木勝　芹澤清八　塚本師也　中村享史　中村信博
橋本澄朗　森嶋秀一

7．本報告書に係る出土遺物・実測図・写真等は、那須烏山市教育委員会で保管している。

凡　例

1．本遺跡の略号は、MSS（Minaminasumachi Sorihata Sorihata）である。
2．遺構は、発掘調査時に竪穴建物跡：SI、土坑：SK、集石遺構・不明遺構：SXの略号を用い、確認順に番号を付けていった。本報告でも原則これを用いる。
3．遺構実測図は、竪穴住居跡・土坑は原則1/60とし、炉跡断面・カマドについては1/30で掲載したものもある。古墳は平面図1/300、周溝断面図1/60、石室1/40で示し、各遺構とも図中にスケールを掲載した。
4．土層注記の混入物のうち、鹿沼軽石：KP、今市軽石：IP、七本桜軽石：SPとし、断面図中の攪乱はKで示した。また、混入物の量は、多量・少量・微量・極微とした。
5．炉跡・カマドの焼土部分については、網掛けで示した。
6．遺構実測図の方位は、日本測地系による座標北、同断面図の水準線は海抜標高である。
7．発掘調査時グリッドは一辺20mグリッドで東西をアラビア数字、南北をアルファベットで示した。整理作業段階では、1辺10mの小グリッドに4分割し、北西から時計回りにa・b・c・dとした。
8．遺物実測図の縮尺は、縄文土器・土師器1/4、石器・石製品・土製品は石鏃等小形石器2/3、土製円盤・装身具等1/2、石皿・石棒などの大形石器は1/5、その他の石器は1/4に統一し、挿図中にスケールを掲載した。なお、同一挿図中で縮尺の異なるものについて個々に縮尺を示した。
9．赤色塗彩については、網掛けで示した。
10．東日本大震災により多くの縄文土器が被災したため、写真図版編（1998年撮影）と本報告の土器実測図は残存部分の異なるものもある。

目　次

序
例言
凡例

第１章　発掘調査及び再整理の経緯 …… 1
第２章　遺跡の環境
　第１節　遺跡の位置と地理的環境 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　検出された遺構と遺物
　第１節　旧石器時代
　（１）基本土層 …… 6
　（２）遺物発見の経緯 …… 6
　（３）遺物の概要と位置付け …… 7
　（４）遺構確認調査中に採取された石器 …… 8
　第２節　縄文時代
　（１）検出遺構の概要と時期区分 …… 12
　（２）竪穴住居跡 …… 14
　（３）土坑 …… 30
　（４）集石遺構・小穴群 …… 216
　（５）捨て場 …… 216
　（６）遺構外出土及び出土遺構不明土器 …… 216
　（７）石器 …… 224
　（８）土製品 …… 249
　（９）石製品 …… 249
　第３節　古墳時代
　（１）竪穴住居跡 …… 254
　（２）古墳 …… 261
第４章　まとめ …… 268
報告書抄録

挿図目次

第1図　曲畑遺跡の位置と周辺の地形図
第2図　曲畑遺跡周辺の遺跡
第3図　基本土層図
第4図　Ⅶ層出土石器分布図
第5図　Ⅶ層出土石器実測図
第6図　遺構確認時出土石器実測図
第7図　SI-8～12実測図
第8図　SI-13～15・22実測図
第9図　SI-16・21実測図
第10図　SI-24・26・27実測図
第11図　SI-28～30・32実測図
第12図　SI-34～38実測図
第13図　SI-8～13(1)出土土器実測図
第14図　SI-13(2)～16・22・24・26(1)出土土器実測図
第15図　SI-26(2)出土土器実測図
第16図　SI-27～30(1)出土土器実測図
第17図　SI-30(2)・32・34・36～38出土土器実測図
第18図　SK-1～8・10～12実測図
第19図　SK-13・14・16・17・19～21・41・44・55・56実測図
第20図　SK-22～30・42・50実測図
第21図　SK-31・33・35～38・99実測図
第22図　SK-40・45～47・51～53・71・72・77実測図
第23図　SK-48・49・58～63・82実測図
第24図　SK-64～67・69・70・78・120実測図
第25図　SK-74～76・79～81・106・107実測図
第26図　SK-83～85・96・100・101・104・109・130・202実測図
第27図　SK-87～91・97・98・105・108・116・121・212実測図
第28図　SK-92～95・110・122・123・134～136・191・210実測図
第29図　SK-102・103・113・128・133・137・203・211・213実測図
第30図　SK-111・112・115・117・118・124～127実測図
第31図　SK-129・131・132・138・204・231実測図
第32図　SK-139～148実測図
第33図　SK-149～154・156・158・164・167・172実測図
第34図　SK-155・159～163・166・168・217・218実測図
第35図　SK-169・171・173～177・214・216実測図
第36図　SK-178～183・187・189・190・208実測図
第37図　SK-184～186・188・193・194・199・209実測図
第38図　SK-192・195・197・198・269～271・289・290・292実測図
第39図　SK-200・201・205～207・219・220・222実測図
第40図　SK-221・224～227・234～236実測図
第41図　SK-228～230・232・233・237実測図
第42図　SK-238～244実測図
第43図　SK-245～247・260～262実測図
第44図　SK-248～251・263・264・266・267実測図
第45図　SK-252～259・276・299実測図
第46図　SK-268・273～275・300・309・333・335・337実測図
第47図　SK-272・278・284・285・287・294・301～306実測図
第48図　SK-277・291・293・307・308・310～312・336・373実測図
第49図　SK-279～282・288・295～298実測図
第50図　SK-313～320実測図
第51図　SK-321～324・328・348～350・352実測図
第52図　SK-325～327・329～332・339・355実測図
第53図　SK-334・340～343・354・357実測図
第54図　SK-344～347・351・353・356・359～361・371実測図
第55図　SK-362・363・365～370・372実測図
第56図　SK-374～378・388・389・401実測図
第57図　SK-379～382・387・395・396・399・402・417・433・435実測図
第58図　SK-383～386・390～394・421・422実測図
第59図　SK-397・398・400・406～408・423・436・472実測図
第60図　SK-403～405・410・418～420・424・427～429実測図
第61図　SK-411～415・425・426・430～432・434・485・486実測図
第62図　SK-364・437～441・464～468・470・473実測図
第63図　SK-442～446・448～451・454・471実測図
第64図　SK-452・453・455～457・459・460・469実測図
第65図　SK-458・461～463・474・475・477・478実測図
第66図　SK-476・479～482・484・488・500実測図
第67図　SK-483・487・498・643・649～651・660・661・667・668・675実測図
第68図　SK-489～497・501・507・508実測図
第69図　SK-502～506・510・519・520・526実測図
第70図　SK-509・511～517・521・523実測図
第71図　SK-522・524・525・528～532・542実測図
第72図　SK-533・534・544・545・554～557・559～561実測図
第73図　SK-527・535～538・548・549・562・565・566・571実測図
第74図　SK-539～541・543・546・547・563実測図
第75図　SK-550～553・558・564・567～570実測図
第76図　SK-572～581・586・603実測図
第77図　SK-582～585・590・591・595・598・599・614・629・630実測図
第78図　SK-587～589・596・597・615・646・648実測図
第79図　SK-592～594・600～602・604～610・621・622・628・631・632・637・680実測図
第80図　SK-600・601・610・620～622・624～626・628・632・636・637・670・680実測図
第81図　SK-613・616～619・627・635・642・652・653・664・672実測図
第82図　SK-611・612・633・634・639～641・673実測図
第83図　SK-645・647・667・669・671・676・677・681・682実測図

第84図　SK-654～659・662・663・674・678・700実測図
第85図　SK-665・666・679・683～690・698・699実測図
第86図　SK-691～697実測図
第87図　SK-1・3～8・10～14出土土器実測図
第88図　SK-16・17・19～24・26出土土器実測図
第89図　SK-25(1)出土土器実測図
第90図　SK-25(2)・27～31出土土器実測図
第91図　SK-35～40出土土器実測図
第92図　SK-41・42・45出土土器実測図
第93図　SK-44・46～48(1)出土土器実測図
第94図　SK-48(2)～50出土土器実測図
第95図　SK-51・52(1)・55出土土器実測図
第96図　SK-52(2)・56・59・60出土土器実測図
第97図　SK-61～63・65・69出土土器実測図
第98図　SK-66・67・70(1)出土土器実測図
第99図　SK-70(2)・71(1)出土土器実測図
第100図　SK-71(2)・72(1)出土土器実測図
第101図　SK-72(2)・74(1)出土土器実測図
第102図　SK-74(2)出土土器実測図
第103図　SK-74(3)出土土器実測図
第104図　SK-75～77出土土器実測図
第105図　SK-78～81・85・88～90出土土器実測図
第106図　SK-87・91～93出土土器実測図
第107図　SK-94・95・99出土土器実測図
第108図　SK-96～98・100～102・104・106出土土器実測図
第109図　SK-107・109～113・115・118・126・128出土土器実測図
第110図　SK-117・125・127・129出土土器実測図
第111図　SK-130・131・133・134(1)出土土器実測図
第112図　SK-134(2)出土土器実測図
第113図　SK-135～140・143・144出土土器実測図
第114図　SK-142・145～148出土土器実測図
第115図　SK-149・150・152～156・158・159・161出土土器実測図
第116図　SK-160・162～169・171～175・177・179出土土器実測図
第117図　SK-176出土土器実測図
第118図　SK-178・180・181・183～185・187出土土器実測図
第119図　SK-186・188・190～192・194・197・198出土土器実測図
第120図　SK-193・195・199～202・205～207出土土器実測図
第121図　SK-204出土土器実測図
第122図　SK-208～214・216～220・222～224出土土器実測図
第123図　SK-225～231出土土器実測図
第124図　SK-232～238出土土器実測図
第125図　SK-239～243・245～249・251～253出土土器実測図
第126図　SK-250・254～259・261出土土器実測図
第127図　SK-262～267出土土器実測図
第128図　SK-268～270・272・273・275出土土器実測図
第129図　SK-276～281・285出土土器実測図
第130図　SK-282・284・287・292・293出土土器実測図
第131図　SK-297出土土器実測図
第132図　SK-288・298～302出土土器実測図
第133図　SK-303～305・307出土土器実測図
第134図　SK-308～318・320出土土器実測図
第135図　SK-322～328出土土器実測図
第136図　SK-329～337出土土器実測図
第137図　SK-339～344出土土器実測図
第138図　SK-345～348・350出土土器実測図
第139図　SK-351～354・357・359～362・364出土土器実測図
第140図　SK-356・365～370・372～374出土土器実測図
第141図　SK-375・376・378・382出土土器実測図
第142図　SK-377・380・381出土土器実測図
第143図　SK-383～386・388・390・391出土土器実測図
第144図　SK-389・392出土土器実測図
第145図　SK-393(1)出土土器実測図
第146図　SK-393(2)～395出土土器実測図
第147図　SK-396・397出土土器実測図
第148図　SK-398～401出土土器実測図
第149図　SK-402～408出土土器実測図
第150図　SK-410～414出土土器実測図
第151図　SK-415～418・420～424・426・427出土土器実測図
第152図　SK-425・429～431・436出土土器実測図
第153図　SK-433・434・437～439出土土器実測図
第154図　SK-440出土土器実測図
第155図　SK-441(1)出土土器実測図
第156図　SK-441(2)出土土器実測図
第157図　SK-442～452・454・455出土土器実測図
第158図　SK-456～462・465・466出土土器実測図
第159図　SK-463・464・467～469出土土器実測図
第160図　SK-470・472～477出土土器実測図
第161図　SK-478～482出土土器実測図
第162図　SK-483～485・487～489出土土器実測図
第163図　SK-490～498・500・502・503・506出土土器実測図
第164図　SK-501・509～511出土土器実測図
第165図　SK-504・505・513～521・524・525・527・528出土土器実測図
第166図　SK-522(1)出土土器実測図
第167図　SK-522(2)出土土器実測図
第168図　SK-522(3)・523出土土器実測図
第169図　SK-526(1)出土土器実測図
第170図　SK-526(2)・530・532・533出土土器実測図
第171図　SK-534～543・545・546出土土器実測図
第172図　SK-547・549・550出土土器実測図
第173図　SK-548・551～556出土土器実測図
第174図　SK-559～568・570・573～578出土土器実測図
第175図　SK-579出土土器実測図
第176図　SK-580～583・585～590・592・594出土土器実測図
第177図　SK-591・593・596～600出土土器実測図
第178図　SK-595・602・605～608・610・611出土土器実測図
第179図　SK-609・612・613・616～619出土土器実測図

第180図　SK-615・621・622・624出土土器実測図
第181図　SK-620・625(1)出土土器実測図
第182図　SK-625(2)～630・632～634・636・637出土土器実測図
第183図　SK-635・639～643・647～651出土土器実測図
第184図　SK-646・652～655出土土器実測図
第185図　SK-656～659・661・664・666・668出土土器実測図
第186図　SK-663出土土器実測図
第187図　SK-665・667・669出土土器実測図
第188図　SK-670～675出土土器実測図
第189図　SK-676・678・679・681～685・688～690出土土器実測図
第190図　SK-686・687・696・697出土土器実測図
第191図　SK-692～694出土土器実測図
第192図　SK-700出土土器実測図
第193図　SX-1～3実測図
第194図　B区出土土器実測図(1)
第195図　B区出土土器実測図(2)
第196図　B区出土土器実測図(3)
第197図　B区出土土器実測図(4)
第198図　遺構外出土土器実測図
第199図　出土遺構不明土器実測図
第200図　石器(尖頭器・石槍・掻削器・三角錐形石器・敲打器・礫器等)実測図
第201図　石器(石鏃)実測図
第202図　石器(石錐・打製石斧)実測図
第203図　石器(打製石斧・磨製石斧)実測図
第204図　石器(磨製石斧)実測図
第205図　石器(磨製石斧)実測図
第206図　石器(磨石・凹石)実測図
第207図　石器(磨石・凹石)実測図
第208図　石器(磨石・凹石)実測図
第209図　石器(磨石・凹石)実測図
第210図　石器(磨石・凹石等)実測図
第211図　石器(石皿・多孔石等)実測図
第212図　石器(石皿・多孔石等)実測図
第213図　石器(石皿・多孔石等)実測図
第214図　石器(石皿・多孔石等)実測図
第215図　石器(石皿・多孔石等)実測図
第216図　土製品(円盤・ミニチュア土器・耳飾り・玉等)実測図
第217図　土製品(土器装飾・粘土塊)実測図、石製品(玉類・大形石棒)実測図
第218図　石製品(小形石棒・線刻石)実測図
第219図　SI-17・33実測図
第220図　SI-25実測図
第221図　SI-17・25(1)出土遺物実測図
第222図　SI-25(2)・33出土遺物実測図
第223図　1・2号墳全体図及び周溝断面図
第224図　1号墳石室及び墓道実測図
第225図　1号墳石室展開図及び根石実測図
第226図　2号墳主体部及び墓道実測図
第227図　1・2号墳出土遺物実測図
第228図　曲畑遺跡出土縄文時代中期土器変遷図

表　目　次

第1表　再整理事業の実施内容
第2表　周辺の遺跡一覧
第3表　Ⅶ層出土旧石器観察表
第4表　遺構確認時出土旧石器観察表
第5表　土坑一覧表
第6表　尖頭器・石槍等観察表
第7表　石鏃観察表
第8表　石錐観察表
第9表　打製石斧観察表
第10表　磨製石斧観察表
第11表　磨石・凹石観察表
第12表　石皿・多孔石観察表
第13表　土製円盤観察表
第14表　ミニチュア土器観察表
第15表　耳飾り・垂飾等観察表
第16表　土器装飾・粘土塊等観察表
第17表　玉類観察表
第18表　大形石棒観察表
第19表　小形石棒観察表
第20表　線刻石観察表
第21表　SI-17出土土器観察表
第22表　SI-25出土土器観察表
第23表　SI-33出土土器観察表
第24表　竪穴住居跡出土玉類観察表
第25表　古墳出土土器観察表
第26表　古墳出土鉄製品・玉類観察表

第１章　発掘調査及び再整理の経緯

曲畑遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、民間企業による開発に伴い平成２年から平成４年にかけて実施された。当遺跡は周知の遺跡であったため、遺跡の所在する当時の南那須町（現在は烏山町と合併し那須烏山市）は、事業主と土地利用による遺跡の対応などについて事前協議を行い、埋蔵文化財発掘調査を実施することで委託契約を取り交わした。

第１次調査は平成２（1990）年10月４日から平成３（1991）年９月12日まで行った。その後、事業地拡大に伴い、平成３年12月９日から平成４（1992）年３月26日までの期間、南及び西側約2,500㎡の第２次調査を実施した。総調査面積10000㎡、検出遺構は竪穴住居跡約30軒、土坑約700基、古墳２基などである。特に縄文時代の遺構や遺物が数多く発見されたことから、平成３年３月30日には発掘調査現地説明会も開催した。当時はまだ大規模な発掘調査が少なかったこともあり、「県内屈指の縄文時代の大集落」などと報道され注目を浴びた。

発掘調査終了後、図面や写真などの記録や出土遺物の整理が平成４（1992）年５月25日から平成５年３月24日まで実施された。当初の計画では、平成４～６年度の３カ年で整理作業から報告書の作成までを予定し、委託契約が締結された。しかし、事業主の事情から事業実施が困難な状況となったため、約１年間の整理作業のみで事業終了となった。

その後、南那須町教育委員会によって『曲畑遺跡（写真図版編）』を平成11（1999）年３月30日付けで刊行した。続いて遺構・遺物の実測図と本文編の刊行を予定していたが、諸事情により頓挫してしまった。整理作業が中断してしまった曲畑遺跡に関する膨大な資料は、南那須町歴史民俗資料館に保管されていたが、平成23（2011）年３月11日に発生した東日本大震災によって、建物が被災し、収蔵していた多くの土器が破砕してしまった。資料館は閉館となり、収蔵されていた遺物は市内の廃校（旧向田小学校・旧七合中学校）に避難するなど不遇な状況となっていた。

そこで那須烏山市では、貴重な埋蔵文化財であり地域の遺産でもある曲畑遺跡を多くの方々に周知していただき、地域を活かす資産とするため、令和４（2022）年からの３カ年計画で国庫補助事業を活用し、総括技術専門員（期限付任用職員）として実績のある埋蔵文化財担当者と、３名の業務補助員（会計年度任用職員）に協力いただき、本報告を作成する運びとなった。

発掘調査から長い時間が経過しており、発掘当時を知る方々も少なくなっていたが、残された多量の図面や写真などの調査記録や、縄文時代の住居跡や貯蔵穴、古墳などから出土した様々な遺物を復元、図化など再整理を実施し、本報告書の刊行に至った。本事業は、単に報告書を作成し記録保存するだけではなく、再整理された資料を公開し活用することを見据えて行った。すでに資料の一部は、山あげ会館に短期間ではあるが一般公開（平成６年７月18日～11月18日）するなど、地域資源を掘り起こし、保護していくための事業として実施した。

令和４（2022）年からの再整理３カ年計画の内容は、以下表のとおりである。

第１表　再整理事業の実施内容

実施年度	再整理事業の実施内容
令和４（2022）年度	資料状態の確認、写真・図面等の記録類と出土遺物の整理 全体図の作成、竪穴住居跡・土坑などの遺構の第二原図作成、出土遺物の選別、土器の復元、縄文土器・土師器の実測および拓本
令和５（2023）年度	調査記録と出土遺物の整理 遺構トレース、出土土器の復元、縄文土器・石器の実測およびトレース、遺構・遺物実測図版作成
令和６（2024）年度	報告書作成および収納 遺構・遺物図版作成・原稿執筆、編集、出土遺物・記録類の収納

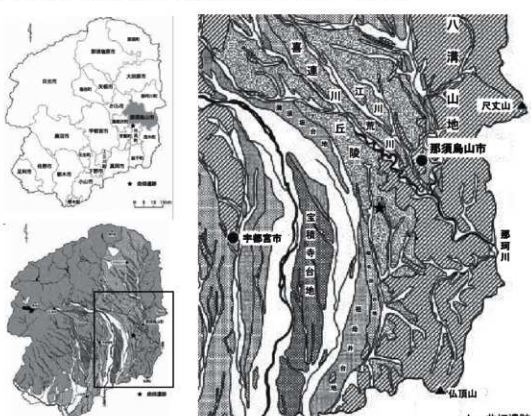
第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

那須烏山市は栃木県の中央東部に位置し、北は那珂川町、西はさくら市・高根沢町、南は茂木町・市貝町と接し、南西は芳賀町と近接する。東は茨城県境となり、常陸大宮市と接する。栃木県のほぼ中央の県都宇都宮市からは、ほぼ 30 ㎞東に位置する。

那須烏山市の地形を概観すると、東側は県境に沿って八溝・鷲子・鶏足山塊からなる八溝山地が南北に連なる。その西側には那須岳に源を発す那珂川が蛇行をしながら南流し、市の西側は高原山南麓から益子町まで連なる喜連川丘陵が位置する。喜連川丘陵は谷底平野や多くの谷筋が形成された丘陵列となっており、北西から南東方向に延びる。高原山釈迦ヶ岳に源を発す荒川や江川などの河川はこの丘陵列に沿って流れ、これらの河川沿いには河岸段丘が発達している。荒川は那須烏山市で蛇行しながら南東に流れ、江川と合流し、市南端の向田で那珂川に流入する。

曲畑遺跡は那須烏山市大字曲畑字兄弟久保に所在する。遺跡のある曲畑地区は那須烏山市の南西端に位置し、高根沢町中柏崎・市貝町大谷津と隣接し、芳賀町給部とも近接する。遺跡は多くの谷筋が発達した喜連川丘陵の西側の丘陵列にあり、小貝川の右岸段丘上に立地する。標高 151m、小貝川との比高は 25 mである。なお、小貝川は遺跡の北６㎞にある小貝ヶ池に源を発し、茨城県取手市で利根川に合流する。本市の多くの遺跡が那珂川水系であり、曲畑遺跡は水系が異なることになる。



第１図　曲畑遺跡の位置と周辺の地形

第２節　歴史的環境

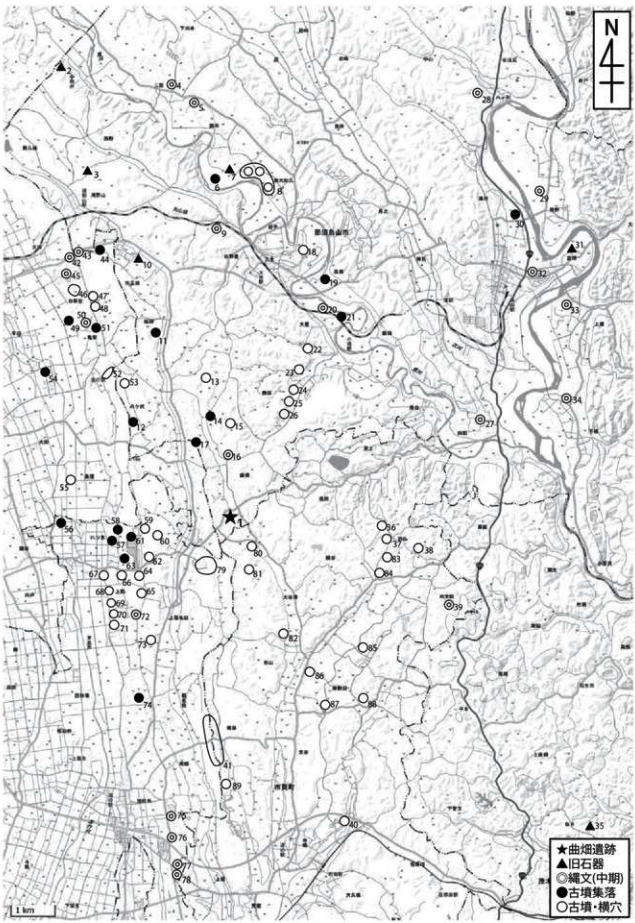
那須烏山市では350ほどの遺跡が確認されている。その多くは那珂川及びその支流の段丘上に立地している。しかし前節で記したように、曲畑遺跡(１)は市の南西端に位置し、水系も異なるため、隣接する高根沢町・芳賀町・市貝町を含め、本遺跡と関連のある時期の周辺の遺跡を概観する。

旧石器時代　市内では宮原遺跡（31）から３点の大形尖頭器、弥五郎遺跡(10)でナイフ形石器、馬屋久保遺跡(２)で彫刻刀形石器、後久保遺跡(３)で尖頭器、大和久学園遺跡(７)で剥片が出土して程度である。暗色帯からATにかけての時期の石器は、茂木町並松遺跡(35)や中根遺跡で出土している。

縄文時代　曲畑遺跡の時期である中期の遺跡に限って記す。曲畑遺跡の周辺では北２㎞に台畑遺跡(16)、谷を挟んで西側には散布地が数カ所確認されている。喜連川丘陵上の北方５～６㎞には大野遺跡(42)、荻ノ平遺跡(43)、日向Ａ遺跡(45)、坂向場Ｂ遺跡(50)、南方５～６㎞は弁天池遺跡(75)、弁天池南遺跡(76)、赤坂道上北遺跡(77)、赤坂道上遺跡(78)などの遺跡が密集する。那須烏山市のこの時期の遺跡は、那珂川及び支流の荒川の段丘上に多く確認されている。那珂川流域には白山平遺跡(28)、羽場遺跡(29)、泉遺跡(32)、三ツ木西和久遺跡(33)、鳴井上遺跡(34)、荒川流域には、室ノ木Ａ遺跡(４)、戸田遺跡(５)、小川原沢遺跡(９)、小鍋前遺跡(20)、滝川前遺跡(27)などの遺跡が３～４㎞の間隔で確認されている。遺跡の南東は中期の遺跡は少なく、和平遺跡(39)、添野遺跡(市貝町市塙)が確認されている程度である。

古墳時代　弥生時代から古墳時代中期までの遺跡は喜連川丘陵には少なく、丘陵西側の稲毛田台地や五行川低地で遺跡が確認されている。坂向場Ａ遺跡(49)、川端遺跡(51)、斧窪遺跡(17)などで前期の土器が、八ツ木新田遺跡(56)、八斗内遺跡(57)、芳賀町銭蒔遺跡(58)などで中期の土器が採集されている。砂部遺跡(54)では古墳時代前期５軒、中期45軒を含む130軒の古墳～平安時代の竪穴住居跡が検出されている。市内では北原遺跡(19)で前期の竪穴住居跡５軒、黒尾原Ａ遺跡(上川井)で前期末～中期の溝跡が発掘調査で出土しているのみである。古墳時代後期になり遺跡は急増し、平安時代まで継続する大規模集落も少なくない。発掘調査された滝田本郷遺跡(30)、三百目遺跡(６)、大用地A遺跡(44)、北原遺跡(19)、砂部遺跡(54)のほか、遺跡地図や町史ではこの時期の土器片が採集されている遺跡が少なくない。曲畑遺跡の北には西山遺跡(12)、大赤根遺跡(14)、西道地遺跡(福岡)などで古墳時代後期～古代の土器が採集されている。また荒川・江川流域にも三百目遺跡(６)、北原遺跡(19)、久保遺跡(21)、黒尾原遺跡（上川井）など多くの遺跡が確認されている。

古墳も高根沢町亀梨上の台古墳(47)で前期の方形周溝墓が１基確認されているが、5世紀以前のものはほとんどない。５世紀から6世紀前半の古墳は、散布地が確認されている芳賀町芳志戸・給部地区で集落と付随した芳志戸十三塚古墳(73)や千が窪古墳(62)などがある。６世紀後半以降は古墳群が急増する。曲畑遺跡と同じ小貝川流域で２km北には4基の円墳からなる四ツ塚古墳(15)、さらに１km北には前方後円墳１基と円墳４基からなる金堀塚古墳(13)がある。さらに北西５～６Kmの喜連川丘陵には台新田古墳群(46)，上の台古墳(47)、甲塚古墳群(52)などがある。上の台古墳やカリマタ窪古墳(53)の石室には曲畑古墳同様、凝灰岩の切石が使用されている。一方、丘陵南側にも七つ塚古墳群(79)、舛塚古墳群(81)、駒塚古墳群(82)、関根古墳群(86)、頓朝塚古墳群(40)、椎谷古墳群(41)をはじめ多くの古墳群が確認されている。また、市内の荒川流域には６世紀前半には珠文鏡と子持勾玉が出土したとされる東原古墳群(18)が、６世紀後半になると胴張り型川原石積みの横穴式石室が調査された大和久古墳群(８)がある。原の前・寺田・林先の支群からなり、７世紀前後まで築造されたと考えられている。７世紀には、那須烏山市を含む県東部では横穴墓群が発達する。曲畑遺跡の北東３㎞には鴨毛・岩穴・芝下・成合・吉原の４つの横穴墓群(22～26)が、南東３㎞には長峰・八重沢・羽仏の三つの横穴墓群(36～38)が小範囲に集中している。



第2図　周辺の遺跡

第2表　周辺の遺跡

No.	遺跡名	所在地	種別	時期	備考・参考文献
1	魚塚遺跡	那須烏山市曲畑	集落跡・古墳	旧石器・縄文・古墳	本報告、南那須町教育委員会編1999『曲畑遺跡1発掘調査報告書』
2	梅久保遺跡	那須烏山市滝野台	集落跡	旧石器・縄文・古代	那須烏山市遺跡、南那須町1993『南那須町史』史料編
3	後久保遺跡	那須烏山市滝野台	集落跡	旧石器・縄文	大関篤、南那須町教育委員会編1999『後久保遺跡』
4	宝ノ木A遺跡	那須烏山市城ノ内	集落跡	縄文	1992年発掘、中期、『南那須町1993『宝ノ木A遺跡』
5	戸田遺跡	那須烏山市城ノ内	集落跡・古墳	縄文・古墳	2015年発掘、中期、戸田古墳群周溝調査時多数の縄文中期土器出土
6	三百目遺跡	那須烏山市藤田	集落跡	古墳	後期、南那須町1993『南那須町史』史料編
7	大和久学園遺跡	那須烏山市大和久	散布地	旧石器	剥片、南那須町2000『南那須町史』通史編
8	大和久古墳群	那須烏山市大和久	古墳	古墳	方形主部(円墳7基)、周の南北側(溝跡)、林先文群前方後円墳2基、円墳3基(1959・1995年発掘、南那須町教育委員会2017『大和久古墳群発掘調査報告書』、南那須町1993『南那須町史』史料編
9	小川原沢遺跡	那須烏山市小川原			中期、南那須町1993『南那須町史』史料編
10	熊五郎遺跡	那須烏山市福岡	集落跡	旧石器・縄文	十ノ子形石器、縄文、南那須町1993『南那須町史』史料編
11	四連遺跡	那須烏山市福岡	散布地	古墳	後期、南那須町1993『南那須町史』史料編
12	西山遺跡	那須烏山市八十代	散布地	古墳	後期、南那須町1993『南那須町史』史料編
13	金堀塚古墳	那須烏山市曲畑	古墳	古墳	前方後円墳1基、円墳4基、南那須町1993『南那須町史』史料編
14	大赤根遺跡	那須烏山市曲畑	散布地	古墳	後期、南那須町1993『南那須町史』史料編
15	西ノ塚古墳群	那須烏山市曲畑	古墳	古墳	円墳4基、南那須町1993『南那須町史』史料編
16	台畑遺跡	那須烏山市曲畑	散布地	古墳	中期、南那須町1993『南那須町史』史料編
17	半座遺跡	那須烏山市曲畑	散布地	古墳	古墳前期、高根沢町下石崎原、南那須町1993『南那須町史』史料編、高根沢町1995『高根沢町史』史料編1
18	東原古墳群	那須烏山市東原	古墳	古墳	現存円墳1基、伝珠文鏡・子持ち勾玉出土、南那須町1993『南那須町史』史料編
19	北原遺跡	那須烏山市高瀬	集落跡	古墳～古代	2004・2005年発掘、古墳～古代、栃木県教育委員会2008『北原遺跡』
20	小鍋前遺跡	那須烏山市大里	集落跡	縄文	中期、2004年発掘、栃木県教育委員会2008『小鍋前遺跡』
21	久保遺跡	那須烏山市大里	散布地	古墳	南那須町1993『南那須町史』史料編
22	鴨毛横穴墓群	那須烏山市曲田	墓跡	古墳～古代	南那須町1993『南那須町史』史料編
23	岩穴横穴墓群	那須烏山市曲田	墓跡	古墳～古代	南那須町1993『南那須町史』史料編
24	成合横穴墓群	那須烏山市曲田	墓跡	古墳～古代	南那須町1993『南那須町史』史料編
25	古原横穴墓群	那須烏山市曲田	墓跡	古墳～古代	南那須町1993『南那須町史』史料編
26	滝川遺跡	那須烏山市向田	散布地	縄文	中～後期、那須烏山市教育委員会2015『那須烏山市の文化財』
27	台山平遺跡	那須烏山市中台	散布地	縄文	中期、鳥山町1978『鳥山町史』
28	野原遺跡	那須烏山市興野	集落跡	縄文	1968年発掘、中～後期、鳥山町1978『鳥山町史』
29	堀田本郷遺跡	那須烏山市堀田	集落跡	縄文・古墳・古代	1993～1995年発掘、栃木県教育委員会1997『堀田本郷遺跡』
30	宮原遺跡	那須烏山市宮原	散布地	旧石器	大形尖頭器3点、森嶋秀一2002「那須烏山市宮原遺跡出土石器の再検討」『栃木県立博物館研究紀要』第19号
31	早遠跡	那須烏山市旭2丁目	集落跡	縄文	中期、鳥山町1978『鳥山町史』
32	ニツ木西和久遺跡	那須烏山市上境	集落跡	縄文	2010年発掘、那須烏山市教育委員会2011『ニツ木西和久遺跡発掘調査報告』
33	梅井上遺跡	那須烏山市下境	集落跡	縄文・古墳・古代	1958・2001年発掘、中～後期、宇都宮大学埋蔵文化財センター2006『梅井上遺跡群B-1地点下層梅井上遺跡調査報告』、栃木県教育委員会2023『梅井上遺跡』
34	釜松遺跡	茂木町坂井	集落跡	旧石器・縄文	茂木町1977『茂木町史』第2巻資料編1
35	兵場横穴墓群	市貝町綿谷	墓跡	古墳～古代	26穴、市貝町1990『市貝町史』第1巻
36	八重沢穴墓群	市貝町綿谷	墓跡	古墳～古代	市貝町1990『市貝町史』第1巻
37	羽仁横穴墓群	市貝町綿谷	墓跡	古墳～古代	市貝町1990『市貝町史』第1巻
38	和平遺跡	市貝町A生田	散布地	縄文	中後期、市貝町1990『市貝町史』第1巻
39	観音堂古墳	市貝町市塙	古墳	古墳	円墳9基、方墳1基、栃木県教育委員会2012『観音堂古墳群』
40	権谷古墳群	市貝町権谷・芳賀町	古墳	古墳	前方後円墳1基、円墳25基、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古、市貝町1990『市貝町史』第1巻
41	大野遺跡	高根沢町飯室	集落跡	縄文	中期、栃木県教育委員会2001『大野遺跡・大用地遺跡』

No.	遺跡名	所在地	種別	時期	備考・参考文献
42	荻ノ平遺跡	那須烏山市滝野台	集落跡	縄文	中～後期、2000・2001年発掘、栃木県教育委員会2003『荻ノ平遺跡』
43	大関地A遺跡	高根沢町鬼怒	集落跡	古墳	後期、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
44	大関地B遺跡	高根沢町鬼怒	集落跡	縄文	中期、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
45	日向遺跡	高根沢町鬼怒	集落跡	縄文	中期、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
46	台畑台遺跡	高根沢町鬼怒	古墳	古墳	円墳6基、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
47	上の台古墳	高根沢町鬼怒	古墳	古墳	円墳1基、力形内漆塗1基　高根沢町教育委員会1993『上の台古墳』
48	亀梨石塔遺跡	高根沢町亀梨	古墳	古墳	石塔塔1基、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
49	板谷前A遺跡	高根沢町上柏崎	散布地	古墳	前期、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
50	板谷前B遺跡	高根沢町上柏崎	散布地	縄文	中期、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
51	川端遺跡	高根沢町上柏崎	散布地	古墳	高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
52	中屋古墳群	高根沢町上柏崎	古墳	古墳	円墳8基、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
53	カリヤ屋古墳群	高根沢町上柏崎	古墳	古墳	円墳1基、2基編失、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
54	砂原遺跡	高根沢町太田	集落跡	古墳～古代	古墳中期のA集落、栃木県教育委員会1996『砂原遺跡』
55	塚原古墳	高根沢町桑窪	古墳	古墳	終末期、高根沢町1995『高根沢町史』資料編1
56	八ツ木新田遺跡	芳賀町八ツ木	散布地	古墳	中期、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
57	八斗内遺跡	芳賀町八ツ木	散布地	古墳	中期、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
58	鶏商遺跡	芳賀町八ツ木	散布地	古墳	中期、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
59	鶏商塚古墳群	芳賀町益部	古墳	古墳	円墳4基、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
60	西ノ入古墳群	芳賀町益部	古墳	古墳	円墳12基、1996年発掘、機東京リラプレッジビューロー1997『西ノ入1号墳』、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
61	八ツ木新田遺跡	芳賀町八ツ木	散布地	古墳	中期、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
62	千ノ塚古墳	芳賀町益部	古墳	古墳	1967年発掘、円墳、破壊多数出土、芳賀町教育委員会他1967『千ノ塚古墳』
63	坪之内遺跡	芳賀町八ツ木	散布地	縄文・古墳	芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
64	大塚台古墳	芳賀町芳志戸	古墳	古墳	円墳、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
65	大御塚古墳	芳賀町上稲毛田	古墳	古墳	円墳1基、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
66	琴平山古墳	芳賀町芳志戸	古墳	古墳	円墳、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
67	西間古墳	芳賀町八ツ木	古墳	古墳	前方後方墳、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
68	鍛冶山古墳	芳賀町芳志戸	古墳	古墳	前方後円墳、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
69	御前山古墳	芳賀町芳志戸	古墳	古墳	円墳、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
70	西間塚古墳	芳賀町芳志戸	古墳	古墳	円墳1基、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
71	天王塚古墳	芳賀町芳志戸	古墳	古墳	円墳1基、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
72	松木下遺跡	芳賀町芳志戸	散布地	縄文・古墳・古代	大下式、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
73	芳志戸十三塚古墳	芳賀町芳志戸	古墳	古墳	円墳、石製模造品、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
74	上岡台遺跡	芳賀町芳志戸	散布地	古墳	芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
75	常光池遺跡	芳賀町逆井	集落跡	縄文	1968年発掘、中期、宇都宮大学歴史研究会考古グループ1970『芳賀町青木池遺跡調査報告』、宇都宮大学考古学研究会1976『芳賀町青木池遺跡第二次調査報告』
76	青木池南遺跡	芳賀町逆井	散布地	縄文	中期、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
77	赤坂道上北遺跡	芳賀町逆井	集落跡	縄文	中期、栃木県教育委員会2023『赤坂道上北遺跡』
78	赤坂道上遺跡	芳賀町逆井	散布地	縄文	中期、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
79	七ツ塚古墳群	芳賀町上稲毛田	古墳	古墳	前方後円墳2基、円墳16基、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
80	権現山古墳	市貝町大谷津	古墳	古墳	円墳1基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
81	神塚古墳群	市貝町大谷津	古墳	古墳	円墳4基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
82	駒塚古墳群	市貝町大谷津	古墳	古墳	円墳3基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
83	今久保古墳群	市貝町綿谷	古墳	古墳	円墳3基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
84	向塚古墳	市貝町綿谷	古墳	古墳	円墳1基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
85	三ツ峰古墳群	市貝町御堂辻	古墳	古墳	前方後円墳2基、円墳2基、芳賀町2001『芳賀町史』資料編 考古
86	関根古墳群	市貝町根山	古墳	古墳	円墳3基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
87	梵天古墳	市貝町御堂辻	古墳	古墳	円墳1基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
88	西ノ内古墳群	市貝町御堂辻	古墳	古墳	円墳4基、市貝町1990『市貝町史』第1巻
89	下権谷古墳群	市貝町権谷	古墳	古墳	円墳3基、市貝町1990『市貝町史』第1巻

第3章　検出された遺構と遺物

第１節　旧石器時代

（１）基本土層

本遺跡は喜連川丘陵の一角に位置し、南北に走る丘陵主幹から南東に樹枝状に張り出した尾根の鞍部平坦面に立地している。基盤は凝灰岩で境林礫層以上を載せる。丘陵の場所によって異なるが、本遺跡の所在する尾根は真岡パミス以上を安定して堆積していると考えられる。遺物の発見された地点は耕作や流失により暗色帯の上部ロームから上位を欠失し、表土は黒土とロームが混じった耕作土であった。以下に近傍の基本的な堆積層序を示す（第３図）。

Ⅰ層：黒色土　　現表土層で、腐植土を多量に含む。

Ⅱ層：赤褐色土　　赤褐色のパミスで一部成層をなし、七本桜パミス（Nt-SP）層に対比される。

Ⅲ層：橙色土　　橙色のパミスで今市パミス（Nt-IP）層に対比される。

Ⅳ層：黄褐色土　　黄褐色のローム層で、上位に乳白色の火山性微粒子（板鼻黄色パミスＡｓ-YP に比定される）を含み、上位ほど軟質（所謂ソフトローム）である。

Ⅴ層：暗黄褐色土　　Ⅳ層よりやや暗い黄褐色のローム層で、赤褐色パミス（片岡パミス Nt-KtP）を含む。

Ⅵ層：明黄褐色土　　硬質の明黄褐色土のローム層で、中位に未発泡の火山性堆積物（小川スコリア Nt-OS）を含む。本層の下位に姶良・丹沢火山灰（AT）に由来する火山ガラスの分布が予測される。

Ⅶ層：暗褐色土　　軟質の暗褐色のローム層で、暗色帯に比定される。（石器出土層位）

Ⅷ層：黄褐色土　　やや硬質の黄褐色のローム層である。

Ⅸａ層：明黄褐色土　　未発泡の火山性堆積物で鹿沼軽石層（Ag-KP）の一部で砂質である。

Ⅸｂ層：黄色土　　黄色のパミス層で、鹿沼軽石層（Ag-KP）に比定される。

（２）遺物発見の経緯

曲畑遺跡は那須烏山市を代表する縄文時代中期の遺跡である。特に土坑の数の多さは特筆され、調査区の地表面のほとんどは土坑に覆われているといっても過言ではない。旧石器時代の遺物は土坑の調査の際に壁面より発見され、その安山岩剥片の特徴から旧石器時代の遺跡の存在が予測された。しかし調査可能な範囲が土坑の掘られていない所に限定されるため、結果的に制約を受けてしまった。遺物はＦ－５ｂグリッドの北西部の径 10 ｍほどの範囲で、前述した基本層序Ⅶ層（暗色帯）の中位からの出土である（第４図）。

（3）遺物の概要と位置付け

以下の1～9は発掘資料である（第5図、図版112）。

1は台形様石器である。素材には一方向より加撃された貝殻状の剥片が使用されている。打撃点を基部として、基部と右側縁にやや鈍角な剥離、右側縁には左側縁よりやや鋭角な剥離が加えられている。しかし、この左右における二次加工の違いは、加工法の違いというよりも、素材形状によるものと捉えるべきであろう。打瘤は除去されている。加撃方向は背部から腹部に向かって行われている。大きさは29.3㎜（長さ）×16.5㎜（幅）× 6.5㎜（厚さ）、重さ 2.85 g である。石材は茶色の碧玉である。

2は台形様石器である。素材には背部と腹部が同じ方向から剥離し、打点方向を裁断技法により除去した剥片が使用され、先端の鋭利な部分を利用している。二次加工は右側縁と基部に集中する。腹部から背部に連続的に鋭角な剥離が加えられ、その後背部から腹部に調整加工が施されている。大きさは33.0㎜（長さ）×20.5㎜（幅）×6.6㎜（厚さ）、重さ3.79 g である。石材は安山岩である。

3は加工痕のある剥片である。背部に自然礫面を残し、腹部右側面（斜線部）は節理面である。剥離面は判然としないが基部の二次加工は背部から腹部に向かって、右側面は節理面から背部に向かって施されている。大きさは29.6㎜（長さ）×25.0㎜（幅）×9.1㎜（厚さ）、重さ6.61 g である。石材は硬質の砂岩である。

4は一方向から加撃された縦長剥片である。背部には逆方向からの剥離も看取される。打面は事前に用意されているが打面調整は行われていない。大きさは51.5㎜（長さ）×36.0㎜（幅）×14.2㎜（厚さ）、重さ15.80 g である。石材は白色の凝灰質頁岩である。

5は一方向から加撃された縦長剥片である。背部は3面の作業面で構成され、打面は事前に用意されているものの、打面調整は看取されない。大きさは53.6㎜（長さ）×48.2㎜（幅）× 10.5㎜（厚さ）、重さ17.65 g である。石材は安山岩である。

6は不定形の剥片であるが、背部・腹部ともに一方向からの剥離であることが看取され、上半部を裁断により欠損している。大きさは 34.8㎜（長さ）×13.4㎜（幅）×7.0㎜（厚さ）、重さ2.41 g である。石材は安山岩である。

7は剥片である。背部・腹部ともに同じ方向から剥離され、打面は造出されている。大きさは 33.0㎜（長さ）× 32.0㎜（幅）×9.5（厚さ）、重さ 5.40 g である。石材は安山岩である。

8は石核の素材である。円礫の特定部に5面の試し割り様の剥離面が看取される。大きさは82.3㎜（長さ）× 73.3㎜（幅）×70.5（厚さ）、重さ 635 g である。石材は安山岩である。

9は石核の素材である。円礫の特定部に1面の試し割り様の剥離面が看取される。大きさは101㎜（長さ）× 80.5㎜（幅）×83.5（厚さ）、重さ 794 g である。石材は擦痕状の脱去痕の多い安山岩である。

以上、遺物はF－5ｂグリッドの北西部を中心に緩慢に分布する。総数は9点であるが、1カ所のブロックの調査を完了したものと考えられる。このブロックの特徴を列挙すると、定型石器の比率が高い。石核・

剥片・台形様石器といった石器組成が存在する。剥片剥離技法として石刃技法を駆使している。その石刃技法は打面を事前に用意するものの、打面の調整は行わない。このことから当然縦長の剥片を用意し、縦型のナイフ形石器も所有していたものと考えられるが、今回の調査では出土していない。

石材も安山岩を中心として碧玉・凝灰質頁岩・硬質砂岩といった在地系のものと考えられる。安山岩は田川水系のものと大洗海岸系のものが識別できた。碧玉・凝灰質頁岩・硬質砂岩は荒川・那珂川水系のものであろう。剥片や石核の接合関係はなかった。

こうした石器群の内容と出土層位から勘案して、遺跡の所属する時期的段階を後期旧石器時代の前半、そのうちでも初期の段階に比定することが可能である。

（4）遺構確認作業中に採取された石器

以下の１～４は遺構確認中に採取された石器（第６図）であり、出土位置や層位は確認できなかった。

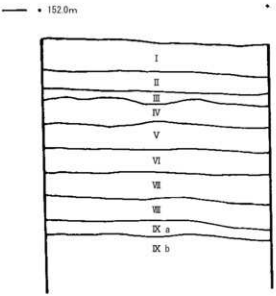
１は有舌尖頭器である。細身で基部に軽い抉りを有し、槍身部と茎部を分ける肩部は明瞭ではない。おおよその加工順は、表面では右側縁の先端から基部に向かって、次の裏面の左側面の基部から先端に向かい加工が進む。裏面は右側面の基部から先端に、次に表面の左側縁の基部から先端に向かって加工がおこなわれ、最後に微調整が全体に施されている。茎部は微小な磨滅が看取される。大きさは 55.5 ㎜（長さ）×15.0 ㎜（幅）×6.5（厚さ）、重さ 5.86 ｇである。石材は灰色のチャートである。

２はエンドスクレーパーである。素材には縦長の石刃状剥片が使用され、基部が刃部として使用されている。二次加工は背面と腹面に面的加工が施されているが、先端は背面のみ加工が限定されている。上端部は二次加工が施された後に裁断されており、この折れが意識的なものであるかどうかは重要な点である。大きさは 36.9 ㎜（長さ）×23.5 ㎜（幅）× 9.7（厚さ）、重さ 9.50 ｇである。石材は白色の玉髄で所謂蛋白石と呼ばれる部位を含む。

３はエンドスクレーパーである。素材は縦長の石刃状剥片が使用され、基部が刃部として使用されている。二次加工は刃部に集中し、背面と腹面に面的加工が施され、腹面には特に打瘤を除去する目的があるものと思われる。側縁はあまり二次加工が施されず上端は裁断加工である。大きさは 35.0 ㎜（長さ）× 22.5 ㎜（幅）× 9.7（厚さ）、重さ 6.84 ｇである。石材は茶色の碧玉である。

４は大形のエンドスクレーパーである。素材は縦長の石刃状剥片である。右側面には自然礫面が残る。二次加工は刃部にのみ施され、加撃方向は腹部から背部の方向に限定される。上端は切断加工である。大きさは 55.3 ㎜（長さ）×36.2 ㎜（幅）× 21.0（厚さ）、重さ 38.42 ｇである。石材は安山岩である。

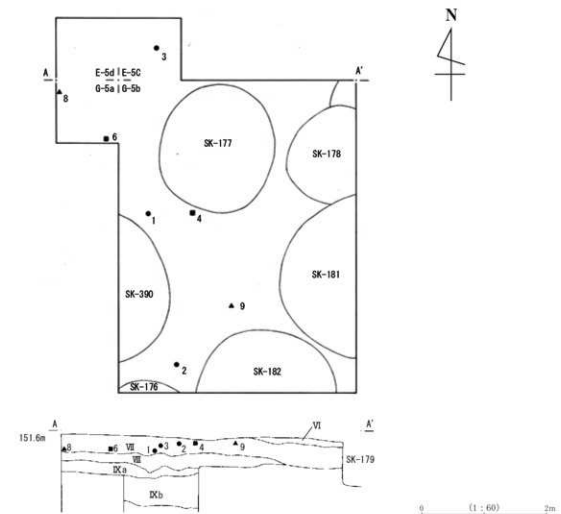
この表採に等しい石器群を一つのブロックに由来するという証拠はないが、その内容からみて時期的に一つの段階に包括されるものと考えることは可能である。今仮に一つのブロック内出土と仮定したとして、石器組成の全体像をとらえることはできないが、有舌尖頭器とエンドスクレイパーを組成に持つ旧石器時代終末～縄文時代草創期の石器群に比定できるものと考えられる。



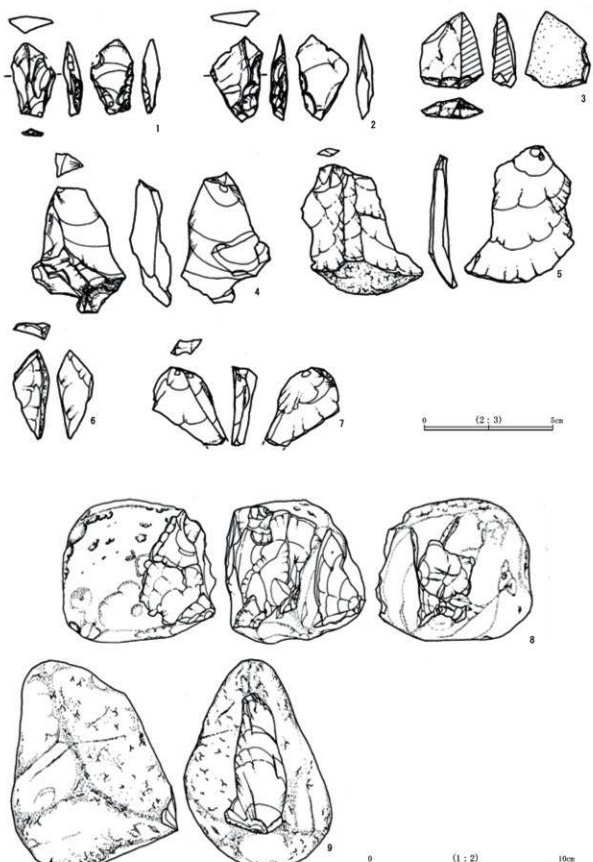
I　黒色土(腐植土)
II　赤褐色土(七本桜パミスを含む)
III　橙色土(今市パミス層)
IV　黄褐色土(板鼻黄色パミスを含む)
V　暗黄褐色土(片岡パミスを含む)
VI　明黄褐色土(小川スコリアを含む)
VII　暗褐色土(暗色帯・石器出土)
VIII　黄褐色土(硬質ローム)
IXa　明黄褐色土(鹿沼軽石層の一部、砂質)
IXb　黄色土(鹿沼軽石層)

0　(1：20)　1m

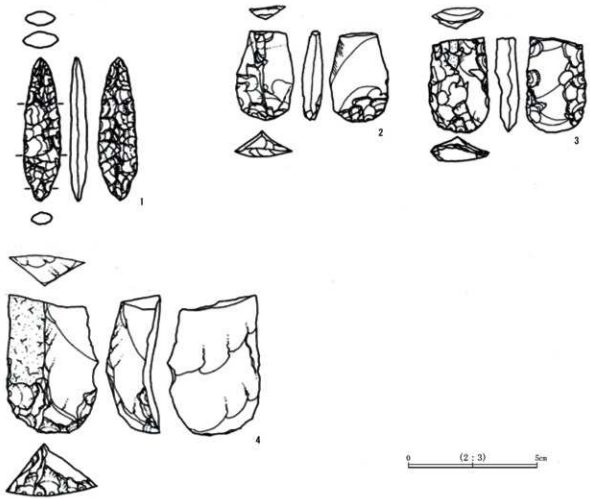
第3図　基本土層図



第4図　VII層出土石器分布図



第5図 Ⅶ層出土石器実測図



第6図　遺構確認時出土石器実測図

第3表　Ⅶ層出土旧石器観察表

No.	器　種	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重さ（g）	石　材	写真図版	備　考
1	台形様石器	29.3	16.5	6.5	2.85	碧玉	112上	F-5bグリッド、Ⅶ層中
2	台形様石器	33	20.5	6.6	3.79	安山岩	112上	F-5bグリッド、Ⅶ層中
3	加工痕のある剥片	29.6	25	9.1	6.61	硬質砂岩	―	E-5cグリッド、Ⅶ層中
4	剥片	51.5	36	14.2	15.8	凝灰質頁岩	112中	F-5bグリッド、Ⅶ層中
5	剥片	53.6	48.2	10.5	17.65	安山岩	112中	F-5bグリッド、SK-182壁
6	剥片	34.8	13.4	7	2.41	安山岩	112中	F-5aグリッド、Ⅶ層中
7	剥片	33	32	9.5	5.4	安山岩	112中	F-5bグリッド、SK-182壁
8	石核素材	82.3	73.3	70.5	635	安山岩	112中	F-5aグリッド、Ⅶ層中
9	石核素材	101	80.5	83.5	794	安山岩	112中	F-5bグリッド、Ⅶ層中

第4表　遺構確認時出土旧石器観察表

No.	器　種	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重さ（g）	石　材	写真図版	備　考
1	有舌尖頭器	55.5	15	6.5	5.86	チャート	112下	表採
2	エンドスクレイパー	36.9	23.5	9.7	9.5	玉髄	112下	G-2cグリッド、SK-587
3	エンドスクレイパー	35	22.5	9.7	6.84	碧玉	112下	F-6dグリッド、SK-308
4	エンドスクレイパー	55.3	36.2	21	38.42	安山岩	112下	G-6a・dグリッド、SI-25

第２節　縄文時代

（１）検出遺構の概要と時期区分

縄文時代の遺構は、中期前葉～後葉の竪穴住居跡24軒、土坑669基、集石遺構2基、ピット群1基、捨て場2か所である。畑造成による削平やトレンチャーなどで上方が失われ、遺存状態の悪い遺構も少なくない。調査区北及び西側は斜面となり遺構は少なくなるが、東及び南側は土坑が密で重複も著しく、調査区外にさらに遺構が広がることが予想される。

調査区の中央は、F－４ｃグリッドを中心に径15～20ｍほどの範囲に遺構がなく、その周囲に竪穴住居跡・土坑が重複しながら分布している。土坑に比べ竪穴住居跡の数は少ないが、中央の広場を囲んで土坑と竪穴住居跡が分布している。また、調査区の北側と南側には捨て場が確認されている。北側の捨て場からは各時期のたくさんの土器と石器が出土している。

本遺跡の時期については、SK-233で後期初頭の土器が1点出土している以外は、中期前葉～後葉（阿玉台Ⅰａ式～加曽利ＥⅢ式）で、遺構・遺物とも加曽利ＥⅠ式期のものが最も多い。時期区分については、本遺跡と同じ県東部の那須烏山市小鍋前遺跡と茂木町桧の木遺跡の発掘調査報告書、塚本師也氏の論文（「栃木県北部の縄文時代中期前～中葉の土器編年」）を参考に、前半は関東の阿玉台式、後半は加曽利Ｅ式を基軸に並行する東北の大木式を考慮しながら、概ね以下の10期に区分した。以下、各期の土器型式と特徴、主な遺構を示す。なお、明確な阿玉台Ⅰａ式はSK-322で破片が出土している程度なので、ここでは時期設定は行わなかった。

Ⅰ期　阿玉台Ⅰｂ式/大木7ｂ式

阿玉台Ⅰｂ式もほとんどが破片資料である。断面三角形の隆帯、口縁区画内に波状や斜行の単列角押文を施文。併行する大木7ｂ式土器については明確ではない。

遺構：SK-102（～Ⅱ）・135（～Ⅱ）・188（～Ⅱ）・305（～Ⅱ）・308・312（～Ⅱ）・328・407

Ⅱ期　阿玉台Ⅱ式/大木7ｂ式

断面三角形の隆帯に沿って複列の角押文、胴部キザミ目列が施される。鰭状突起。地紋が縄文で有節沈線により文様が展開する七郎内Ⅱ群土器が伴う。

遺構：SK-8・193・246（～Ⅲ）・282・526

Ⅲ期　阿玉台Ⅲ式/大木8ａ式古段階

大波状口縁が優勢、太い断面蒲鉾状隆帯に幅広の角押文が沿う。大木系土器は把手が環状中空化、七郎内Ⅱ群土器、口縁部に背に刻みを施したＳ字状隆帯が付く。勝坂式土器や火炎系土器。

遺構：SK-85・87（～Ⅳ）・375・399・412・481・483・542・625・669・700

Ⅳ期　阿玉台Ⅳ式/大木8ａ式中段階

深鉢は波状口縁が大多数。隆帯に沿って沈線を沿わせる。地紋は縄文が多く、隆帯上にも縄文施文。大木系突起は複雑で中空立体化。胴部文様は半截竹管による平行沈線で大柄な渦文や幾何学的文様などが展開する。火炎系土器も沈線は半截竹管で半隆起沈線。

遺構：SK-36・99・134（～Ⅴ）・297・354・380・394・441・522・665

Ⅴ期　加曽利ＥⅠ式古段階/大木8a式新段階

口頸部に文様帯を配すキャリパー形土器が出現する。口縁部文様帯は近接した2条の隆帯で文様が展開するもの、下方の区画隆帯がないもの、口頸部区画隆帯があっても文様が接しないものが多い。地紋の縄文施文後に隆帯文貼り付け、隆帯には沈線が添わない。大柄な曲線隆帯とそれに沿わせて沈線を充填した口頸部文様帯に縄文地紋の胴部の浄法寺類型、口辺や口頸部に交互刺突を施した中峠式、口縁部

文様帯内を縦方向の沈線を充填する東関東系の土器、口縁部・頸部・胴部の文様帯構成の大木式的土器（背割れ隆帯等で幅の狭い口縁部、半截竹管文の平行沈線で頸部・胴部の文様が展開）。

遺構：SI-30（～Ⅵ）、SK-24・44・70（～Ⅵ）・74（～Ⅵ）・76・392・396（～Ⅵ）・454・466・477・505・523・579・591・609・615・646

Ⅵ期　加曽利ＥⅠ式中段階／大木8b式古段階

キャリパー形深鉢は口縁部文様帯の隆帯区画が確立する。隆帯でクランク文や下区画に接する横位のS字文、S字文に剣先文を付けたものなどが展開する。隆帯は2条で展開するものが多い。クランク文の区画内の地文は縄文のものが多いが、縦位の沈線を充填する東関東系のものもある。上下区画隆帯に接しない波状隆帯文は本遺跡で顕著である。隆帯文にはナデや沈線が沿うものが出現する。浄法寺類型もみられる。胴部は縄文のみのものが多いが、3条の沈線で懸垂文や、大木系渦巻文や剣先文が展開するものもある。台形土器はタンバリン形のものがみられる。

遺構：SI-15・26・30、SK-25・35・41・52・106・204・277・356（～Ⅶ）・389・393・421・440・456・501・580・609・663

Ⅶ期　加曽利ＥⅠ式新段階／大木8b新段階

キャリパー形深鉢が斉一化する。口縁部文様帯には沈線の添う隆帯で渦巻文と長方形の区画文が交互に展開する。他に上下区画隆帯に接するジグザグ文や、渦巻文と区画文を交互に配する。隆帯は幅広で扁平化の傾向がみられる。胴部は縄文地紋で2～3条の沈線と蛇行沈線を交互に施す。沈線間の磨り消しは行わないか、磨り消しが不十分なものが多い。

遺構：SK-142・219・236・400・401・656

Ⅷ期　加曽利ＥⅡ式古段階／大木９式古段階

口縁部文様帯は、沈線の添う幅広扁平化した隆帯で曲線的に流れる渦巻文と区画文様が展開する。胴部は縄文地紋で２条の懸垂文間が磨り消される。胴部は３条の沈線で渦巻文、棘状文などが展開する大木系土器がある。連弧文土器。

遺構：SK-140・225・227・254・266・267・612

Ⅸ期　加曽利ＥⅡ新段階～ＥⅢ式古段階／大木９中段階

キャリパー形深鉢は口縁部の内湾は緩やかになる。口縁部文様帯の隆帯はほとんど扁平化し、沈線による渦巻文と楕円区画文で文様が展開する。胴部懸垂文の磨り消し幅は前時期に比べ広くなり、縄文帯が口縁部文様帯に接するものと、上方が閉じて短冊状になるものがある。凹線で区画された縄文帯で口縁部円文・胴部U字（短冊）文が展開する大木系土器。瓜実形注口土器。

遺構：SK-176・192・232・594

Ⅹ期　加曽利ＥⅤ式（後期初頭）

中期末葉加曽利ＥⅢ新～ＥⅣ式は確認されていない。この時期の土器は1点のみである。波状口縁の大型深鉢で、胴部上方のくびれ部から直線的に開き、口縁部で軽く折れる。微隆起線を巡らし口縁部無文帯をつくり、以下縄文を施す。微隆起線の縄文をなで消さないことや器形から、後期初頭称名寺式段階の加曽利ＥⅣ式系の土器である。

遺構：SK-233

（注）

中村信博2006『桧の木遺跡』Ⅱ　本田技研工業株式会社・桧の木遺跡調査団
塚原孝一2008『小鍋前遺跡』（『栃木県埋蔵文化財調査報告』第313集）栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団
塚本師也2019『栃木県北部における縄文時代前～中葉の土器編年』『研究紀要』第27号公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター

（2）竪穴住居跡

竪穴住居跡は調査区から23軒検出された。土坑や古墳などと重複が著しいもの、掘り込みの浅いものが多い。そのため、遺物もSI-26・30以外は破片が数点しかなく、時期比定の困難なものも少なくない。

SI-8（第7・13図、図版5・6）

位置：調査区の北側、D-6d、E-6aグリッドに位置する。南西がSK-100と重複しており、北西にSI-9、西側にSK-99が近接する。**規模と形状**：東西3.4m、南北5.3mの楕円形。確認面から床面までの深さは30cmである。**覆土**：2層に分層され、自然堆積である。**柱穴**：ピットは12本確認された。大きさは直径20～35cmの円ないしは楕円形で、床面からの深さは42～78cmである。位置関係から、柱間が1.0～1.3mのP1～P6、P8～P10の9本が主柱穴と想定される。**炉跡**：ほぼ中央に構築されている。57×46cmの楕円形の地床炉で、炉床は火熱により硬化赤変している。

出土遺物：復元可能な個体はなく、土器片10点、磨石1点を図示した。**時期**：阿玉台Ⅱ式から加曽利EⅠ式まで時間幅があるが、加曽利EⅠ式期と考えられる。

SI-9（第7・13図、図版7）

位置：D-5c～D-6dグリッドに位置し、最も北にある縄文時代の竪穴住居跡である。南東にはSI-8、南にはSK-37・99が近接する。**規模と形状**：北側に傾斜する緩斜面に位置するため、北西は不明瞭であるが、東西4.75m、南北3.9mの楕円形。確認面から床面までの深さは最も残りのよい南東側で10cmほどである。**柱穴**：ピットは9本確認された。P4が深さ24cmで若干浅いが、1.2～1.5m間隔で位置するP1～P7が柱穴と考えられる。P8・9についても炉を挟んでP3・P7とほぼ直線上に並ぶ。**炉跡**：ほぼ中央に55×45cmの楕円形の地床炉が検出された。

出土遺物：土器片3点と磨製石斧1点を図示した。他に剥片5点（黒曜石3）、玉の未製品と思われるもの1点が出土している。**時期**：小破片ではあるが出土土器から、加曽利EⅠ式期と考えられる。

SI-10（第7・13図）

位置：調査区の北東、F-5bグリッドに位置する。SK-76・106と重複する。**規模と形状**：東西2.95m、南北3.5mの楕円形。確認面から床面までの深さは38cmで、壁はなだらかに立ち上がる。**覆土**：2層に分層され、自然堆積である。**柱穴**：ピットは4本確認された。柱穴かどうかの判断は難しい。**炉跡**：なし。

出土遺物：遺物は少なく、破片2点を図示した。**時期**：小破片ではあるが出土土器から、阿玉台Ⅳ式期と考えられる。

SI-11（第7・13図）

位置：調査区の北東、F-5bグリッドに位置し、遺構の密集する地域である。SK-84・85と重複し、東側にはSI-10・12が近接する。**規模と形状**：東西2.9m、南北3.35mのやや小型の楕円形。確認面から床面までの深さは15cmで、壁の立ち上がりはなだらかである。**覆土**：2層に分層された。下層はIP粒を多量含む。**柱穴**：ピットは東西壁際から5本検出されている。P1・2・4・5を主柱穴とすると南北の柱間1～1.2m、東西の柱間1.9～2.1mとなる。**炉跡**：なし。

出土遺物：遺物は少なく、土器片5点と石鏃及び磨石各1点を図示した。**時期**：小破片ではあるが、出土土器から加曽利EⅠ式期考えられる。

SI-12（第７・13図）

位置：調査区の北東、F-５ｂグリッドに位置する。SK-101・130・134と重複し、北側でSI-10と接する。**規模と形状**：東西3.0m、南北3.6mの隅丸長方形。確認面から床面までの深さは15㎝である。**覆土**：1層で、自然堆積である。**柱穴**：ピットは３本検出されている。深さは12～24㎝と浅く、本住居の柱穴かどうかは不明。**炉跡**：なし。

出土遺物：遺物は少なく、土器片２点を図示した。**時期**：小破片ではあるが、出土土器から加曽利ＥⅠ式古段階と考えられる。

SI-13（第８・13・14図、図版８）

位置：調査区の中央北寄り、F-４ｂグリッドに位置する。**規模と形状**：東西3.25m、南北2.75mでの楕円形。確認面から床面までの深さは14㎝である。**覆土**：褐色土１層で、IP粒を多量含む。**柱穴**：ピットは４本検出された。柱間はP2－P3が1.2m以外は1.5mで、4本主柱と考えられる。**炉跡**：なし。

出土遺物：遺物は少なく、破片9点を図示した。時期：出土土器から、概ね阿玉台Ⅳ式～加曽利ＥⅠ式段階と考えられる。

SI-14（第８・14図）

位置：調査区のほぼ中央北寄り、G-４ａグリッドに位置する。SK-221・224・230・236が近接するが、重複はない。**規模と形状**：東西3.75m、南北2.95mで楕円形。確認面から床面までの深さは40㎝である。**覆土**：攪乱が著しいが、自然堆積で2層に分層された。**柱穴**：ピットは13本確認された。東西の壁際に直径20㎝前後のピットが位置する。深さは東側が35㎝前後、西側が15㎝前後で浅い。**炉跡**：なし。

出土遺物：深鉢のほか、壺や器台の破片5点を図示した。他に磨石が1点出土している。**時期**：出土土器から、概ね加曽利ＥⅠ式中段階と考えられる。

SI-15（第８・14図）

位置：調査区のほぼ中央、G-４ａ・G-４ｄグリッド、中央広場の北西に位置する。床面にSK-263・264が重複し、南から西壁にかけてSK-238・532・534が接する。**規模と形状**：東西4.0m、南北5.45mの楕円形。確認面から床面までの深さは30～40㎝である。**覆土**：攪乱が著しいが、褐色土1層である。**柱穴**：ピットは重複するSK-263・264の底面で確認されたものなど5本あるが、位置関係や深さなどから本住居跡に伴うかどうかの判断は難しい。**炉跡**：なし。

出土遺物：復元可能な個体が北側床面から横位で潰れた状態で出土している。**時期**：１の土器から加曽利ＥⅠ式中段階と考えられる。

SI-16（第９・14図、図版８）

位置：調査区の中央北寄り、F-４ｃグリッドに位置し、SK-169と重複する。**規模と形状**：東西4.6m、南北3.9mの楕円形。確認面から床面までの深さは15㎝である。**覆土**：IP粒を少量含む暗褐色土1層である。**柱穴**：ピットは４本確認された。4本主柱で、柱間は2.2～2.3mでやや西に寄る。**炉跡**：トレンチャーによる攪乱が著しいが、なかったものと思われる。

出土遺物：遺物は少なく、土器片2点、石鏃・磨製石斧・磨石各1点が出土している。**時期**：小破片ではあるが、出土した土器から加曽利ＥⅡ式期と考えられる。

SI-21（第９図）

位置：調査区南東、G-６dグリッドに位置する。SK-278・284・285・287・305～308など多くの土坑が集中する。SK-307確認面で炉跡を検出し、周辺のピットから住居跡の存在を確認した。**規模と形状**：壁は確認されなかったが、柱穴の配置から東西6.5m、南北4.0mの楕円形と推定と推定される。**柱穴**：P1～６の６本主柱を想定した。P1～P5は深さ30cm前後であるが、P6は88cmで他の柱穴に比べ深い。柱間はP1～4が2.５～3.0mで、Ｐ４が若干外側に寄る。**炉跡**：50×40cmの楕円形の地床炉で、住居のほぼ中央に位置する。

出土遺物：なし。**時期**：遺物はないが、加曽利ＥⅠ式期古段階のSK-307上に炉が存在することから、それ以降と考えられる。

SI-22（第８・14図）

位置：調査区の中央からやや北東、G-５aグリッドに位置し、SK-129・231・235や古墳時代のSI-17が近接する。**覆土**：トレンチャーによる攪乱が著しいが、IP粒多量、炭化物を少量含む暗褐色土1層である。**規模と形状**：東西2.4m、南北3.6mの楕円形。確認面から床面までの深さは40cmである。**柱穴**：ピットは東及び南側の壁際から４本確認されたが、本住居に伴うものかは不明である。**炉跡**：なし。

出土遺物：覆土中から出土した土器片2点を図示した。**時期**：小破片ではあるが、出土した土器から加曽利ＥⅡ式期と考えられる。

SI-24（第10・14図）

位置：調査区の南東、H-５bグリッドに位置し、北西コーナーでSK-372と重複する。本住居跡が古い。**規模と形状**：東西3.24m、南北2.68mの隅丸長方形。確認面から床面までの深さは45cmである。**覆土**：トレンチャーによる攪乱を受けているが、3層に分層された。IP粒の混入が目立つ。**柱穴**：ピットは３本確認された。大きさと床面からの深さはP1：32×25cm、深さ37cm、P2：24×18cm、深さ20cm、P3：24×21cm、深さ32cmである。北西SK-372内にも存在したと思われ、4本主柱であろう。**炉跡**：なし。

出土遺物：覆土中から出土した土器片3点を図示した。**時期**：加曽利ＥⅠ式新段階のSK-372に切られていることと、小破片ではあるが出土土器からの阿玉台Ⅳ式期と考えられる。

SI-26（第10・14・15図、図版９～11・13・68）

位置：調査区の南端、Ⅰ-５aグリッドに位置し、北西にSI-28、南西にSI-29が近接する。またSK-462・463と重複する。**規模と形状**：東西6.2m、南北5.9mのほぼ円形。確認面から床面までの深さは、南向きの緩斜面に位置するため、北壁で34cm、南壁で12cmである。**覆土**：IP粒を少量含む黒褐色土1層である。**柱穴**：ピットは19本確認された。やや北西に寄るが、深さ50～60cmのＰ１・２・５・８ないしは9の4本主柱、P-1・2・4・6・7・12の6本主柱などが考えられる。**炉跡**：確認されなかった。

出土遺物：住居中央から南側で床面から10～20cm浮いて、復元3個体（深鉢２・鉢１）を含む多くの土器片と石器（石鏃1、磨石１）が出土している。**時期**：復元された4・5・10から加曽利ＥⅠ式中段階と考えられる。

SI-27（第10・16図、図版11～13）

位置：調査区の南端、Ⅰ-4b・I-５aグリッドに位置し、北側でSK-451～453と重複する。南側は調査区外となる。**規模と形状**：東西5.65m、南北5.2mの略円形。中央は東西4.1m、南北4.4mの隅丸方形に

掘り込んでおり、南側が1.5ｍほどの幅で張り出す。確認面から床面までの深さは北側で30～40㎝、東側で15㎝ほどである。下段の壁は15～20㎝である。壁溝は北東と西側で確認された。**覆土**：ピットを含め3層に分層した。各層ともIP粒の混入が目立つ。**柱穴**：ピットは住居内から７本確認された。P１～4の4本が主柱穴と考えられる。また壁溝と重複するP８～16は壁柱穴の可能性が高い。また中央に小ピットがたくさん検出されている。**炉跡**：中央東よりで地床炉が検出された。45×35㎝の楕円形で、硬化赤変が著しい。

出土遺物：覆土中から土器片10点、磨製石斧、磨石、石皿各1点が出土している。**時期**：土器片は阿玉台Ⅱ～Ⅲ式であるが、住居構造や炉を有することから検討を要する。

SI-28（第11・16図）

位置：調査区南側のほぼ中央、H-４c・H-５d・I-４b・I-５bグリッドに位置し、SK-440・442～445・448・449と重複する。**規模と形状**：南北4.4ｍ、西壁が明瞭でないが東西4.2ｍ以上の隅丸方形。確認面から床面までの深さは、最も深い東側で20㎝である。**柱穴**：ピットは４本確認されている。P1～３とSK-449内に1本あったと想定し、4本主柱と考えられる。**炉跡**：確認されなかった。

出土遺物：覆土中から。土器片5点と磨製石斧の破片1点が出土している。**時期**：土器片は阿玉台Ⅱ～加曽利ＥⅠ式であるが、時期を限定するのは難しい。

SI-29（第11・16図、図版14）

位置：調査区の南端、I-４cグリッドに位置する。１号墳の羨道、SK-476と重複する。本住居跡が古い。**規模と形状**：東西4.9ｍ、南北は1.7ｍを調査したのみで、大半の南側は調査区外となる。隅丸方形のプランで有段住居である。下段は東西3.9ｍ、上段は幅50～70㎝で、東側はもう一つ段を有する。コーナー部分は上段の幅が狭い。確認面から床面までの深さは80㎝、残りの良い西側で下段から上段まで28㎝、上段から確認面までは34㎝である。床は中央に向かってやや凹面となる。**覆土**：自然堆積で、東側からIP粒・SP粒を多量含む褐色土が堆積した後、IP粒・白色粒を含む暗褐色土・黒褐色土が堆積する。上方に行くに従いIP粒の混入はなくなる。**柱穴**：ピットは住居内から５本確認された。位置と深さから下段コーナーに位置するP1・2が北側の主柱穴と考えられる。柱間は2.6ｍである。**炉跡**：確認されなかった。

出土遺物：破片7点、石鏃1点を図示した。**時期**：覆土中の破片ではあるが、阿玉台Ⅱ式、大木7b式のものが多く、またSK-476より古いことからこの時期の可能性がある。

SI-30（第11・16・17図、図版14・15・68）

位置：調査区の南東端、Ⅰ-６aグリッドに位置する。SK-414・415・434・485・486と重複する。南側は調査区外。**規模と形状**：東西4.3m、南北4.2ｍ以上の楕円形と想定される。確認面から床面までの深さは最も深い所で38㎝である。**覆土**：柱穴を除き２層に分層した。黒色土が主体で、異物の混入は少ない。**柱穴**：ピットは5本確認された。P-1～4が主柱穴と考えられる。**炉跡**：住居中央から北寄りに35×50㎝の楕円形の地床炉が確認された。火床は硬化赤変している。**出土遺物**：５点の復元可能な個体を含め、多くの土器が住居中央から出土している。床面の若干上から出土しているものが多い。**出土遺物**：出土した土器から、加曽利ＥⅠ式中段階と考えられる。

SI-31（第11図、図版14）

位置：調査区の南東端、Ⅰ-６aグリッドに位置する。SI-30の南西で重複し、大半が調査区外となる。

図面がないため、写真から判断するとSI-30よりは掘り込みは深い。出土遺物もなく詳細は不明である。

SI-32（第11・17図）

位置：調査区の西端の緩斜面、F-3d、G-3aグリッドに位置する。**規模と形状**：掘り込みは確認されていないが、深さ20～30cmのピット15本が集中する直径4mほどの範囲と想定する。**柱穴**：深さ30cm前後のP1・2・5・7・9・11・15が柱穴の可能性がある。**炉跡**：確認されなかった。**出土遺物**：なし。**時期**：出土遺物がなく不明である。

SI-34（第12・17図）

位置：調査区の南東、Ⅰ-3b・Ⅰ-3cグリッドに位置する。SK-673・674と重複し、西側は2号墳周溝に切られている。**規模と形状**：推定で東西4.3m、南北3.2mの楕円形。確認面から床面までの深さは26cmである。**覆土**：ローム粒・IP粒を少量含む暗褐色土1層である。**柱穴**：ピットは5本確認された。深さ等の記録がなく、重複も著しいことから本住居に伴うものかは不明である。**炉跡**：確認されなかった。

出土遺物：遺物は少なく、破片4点のみを図示した。**時期**：覆土中の破片ではあるが、加曽利EⅡ式段階と考える。

SI-35（第12図）

位置：調査区の南端、Ⅰ-3c・Ⅰ-4dグリッドに位置し、SK-665・679・698・699と重複する。また、東壁は1号墳周溝に切られている。**規模と形状**：東西は推定で3.7m、南半は調査区外となるため、南北は2mほど調査を行った。プランは北辺が直線的であることから隅丸方形と推定される。確認面から床面までの深さは40cmである。**覆土**：自然堆積で、2層に分層された。**柱穴**：ピットは8本確認した。壁際のP1～P4が本住居跡の柱穴の可能性はあるが、特定は難しい。**炉跡**：調査範囲内では確認されていない。

出土遺物：実測できるような遺物はない。**時期**：縄文時代中期と考えられるが、遺物の出土がなく、さらに時期を絞ることは難しい。

SI-36（第12・17図、図版16・17）

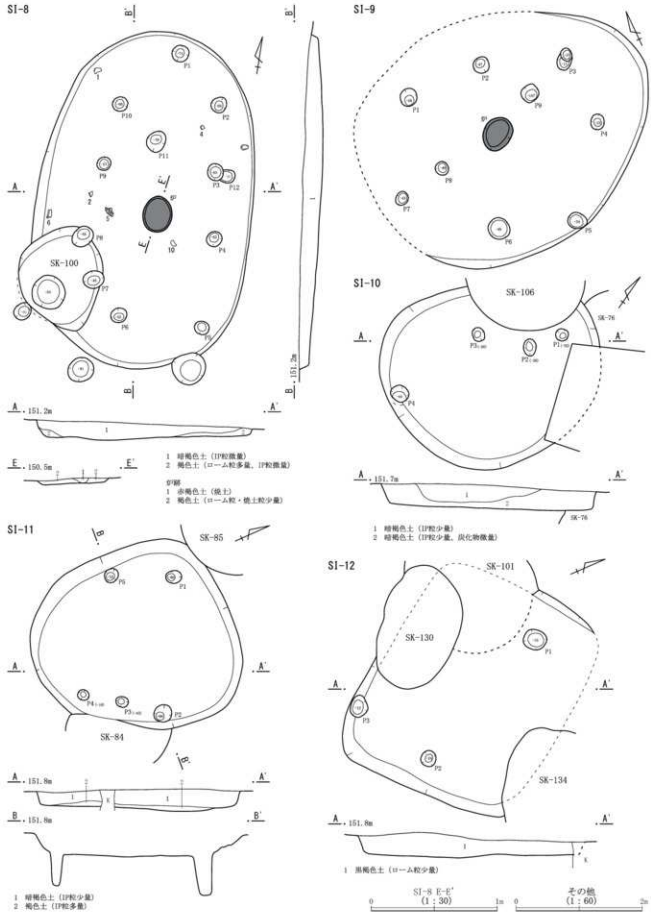
位置：調査区の南西端、Ⅰ-2c・Ⅰ-3dグリッドに位置する。2号墳墳丘下で、中央は主体部により大きく切られている。南東でSK-691と重複する。**規模と形状**：東西6.5m、南北4.3mの楕円形。確認面から床面までの深さは10cmである。**覆土**：ローム粒・IP粒を少量含む暗褐色土1層である。**柱穴**：ピットは13本確認された。全体的に50cm以上の深いものが多い。**炉跡**：確認されなかった。

出土遺物：破片1点を図示した。**時期**：出土土器は大木7b式で、阿玉台Ⅱ式期ごろと考えられる。

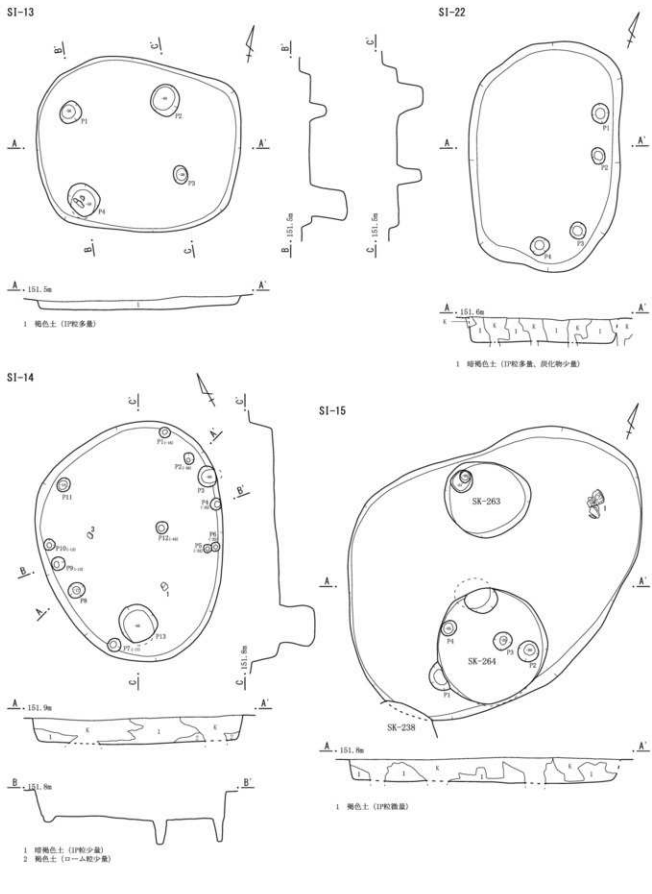
SI-37・38（第12・17図、図版17）

位置：調査区の南東端、Ⅰ-3dグリッドに位置し、2号墳の墳丘内に位置する。SI-37・38は重複し、SI-38が新しい。**規模と形状**：SI-37は東西3.5m、SI-38は2.15m、南北は最長でSI-37が0.9m、SI-37が1.0m調査したにすぎない。確認面から床面までの深さはSI-37が19cm、SI-38が40cmである。**覆土**：自然堆積で、SI-37が1層、SI-38が2層に分層した。**柱穴**：ピットは5本確認された。調査面積が少なく明確にはできないが、P1がSI-37、P3がSI-38の主柱穴の可能性がある。**炉跡**：確認されていない。

出土遺物：遺物は少なく、覆土中から出土した破片2点を図示した。**時期**：出土土器は大木8a式で、阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期と考えられる。

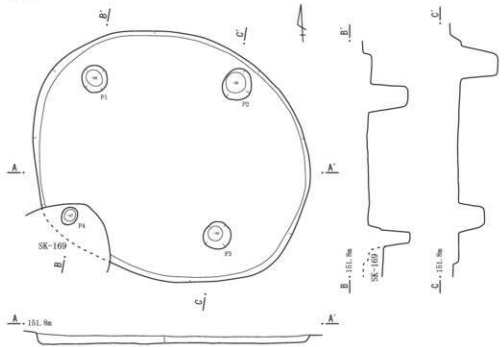


第7図 SI-8～12実測図



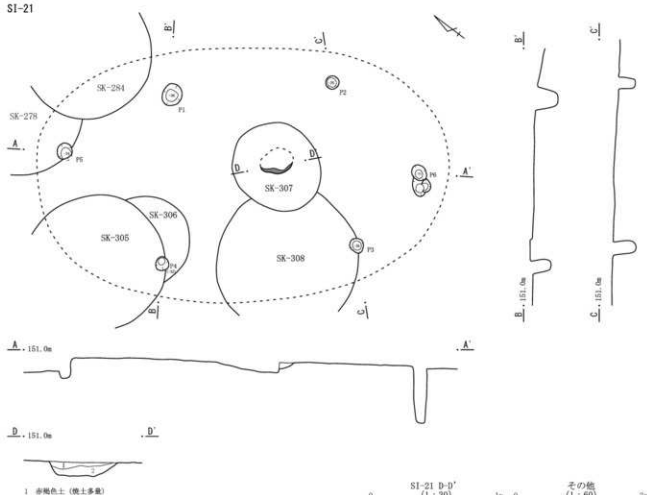
第8図 SI-13～15･22実測図

SI-16



1 暗褐色土 (IP粒少量)

SI-21

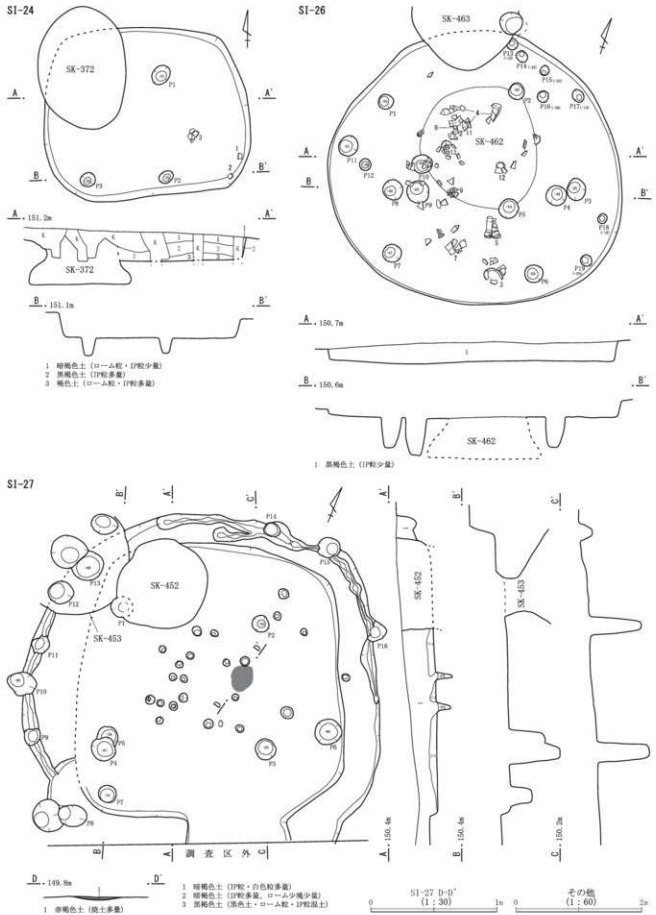


1 赤褐色土 (焼土多量)
2 黒褐色土 (焼土微量)

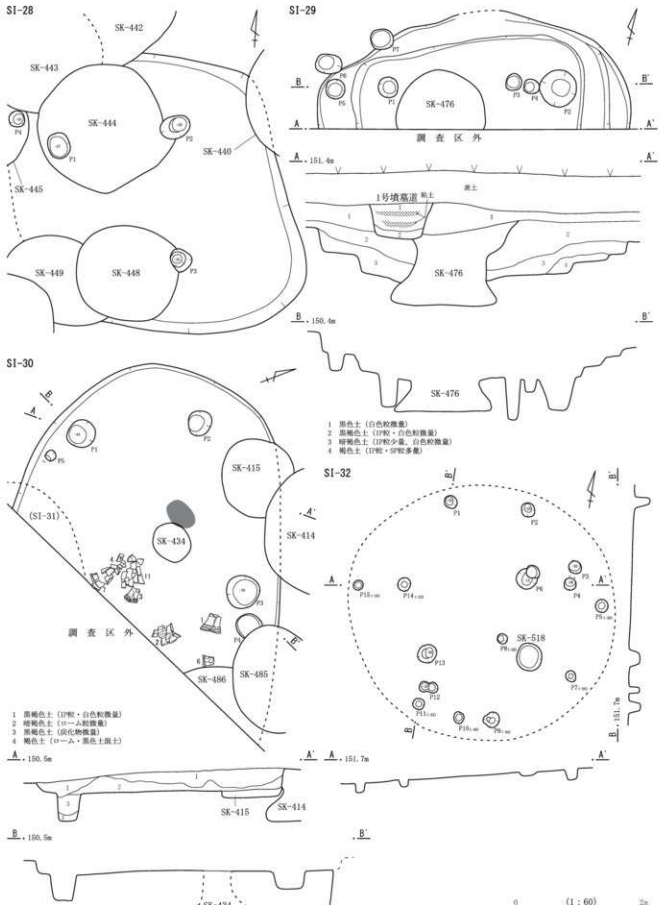
SI-21 D-D' (1:30) 0 1m

その他 (1:60) 0 2m

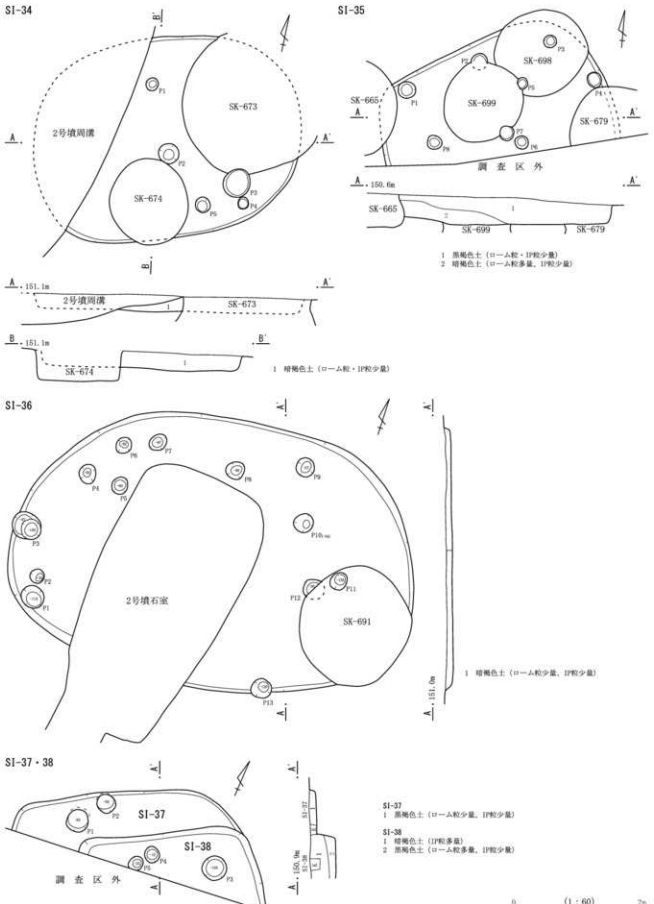
第9図 SI-16・21実測図



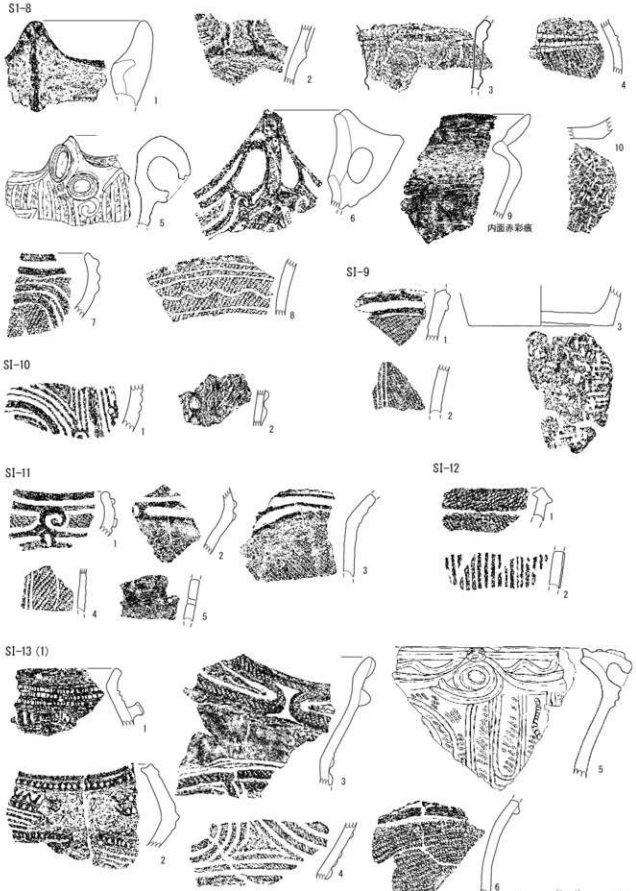
第10図 SI-24・26・27実測図



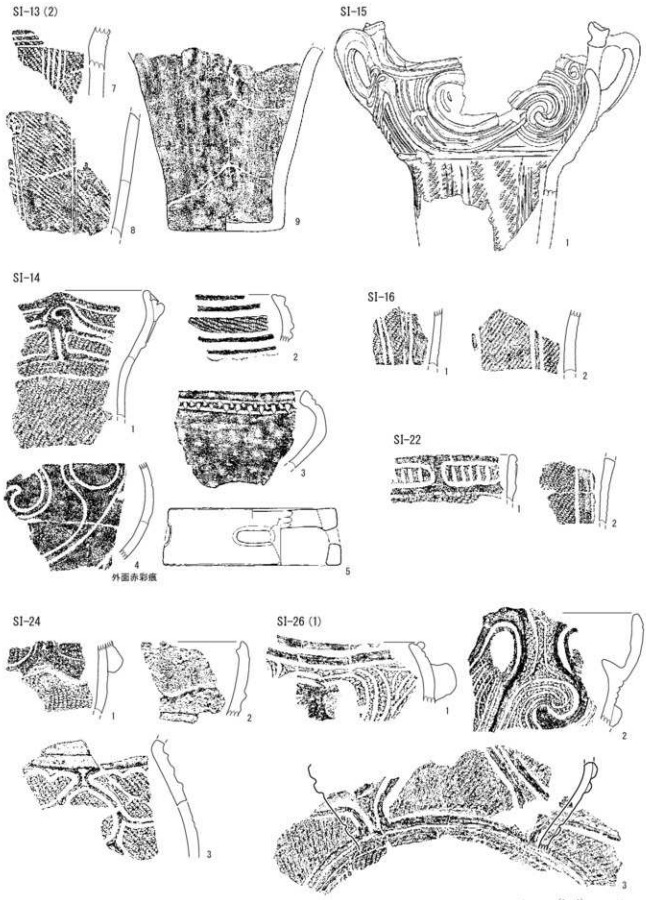
第11図 SI-28～30・32実測図



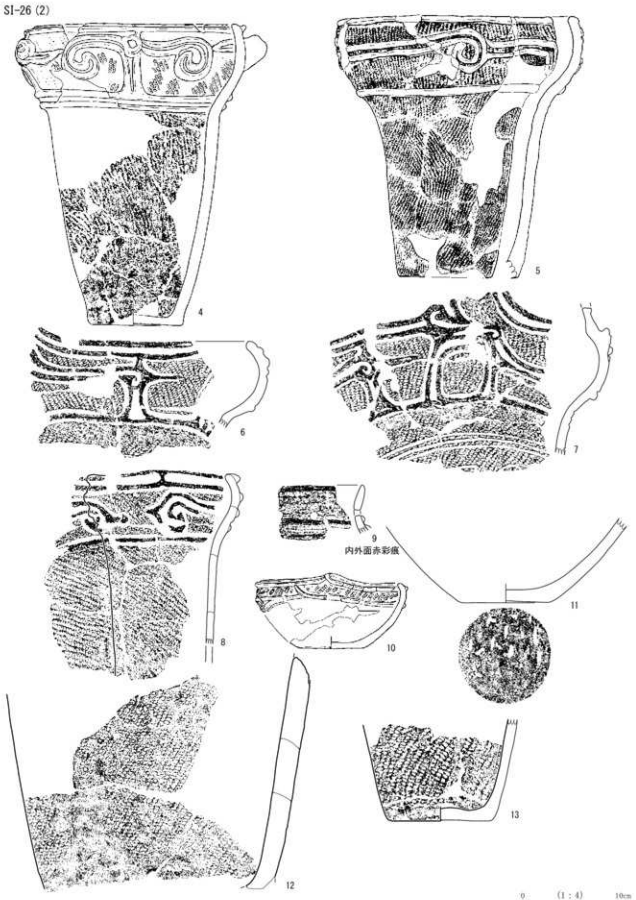
第12図 SI-34～38実測図



第13図 SI-8～13(1) 出土土器実測図



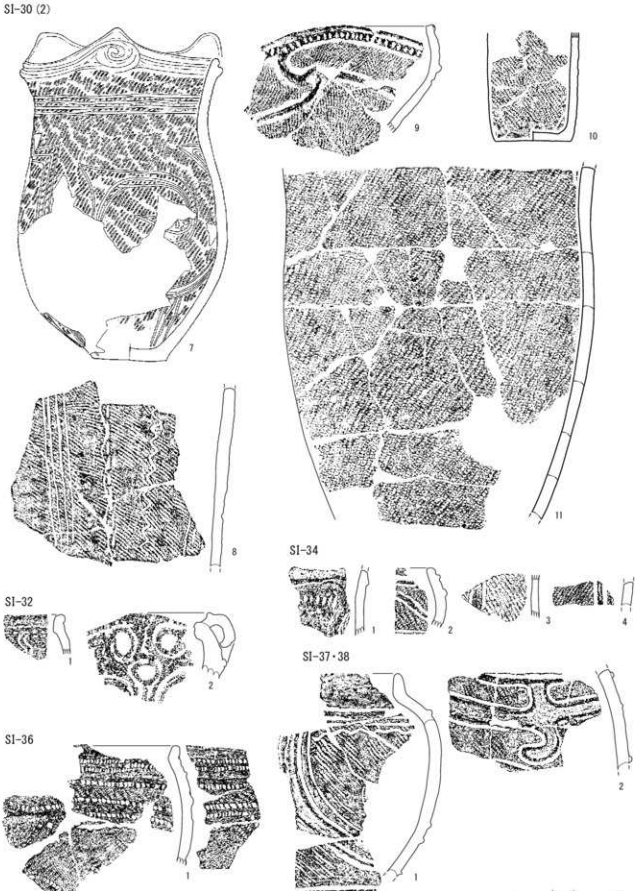
第14図 SI-13(2)~16·22·24·26(1) 出土土器実測図



第15図 SI-26(2) 出土土器実測図



第16図 SI-27~30(1) 出土土器実測図



第17図 SI-30(2)・32・34・36～38 出土土器実測図

（3）土坑

土坑は669基検出されており、調査区中央を除き満遍なく分布している。調査区北西が斜面になりやや疎らに見えるが、全体的に密で重複も著しい。SK-１～８、10～12の11基については、昭和60年頃の畑の掘削工事で崖面に露呈していた土坑で、本調査区の南西に位置する。本調査以前に上野修一・木下実両氏によって断面と残った部分の調査が行われており、SK-1から出土した土器7点については、『南那須町史』史料編（1993）に掲載されている。

土坑の多くは縄文時代中期の貯蔵穴で、壁がオーバーハングする所謂フラスコ状土坑・袋状土坑である。しかし、開畑により削平を受けており、袋状土坑であっても調査段階では上方が損壊し皿状の形状となってしまったもの、重複や崩落により壁が直立気味やオーバーハングが小さくなってしまったものも少なくない。

ここでは、土坑の個々の説明は避け、検出された土坑の特徴や傾向などの概要のみを記し、位置（グリッド）・計測値・形状・重複遺構・遺物等を一覧表で示す。

断面形状は以下のように分類するが、壁がオーバーハングする土坑のうち、発掘調査時に断面図作成後、平面図作成前に壁が崩落してしまったものについては上端が一致しないものもある。また底面小ピットについてはその数を分類のあとに（　）で示した。

A類：壁の立ち上がりがほぼ垂直な円筒形ないしは皿状のもの

B類：壁の立ち上がりほぼ垂直で部分的にオーバーハングするもの

C類：壁が全体的にオーバーハングするもの

D類：壁が丸みをもってオーバーハングし、頸部を有するもの、所謂「袋状土坑」

E類：壁が直線的にオーバーハングし、頸部を有するもの、所謂「フラスコ状土坑」

F類：その他

出土遺物については、土器はA類：ほぼ完存のもの、B類：ほぼ全形が推定可能なもの、C類：上半（口頸部）がほぼわかるもの、D類：下半（胴～底部）がほぼわかるもの、E類：把手・突起、F類：大形破片、G類：小破片、に分類し、その数を記した。深鉢以外のものについては、アルファベットの前に浅鉢・鉢・台形土器などの器種を示した。石器は器種と数を記した。

まず、土坑の形態については、円筒状の頸部を有するD・E類はⅡ～Ⅴ期に確認されており、E類についてはⅡ～Ⅲ期の古い時期のものに多い。C類はD・E類の上方が削平されたものも含まれるが、Ⅴ～Ⅷ期に顕著である。小ピットについては293個の土坑で確認されている。SK-87などⅢ期には出現し、Ⅳ・Ⅴ期と徐々に多くなっていく。Ⅵ期からはかなりの割合で小ピットをもつようになり、Ⅶ～Ⅷ期に顕著となる。１～2個のものが多いが、それ以上あるものも少なくない。SK-138の10個が最も多く、SK-567が9個、SK-343が8個、SK-126・547が7個、SK-390・563が6個。SK-173・231・266・532で5個確認されている。小ピットを多数有するものはⅥ期を中心とした時期に多い。

土層の堆積で注目されるものに炭化物を多量に含む層がある。31基の土坑（SK-35・74・99・133・161・184・193・246・254・272・282・314・327・352・353・407・412・440・441・459・463・466・478・483・496・500・502・593・652・665・694）で確認されている。底面直上に堆積しているものと、ロームを多量に含む一次堆積土の上に堆積しているものがあるが、いずれも土坑廃絶後早い段階のものである。ほとんどがフラスコ状・袋状の土坑で、円筒状の頸部や括れをもつものが少なくない。時期はⅠ～Ⅵ期で、Ⅱ～Ⅴ期の時期に多い。

小礫が多数まとまって出土しているものとして、SK-26・30・158・169・182・230・242・258・

279・598・612がある。SK-230では小ピットの上面から出土している。土器の出土は少なく、SK-612で深鉢が出ている以外は、小破片が数点出土している程度である。

器形のわかる土器を多く出土している土坑は、SK-74が11個で最も多く、SK-70が9個、SK-25・52・441・522・526が6個、SK-99・204・501が4個、SK-48・142・297・393が3個などである。SK-526がⅡ期、SK-99・522がⅣ期のほかは、Ⅵ期を中心とした時期のものが多い。出土状態については、SK-25・70・74・441・501・502・526など底面から浮いて出土しているものが多く、ある程度埋まってから一括投棄されたものと考えられる。また、SK-161では壁際底面の床面から倒置の深鉢と正位の鉢が、SK-246でも倒置の鉢が出土している。SK-277ではほぼ完存の深鉢が小ピット内から出土している。

このほか、SK-382では北東壁際の底面直上からベンガラの入った口縁部を欠く小型土器が楕円形の礫と出土している。X期の土器が出土したSK-233については、トレンチャーにより壊されているが、覆土中位から倒立状態で出土していることから、土坑埋没後の埋甕の可能性が発掘時の記録に残されている。

第5表　土坑一覧表

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小尺)	重複遺構	土層	石層	時期	検出面層	写真図版	備考
1		(160)	(185)	75	C	SK-2	G1		Ⅲ～Ⅳ	18・87	18・115	断面のみ。「南原清町史」史料編土器Ⅰ出図化掲載
2		(40)	(115)	75	―	SK-1	―		―	18	18	断面のみ
3		(45)	(260)	138	E		G2		(Ⅵ・Ⅷ)	18・87	18	断面のみ
4		(150)	(240)	105	E		G1		―	18・87	18	断面のみ
5		―	―	―	(DorE)		G2		―	18・87		断面のみ
6		(200)	(250)	105	C	SI-1	G1	層ポ1, 層石1	―	18・87		断面のみ
7		(150)	(290)	128	D	SI-1	F1	石層1, 層石2	(Ⅷ)	18・87	113	断面のみ
8		―	―	―	E		浅B1・B1	石層1, 層石2	Ⅰ～Ⅱ	18・87	69・113	断面のみ
9	欠番											
10		―	―	―	D		G2		(Ⅰ～Ⅱ)	18・87		断面のみ
11		(120)	(230)	122	D		G2		(Ⅱ～Ⅲ)	18・87		断面のみ
12		(140)	(160)	92	―		掛B1・G1	粘土塊2	(Ⅲ～Ⅳ)	18・87		断面のみ
13	E・6d	170×167	170×165	32	B(1)	SK-14	掛B1・G1	石層1	(Ⅳ～Ⅴ)	19・87	113	
14	E・6d	225×185	220×175	11	A	SK-13・44・50	G1	石層1, 土製円盤1	―	19・87	113	
15	欠番											
16	E・6a	245×245	265×248	105	E	SK-17・56	G1	小層ポ1	(Ⅱ～Ⅳ)	19・88	18	
17	E・6a	(186×(155)	(205×(160)	85	B(1)	SK-18	G3		(Ⅷ)	19・88		
18	欠番											
19	E・6a,b	155×100	―	―	F	SK-41	G1		(Ⅷ)	19・88		確認面精円形で下方長方形、落し穴か
20	E・6a,b	172×115	220×180	82	C	SK-21	G1		(Ⅱ～Ⅲ)	19・88		
21	E・6b	145×(100)	130×(90)	35	A	SK-20	G2		(Ⅴ～Ⅵ)	19・88		
22	E・6b	140×132	142×141	―	B		G1		(Ⅵ～Ⅷ)	20・88		
23	E・6b	136×113	127×114	20	B		G1		(Ⅲ)	20・88		
24	E・6d	(185)×145	(185)×140	16	B	SK-25	A1・B1・C2	層ポ1	(Ⅱ)・Ⅴ	20・88	19・69	
25	E・6d	242×187	260×187	45	B	SK-24・50・52	A1・B6・D1	層石1	Ⅵ	20・89・90	19・69・70	
26	E・5b・6a	(190)×170	(170)×170	20	A	SK-42	F1	石層1	(Ⅱ)	20・88	20	
27	E・6a	(180)×150	(170)×140	19	A(1)	SK-42	G1		―	20・90	20	礫多数出土
28	E・6a	205×178	198×160	50	B(2)		G3		(Ⅷ)	20・90	20	
29	E・5b	170×135	(170)×140	33	B(1)		F1	礫層1	(Ⅳ～Ⅴ)	20・90		
30	E・5b・6a	200×180	180×170	30	A		G1		(Ⅴ)	20・90	20	礫多数出土
31	E・5b	195×175	232×224	85	C		G1		(Ⅵ～Ⅷ)	21・90		
32	欠番											
33	E・6a	160×160	155×145	34	B(1)		―	層石1	―	21		
34	欠番											
35	E・6a	162×135	280×261	146	D(1)		C1・ホF1	層石1	Ⅵ～Ⅷ	21・91		
36	E・6a	95×83	120×118	40	C		B1・D1・G1	層石1	Ⅳ	21・91	21・70	
37	D・5c	195×177	192×160	34	B		G5		(Ⅱ～Ⅲ)	21・91	113	
38	D・6d	243×230	250×234	―	B		G1		(Ⅵ)	21・91		
39	削除						C1・E1・G1		Ⅵ～Ⅷ			
40	E・6d	128×105	(110)×90	27	A	SK-52・53	G1	小層ポ1	―	22・91	22	
41	E・6a,b	234×180	210×(170)	91	A	SK-19・55	B2・C1・D1・E1		Ⅷ	19・92		
42	E・6a	150×135	150×130	32	B	SK-26・27	掛B2・G1		(Ⅴ)	20・92	20・70	
43	欠番						―					
44	E・6d	120×65	90×45	10	F(3)	SK-14	C1・ヨコG1		(Ⅳ～Ⅴ)	19・93	71	SK-14の一部が重複。
45	E・6d, F・6a	170×(120)	190×(160)	97	B	SK-77	G2	層ポ1	―	22・92		

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	重複遺構	土器	石器	時期	検出面標	写真図版	備考
46	E-6d	90<(90)	115<(107)	96	C	SK-77	G1		(V)	22-93		
47	E-6d	172×152	195×187	45	B(1)		G2		(IV～V)	22-93		
48	E-6d	135×105	105×240	104	E		A2・B1・E1・G4	打ボ1, 磨石1	V・VI	23-93・94	71	
49	E-6c	(105)×(95)	257×180	86	C(1)		B1・C1・D1		V～VI	23-94	71	
50	E-6d	212×185	180×170	20	A	SK-14・25	C1・F1・G2	打ボ1	VI～VII	20-94	71	
51	E-6d	140×110	145×135	79	B(2)		G3		VI～VII	22-95	21	
52	E-6a,d	140×130	255×240	108	E(2)	SK-25・40・53	B3・C1・F2・#B2・洗#C1		VI～VII	22-95・96	22-72	
53	E-6a・d	(180)×(130)	(160)×(120)	32	A	SK-40・52	―		―	22	22	
54	欠番											
55	E-6a	(260×240	(260)×233	78	B	SK-16・41・56	G2	磨石1	(II)	19-95		
56	E-6a	(180)×(142)	(240)×(150)	65	C(2)	SK-16・55	B1・F2	石錘1	VI～VII	19-96	115	
57	欠番											
58	D-6c, E-6b	170×167	198×150	―	B(1)		―		―	23		
59	E-6c	175×130	205×190	58	C(3)		G2	石錘1, 磨石1	(VI～VII)	23-96	113	
60	E-6c	200×170	173×155	28	A(1)		B1・C1・G1	小磨弁1, 磨石1	(II)・V	23-96	72	
61	E-5c	255×240	275×255	61	C		B1・C1・G6・洗C1	石錘1, 磨弁1, 磨石1, 石皿1	(IV)・VI～VII	23-97	73・115	
62	E-5a～d	196×187	178×166	29	A		B1・C1・G6・洗C1		VI～VII	23-97	73	
63	E-5b	98×84	82×58	20	A		G1		(VII)	23-97		
64	E-5b	106×88	92×75	17	A(1)		―		―	24		
65	E-5b	262×254	273×264	37	B(1)		G4		(II・VI)	24-97		
66	E-5a	235×205	225×195	47	B(1)		F1・G1		(VI～VII)	24-98		
67	E-5b	190<190	215×192	55	B		G1	石錘1, 打ボ1	(VI～VII)	24-98	113	黒曜石剥片1
68	欠番											
69	E-5c, F-5b	200×195	185×178	25	A	SK-70	G1		(VI～VII)	24-97		
70	E-5c	225×195	241×220	63	C(1)	SK-69	A1・B2・C4・D2・F1・#B2	磨石2	VI～VII	24-98・99	73・74・73・74	
71	F-6a	340×(110)	230×(140)	―	B		B1・D1・E1・G1	小磨弁1, 磨石1	(VI)	22-99・100	74	
72	F-6a	90<(80)	200×175	137	D		B2・C2・E1・G1・洗C1	磨石1, 石皿1	IV～VI	22-100・101	74・75・103	
73	欠番											
74	E-5c	135×125	255×210	77	E(2)		A2・B4・C4・D3・F4・G5・#A2・洗B1・有孔土器C1	土偶脚1, 三角錐状石製品1, 磨弁1, 磨石1	V～VI	25-101～103	25・26・75～77・111	
75	E-5c,d	240×230	220×215	26	A		D2・E1	磨石1	IV～V	25-104	24・77	
76	F-5b	(100)×(72	365×185	77	B(3)	SK-10	C1・#B1		V	25-104	77	
77	E-6d	174×90	150×150	118	D	SK-45・46		磨石1	(IV・VI)	22-104		
78	E-5c	183×165	215×200	46	C		E1・F1		(IV～V)	24-105		
79	E-5c	200×160	280×220	55	C(3)		G1	磨石1	(V)	25-105		
80	E-5d, F-5a	140×115	170×145	22	C		G2		(V)	25-105		
81	F-5a	185×165	150×142	18	A(2)		G2		(V)	25-105		
82	E-6d	55×50	45×40	―	A		―		―	23		
83	F-5b	205×195	175×168	12	A(1)		―		―	26		
84	F-5b	[160]×[140]		24	A	SI-11, SK-109	―		―	26		
85	F-5b	210×180	270×230	43	C(1)	SI-11, SK-104	B1・G5	磨弁1, 磨石1, 石錘1	III	26-105	27・77・103・110	黒曜石剥片3
86	欠番											
87	F-5a,d	250×210	245×220	19	A(2)		B2・D1・G1	石錘1	III	27-106	78	
88	F-5a	255×225	205×135	12	A	SK-89・90・108	D1・G1		(II～III)	27-105	65	
89	F-5a	175×155	180×153	40	B(1)	SK-88	D1・G1		(V)	27-105		
90	F-5a	180×150	155×130	17	A(1)	SK-88・91	G3		(VII)	27-105		
91	F-5a	270×250	240×230	24	A(1)	SK-90	D1・G1・洗G1	磨石1	(VII)	27-106		
92	F-6a	(190)×[155]	(175)×[150]	74	C	SK-93・134	F1		(VI)	28-106		
93	F-6a,d	[180]×[90]	[168]×[80]	―	A(1)	SK-92・210	G2	磨石2	(VI～VII)	28-107	30	
94	F-5d	235×220	210×200	22	A	SK-95	F1・G1	石錘1	(VII)	28-107	113	黒曜石剥片1
95	F-5d	245×202	253×206	46	B	SK-94	G2	石錘1	(V)	28-107	113	黒曜石剥片1
96	F-5a	155×140	120×115	33	A		G1		(II～III)	26-108		
97	F-5c	225×212	215×195	23	A(3)	SK-98	G2	打ボ1, 小磨弁1	(VII)	27-107		
98	F-5b,c	190<(160)	165×150	24	A(1)	SK-97	G2		(VII)	27-107	30	
99	D-5c	130×135	210×197	141	D	SI-8	B4	磨石1	IV	21-107	28・78・104	
100	D-6d, E-6a	160×153	140×124	50	E(2)	SI-8	F2		(III・VII)	26-108		
101	F-5d	210<(190)	173<(170)	19	A(1)	SI-12, SK-109・130	G2		(V)	28-108		
102	F-5c	250×220	255×220	34	B	SK-103・113	B1・G3	石錘1, 磨石1	II～III	29-108	30・79	黒曜石剥片1
103	F-5c	180<(175)	150<(175)	25	A	SK-102・103・128	―	石錘1	―	29	30・113	
104	F-5a	180×155	170×140	16	A	SK-85	G1		(VII)	26-108		
105	F-5c	202×190	180×170	14	A	SK-212	―		―	27		
106	F-5b	215×165	200×175	55	B	SI-10	C1・F3・G1	三脚石器1	VI～VII	25-108		
107	E-5d	165×155	185×180	47	C		G2	磨弁1	―	25-109	65	
108	F-5a	75<52	82<48	70	B	SK-88	―		―	27		
109	F-5b	152<(130)	140<130	―	A(1)	SK-84・101・130	G2		(VI～VII)	26-109		
110	F-5d	185<180	180<175	34	B (1)		G3	磨石2	(VI～VII)	28-109		
111	E-5d	295<(182)	322×320	81	E	SK-112	B1・F2・G2・洗F1	磨石1	(VI)	30-109		
112	E-5d	200×142	195×129	78	B(2)	SK-111	B1・F1・G1	石錘2	(VI～VII)	30-109	113・115	
113	F-5c	(220)×190	(210)×185	―	A		G2		(VII)	29-109	30	
114	欠番											
115	F-5d	195×155	165×138	49	A		G2		(VII)	30-109		
116	F-5b	130×120	110×100	10	A		―		―	27		
117	E-6c	78×52	100<80	61	C		B1・F1	磨石1	VI～VII	30-110		

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	意図遺構	土層	石器	時期	挿図図版	写真図版	備考
118	E-6b,c	170+155	145+140	—	A(1)		G2		—	30-109	30	北西から小礫多数出土
119	欠番											
120	E-5a,b	130+117	160+155	59	C		—		—	24		
121	F-5a	85+80	75+65	29	A		—		—	27		
122	F-5d	155+140	140+130	36	A		—		—	28		
123	F-5d	182+182	155+155	14	A		—	石器1	—	28	113	クルミ出土
124	F-5c,d	165+150	150+150	20	A	SK-125	—		—	30	30	
125	F-5c,d	(195)+190	190+180	20	A(1)	SK-124・126	D3・G1・盛台C1	土製円盤1	Ⅷ	30-110	30	
126	F-5c	260+256	245+245	29	A(7)	SK-125・127・139	G1		(Ⅷ)	30-109	30	
127	F-5c	157+157	135+135	43	A(3)	SK-126	F1・鉢B1		Ⅷ	30-110	30・79	
128	F-5c	210+200	180+170	34	A	SK-103	G1		Ⅷ	29-109	30	
129	G-5a	230+196	220+185	65	A(4)		C1・G1・有孔C1		Ⅷ	31-110	29・79	
130	F-5b	195+125	224+180	84	D	SI-12, SK-101・109	G1	石器1, 打片1	(Ⅱ)	26-111	114	
131	F-6d	190+185	210+205	61	C(3)		B1	磨石2	(Ⅴ～Ⅵ)	31-111	79	
132	F-6d	185+170	165+150	35	A(2)	SK-104	—	磨石2	—	31		黒曜石剥片1
133	F-5c,6d	198+170	215+200	71	B(2)	SK-211	G2	磨石2	(Ⅶ～Ⅷ)	29-111		
134	F-5b,6a	(98)+(95)	260+225	50	E	SI-12, SK-92	B1・C2・E4・F2・G5		Ⅳ～Ⅴ	28-111・112	79・80	
135	F-5c,6d	205+200	175+175	61	A	SK-136・191	B1	磨石1, 石錘1	Ⅰ～Ⅱ	28-113	33・80	
136	F-5c,6d	205+175	190+190	60	B(3)	SK-135・210	G5		Ⅷ	28-113	33	礫多数出土
137	F-5c	(190)+175	(180)+160	26	A	SK-203・213	F1・G2		(Ⅱ)	29-113		
138	F-5c	267+246	240+230	65	B(10)		G2		(Ⅶ～Ⅷ)	31-113		
139	F-5c	224+210	200+195	42	A(1)	SK-126・140	G1	石器1	(Ⅷ)	32-113	114	
140	F-5c	190+(150)	170+(130)	31	A(1)	SK-109・141・142	F1	打片1	Ⅷ	32-113		
141	F-5c	(175)+135	(170)+120	20	A(1)	SK-140	—	—	—	32		
142	F-5c,d	190+170	180+160	40	B(1)	SK-140	B3・G1		Ⅷ	32-114	80	
143	F-5d	215+190	195+160	30	A	SK-140	G1	石器1	(Ⅶ)	32-113		
144	F-5d	155+140	138+127	35	A(1)		G1		(Ⅶ)	32-113		
145	F-5d	(200)+180	(185)+173	45	A		G1		(Ⅶ)	32-114		
146	F-5d	180+175	155+155	45	A(4)	SK-147	G1		(Ⅶ)	32-114		
147	F-5d	190+150	189+160	110	B		B2・盛C1	磨石1	(Ⅶ～Ⅷ)	32-114		
148	F-5d	235+193	270+210	50	A(3)	SK-145	G1		—	32-114		
149	F-4b	152+130	165+120	53	B		G1		(Ⅳ)	33-115		
150	F-4c	(200)+180	(185)+175	36	A(1)	SK-151・152・158	G1		(Ⅵ)	33-115	30	
151	F-4c	204+180	190+179	44	B(2)	SK-150	—	—	—	33	30	
152	F-4c	135+130	120+110	28	A	SK-150	G2	石器1	(Ⅵ)	33-115	30	
153	F-4c	223+200	205+192	14	A		G1		(Ⅴ)	33-115		
154	F-4b,c	150+138	136+130	28	A(1)		G2		—	33-115		チャート剥片13, 黒曜石剥片1～5
155	F-4d	150+120	120+100	33	A	SK-163	G2		(Ⅴ)	34-115		
156	F-4a	180+170	180+145	31	B		G3		(Ⅱ～Ⅲ)	33-115		
157	欠番											
158	F-4c,5d	207+185	192+189	61	B(3)	SK-150	G2	石器2	—	33-115	30・114・115	礫多数出土
159	F-4a	207+200	215+210	67	B		G2		(Ⅱ)	34-115		
160	F-4d	308+250	287+232	—	A		B1・G1	磨石3	(Ⅵ)	34-116		チャート剥片7, 頁岩岩剥片6, メノウ剥片1～他, 砥石2
161	F-4a,d	115+110	300+300	106	E		B1・F2・G3・鉢A1	磨石1	Ⅳ・(Ⅷ)	34-115	31・81・109	
162	F-4a,d	174+150	170+147	42	B	SK-163	E1		(Ⅴ)	34-116		
163	F-4d	163+140	134+130	26	A	SK-155・162	G3		—	34-116		
164	F-4a	140+120	130+104	35	A		G4・盛C1・台C1		(Ⅱ)	33-116		
165	欠番						G1		—			
166	F-4d	200+163	205+156	19	B(2)		G1	磨石1	—	34-116		
167	F-4c	197+170	164+151	—	A(1)		G1	石錘1	—	33-116	115	
168	F-4d	225+202	203+180	40	A		G1		(Ⅵ～Ⅶ)	34-116		
169	F-4c	208+185	195+165	41	B(2)	SI-16	G1		(Ⅶ)	35-116		礫多数出土
170	欠番											
171	F-4c,5d	200+177	190+180	42	B(1)	SK-216	G2		(Ⅵ～Ⅶ)	35-116		
172	F-4a,b	161+147	147+133	29	A(1)		G1		—	33-116		
173	F-4c	160+150	190+160	55	B(5)		G4		(Ⅵ)	35-116		
174	F-5d,G-5a	175+165	175+165	36	B	SK-175	G1	打片1, 石錘1	(Ⅵ)	35-116		
175	G-5a	190+172	165+162	51	A	SK-174・214	G1		—	35-116		
176	G-5a,b	176+160	165+143	25	A		B2・C3・D1・F1・G3・注C(G1		(Ⅶ～Ⅸ)	35-117	81・105	
177	G-5b	135+(120)	195+172	46	C		G1		(Ⅶ)	35-116		
178	G-5b	145+107	145+125	31	A	SK-179	F1・G1		(Ⅶ)	36-118	32	
179	G-5b	197+135	245+210	74	C(2)	SK-178・180	G2		(Ⅶ)	36-116	32	
180	G-5b	215+184	232+194	44	C(2)	SK-179	G1		(Ⅵ)	36-118	32	
181	G-5b	275+240	255+225	40	A	SK-183	G1		(Ⅶ)	36-118		
182	G-5b	200+200	230+210	42	C		—		—	36		礫多数出土
183	G-5b	195+180	175+165	56	A	SK-181	D1・G1	石神1	(Ⅶ)	36-118		
184	G-5b	170+153	264+215	76	D(2)	SK-185・209	B1・D2・E1・G1	打片1, 石錘1	Ⅵ～Ⅶ	37-118		
185	G-5b,6a	291+232	(275)+222	38	A	SK-184・186・209	C1		(Ⅶ)	37-118		
186	G-6a	268+240	260+240	46	B	SK-185	G6		(Ⅰ～Ⅱ)	37-119	32	
187	G-5b	181+165	175+160	30	A		G1		(Ⅶ)	36-118		
188	G-5b	255+265	250+240	30	B	SK-199	C2・F1・G6	磨石2, 石錘1, 多孔石1	Ⅰ～Ⅱ	37-119	34	
189	F-6d	136+112	135+135	31	B		—		—	36		
190	F-6d	145+135	128+125	24	A		F1・鉢D1		(Ⅶ)	36-119		
191	F-5c	155+135	135+125	40	A	SK-135	G3	石錘1	(Ⅶ)	28-119	33・114	

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	整穂痕構	土器	石器	時期	時期細区	写真図版	備考
192	G-5c	169×175	196×165	58	B(1)		C1・D1・G1		Ⅷ～Ⅸ	38-119	81	
193	G-6a	95×90	206×201	63	D	SK-194	C1・G1	磨痕1, 磨石1	Ⅱ～Ⅲ	37-120	32・82	
194	G-6a	215×210	200×198	18	A	SK-193	G1		(Ⅷ～Ⅸ)	37-119		
195	G-6a	250×(180)	250×(170)	53	B	SK-197	B1・C1・G2		(Ⅳ～Ⅴ)	38-120		
196	欠番											
197	G-6a	240×(180)	233×(160)	44	A	SK-195	G2		(Ⅵ)	38-119		
198	G-6b	230×195	220×195	52	B(1)		G2		―	38-119		
199	G-5b,6a	262×245	263×250	63	B(1)	SK-188	D3・E1		(Ⅴ～Ⅵ)	37-120	34	
200	G-6a	228×207	237×232	74	B	SK-201	F1・G4	磨面1, 磨石1,	(Ⅰ～Ⅱ)	39-120	34	
201	G-6a・d	(260)×238	(240)×230	50	A(3)	SK-200	G1		(Ⅰ)	39-120	34	
202	F-5b	180×155	155×140	19	A		G2		(Ⅷ)	26-120		
203	F-5c	175×160	155×150	15	A(3)	SK-137・213	―		―	29		
204	F-6d	185×150	210×185	66	B	SK-132	B2・C4・D2・F1・浅G1	磨石1	Ⅵ	31-121	82	
205	F-5c,6d	215×180	230×190	40	B(2)	SK-206	G2		(Ⅷ)	39-120		
206	F-5c,6d	(200)×155	(190)×145	26	A	SK-205	G2		(Ⅱ～Ⅲ)	39-120		
207	F-5c	155×150	140×135	24	A(2)		G1		(Ⅷ)	39-120		
208	G-6a	196×187	173×155	27	A(1)		F1	石錘1	(Ⅱ)	36-122		
209	G-5b,6a	290×245	290×265	41	B	SK-184・185	G2	土製円盤1, 石棒1	(Ⅷ)	37-122		
210	F-6d	185×[170]	175×[163]	27	A(2)	SK-93・136	G1		(Ⅸ)	28-122		
211	F-5c	177×145	160×125	19	A(1)	SK-113・133	G1		(Ⅷ)	29-122		
212	F-5c	140×140	180×180	50	C(1)	SK-98・105	G1		―	27-122		
213	F-5c	195×192	180×170	17	A(2)	SK-137・203	G2		(Ⅷ～Ⅸ)	29-122		
214	G-5a	(130)×105	(110)×95	16	B	SK-132	F1		(Ⅷ)	35-122		
215	欠番											
216	F-4c	150×130	134×118	27	A	SK-171	G1		―	35-122		
217	F-4d	148×130	127×108	36	A		G2		(Ⅷ)	34-122		
218	F-3c	175×158	160×142	26	A(2)		G1		―	34-122		
219	F-3c	175×152	160×140	25	A(1)		B1・G1	打ⅹ1	Ⅵ	39-122	83	
220	F-4d	230×230	225×205	28	B		F1		(Ⅷ)	39-122		
221	F-4d, G-4a	155×145	156×150	47	C		―		―	40		
222	F-4d	160×150	140×125	28	A		G1		(Ⅷ)	39-122		
223	欠番											
224	G-4b	180×165	205×150	57	B(2)		C1		Ⅷ	40-122		
225	G-4b	255×190	240×187	62	A(2)		C1・D1・F1・G2・抹B1	小磨痕1,	Ⅷ	40-123	34・83	
226	G-3b	217×(200)	193×(190)	39	A	SK-227	浅G1		(Ⅵ)	40-123		
227	G-3b,4a	215×173	185×150	43	A	SK-226	G1		(Ⅷ)	40-123		
228	G-4a	297×230	265×245	71	B(4)	SK-229・230	G2	打ⅹ1	(Ⅴ～Ⅵ)	41-123	35	
229	G-4a	(170)×147	(160)×132	55	A	SK-228	G2	打ⅹ1	(Ⅷ)	41-123		
230	G-4a	(170)×160	(200)×178	49	C(1)	SK-228	G1	玉1	(Ⅷ)	41-123	35・111	※ピット付近から礫多数出土, チャート剥片10
231	G-5a	185×176	165×165	68	A(5)		G2	磨石2	(Ⅷ)	31-123		
232	G-4a,b	200×193	202×184	60	B(1)		C1・G2	石錘1	Ⅷ	41-124	35	
233	G-4b,c	180×160	163×150	48	B(1)		B1		ⅹ	41-124	36・83	
234	G-4b	237×215	205×192	64	A(2)		G3		(Ⅷ)	40-124		
235	G-5a	205×185	190×175	63	A(1)		G2	打ⅹ1	(Ⅷ～Ⅸ)	40-124		
236	G-4a	180×160	205×187	104	C(1)		B1・G3	打ⅹ1	(Ⅷ)	40-124	83	
237	G-3c,4d	244×210	215×215	70	B(4)		G2	磨石1	(Ⅷ)	41-124		
238	G-4d	210×181	233×190	50	C(1)		G1	磨石1	(Ⅷ～Ⅸ)	42-124		
239	G-4d	238×215	267×250	50	C		G2		(Ⅲ)	42-125		
240	H-4a	220×193	215×195	42	B(1)		G1		(Ⅷ)	42-125		
241	H-4a	179×165	185×170	33	B(1)		G1		(Ⅸ)	42-125		
242	H-4a,b	234×200	193×185	54	A(1)		G1		(Ⅷ)	42-125		礫多数出土
243	H-4b	(234)×230	(220)×205	52	A(2)	SK-244	B1・G2	磨片3	(Ⅷ～Ⅸ)	42-125		
244	H-4b	175×(155)	168×(135)	36	B(1)	SK-243	―	横形石1	―	42		
245	H-4b	205×170	207×165	60	B(1)		G2	尖頭器1	(Ⅸ)	43-125		
246	H-4b	(160)×(145)	210×180	67	D		D3・G1・抹A1	磨石2	Ⅱ～Ⅲ	43-125	36・38・84	
247	H-4b	200×[90]	180×[100]	55	B(1)	SK-262	C1・G1		(Ⅱ)・Ⅷ	43-125		
248	G-5d	180×165	185×173	60	B(1)		G1	石錘1	(Ⅷ)	44-125	36	チャート剥片1
249	G-5d	160×142	148×132	52	A(1)		G2		(Ⅸ)	44-125		礫多数出土
250	G-5d	215×195	215×205	65	B(3)		F2・有孔G1		(Ⅸ)	44-126		
251	G-5d	215×210	225×208	60	C(3)		G1	石錘1	(Ⅷ)	44-125	37	
252	G-5d	185×170	185×174	53	B (1)	SK-253・254	G1		(Ⅷ)	45-125	37	
253	G-5d	180×170	170×165	39	B(1)	SK-252	G1		(Ⅷ)	45-125	37	
254	G-5d	195×182	195×175	69	B(3)	SK-252	C1		(Ⅷ)	45-126	37	
255	G-5d, H-5a	180×167	197×187	51	B(1)		G1		(Ⅷ)	45-126	37	
256	H-5a	135×130	125×125	64	A	SK-299	G1	石錘1	(Ⅷ)	45-126	37・114	
257	H-5a	250×245	255×245	49	B	SK-276	F1・浅F1	打ⅹ1	(Ⅱ)	44-126	37	
258	H-5a	185×177	195×175	58	B(1)	SK-259	G1		(Ⅷ)	45-126	38	礫多数出土
259	H-5a	(185)×160	170×160	34	B(1)	SK-258	G1		(Ⅵ～Ⅷ)	45-126	38	
260	H-4b	190×165	192×170	56	B(2)		―		―	43		
261	H-4b	147×122	136×120	50	B		F1・G3	磨石3	Ⅱ～Ⅲ	43-126		
262	H-4b,5a	240×230	250×230	62	B	SK-247	G5	磨面1, 磨石1	(Ⅰ・Ⅱ)	43-127		
263	G-4a	125×115	118×105	48	A(1)		G1		―	44-127		
264	G-4d	184×160	185×160	75	B(4)		G1		(Ⅳ)	44-127		
265	欠番											
266	G-5c,d	159×150	177×165	90	C(5)		敲石1		Ⅷ～Ⅸ	44-127	84	
267	G-5c, H-5b	255×245	234×230	45	A(1)		C3・F・G1・加D1		Ⅷ～Ⅸ	44-127	110	
268	G-5c	243×205	230×195	47	A(1)	SK-273・300・337	G1	石錘1	Ⅷ	46-128	114	
269	G-5c	205×205	195×190	40	B (1)		D1・F1		―	38-128	38	

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	重複遺構	土器	石器	時期	検出面標	写真図版	備考
270	G-5.c	193+193	180+180	49	A(1)		C1		(VW～IX)	38-128	39	
271	G-5.b	165+145	153+150	42	B		～	磨石2	～	38	39	
272	G-6.d	220+210	270+240	77	D(1)	SK-302・304	F3・浅G1		VII	47-128		
273	G-5.c	95+85	213+203	147	D	SK-268・300・309・333	香F1		(VII)	46-128		
274	G-6.d	210+180	206+180	67	B		～		～	46		
275	G-5.b	140+130	128+123	40	A(1)		G1	石錐1	(VII)	47-128	39	
276	H-5.a	150+138	163+150	60	C(2)	SK-257	G3・深F1	土製円盤1	VI～VII	45-129		
277	G-6.d, H-6.a	228+(197)	190+(180)	50	B(2)	SK-312・336	C1・F1・G1		VI	46-129	39・84	
278	G-6.d	(195)+175	(190)+170	30	A(2)	SK-284	G1		(VI)	47-129		
279	G-6.d	205+185	255+240	80	B	SK-280	E1・G2	小磨石1, 土製円盤1	(IV)	49-129		
280	G-6.a,d	(150)×133	(140)+120	22	A	SK-279	G1		(VI)	49-129		
281	G-6.d	167+(130)	160+(125)	42	A	SK-282・288	G2		(IV～V)	49-129	40	
282	G-6.a,d	175+170	190+175	55	C	SK-281・286	B1・D2	磨石4	III～IV	49-130	40・84	
283	欠番											
284	G-6.d	216+213	210+205	48	A	SK-278・285	G4	磨石1	I～II	47-130		黒曜石二次加工剥片1
285	G-6.d	(185)+145	(180)+140	20	A(1)	SK-284・287	G2		～	47-129		
286	欠番											
287	G-6.d	(200)×180	(170)+170	25	A(2)	SK-285・297	C1・G1		(II)	47-130	84・111	
288	G-6.d	(160)×(160)	260+240	97	C(1)	SK-281・282	C1・E1・F2・G3	多孔石1	V・IV	49-132		
289	G-6.a,d	45+40	41+38	32	B		～		～	38		小穴
290	G-6.d	40+39	44+41	35	B		～		～	38		小穴
291	G-6.c	75+70	60+55	30	A		～		～	48		
292	G-6.b,c	[235]+[78]	[235]+[95]	～	C		G2		(VI～VII)	38-130		
293	G-6.c	156+141	210+176	75	C(2)		G1		(IV～V)	48-130		
294	G-6.d	40+35	36+36	24	A		～		～	47		小穴
295	G-6.c	50+45	23+18	96	A		～		～	49		小穴
296	G-6.c	37+35	26+26	20	A	SK-297	～		～	49		
297	G-6.c,d	255+200	270+250	45	B	SK-287・296・298	B3・F1・浅B3	磨石1	V	49-131	40・84・85	黒曜石剥片1
298	G-6.c,d	170+160	220+200	60	D	SK-297	E1・G5	石錐1, 打痕1, 磨石1	(IV～V)	49-132	40	
299	G-5.d	160×(120)	170×(130)	70	B	SK-256	B1		VII	45-132		
300	G-5.c	190+190	175+170	45	B(1)	SK-268・273・301	G1		(VII)	46-132		
301	G-5.c	240+192	230+182	32	A(2)	SK-300・302	B1	石錐1, 耳飾り1	V～VI	47-132	110	
302	G-5.c,6.d	(210)+195	205+185	28	A(1)	SK-272・301・303・304	G1		(VII)	47-132		
303	G-6.d	237×(220)	225×(205)	26	A	SK-302・304	F1・焼石C1	線刻石1	(VII)	47-133		
304	G-6.d	200+(115)	185+(100)	34	A(1)	SK-272・301・303・305	B1・F1		(VII)	47-133		黒曜石二次加工剥片1
305	G-6.d	(105)+(105)	225+225	48	B(2)	SK-304・306	C1・G1	石錐5, 磨製1, 磨石1	I～II	47-133	114	
306	G-6.d	170×(141)	130×(120)	50	A(1)	SK-305	～		～	47		
307	G-6.d	155+130	200+180	58	D(3)	SK-308	C1・G2	耳飾り1	(V)	48-133	111	チャート石核1
308	G-6.d	245+205	215+215	30	A(1)	SK-307・336	F1	土製円盤1	(I)	48-134		
309	G-5.c	180+150	173+153	55	B(2)	SK-273・333	G2	磨石1	(VII)	46-134		
310	G-6.d, H-6.a	(170)+115	(150)+105	～	A	SK-312	G1		(VI)	48-134		
311	G-6.d, H-6.a	(210)×(150)	(190)×(150)	25	A(1)	SK-408・423	G1	石錐1, 石匙1	(II)	48-134		
312	H-6.a	180+165	180+180	55	B	SK-277・310	E1・F1・G4	磨石敲1, 磨製1, 敲石2, 磨石3, 凹石5	I～II	48-134		黒曜石剥片1
313	H-4.d	185×160	173+144	26	A		G2		(IX)	50-134		
314	H-4.d	218+192	209+206	57	B		G3	磨石2, 磨石1, 土製円盤1	I～II	50-134	40・110	
315	H-4.d	(180)×152	(208)+149	61	B(2)	SK-316	G1		(VII～IX)	50-134	41	
316	H-4.d	226+184	200+180	56	B	SK-315・317	F1	打痕1, 磨石1	II	50-134	41	
317	H-4.c,d	(175)×153	(155)+155	42	A	SK-316	G1		(VII～IX)	50-134	41	
318	H-4.b,c	196+178	178+150	47	A	SK-319	G1		(VII)	50-134		
319	H-4.c	(170)×141	(160)×140	39	A	SK-318	～		～	50		
320	H-4.c	240+198	230+178	42	A		G2		(VII～IX)	50-134	41	
321	H-4.c	112+107	97×91	～	A(1)		～		～	51		
322	H-4.c,d	130+120	200+195	104	D	SK-349・350	G3		(I)	51-135		
323	H-4.c	190+(150)	170+(130)	56	A	SK-348	G1		(V)	51-135		
324	H-4.c	240+185	266+220	95	E(2)	SK-352	F2	打痕1	(V～VI)	51-135		
325	H-4.b,c	252+220	273+246	65	C(2)		G1	磨石1	(VI～VII)	52-135		
326	H-5.a	(190)+185	(205)+196	46	B	SK-329	G5		II	52-135		
327	H-5.a,d	205+200	205+205	50	C		G3・浅G1	石錐1	I～II	52-135	115	
328	H-5.a	200+164	225+217	70	C		B1・G1		II～III	51-135	41・85	
329	H-5.a	(250)+210	(240)+237	59	B	SK-326・355	C2・G2	磨石2, 石錐1	I～II・V	52-136	42	4は SK-355か
330	H-5.a	205+203	190+190	39	A(1)	SK-355	G1		(VI～VII)	52-136	42	
331	H-5.a,d	245+204	230+190	42	A(1)	SK-371	D1・G1	磨石1, 石錐1	(VI)	52-136	42	
332	H-5.a,d	(165)+165	200+190	61	B	SK-339・355	G2		(IV～V)	52-136		
333	G-5.c	175+(170)	178+(170)	47	C(1)	SK-273・309	G2		(VII)	46-136		
334	G-5.a	200+190	235+205	122	C(3)	SI-17	F1		(VI～VII)	53-136		
335	G-6.d, H-6.a	180+158	185+165	66	B		G1		(VI)	46-136		
336	G-6.d	210+175	190+165	27	A(1)	SK-277・308	G1		(VII～IX)	48-136	39	
337	G-5.c	120+110	110+93	49	A	SK-268	G1		(VII)	46-136		
338	欠番											
339	H-5.a,b	205+190	200+200	60	B(4)	SK-322・355	F1		(VI)	52-137		
340	H-5.b,c	185+170	185+170	40	B(2)	SK-341・342	G1		(II)	53-137	42	
341	H-5.c,d	(200)×150	(130)+145	39	A(1)	SK-340・342	G2	磨石1	(II)	53-137	42	チャート剥片8
342	H-5.c	130+120	242+226	114	D	SK-340・341・357	C1・浅B2	磨石1	V	53-137	42・43	

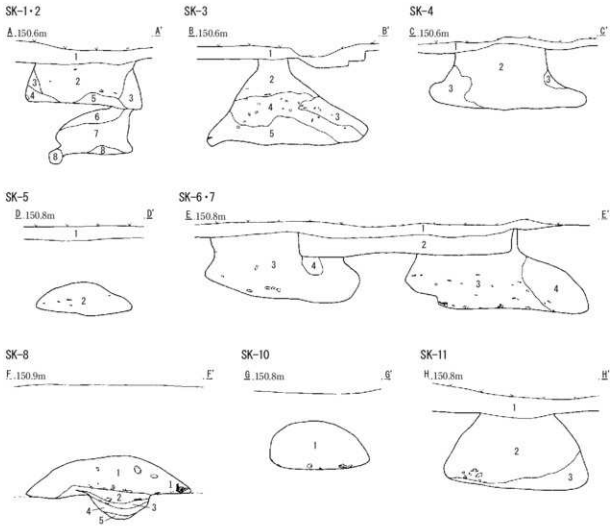
No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	整理遺構	土器	石器	時期	伸図図版	写真図版	備考
343	H-5c	193+174	195+174	84	B(B)	SK-354	C1	横刃石1	VI	53-137		
344	H-5d	(210)×190	(220)× 200	—	B	SK-345・347・364	F2		VI～VII	54-137		
345	H-5d	165+137	245+240	94	E(1)	SK-331・344・371	D1・E1	磨石2	III～IV	54-138		
346	H-5d	(160)×140	(140)×120	31	A	SK-347・356	G1		(III～IV)	54-138		
347	H-5d	240×230	250×233	69	B	SK-344・346・356	F1・砥石	磨米1	V	54-138	85	
348	H-4c	205×204	265×240	80	E	SK-323	G2	磨石1	(V)	51-138		
349	H-4c,d	(160)×115	(160)×145	50	B	SK-322	—		—	51		
350	H-4c,d	(200)×160	(215)×(220)	70	C	SK-322・496	G2		(VII)	51-138		
351	H-5d	[155]×[56]	[110]×[50]	—	A	SK-353・371	G1	磨石2, 石皿1	(VI～VII)	54-139		
352	H-4c	110×106	180×170	70	E	SK-324	E1		(III)	51-139		
353	H-5d	143+136	224+182	76	D	SK-351・371	B1・G1		IV	54-139		
354	H-5c	195+154	213+210	80	D	SK-343・357	C1・洗A1	石皿1	IV～V	53-139	85・105	
355	H-5a	(120)×(120)	200×(130)	57	A(1)	SK-329・330・332・339	—		—	52	42	SK-329・414本土比か
356	H-5d	205×185	195×178	—	B	SK-346・347	F1・洗B1		VI	54-140	85	
357	H-5c	(210)×175	(190)×165	45	A	SK-342・354	砥B1		VI～VII	53-139		
358	欠番											
359	H-5b,c	160+146	200+192	104	D	SK-360	G1	石皿1	(VI～VII)	54-139		
360	H-5b	275×(250)	271×(250)	74	B(3)	SK-359・361	G1		(V)	54-139		
361	H-5b	(190)×177	(201)×187	59	B	SK-360・362	G1		(VII～IX)	54-139		
362	H-5b	[140]×[35]	[135]×[24]	—	A	SK-361・363・368	G1		(VII)	55-139		
363	H-5b	[113]×[36]	[108]×[26]	—	A	SK-362・365・368	—		—	55		
364	H-5d	145×(140)	142×(140)	63	D	SK-344・364	G2	磨石1	(VI～VII)	62-139		
365	H-5b	110×110	155×145	61	B(1)	SK-363・368	F1		(VII)	55-140		
366	H-5b	208×180	183×170	32	A(1)	SK-367	G1		(III)	55-140		
367	H-5b	180×150	197×170	80	C	SK-366	G1		(VI)	55-140		
368	H-5b	273×260	275×268	55	B(2)	SK-362・363・365	G1		(VI～VII)	55-140		
369	H-5b	190×180	235×232	88	D		G1		(VII)	55-140		
370	H-5b	152×133	152×138	30	B		G1		(VII)	55-140		
371	H-5d	185×120	150×118	67	A(1)	SK-331・345・351・353	—		—	54		
372	H-5b	195×(130)	250×200	87	D	SI-24	F1・G1		(VII)	55-140		
373	H-6a	(210)×135	(190)×180	54	B(1)	SK-312	G1		(VI～VII)	48-140		
374	H-6a	250×235	250×214	72	D(2)	SK-373・375・377	C1・洗A1	石錘1	(VII)	55-141	114	
375	H-6a	(230)×205	(204)×200	42	B	SK-374・376	B1・F1・G3		III	56-141	43・86・106	
376	H-6a	(235)× (160)	(235)× (155)	27	B	SK-375・378・401	G2		(III～IV)	56-141		
377	H-6a	(200)×175	(190)×180	48	B(1)	SK-374・388・389	F1		(VI～VII)	56-142		
378	H-6a	160×(140)	260×230	70	E(2)	SK-376	B2・C2・D1・G2	磨石3	III～IV	56-141	44・86	
379	H-5c	(230)×185	(180)×170	18	A	SK-380・387	—		—	57		
380	H-5c	224×(200)	243×(220)	53	B	SK-379・381・382・387	B2・C1・E1・G1・洗B1	石錘1, 磨米2, 磨石1, 多孔石1	IV	57-142	44・86・87・113	
381	H-5c	(190)×150	175×138	29	A(1)	SK-380・382	F1・G1・加D1		(V)	57-142		
382	H-5c	(220)×186	(200)×175	36	A	SK-380・381	D1・G1	横刃石1	(V)	57-141	45・110	ベンガラ入り土器
383	H-5c	115×90	155×155	66	D	SK-384・402	G1		(III)	58-143		
384	H-5c,6d	175+165	195×170	62	B	SK-383・385	E1・G3	土器錘製1	(II～III)	58-143	110	擦痕錘製
385	H-6d	90×85	217×200	115	D	SK-384・386・393	E1・F1・洗F1		(V～VI)	58-143		
386	H-6d	(130)×110	(125)×110	22	A	SK-385・421・422	G1		(V)	58-143		
387	H-5c	(140)×114	(130)×118	60	B	SK-379・380・382・399	—	石皿1	—	57		
388	H-6a	110×(130)	113×(113)	65	A	SK-377・389・406	C1		V～VI	56-143		
389	H-6a	218×185	255×225	105	D(4)	SK-377・388	B1・C1・洗B2	磨米1, ミニ	VI	56-144	110	
390	G-5a,b	210+185	223+200	78	C(6)		G2	打米1	(VI～VII)	58-143	45	安山岩断片 20, 安山岩打米1
391	G-5a	187+170	170+160	39	B(2)		F1・G1・有孔鉄片G1	尖頭器1, 打米1, 磨(横)米1, 凝灰1	(VII)	58-143	110	
392	H-6d	115×105	245×225	96	E	SK-421	B1・C1・G1	磨米1, 磨石2	V	58-144	87	
393	H-6d	203×175	195×175	99	B	SK-485・394・417・5	B1・C2・D1・E1・F1・G		VI	58-145・146	87	
394	H-6d	(170)×130	(150)×120	56	A(1)	SK-393	B1・G1		IV	58-146	88	
395	H-5c	225×150	309×289	175	E	SK-396・402・433	G2	石皿1, 砧土塊1	(V)	57-146	87・111	
396	H-5c,6d	(210)×183	(230)×225	160	D	SK-393・395・417・433	A1・B2・D1・G1・洗B1・有孔B1		IV～VI	57-147	88	
397	H-5c	177+143	247+234	106	E(1)	SK-472	D1・G1	打米1	(IV～V)	59-147		
398	H-5c	129+113	277+269	175	D(2)	SK-400	E1・G2		(V)	59-148		
399	H-5c,6d	188+173	220+187	68	B(1)	SK-387・430・431	B1	ミニチュア土器1	III	57-148	44・88・110	
400	H-5c	230×185	195×180	55	A(2)	SK-398	C1・D1		VI	59-148		
401	H-6a	215×153	205×145	52	A		砥B1		VI～VII	56-148		
402	H-5c	(150)×120	(140)×115	—	A(3)	SK-383・395	G3		(III)	57-149		
403	H-6d	185×180	280×265	98	C	SI-25・SK-404	B2・C1	石錘1	V	60-149	88	
404	H-6a,b	(300)×[250]	(290)×[195]	78	D(1)	SK-403	G2	打米1	(V)	60-149		
405	H-6a	[140]×[80]	(130)×[80]	18	A	SK-388・407	G2		(III～IV)	60-149		
406	H-6a	(150)×[135]	150×(135)	65	B	SK-406・408	G1	石錘1	(VI)	59-149		
407	H-6a	220×200	215×200	80	B	SK-311・407	C1・E1・G2	土製円盤1	(I～II)	59-149		
408	H-6a	(220)×[180]	(220)×[180]	60	E		F1	磨米1	(V)	59-149		
409	欠番											
410	H-6d	165×153	146×140	18	A		G1		(VI)	60-150		
411	H-6d	130×121	120×113	24	A(2)	SK-414	G2		(II)	61-150	44	
412	H-6a	(300)×210	(290)×205	35	B	SI-25・SK-376・378・431	B1・C1・F2・G1	磨米1	III	61-150	89	
413	H-6d	180×170	180×180	45	C(1)	SK-414	G1		(III)	61-150	44	

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	整理遺構	土器	石器	時期	検出面位	写真図版	備考
414	H-6d	220×210	195×190	82	C	SI-30・SK-411・413・415	C1	磨石1	(V)	61-150	44	
415	H-6d	125×(120)	110×(10)	45	A	SI-30・SK-414	G1		(Ⅷ)	61-151		
416	欠番											
417	H-5c,6d	(200)×170	(155)×145	40	B(1)	SK-393・396・433	G1		(Ⅵ)	57-151		
418	H-6d	76×70	63×60	50	A	SK-419・420	G1		(Ⅵ)	60-151		小穴
419	H-6c,d	70×60	62×35	—	A	SK-418・419			—	60		小穴
420	H-6c,d	125×125	300×295	118	E(2)	SK-386・422	F1	磨岩1, 磨石2	—	60-151		
421	H-6d	100×100	260×230	118	D	SK-386・422	B1・C2・F1・台A1・B1D1	磨岩1, 磨石2	Ⅵ	58-151	89	
422	H-6d	130×115	143×132	54	C	SK-386・421	G1		(Ⅵ)	58-151		
423	H-6a	135×(65)	135×(63)	—	A	SK-311・408	D1		(Ⅴ)	59-151		
424	H-6d	195×185	183×170	56	A(3)		F1		(Ⅵ～Ⅷ)	60-151		
425	H-6a,d	198×170	210×190	38	B(3)	SI-25	B1・C1・D11		Ⅵ	61-152	46・89	
426	H-6d	200×188	195×195	32	B(2)	SI-25	G1	砥土痕1	(Ⅸ)	61-151	111	
427	H-6a,d	259×234	260×239	53	B(3)	SI-25	G1	磨岩1, 磨石2	(Ⅸ～Ⅳ)	60-151		
428	H-6d	75×73	35×33	50	A		—		—	60		小穴
429	H-6d	170×163	154×145	25	A(1)	SI-25	B1		Ⅴ	60-152	89	
430	H-5b,6a	204×(170)	205×(155)	50	A(1)	SK-399・431	G1		(Ⅸ)	61-152		
431	H-6a,d	201×175	190×165	40	A	SK-399・412・430・432	G1		(Ⅵ～Ⅷ)	61-152		
432	H-6d	(260)×195	210×175	50	A(1)	SI-25・SK-431	—		—	61		
433	H-5c, Ⅰ-5b	260×(220)	235×(200)	—	A(4)	SK-395・396・417	G1		(Ⅵ)	57-153		
434	Ⅰ-6a	60×55	166×160	96	D		G1	磨石1	(Ⅸ～Ⅳ)	61-153		
435	H-5c	120×110	140×120	70	C		—		—	57		
436	H-5c,d	115×100	206×203	132	E		B1・C1・G2・浅A1・浅B1		Ⅴ～Ⅵ	59-152	46・85・90	
437	H-5d	175×135	160×150	50	B(2)		G1		(Ⅵ)	62-153	47	
438	H-5d	170×140	216×170	122	D	SK-437	A1・D2・G2		Ⅴ～Ⅵ	62-153	90	
439	H-5d	160×(130)	183×(170)	—	B(1)	SK-464・466	G1		(Ⅷ)	62-153		
440	H-5d	240×230	280×275	138	D(2)	SK-465	A1・B1・C1・D1・台B1・浅D1	磨岩1, 磨石2	Ⅵ	62-154	47・90・110	
441	H-4c,5d	200×180	256×240	109	E	SK-442・466	B6・C1・台B1	磨岩1, 磨石1	Ⅳ	62-155・156	49・50・91・92・106・107	
442	H-4c	300×(200)	285×(180)	102	A(1)	SI-28・SK-348・441・443	G1		(Ⅷ)	63-157		
443	H-4c	190×185	185×185	92	A	SI-28・SK-442・444～446	G1	磨岩1	(Ⅷ)	63-157		
444	H-4c	220×200	190×195	92	B(1)	SK-442・443	G2・有孔G1	打岩3, 磨岩1	(Ⅵ～Ⅷ)	63-157	50	
445	H-4c	175×165	160×150	44	A	SI-28, SK-443・446・471	G1	石錘1	(Ⅵ～Ⅷ)	63-157	115	
446	H-4c	180×(150)	160×(135)	36	A	SI-28・SK-443・445・471	G1	磨石1	—	63-157	50	
447	欠番								—			石錘2(113-114)
448	Ⅰ-4b,5a	165×142	140×128	57	A(1)	SI-28, SK-449	G2	石錘2	(Ⅵ～Ⅷ)	63-157		
449	Ⅰ-4b	(175)×137	(160)×125	37	A	SK-448・450	G1		(Ⅷ)	63-157		
450	Ⅰ-4b	220×195	240×230	80	C	SK-449・454	G2	磨石1	(Ⅴ～Ⅵ)	63-157		
451	Ⅰ-4b,5a	155×145	166×152	46	B(1)	SI-27, SK-453	F1	石錘1	Ⅵ～Ⅷ	63-157		黒曜石剥片1
452	Ⅰ-4b,5a	185×145	285×255	120	E	SI-27, SK-452・469	G1	磨岩1, 集第1	(Ⅲ)	64-157		
453	Ⅰ-4b	180×150	168×148	38	A(4)	SK-450	—		—	64		
454	Ⅰ-4b	152×130	240×210	117	D	SK-456	A1・D1・台A2	磨岩2	Ⅴ～Ⅵ	63-157	92	
455	H-4c, Ⅰ-4b	248×(200)	254×(200)	51	B(2)	SK-455・460	G2	打岩1	(Ⅱ～Ⅲ)	64-157		
456	H-4c, Ⅰ-4b	173×169	170×165	60	B		E1・G1・浅B1・台B1	打岩1, 磨岩1	Ⅵ～Ⅷ	64-158		
457	Ⅰ-4b	130×101	170×150	105	C		G1		(Ⅳ～Ⅴ)	64-158		
458	Ⅰ-4a,b	147×145	245×220	114	D(3)		G1		(Ⅴ)	65-158		
459	Ⅰ-4b	90×85	208×205	80	E		D1・G1	敲石1, 石棒1	(Ⅷ)	64-158		
460	H-4c, Ⅰ-4b	120×113	232×218	148	E	SK-456・494	F1・G1	石錘1, 磨岩2	(Ⅷ)	64-158	115	
461	H-4c	203×169	205×175	47	B(2)		D1		(Ⅷ～Ⅸ)	65-158		
462	Ⅰ-5a	200×185	260×230	25	C(1)	SI-26, SK-463	G1		(Ⅷ)	65-158	10・11	
463	H-5d, Ⅰ-5a	175×173	188×180	56	B(3)	SI-26, SK-452	B1		Ⅵ	65-158	10・11・92	
464	H-5d	210×175	240×230	107	E	SK-364・438・439	B1・G1	多孔石1	Ⅳ	62-153		
465	H-5d	(190)×177	(170)×160	55	A(4)	SK-440・446	G1		(Ⅴ)	62-158		
466	H-5d	250×225	245×225	90	E	SK-439・441・465・467・478	C1	磨石3	Ⅴ	62-158	50・93・111	
467	H-5d	170×145	210×195	115	D	SK-466・468・470	G2		(Ⅳ)	62-159		
468	H-5d	(180)×170	(190)×175	60	B(1)	sk-466・467・470	D1・F1		Ⅵ	62-159		
469	Ⅰ-4b	(140)×130	(150)×145	33	C	SK-453	C1・D1	磨岩1	Ⅵ	64-159		
470	H-5d	(240)×220	(220)×195	—	A	SK-467・468	G1	磨石1, 土製円盤1	(Ⅵ～Ⅷ)	62-160		黒曜石剥片1
471	H-4c, Ⅰ-4b	170×(130)	145×(120)	40	A	SK-445・446	—		—	63		
472	H-5c	175×(135)	163×(120)	—	A	SK-397	G1		(Ⅴ)	59-160		
473	H-5d	(140)×120	(140)×130	—	B	SK-438	F2		(Ⅵ～Ⅷ)	62-160		
474	Ⅰ-4b	(200)×184	(200)×194	60	B(1)	SK-475	G1		(Ⅵ～Ⅷ)	65-160		
475	Ⅰ-4b	164×144	168×160	120	C	SK-474	B1	土製円盤1	(Ⅴ)	65-160		
476	Ⅰ-4c	130×(80)	170×(110)	160	C	SI-29, 1号墳墓道	G1, ミニチュア土器B1	小磨岩1, 磨石4	(Ⅵ～Ⅷ)	66-160	110	
477	Ⅰ-4b	175×156	181×170	89	B(1)	SK-478, 1号墳石室	B1		Ⅳ	65-160	93	
478	Ⅰ-4b	175×171	262×230	95	D(2)	SK-477, 1号墳石室	G1・浅C1		(Ⅴ)	65-161		
479	Ⅰ-4a,d	220×215	205×205	34	A(8)		G1		(Ⅷ)	66-161		
480	Ⅰ-4a	170×132	(235)×225	90	D	SK-481・482	G1	磨石2	(Ⅵ～Ⅷ)	66-161		
481	Ⅰ-4a	143×143	205×195	104	D	SK-480	B1・D1・F1・G2	石錘1, 磨岩2, 磨石2, 土製円盤1	Ⅳ	66-161	93・107・114・115	
482	Ⅰ-4a	198×190	188×178	28	A	SK-480・484	G1	磨石1	(Ⅷ)	66-161		

転	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	整理遺構	土器	石器	時期	掲図図版	写真図版	備考
483	I-4a	85+85	250×247	102	D	SK-643·668	B2		Ⅲ	67·162	93	
484	I-4a	157×124	165×136	39	C(1)	SK-482	E1		(Ⅴ)	66·162		
485	I-6a	185+155	165×145	92	B	SI-30, SK-486	A1·B2·F1		(Ⅴ~Ⅵ)	61·162	93·94	
486	I-6a	(180)+(80)	(175)+(80)	75	B	SI-30, SK-485	—		—	61		
487	I-4a	215×205	223×205	41	B	SK-488·661·667	G1	磨石器1	(Ⅷ)	67·162		
488	I-4a	(115)×(115)	230×222	86	C(2)	SK-487	G1		(Ⅵ)	66·162		
489	I-4a	120×120		52	A	SK-490	G1		(Ⅵ~Ⅷ)	66·162		
490	I-4a	(150)×149		30	A	SK-489·491	F1	石錘1	(Ⅷ)	68·163	114	
491	I-4a	215×(200)		20	B(1)	SK-490·492·495	G1		(Ⅷ)	68·163		
492	I-4a	(170)×155	(180)×160	35	B(1)	SK-491·493	F1		(Ⅵ~Ⅷ)	68·163		
493	H-4d, I-4a	170×165	190×180	72	C	SK-492·494·495	G1	石錘1, 磨石1	(Ⅵ)	68·163		
494	H-4c, I-4b	140×135	—	55	A	SK-460·493	D1		—	68·163		
495	H-4d, I-4a	(210)×180		50	A	SK-491·493	G1		(Ⅲ)	68·163		
496	H-4d	177×155	210×195	—	C	SK-350	G1		(Ⅰ~Ⅲ)	68·163		
497	H-4d	235×220	232×221	35	B(1)		B1·G2	石錘1	Ⅰ~Ⅱ	68·163	51	黒曜石剥片1
498	I-4a	120×120	205×192	107	D		注G1		(Ⅴ)	67·163		
499	欠番						—					
500	I-4d	140×110	230×200	145	E		G1		(Ⅳ~Ⅴ)	66·163		
501	I-5b	200×200	215×200	90	C		A1·B3·D1		Ⅴ~Ⅵ	68·164	52·94·108	
502	F-3b,c	240×235	261×245	55	C		A1		Ⅳ	69·163	95	
503	F-3c	125×120	84+67	32	A	SK-506	G1		(Ⅷ)	69·165	95	
504	G-3b	250×240	238×229	26	A(1)	SK-505	B1		Ⅳ	69·165	95	
505	F-3c	212×(210)	205×(200)	32	A		B1		Ⅴ	70·165		
506	F-3c	250×215	240×236	60	B(2)	SK-511	G1		(Ⅳ)	69·163		チャート剥片14点~加出土
507	F-3c	115×105	92+90	57	A		—		—	68		
508	F-3d	140×105	109+75	199	A	SK-509	—		—	68		隅丸長方形
509	F-3d	95+95	95+90	40	B(1)		G1		(Ⅰ~Ⅱ)	70·164		
510	F-3d	230×165	210×150	32	A		G1		(Ⅷ~Ⅷ)	69·164		楕円形
511	F-3d	205×188	250×195	58	C(2)	SK-509	F1		(Ⅴ)	70·164		
512	F-3c,d	102×100	77+75	80	A		—		—	70		
513	F-3c, G-3b	206+185	185+170	14	A(2)		G1		(Ⅷ~Ⅷ)	70·165		
514	G-3b	242×234	256×245	17	C	SK-515	G1	磨Ⅱ	(Ⅳ~Ⅵ)	70·165		
515	G-3b	170+156	188+159	52	C(3)	SK-514·516	G2		(Ⅳ~Ⅵ)	70·165		
516	G-3b	(130)×120	(125)+110	15	A	SK-515	G2		(Ⅴ~Ⅵ)	70·165		
517	G-3b	174×150	180×160	23	B(1)		G1		(Ⅴ)	70·165		
518	G-3a	45+40	35×30	—	A	SI-32	G1		(Ⅷ)	165		
519	G-3a	200×156	218×190	52	C	SK-520	G1	石錘1, 石皿1	(Ⅴ)	70·165	114	
520	G-3a	170×150	170×147	42	B	SK-519	G2		(Ⅲ·Ⅴ)	69·165		
521	G-2b	175×164	165×156	34	A		G1	磨石1	(Ⅴ)	70·165		
522	G-2b	150×145	260×253	130	C		B4·C2·E1·F1		Ⅲ~Ⅳ	71·166~168	53·95·96	
523	G-2b	134×110	260×235	124	D(2)		A1·B1·E1·G1		Ⅴ	70·168	96·108	
524	G-2b	187×140	205×177	58	C		G1		(Ⅷ)	71·165		
525	G-3a	200×182	203×195	45	C(2)		G1	凹石1	(Ⅲ)	71·165	54·111	黒曜石二次加工剥片1
526	G-3a,b	170×165	156×156	32	A		A1·C3·D3·F2·鉢A1		Ⅱ~Ⅲ	69·169·170	55·96·97	
527	G-3c,d	250×(240)	235×(215)	18	B	SK-522·571	G1		(Ⅷ)	73·165		
528	G-3b	170×150	158×138	15	A		G1		(Ⅴ)	71·165		
529	G-3b	142×138	114×105	—	A		—	打欠1	—	71		
530	G-3b	270×238	263×213	28	A(2)		D1·F1		(Ⅱ~Ⅲ)	71·170		
531	G-3b·c	171×163	165×150	20	A		—		—	71		
532	G-3b	155×135	209×160	78	C(5)		G1		(Ⅵ~Ⅷ)	71·165		
533	G-3c	275×255	275×250	38	B·(2)	SK-554	G1·鉢A1	打欠1	(Ⅴ)	72·170		
534	H-3b	198×195	202×197	71	C(2)	SK-559	B1		Ⅷ	72·171	97	
535	G-3c	195×165	215×175	42	B		G1		(Ⅵ)	73·171		
536	G-3c	115×100	87+87	80	A		G1	小磨石1	(Ⅴ)	73·171		黒曜石剥片1
537	G-3c	193×155	195×160	48	B(1)	SK-538	B1		(Ⅵ)	73·171		
538	G-3c	(150)×117	(160)×110	31	B(1)	SK-537	G1		(Ⅵ)	73·171		
539	G-3a,d	165×155	155×148	30	A		F1			74·171		
540	G-3d	170×165	165×163	34	B		G1	打欠1	(Ⅱ)	74·171	54	
541	G-3d	123×107	110×115	28	A(1)		G2	土製円盤1	(Ⅵ)	74·171		
542	G-3a,d	230×230	235×235	56	C		B2		Ⅲ	71·171	97	
543	G-2c	213×197	274×270	65	C(1)		F1·G1		(Ⅵ)	74·171		
544	G-2c	200×180	200×174	27	B		—		—	72		
545	G-3d	(190)×165	(185)×180	28	C	SK-556	G1		(Ⅷ)	72·171		
546	G-3d	208×190	231×206	40	C(1)	SK-547	F1·G1		(Ⅱ~Ⅲ)	74·171		
547	G-3d	242×220	290×260	87	E(7)	SK-546	B2·D2·E2		Ⅴ~Ⅵ	74·172		
548	G-3c,d	196×177	184×167	41	A(2)		B1·G2		Ⅳ	73·173	56·97	
549	G-3c	185×175	190×180	37	B		B1		Ⅲ	73·172		黒曜石剥片1
550	G-3c	310×280	310×280	36	B	SK-551·558	G3	土製円盤1	(Ⅰ~Ⅱ)	75·172		
551	G-3c	153×133	154×125	53	B(1)	SK-550·553·557	G1	磨石1	(Ⅵ)	75·173		
552	G-3c	220×190	207×170	35	A(1)	SK0527·553	G1		—	75·173		
553	G-3c	235×222	220×205	33	A(1)	SK-551·552·557	G1	磨石1	(Ⅰ)	75·173		
554	G-3c	(180)×150	(170)×138	17	A	SK-533	F1·G1		(Ⅰ~Ⅱ)	72·173		
555	G-3d	170×153	215×185	62	C	SK-556	B1·G2		(Ⅴ~Ⅵ)	72·173		
556	G-3d	198×180	193×170	20	A	SK-545·555	G1	敲石1	(Ⅵ)	72·173		
557	H-3b	240×(200)	228×(190)	43	A	SK-551·553·559·560	—		—	72		

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	重複遺構	土器	石器	時期	時期細分	写真図版	備考
558	G-3c	130×120	137×118	47	B	SK-550	—		—	75		
559	H-3b	330×280	317×225	44	A(1)	SK-534・557	G2	磨石1	(Ⅰ-Ⅵ)	72-174		
560	H-3b	308×245	286×269	63	B(1)	SK-557・561	F1		(Ⅴ)	72-174		
561	H-3b	160×(160)	150×(150)	38	A	SK-560	G1		(Ⅳ)	72-174		
562	H-3a	270×230	272×227	45	B(3)		F1・鉢B1	ミニ1	(Ⅳ)	73-174	110	
563	H-3b	200×190	250×240	65	C(6)		G2		(Ⅴ-Ⅵ)	74-174		
564	H-3a	192×170	225×180	44	C(2)		C1	打ポ3	(Ⅵ)	75-174		
565	H-3a	260×240	240×220	12	A(1)		G2		(Ⅴ-Ⅵ)	73-174		
566	H-2b	155×155	155×150	24	B(2)		G1		—	73-174		
567	H-3a	239×210	265×240	79	C(9)		G1	石皿1	(Ⅴ)	75-174		
568	H-3a	155×153	146×145	15	A		G1		—	75-174		
569	H-3a	130×130	120×120	13	A		—		—	75		
570	H-3a	200×200	235×210	54	C(1)		E1・G1	磨石2	(Ⅴ)	75-174		
571	G-3c	185×154	156×155	—	B	SK-527	—		—	73		
572	H-3a	215×208	220×210	42	B		—	土製品	—	76		黒曜石剥片3
573	H-2c	180×153	172×160	40	B	SK-574・586	G1	石錘1, 多孔石1	(Ⅳ-Ⅴ)	76-174	113	
574	H-3d	(120)×(95)	(120)×(100)	30	B	SK-573・586	D1・E1		(Ⅴ-Ⅵ)	76-174		
575	H-3a	186×142	162×155	31	B(2)		G1		(Ⅵ)	76-174		
576	H-3a	185×155	190×165	47	B(1)		G1	磨石1	(Ⅱ)	76-174		
577	H-3a	123×123	145×125	30	B		D1・G1		(Ⅵ)	76-174		
578	H-3b	131×115	148×115	28	C		G1	磨石1	(Ⅴ)	76-174		
579	H-3d	255×210	285×280	74	D(3)	SK-580・603	B1・C2・D1・凹A2	尖頭器1, 打ポ1, 小Ⅴ 磨ポ1,	(Ⅴ-Ⅵ)	76-175	57・98	
580	H-3a	(180)×150	(180)×145	64	B(1)	SK-579	B1		(Ⅵ-Ⅷ)	76-176	57・98	
581	H-3b	180×160	240×216	78	C(2)		G1	磨ポ1, 磨石2	(Ⅴ)	76-176		
582	H-3b	(180)×125	300×280	105	D	SK-583	B1・C1	打ポ1, 敲石1	(Ⅳ-Ⅴ)	77-176		
583	H-3b	(315)×270	(300)×275	45	B(2)	SK-582・599	G1		(Ⅷ)	77-176		
584	H-3b,c	145×[80]	133×[110]	70	B	SK-585・598・599	—		—	77		
585	H-3b,c	(120)×(110)	110×100	75	B	SK-584・598	G1		(Ⅷ)	76-176		
586	H-3a	(150)×140	(150)×150	29	B(1)	SK-573・574	G1		(Ⅲ-Ⅳ)	76-176		
587	H-2c	135×135	190×185	94	C		G1	尖頭器1	(Ⅲ-Ⅳ)	78-176		黒曜石剥片1
588	H-2c	210×205	225×220	53	C(1)	SK-589・615・648	D1・G1	石錘1	(Ⅵ)	78-176	61-114	
589	H-3d	165×120	170×150	59	B(1)	SK-588	G1		(Ⅵ)	78-176	61	チャート剥片4, 安山岩剥片1
590	H-3d	(167)×155	(165)×155	57	B	SK-591・595	G1		(Ⅵ)	77-176		
591	H-3d	195×180	250×205	80	D(1)	SK-590・614	B3	磨ポ3, 磨石1	Ⅴ-Ⅵ	77-177	58・98	
592	H-3d	162×130	152×130	26	B(1)	SK-593	G2		(Ⅵ)	79-176		
593	H-3d	(135)×116	230×200	111	E	SK-592・594	B1・F1・G2		Ⅳ	79-177	99	
594	H-3d	198×(180)	202×(170)	43	B	SK-593・631	C1		(Ⅳ)	79-176		
595	H-2c	155×145	208×192	103	D(2)	SK-590・614	A1・C1	小磨ポ1	Ⅵ	77-178	99	
596	H-3d	135×124	150×145	40	C		G1	磨石1	(Ⅷ)	78-177		整理底面直上チャート剥片30点集中出土
597	H-3c	410×385	85×58	78	A		G2		—	78-177		長機円形
598	H-3b	145×125	(170)×155	58	C(1)	SK-564・585・630	B1・G1		(Ⅲ)	77-177	58	小礫多数出土
599	H-3b	172×152	193×155	70	C	SK-583・584	G1		(Ⅵ)	77-177		
600	H-3c	180×(180)	170×(170)	61	B	SK-601	G1	敲打器1	(Ⅶ-Ⅷ)	79-177		
601	H-3c	215×190	240×216	60	C(2)	SK-600	—		—	79-80		
602	H-3c	150×135	160×145	70	B	SK-631	C1・F1	石錘1	(Ⅵ-Ⅷ)	79-178	114	
603	H-3a	100×[37]	98×[23]	34	A	SK-579	—		—	76	57	
604	H-3d	125×123	114×114	19	A	SK-606	—		—	79		
605	H-3c	210×175	210×190	63	B	SK-606・608・616	G2	石錘1, 磨石1	(Ⅴ)	79-178	113	
606	H-3d	(247)×203	(240)×206	43	B	SK-604・605・607・631	G1	磨ポ1	(Ⅱ-Ⅲ)	79-178		
607	H-3d	125×(110)	115×(100)	—	A	SK-606	G1		(Ⅴ)	79-178		
608	H-3c	195×(160)	175×[150]	46	A	SK-605・609・616	G1		(Ⅱ-Ⅲ)	79-178		
609	H-3c	135×120	210×215	110	D(1)	SK-608・610	B1・C1		Ⅵ	79-179	99	
610	H-3c	(200)×170	(190)×205	64	C	SK-610・628・637	B1・G1	石錘1, 打ポ1, 磨石1	(Ⅵ)	79-80・178	115	
611	H-3c	208×200	205×190	35	A	SK-634	G2		(Ⅰ-Ⅱ)	82-178		
612	H-3c	175×145	210×170	67	C(3)		A1		(Ⅷ)	82-179	59・99	
613	H-3d	203×170	225×210	100	D	2号堆周溝, SK-627・635	B1	石錘1, 両脚1	Ⅲ	81-179	99・110・114	
614	H-3d	160×145	180×155	40	C(1)	SK-591	—		—	77		
615	H-3d	(260)×225	(300)×260	86	C(1)	SK-588・646・648	A1・C1・E1・F1・浅B1・有孔D1	磨石2, 石錘1	Ⅴ	78-180	59・61・99・110	
616	H-3c	(170)×140	(155)×140	47	B	SK-605・608・617	G1		(Ⅱ-Ⅲ)	81-179		
617	H-3d	(180)×150	(170)×155	41	B	SK-616	G1		(Ⅴ)	81-179		
618	H-3c	137×125	150×124	43	B	SK-619	D1		(Ⅷ)	81-179		
619	I-3b	130×100	210×205	108	D(1)	SK-618	D1		(Ⅲ)	81-179		
620	I-3b	173×149	210×180	60	C	SK-625	B1・C1・F1	石錘1, 打ポ1	(Ⅳ-Ⅴ)	80-181	61・114	
621	H-3c	154×150	160×152	39	C	SK-622・686	G1	磨石3	(Ⅴ)	79・80・180		
622	H-3c	183×160	200×195	60	C(1)	SK-621・686	F1		(Ⅵ)	79・80・180		
623	欠番											
624	I-3b	170×155	153×148	58	A(1)		D1		(Ⅲ)	80-180		
625	I-3b	253×240	295×259	73	C	SK-620・636・670	B2・C3・D2・凹D1	石錘1, 磨石1, 石皿2, 土製円盤1	Ⅲ	80-181・182	60・100・115	
626	I-3b	166×160	180×175	70	C	SK-570	F1		(Ⅷ)	80-182		
627	H-3d	244×(220)	260×(220)	47	B	SK-613・635・672	F1		(Ⅵ)	81-182		
628	H-3c	165×150	185×185	111	E	SK-610・637	E1		(Ⅳ)	79・80・182		

No.	グリッド	口径	底径	深さ	形態(小穴)	整枝遺構	土器	石器	時期	掲図図版	写真図版	備考
629	H-3b	200×190	205×205	71	B(1)	SK-630	G1	玉1	(Ⅱ)	77-182		
630	H-3b	(240)×170	(230)×160	40	A	SK-598・629・633	G1		(Ⅱ～Ⅲ)	77-182		
631	H-3d	185×(160)	185×(130)	50	A(1)	SK-594・602・605・606	—		—	79		
632	H-3c	(200)×165	(220)×180	40	C(2)	SK-686	G1		(Ⅷ)	79-80・182		
633	H-3b,c	218×185	210×187	80	B	SI-33, SK-630・634	G1	磨石1	(Ⅵ)	82-182		
634	H-3c	210×180	198×174	58	A(1)	SK-611・633	G1		(Ⅷ)	82-182		
635	H-3d	198×(180)	220×(215)	85	C	SK-613・637	C1・D2	磨石2	(Ⅵ～Ⅷ)	81-182	100	
636	I-3b	170×160	215×195	84	C(2)	SK-625	G2		(Ⅷ)	80-182		
637	H-3c	160×[55]	145×[70]	55	B	SK-610・628	G1		(Ⅵ～Ⅷ)	79・80・182		
638	欠番											
639	I-3b	120×115	230×220	87	D	SK-640・673	C1・G3・埋F1		Ⅱ	82-183		
640	I-3b	207×200	240×240	56	C	SK-639・641	G1	小磨弁1, 磨弁1	(Ⅲ)	82-183		
641	I-3b	(190)×164	(180)×170	18	A	SK-640	G1		(Ⅱ～Ⅲ)	82-183		黒曜石石核1
642	I-3c	152×147	170×160	42	C	SK-652	G1		(Ⅳ～Ⅴ)	81-183		
643	I-4a	135×135	180×170	—	C	SK-483・668・675	G1	石錐1	(Ⅲ)	67-183	114	
644	欠番							石錐1, 打片1				
645	I-3b	[185]×[85]	[150]×[58]	—	A	1号竪周溝	—		—	83		
646	H-3d	200×163	275×235	93	D	SK-615・648	A1・B1・D1	土製円盤1	Ⅴ	78-184	61・100	
647	I-3b	210×210	245×245	67	B	1号竪周溝	D1		(Ⅴ)	83-183		
648	H-3d	[130]×[55]	[135]×[70]	52	C	SK-588・615・646	G1	石錐1	(Ⅵ～Ⅷ)	78・183	61・115	
649	H-4d	236×(210)	235×(210)	44	B	SK-650・660	G2		(Ⅱ)	67-183		
650	H-4d	200×183	185×166	74	B	SK-549・660	G1	石錐1	(Ⅰ～Ⅱ)	67-183	62	
651	H-3c,4d	220×205	205×205	40	A	SK-660・661	G2	磨石1	(Ⅰ～Ⅱ)	67-183		
652	I-3c	190×160	210×190	61	C	SK-642・653	B1		Ⅳ	81-184	101	
653	I-3c	133×125	117×113	17	A(1)	SK-652	G1		(Ⅵ)	81-184		
654	I-3c	140×130	127×118	21	A(1)	SK-662	G1		(Ⅷ)	84-184		
655	I-3c	170×165	165×153	35	A	SK-662・663・656・657	G2・浅G1	打片1	(Ⅵ～Ⅷ)	84-184		
656	I-3c	220×205	243×225	64	C	SK-655・657～659	C1・F1	磨弁1	Ⅵ～Ⅷ	84-185	63	
657	I-3c	(190)×190	(180)×170	18	A(1)	SK-655・656	G1		(Ⅵ)	84-185		
658	I-3c	240×240	255×250	41	C	SK-656・659	D1		(Ⅳ～Ⅴ)	84-185		
659	I-3c	145×123	250×230	108	E	SK-656・658	B1		(Ⅳ)	84-185	62・63・101	
660	H-3c,4d	185×(150)	190×(160)	30	B	SK-649・650・651	—		—	67		
661	I-4a	(190)×175	(190)×175	25	B	1号竪周溝, SK-661・667	G1		—	67-185		
662	I-3c	[110]×[25]	[110]×[20]		A	SK-654・655・663	—		—	84		
663	I-3c	150×140	235×235	90	E(1)	SK-655・662	B2・C1・D2	ミニ1	Ⅴ～Ⅵ	84-186	101	
664	I-3c	146×140	180×180	62	C		G1		(Ⅴ)	81-185		
665	I-3c	155×130	180×180	114	D	SI-35, SK-666	A1・B1・C1・D1		Ⅳ	85-187	64・101	
666	I-3c	[295]×(190)	[205]×(195)	58	B	SI-35, SK-665	F1	磨砥器1	(Ⅵ)	85-185		
667	I-3b,4a	232×220	215×215	45	A	1号竪周溝	F1・G1	磨弁2, 磨石1	(Ⅱ～Ⅲ)	67・83・187		
668	I-4a	185×180	244×220	71	D(3)	SK-483・643	C1	磨弁1	Ⅷ	67-185		
669	I-3b	138×118	203×193	117	D	1号竪周溝	C1・F1		Ⅲ	83-187		黒曜石剥片1
670	I-3b	155×135	160×137	—	B	SK-625・626	G1	磨石1	(Ⅸ)	80-188		
671	I-3d	190×160	250×240	112	D	SK-676・677	A1・C2		Ⅴ～Ⅵ	83・188	101	
672	I-3a	140×140	260×240	120	D(1)	2号竪周溝, SK-627	C1・E1	小磨弁1	(Ⅵ)	81-188	64	
673	I-3b	295×255	(285)×280	65	C	SI-34, SK-639	C1	敲打器1, 磨弁1, 磨石1, 台石1	(Ⅲ)	82-188		
674	I-3c	180×165	165×153	26	A(1)		G1		(Ⅵ)	84-188		
675	I-3b,4a	174×159	220×192	59	C	SK-643	C1		(Ⅳ)	67-188		
676	I-3d	155×125	220×210	94	D	SK-671・677	B1		Ⅳ	83-189		
677	I-3d	210×190	215×190	37	B(4)	SK-671・676	—		—	83		
678	I-3a,b	110×110	200×220	127	D	2号竪周溝, SK-700	C1・G1	磨石2	Ⅳ	84-189		
679	I-4d	[160]×[80]	[190]×[90]	90	C(1)	SI-35	G1・埋F1		(Ⅵ～Ⅷ)	85-189		
680	H-3c	(165)×(160)	(150)×(150)	39	A(1)	SK-621・622・632	—		—	79・80		
681	I-3a,d	185×170	176×160	33	A(1)	2号竪周溝	C1・F1		Ⅳ	83-189		
682	I-3a	110×105	103×96	14	A		G1		(Ⅷ)	83-189		
683	I-3a	150×145	130×127	35	A(3)		G1		(Ⅵ)	85-189		
684	I-2b,3a	(163)×140	(176)×162	66	C	SK-685	G1	磨石1	(Ⅲ)	85-189		
685	I-3a	185×180	183×164	75	B(2)	SK-684	G1		(Ⅷ)	85-189		
686	I-3a	175×155	175×156	47	B(2)		D2・F1	磨石1	Ⅷ	85-190		
687	I-3a	80×(80)	195×187	95	D	SK-688・690	C2・F1	尖頭器1	Ⅴ	85-190		
688	I-3a	[140]×[50]	[135]×[46]	67	A	SK-687・690	G1	磨石1	(Ⅵ～Ⅷ)	85-189		
689	I-3a	100×93	90×86	93	A		G1		(Ⅳ～Ⅴ)	85-189		
690	I-3a	185×165	190×189	82	C(1)	SK-687・688	C1・G2	三角錐形石器1	(Ⅴ)	85-189		
691	I-3d	192×175	191×185	71	B	SI-36	—		—	86		
692	I-3d	115×115	220×210	115	D		B1・C1・D2		Ⅵ	86-191		
693	I-3d	(170)×150	(155)×130	[13]	A(1)	2号竪周溝, SK-694	F1	土製品1	(Ⅵ)	86-191	111	
694	I-3d	95×[80]	185×[120]	[65]	D	2号竪周溝, SK-694	B1・F2	小磨弁1	Ⅳ	86-191	102	
695	H-2c, I-2b	230×215	217×205	—	A	2号竪周溝, SK-693	—		—	86		
696	I-2b	140×140	176×180	84	C	SK-697	G1		(Ⅵ)	86-190		
697	I-2b	(95)×82	215×(180)	112	D	SK-696	C1・F1		Ⅲ	86-190		
698	I-3c,4d	140×140	145×140	—	B(1)	SI-35, SK-699	—		—	85		
699	I-3c	130×120	138×132	—	B	SI-35, SK-698	—		—	85		
700	I-3a	205×190	230×210	53	C	2号竪周溝, SK-678	A1・D2・浅D1	石錐1	Ⅲ	84-192	102・109	



A—A' (SK-1・2)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒多量）
4 褐色土（ローム粒・ローム塊多量、IP粒少量）
5 黄褐色土（ローム塊多量）
6 暗褐色土（ローム粒・IP粒多量、炭化物少量）
7 黄褐色土（ローム塊・IP塊多量）
8 黒褐色土（IP粒多量、ローム粒・炭化物少量）

B—B' (SK-3)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 黄褐色土（ローム塊・IP塊多量）
4 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）
5 黄褐色土（ローム塊多量）

C—C' (SK-4)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）
3 黄褐色土（ローム塊・IP粒多量）

D—D' (SK-5)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）

E—E' (SK-6・7)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量、SI-1埋土）
3 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量、IP粒少量、人為堆積）
4 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）

F—F' (SK-8)
1 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒微量）
2 明黄褐色土（KP粒・KP塊）
3 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・KP粒少量）
4 明黄褐色土（KP粒・KP塊多量、ローム粒少量）
5 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・KP粒少量）

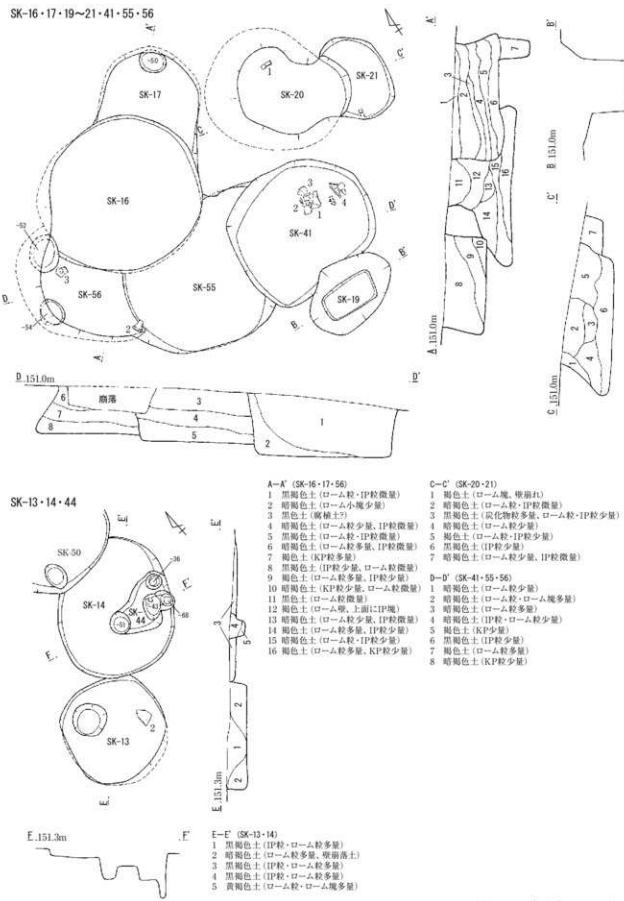
G—G' (SK-10)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）

H—H' (SK-11)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗黄褐色土（ローム粒・ローム小塊多量、IP粒少量）
3 黒褐色土（ローム粒多量、IP粒・炭化物少量）

I—I' (SK-12)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）
3 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量、壁崩落土）

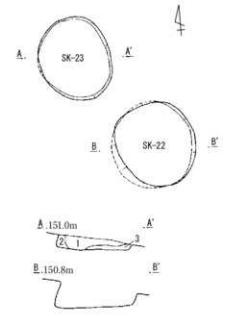
0 (1：60) 2m

第18図 SK-1～8・10～12 実測図



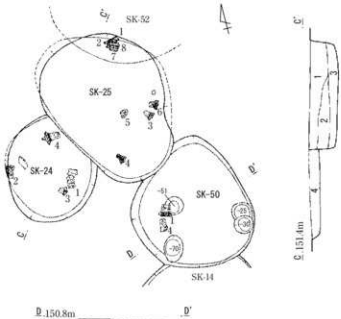
第19図 SK-13・14・16・17・19～21・41・44・55・56 実測図

SK-22・23



A–A' (SK-23)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・炭化物微量）
2 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
3 明褐色土（IP粒・ローム粒多量）

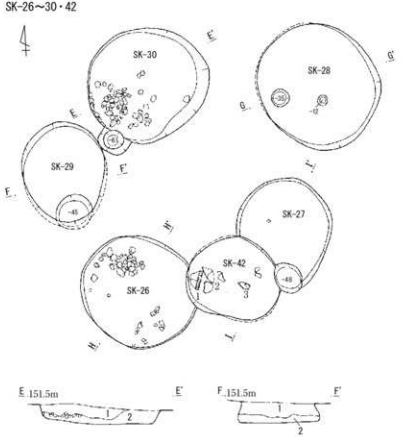
SK-24・25・50



C–C' (SK-24・25)
1 黒褐色土（IP粒・ローム粒多量、炭化物微量）
2 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
3 黒褐色土（ローム粒・ローム塊多量、IP粒少量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）

D–D' (SK-50)
1 黒褐色土（IP粒・ローム粒多量、炭化物微量）

SK-26～30・42





E–E' (SK-30)
1 褐色土（ローム粒・IP小塊少量）
2 黒褐色土（炭化粒・礫含む）

F–F' (SK-29)
1 黒褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
2 黒褐色土（IP塊・ローム塊少量）

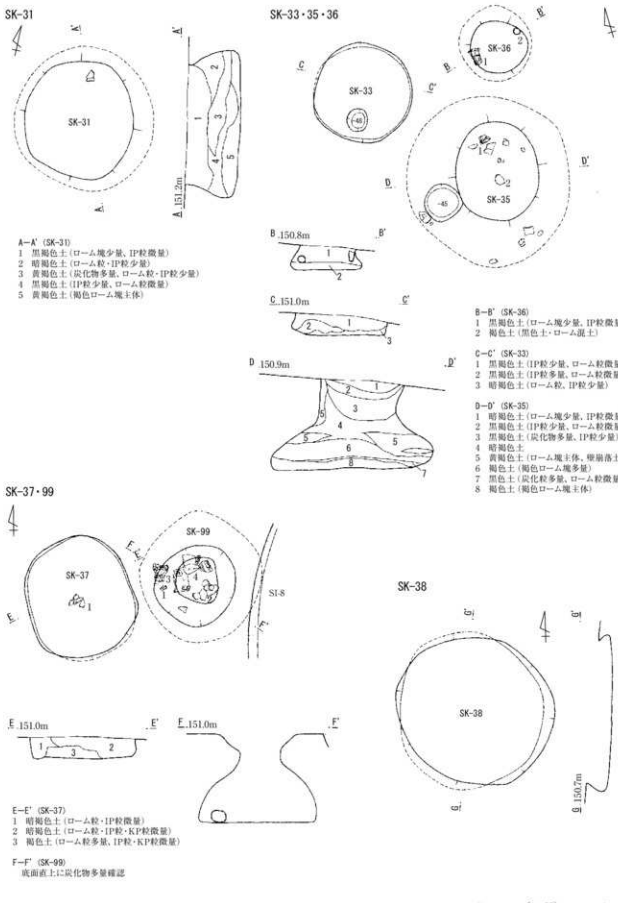
G–G' (SK-28)
1 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
2 黒褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒・ローム塊多量、IP粒少量）
4 暗褐色土（ローム粒・ローム塊少量）

H–H' (SK-26)
1 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
2 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）

I–I' (SK-27・42)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

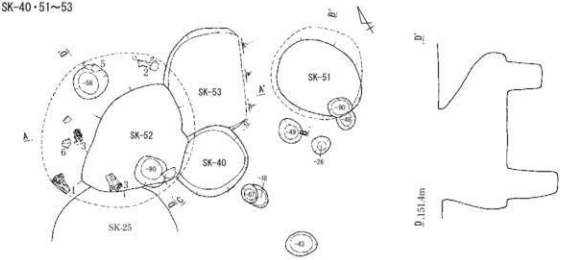
0 (1:60) 2m

第20図 SK-22～30・42・50 実測図



第21図 SK-31・33・35～38・99 実測図

SK-40・51~53

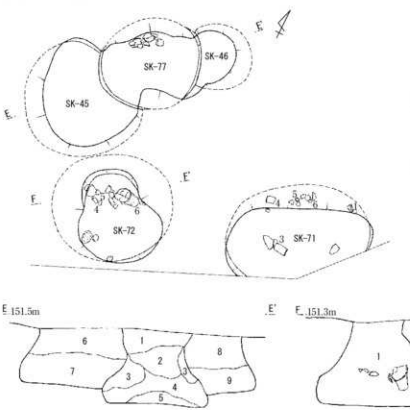


A–A'（SK-52・53）
1 黒褐色土（ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム塊多量）
3 褐色土（ローム地主体）
4 暗褐色土（IP粒・炭化物少量）
5 明褐色土（ローム粒少量、土器片）
6 黒褐色土（ローム少量）
7 暗褐色土（ローム粒多量）
8 褐色土（ローム主体）

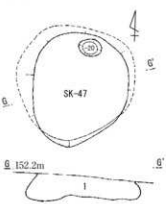
B–B'（SK-51）
1 暗褐色土（ローム塊・焼土多量）
2 暗褐色土（ローム塊多量）
3 黒褐色土（黒色土・ローム粒混土）
4 暗褐色土（ローム粒・KP粒少量）
5 黒褐色土（ローム粒少量）
6 褐色土（ローム粒多量、KP粒少量）

C–C'（SK-40）
1 黒褐色土（ローム粒・ローム塊多量、人為堆積）

SK-45・46・71・72・77



SK-47



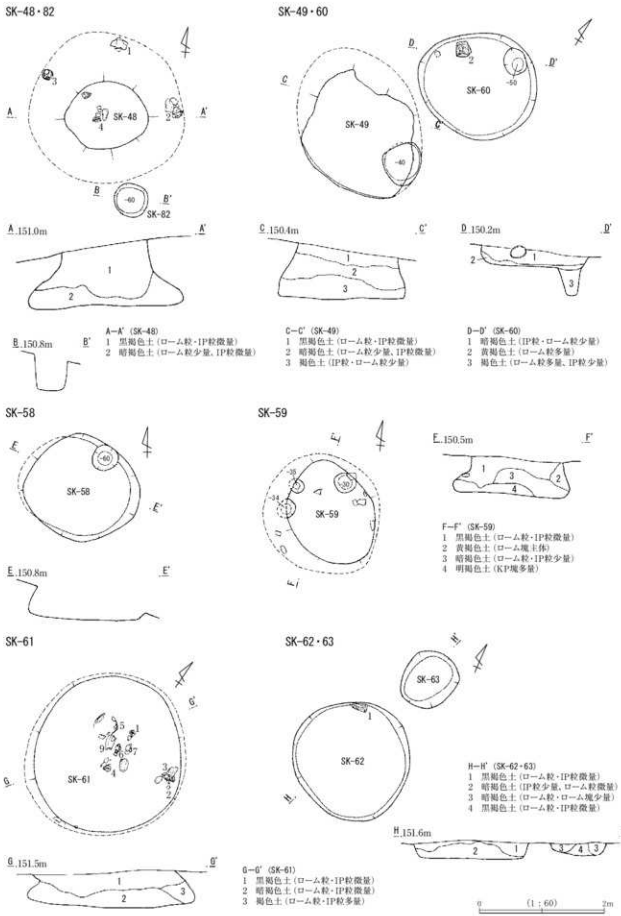
E–E'（SK-45・46・77）
1 暗褐色土（IP粒少量）
2 黒褐色土（IP粒少量、炭化粒微量）
3 暗褐色土（KP塊多量）
4 暗褐色土（ローム粒・KP粒少量）
5 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
6 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
7 褐色土（KP塊多量、ローム粒少量）
8 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
9 褐色土（KP小塊多量、ローム粒少量）

F–F'（SK-72）
1 暗褐色土（小ローム塊・IP粒微量）

G–G'（SK-47）
1 暗褐色土（IP粒少量）

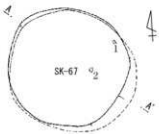
0 (1：60) 2m

第22図 SK-40・45~47・51~53・71・72・77 実測図



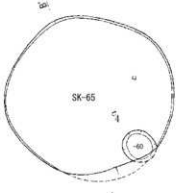
第23図 SK-48・49・58～63・82 実測図

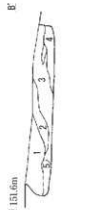
SK-64・65・67





A–A' (SK-67)
1 暗褐色土（IP粒・SP粒少量，炭化粒微量）
2 褐色土（ローム多量，IP粒微量）



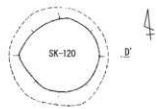


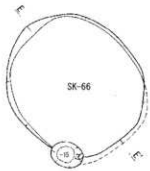
C 151.4m C'
1

C–C' (SK-64)
1 暗褐色土（IP粒・小ローム塊少量）

B–B' (SK-65)
1 黒褐色土（IP粒少量，ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
3 黒色土（IP粒・SP粒少量）
4 褐色土（IP粒多量，ローム塊少量）
5 黄褐色土（ローム塊・IP塊混土）

SK-66・120





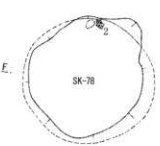


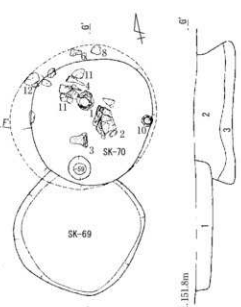


D–D' (SK-120)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）

E–E' (SK-66)
1 暗褐色土（ローム塊多量，壁崩れ）
2 暗褐色土（ローム粒多量）
3 黒褐色土（IP粒・SP粒少量，ローム粒微量）
4 褐色土（IP粒多量，ローム塊少量）

SK-69・70・78







F–F' (SK-78)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・KP粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量）

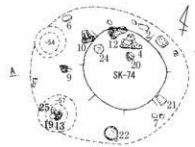
G 151.8m
G'
1
2
3

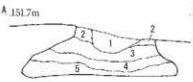
G–G' (SK-69・70)
1 暗褐色土（ローム塊少量，IP微量）
2 黒褐色土（IP粒少量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

0 (1：60) 2m

第24図 SK-64～67・69・70・78・120 実測図

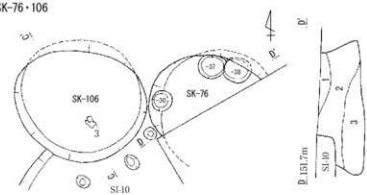
SK-74





A–A' (SK-74)
1 黒褐色土 (IP粒・KP粒微量)
2 暗褐色土 (ローム粒少量、KP粒微量)
3 暗褐色土 (IP粒・KP粒少量)
4 黒褐色土 (IP粒・炭化物・焼土粒微量)
5 黒褐色土 (炭化物・焼土多量)

SK-76・106

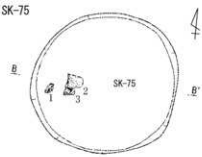


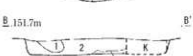


C–C' (SK-106)
1 黒褐色土 (ローム粒微量、土器を多く包含)
2 黒褐色土 (ローム粒・IP粒微量)
3 暗褐色土 (KP粒微量)

D–D' (SK-76)
1 暗褐色土 (ローム粒多量)
2 黒褐色土 (IP粒微量)
3 暗褐色土 (ローム粒塊・KP粒微量)

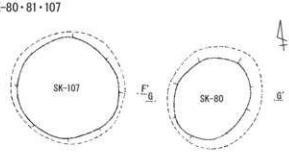
SK-75

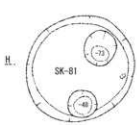




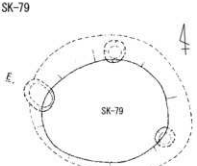
B–B' (SK-75)
1 赤褐色土 (ローム塊・IP塊混土)
2 黒褐色土 (IP粒微量)
3 褐色土 (ローム粒多量、IP粒微量)

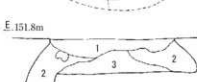
SK-80・81・107





SK-79











E–E' (SK-79)
1 暗褐色土 (IP粒多量、ローム粒微量)
2 黒褐色土 (ローム粒・IP粒微量)
3 暗褐色土 (ローム粒・IP粒少量)

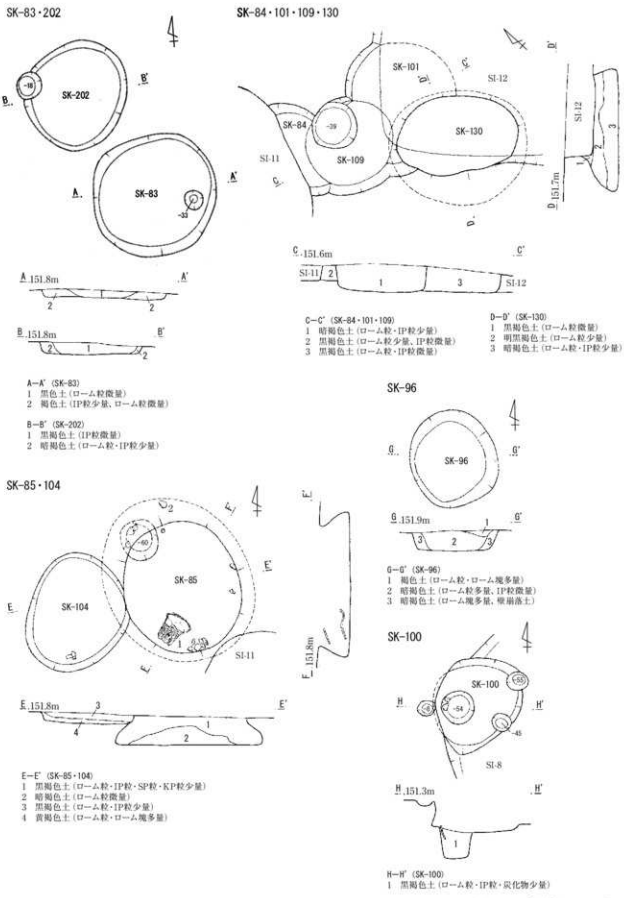
F–F' (SK-107)
1 暗褐色土 (ローム粒・IP粒少量)
2 黄褐色土 (ローム塊)
3 暗褐色土 (ローム粒・IP粒少量)

G–G' (SK-80)
1 黒褐色土 (ローム粒・IP粒微量)
2 暗褐色土 (ローム粒少量、IP粒微量)

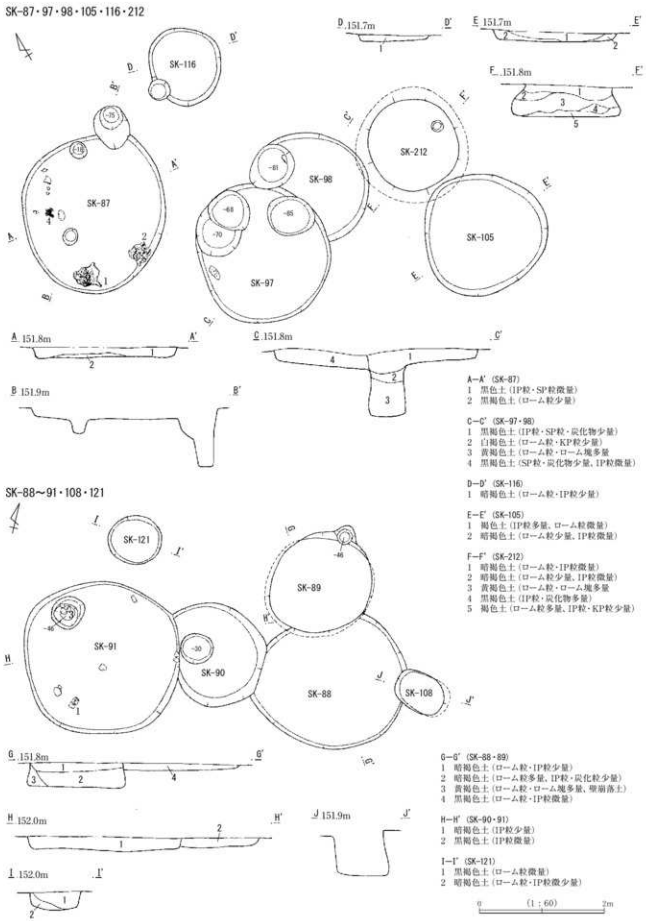
H–H' (SK-81)
1 黒褐色土 (ローム粒微量)
2 暗褐色土 (ローム粒少量、IP粒微量)



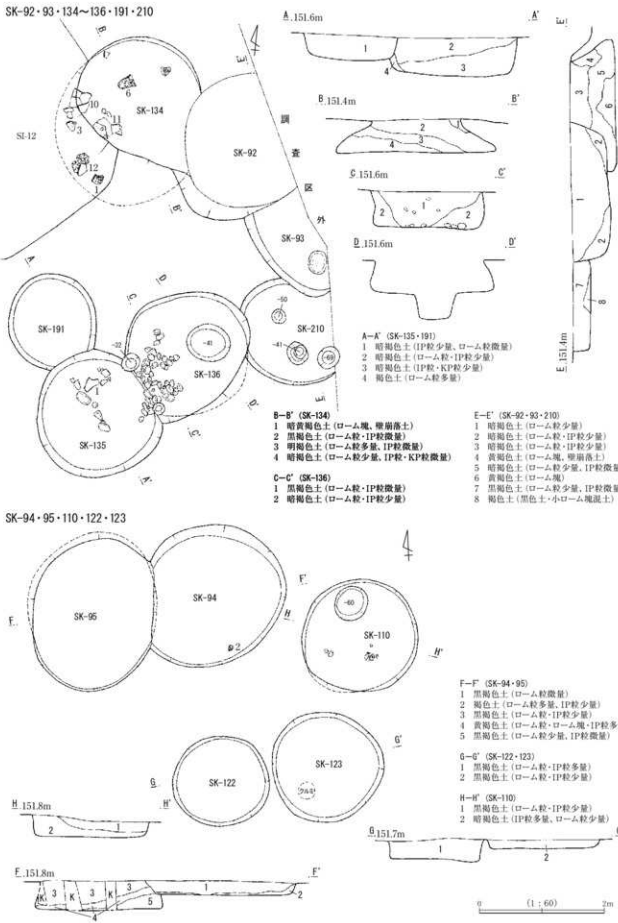
第25図 SK-74～76・79～81・106・107 実測図



第26図 SK-83~85・96・100・101・104・109・130・202 実測図

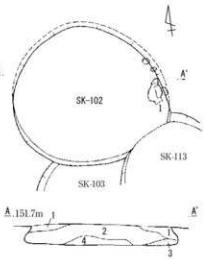


第27図 SK-87～91・97・98・105・108・116・121・212 実測図



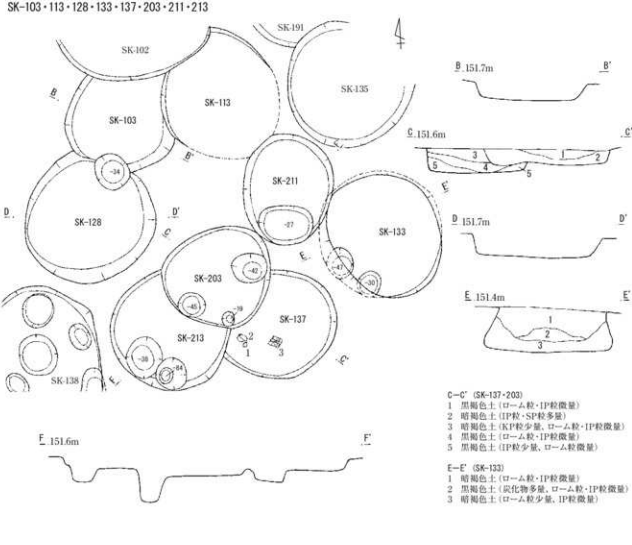
第28図 SK-92～95・110・122・123・134～136・191・210 実測図

SK-102



A-A' (SK-102)
1 暗褐色土(黒色土・褐色土混土)
2 黒色土(ローム粒多量、IP粒微量)
3 暗褐色土(ローム塊多量、壁崩落土)
4 褐色土(IP粒多量、ローム粒少量)

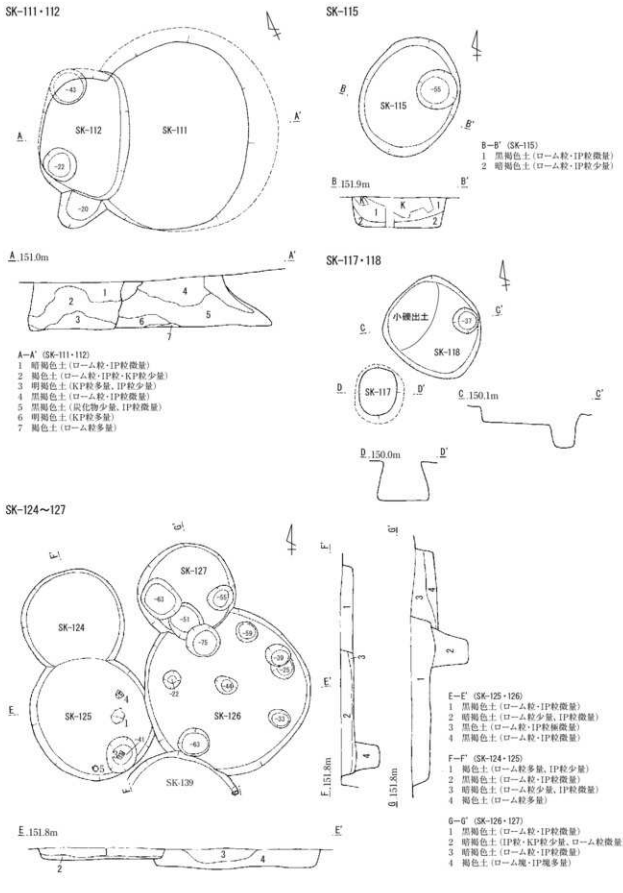
SK-103・113・128・133・137・203・211・213



C-C' (SK-137・203)
1 黒褐色土(ローム粒・IP粒微量)
2 暗褐色土(IP粒・SP粒多量)
3 暗褐色土(SP粒少量、ローム粒・IP粒微量)
4 黒褐色土(ローム粒・IP粒微量)
5 黒褐色土(IP粒少量、ローム粒微量)

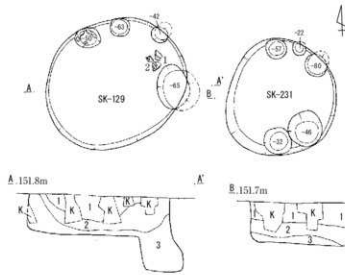
E-E' (SK-133)
1 暗褐色土(ローム粒・IP粒微量)
2 黒褐色土(炭化物多量、ローム粒・IP粒微量)
3 暗褐色土(ローム粒少量、IP粒微量)

第29図 SK-102・103・113・128・133・137・203・211・213 実測図



第30図 SK-111・112・115・117・118・124～127 実測図

SK-129・231

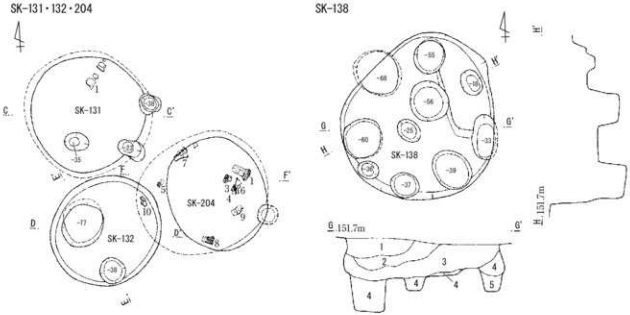


A-A' (SK-129)
1 黒褐色土(ローム粒・IP粒微量)
2 暗褐色土(ローム粒・IP粒・KP粒少量)
3 暗褐色土(ローム粒・IP粒少量)

B-B' (SK-231)
1 黒褐色土(ローム粒微量, IP粒微量)
2 暗褐色土(ローム粒少量, IP粒微量)
3 褐色土(ローム粒多量, IP粒微量)

SK-131・132・204

SK-138



C-C' (SK-131)
1 暗褐色土(IP粒少量, ローム粒微量)
2 褐色土(ローム塊多量, IP粒微量)
3 暗褐色土(ローム粒・IP粒少量)

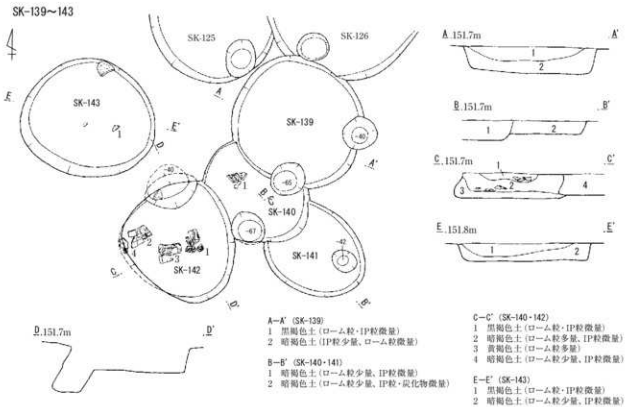
D-D' (SK-132)
1 暗褐色土(ローム粒・IP粒少量)
2 黄褐色土(ローム塊多量)
3 褐色土(ローム粒多量, KP粒少量)

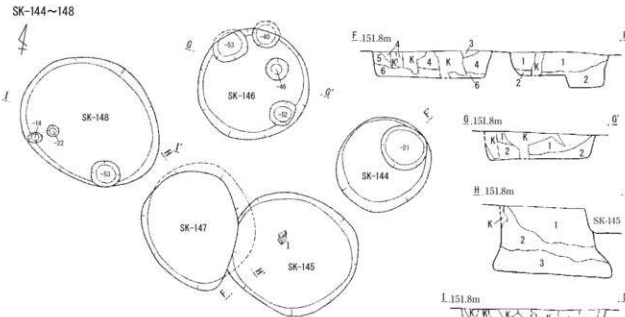
F-F' (SK-204)
1 黒褐色土(ローム粒・IP粒微量)
2 明黒褐色土(IP粒少量, ローム粒微量)
3 暗褐色土(小ローム塊少量)
4 褐色土(IP粒多量, IP粒少量)

G-G' (SK-138)
1 黒褐色土(ローム粒・IP粒微量)
2 明黒褐色土(IP粒少量, ローム粒微量)
3 暗褐色土(IP粒多量, ローム粒・KP粒微量)
4 褐色土(KP粒多量, ローム粒・IP粒微量)
5 暗褐色土(KP粒多量)

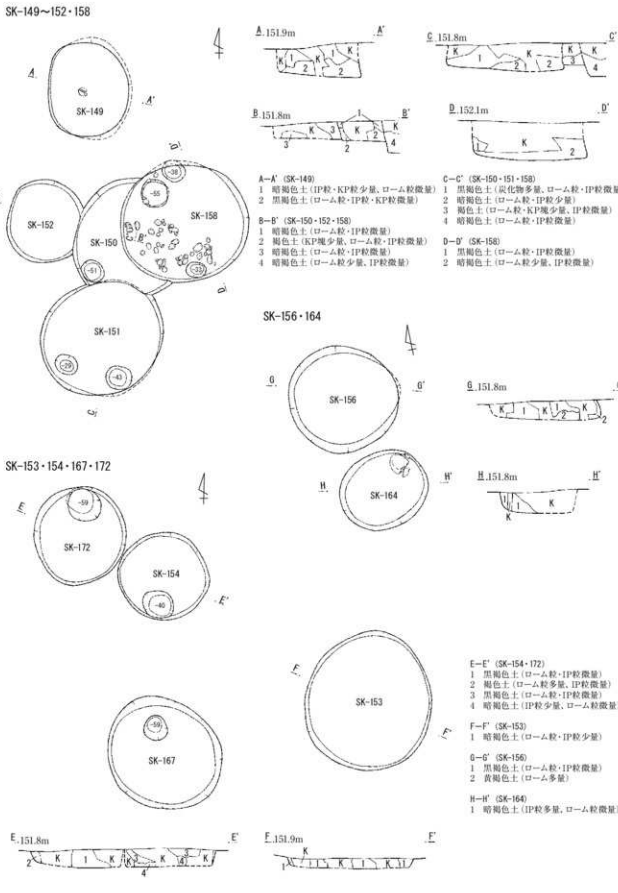
0 (1:60) 2m

第31図 SK-129・131・132・138・204・231 実測図

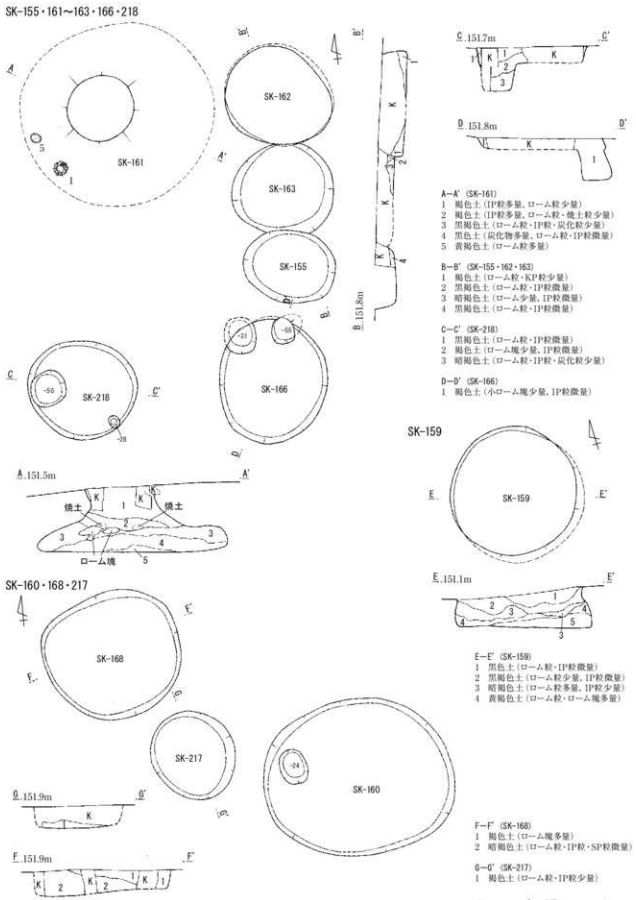




第32図 SK-139～148 実測図

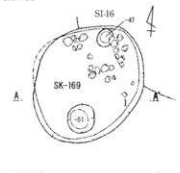


第33図 SK-149～154・156・158・164・167・172 実測図



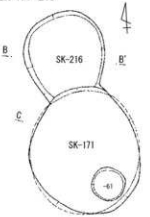
第34図 SK-155・159～163・166・168・217・218 実測図

SK-169



A–A' (SK-169)
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）

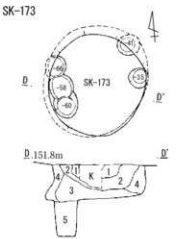
SK-171・216



B–B' (SK-216)
1 褐色土（ローム粒多量，IP粒少量）

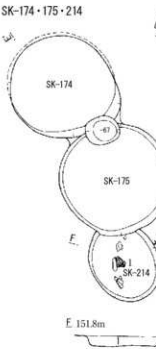
C–C' (SK-171)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 暗褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）

SK-173



D–D' (SK-173)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）
3 褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 黄褐色土（ローム粒多量）
5 暗褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）

SK-174・175・214

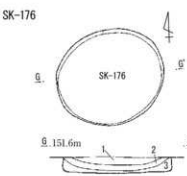




E–E' (SK-174・175)
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黒褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）
3 褐色土（ローム粒多量，IP粒微量）
4 暗褐色土（ローム粒少量，炭化粒微量）

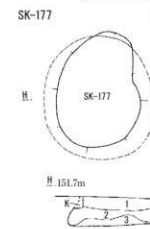
F–F' (SK-214)
1 黄褐色土（ローム粒多量）

SK-176



G–G' (SK-176)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）

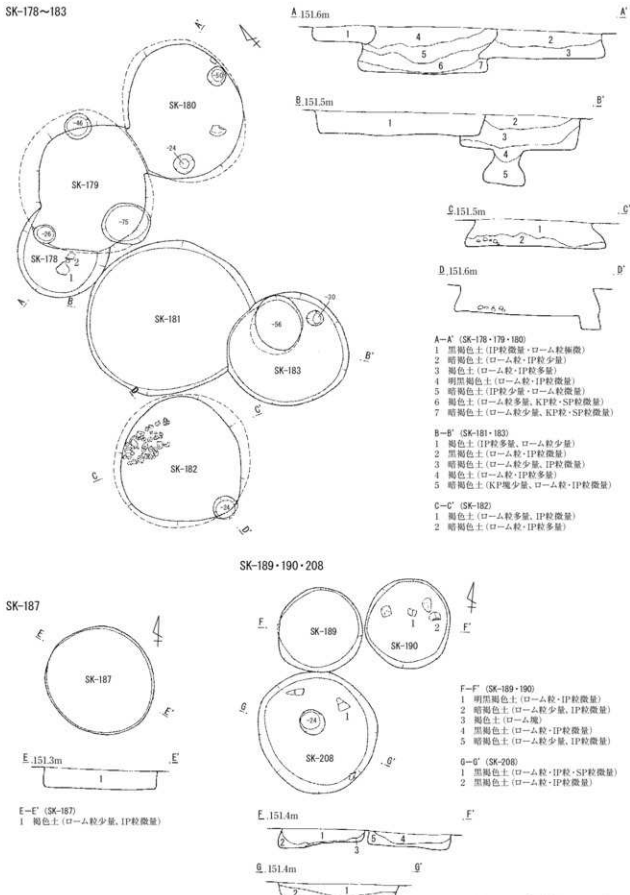
SK-177



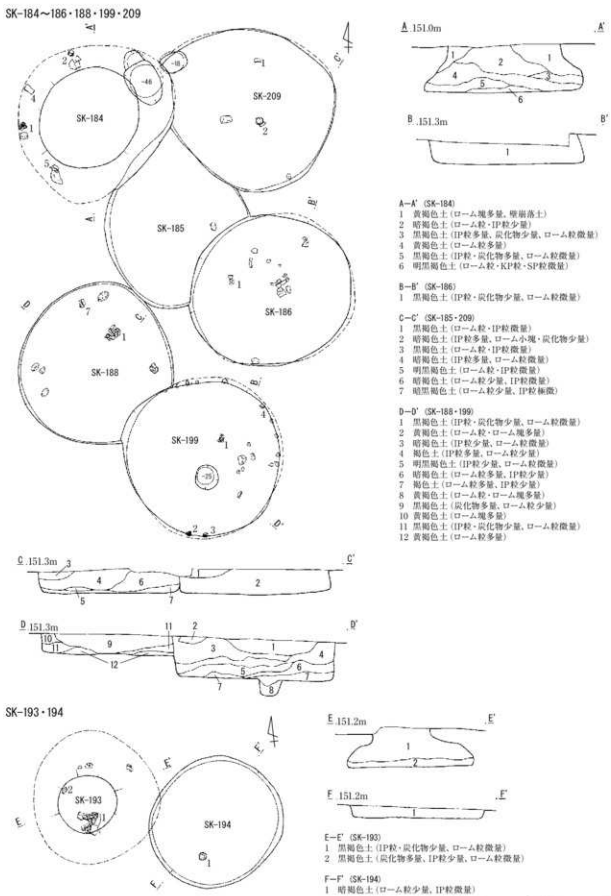
H–H' (SK-177)
1 黒褐色土（IP粒・SP粒少量，ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒少量，IP粒微量）
3 褐色土（ローム粒・IP粒少量，SP粒微量）

0 (1：60) 2m

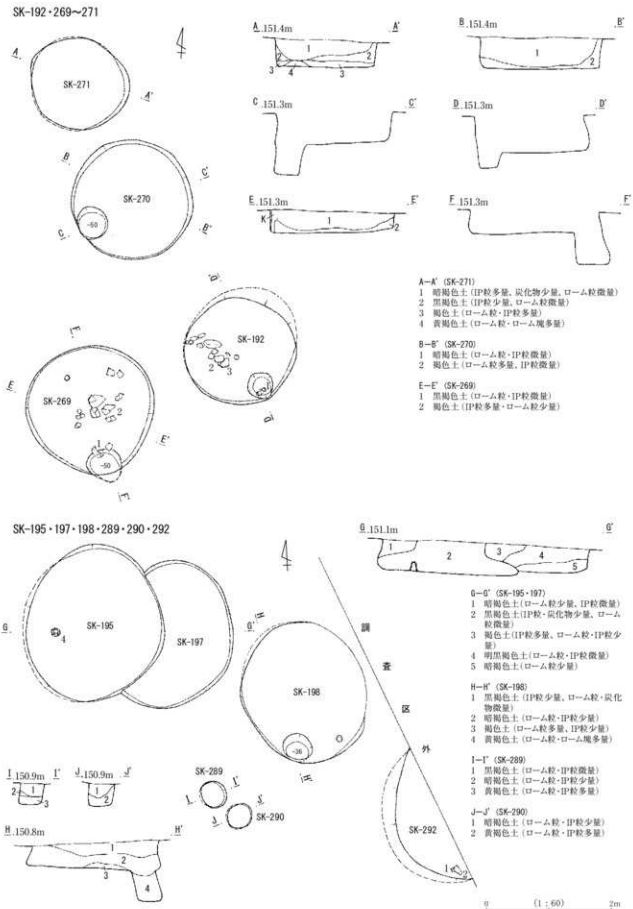
第35図 SK-169・171・173～177・214・216 実測図



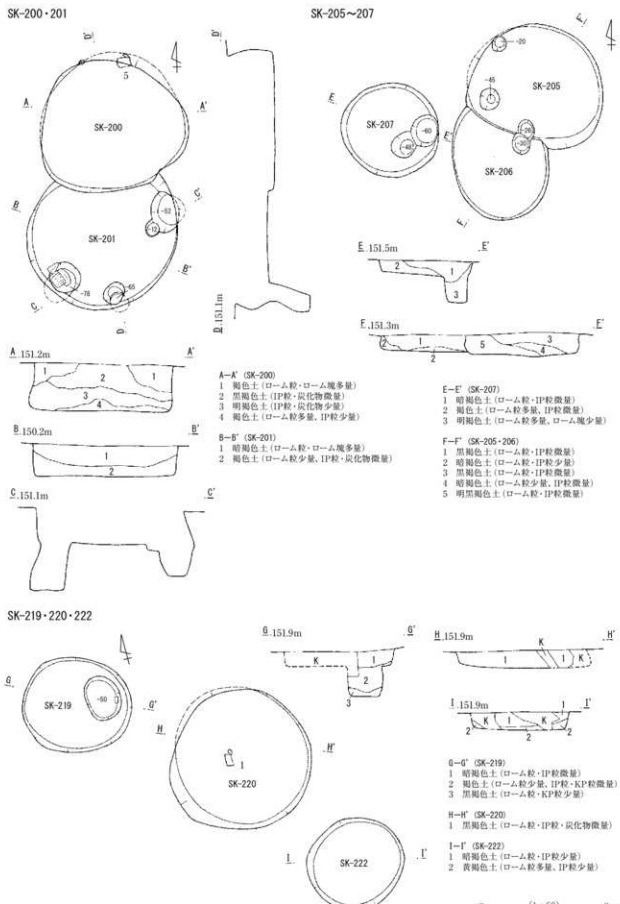
第36図 SK-178～183・187・189・190・208 実測図



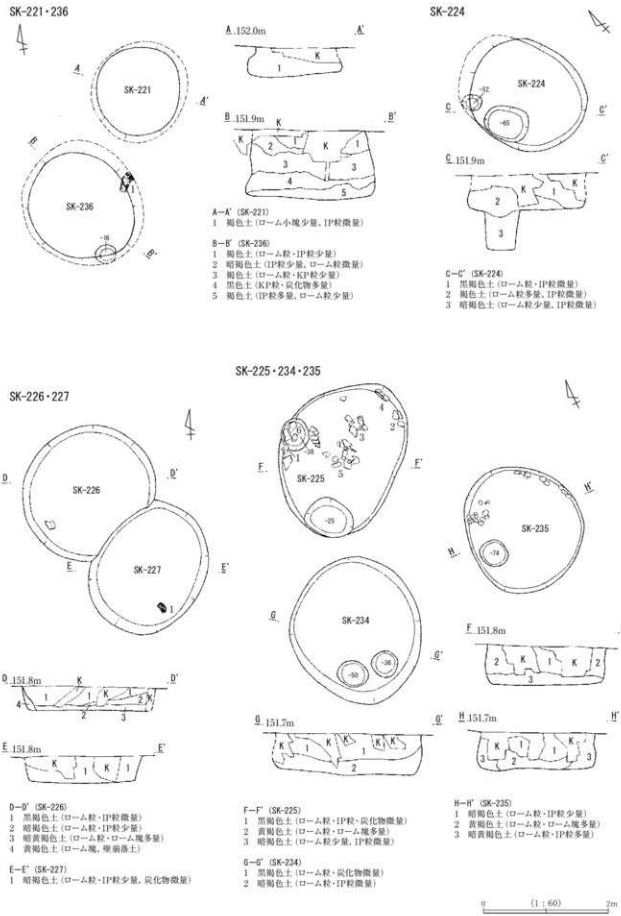
第37図 SK-184～186・188・193・194・199・209 実測図



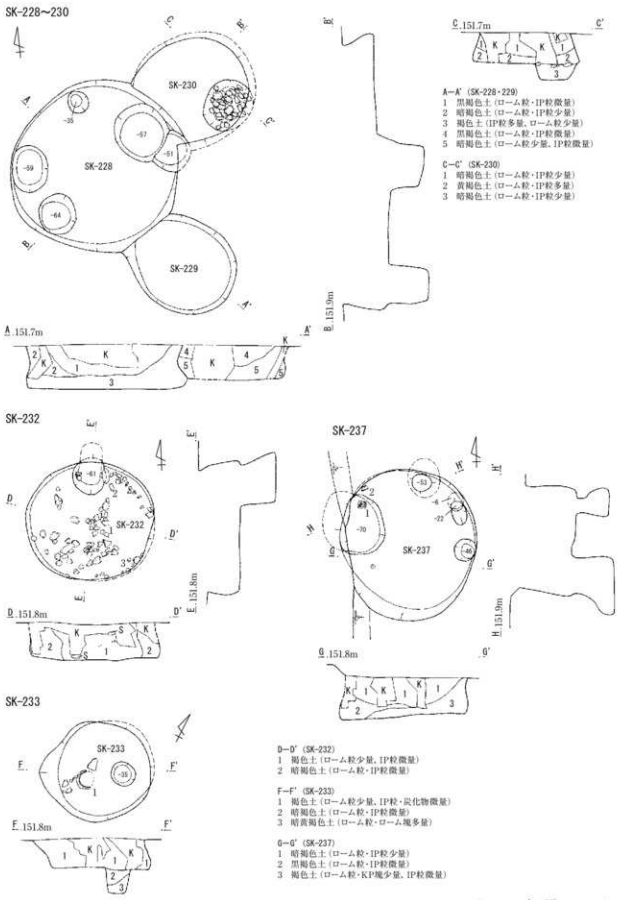
第38図 SK-192・195・197・198・269～271・289・290・292 実測図



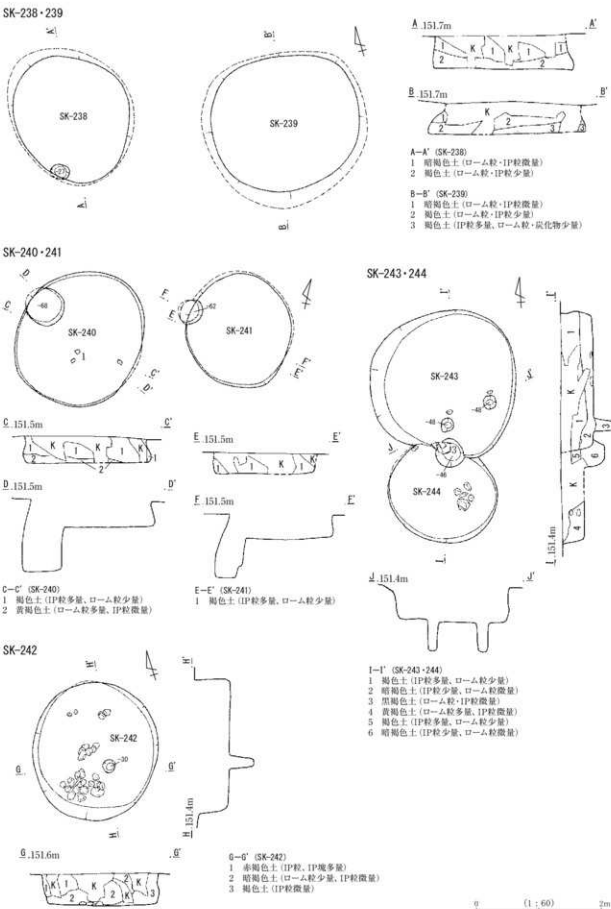
第39図 SK-200・201・205～207・219・220・222 実測図



第40図 SK-221・224～227・234～236 実測図

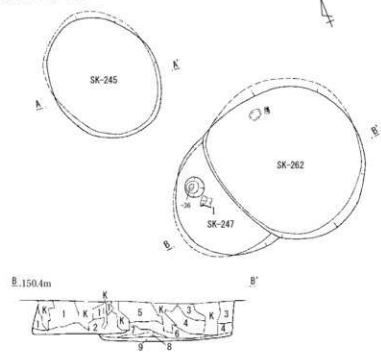


第41図 SK-228~230・232・233・237 実測図



第42図 SK-238～244 実測図

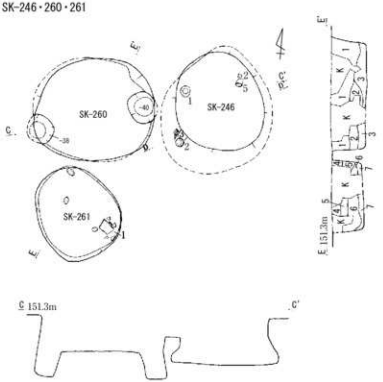
SK-245・247・262



A–A' (SK-245)
1 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
2 褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
3 黄褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）

B–B' (SK-247・262)
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
3 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
5 暗褐色土（IP粒・IP塊少量）
6 明黒褐色土（IP粒・炭化物少量）
7 黒褐色土（IP粒・炭化物微量）
8 黒色土（炭化物少量）
9 褐色土（ローム粒・IP粒少量）

SK-246・260・261

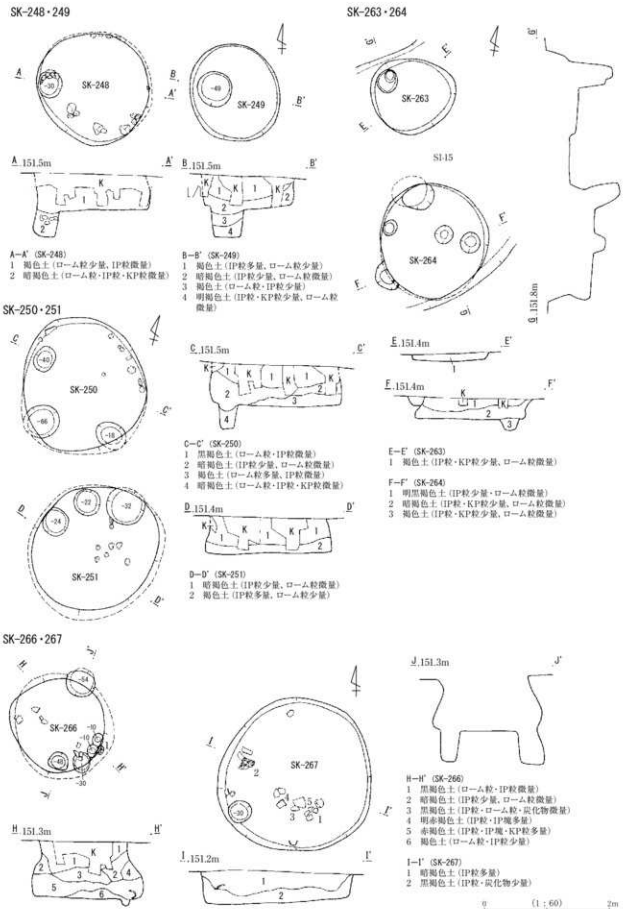


D–D' (SK-246)
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黒色土（ローム粒・IP粒・炭化物微量）
3 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
4 黒褐色土（IP粒・炭化物・砂粒少量、ローム粒微量）
5 黒色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒微量）

E–E' (SK-260・261)
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
3 明褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 黒色土（炭化物多量、IP粒少量）
5 黒褐色土（炭化物・IP粒多量、ローム粒微量）
6 暗褐色土（炭化物・IP粒少量、ローム粒微量）
7 褐色土（ローム粒・IP粒少量）

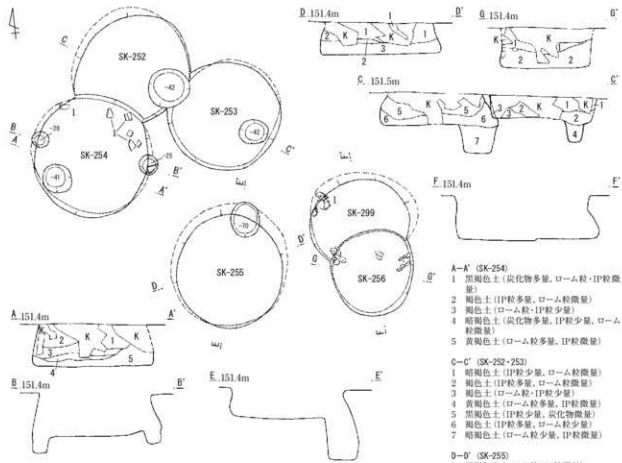
0 (1:60) 2m

第43図 SK-245~247・260~262 実測図



第44図 SK-248~251・263・264・266・267 実測図

SK-252～256・299



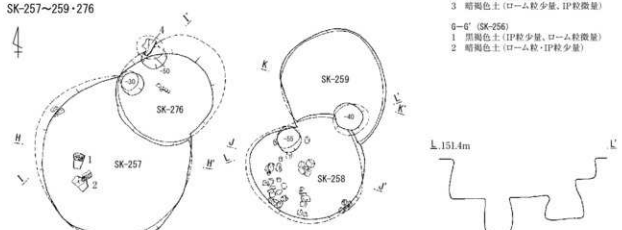
A–A′（SK-254）
1 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒微量）
2 褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
3 褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 暗褐色土（炭化物多量、IP粒少量、ローム粒微量）
5 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

C–C′（SK-252・253）
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
3 褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
5 黒褐色土（IP粒少量、炭化物微量）
6 褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
7 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）

D–D′（SK-255）
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
3 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）

G–G′（SK-256）
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

SK-257～259・276



H–H′（SK-257）
1 褐色土（IP粒多量・ローム粒微量）
2 暗黄褐色土（ローム粒・IP粒多量）

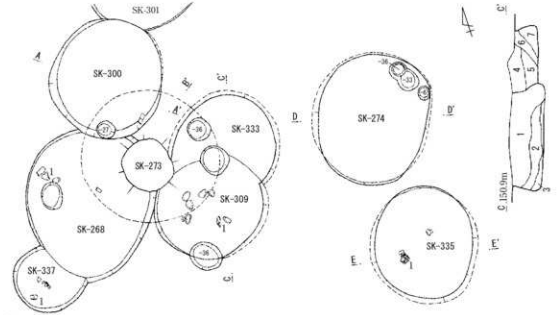
J–J′（SK-258）
1 黒褐色土（IP粒多量・炭化物少量）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

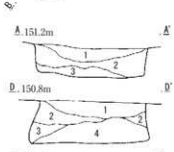
K–K′（SK-259）
1 暗褐色土（IP粒多量・ローム粒少量）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

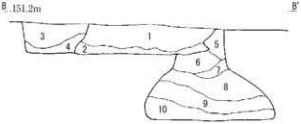
0 (1：60) 2m

第45図 SK-252～259・276・299 実測図

SK-268・273・274・300・309・333・335・337







A–A' (SK-300)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・炭化物微量）
2 暗褐色土（IP粒・ローム粒少量）
3 明赤褐色土（IP粒・IP塊多量）

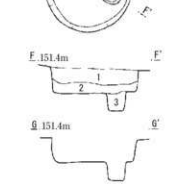
B–B' (SK-268・273・337)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
4 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
5 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
6 明黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
7 黒褐色土（ローム粒微量、IP粒極微）
8 暗褐色土（ローム粒・ローム塊少量、IP粒微量）
9 黒褐色土（KP粒・KP塊少量）
10 褐色土（KP粒・KP塊多量）

C–C' (SK-309・333)
1 黒褐色土（炭化物少量、IP粒微量）
2 暗褐色土（IP粒・ローム粒少量）
3 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
4 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
5 明黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
6 黒褐色土（ローム粒・IP粒多量）
7 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

D–D' (SK-274)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 明黒褐色土（IP粒・ローム粒少量）
3 黒褐色土（IP塊少量、ローム粒微量）
4 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

E–E' (SK-335)
1 黒褐色土（炭化物多量、IP粒少量、ローム粒微量）
2 褐色土（IP粒多量、炭化物少量、ローム粒微量）
3 明褐色土（IP粒・IP塊多量、ローム粒少量）
4 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
5 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）

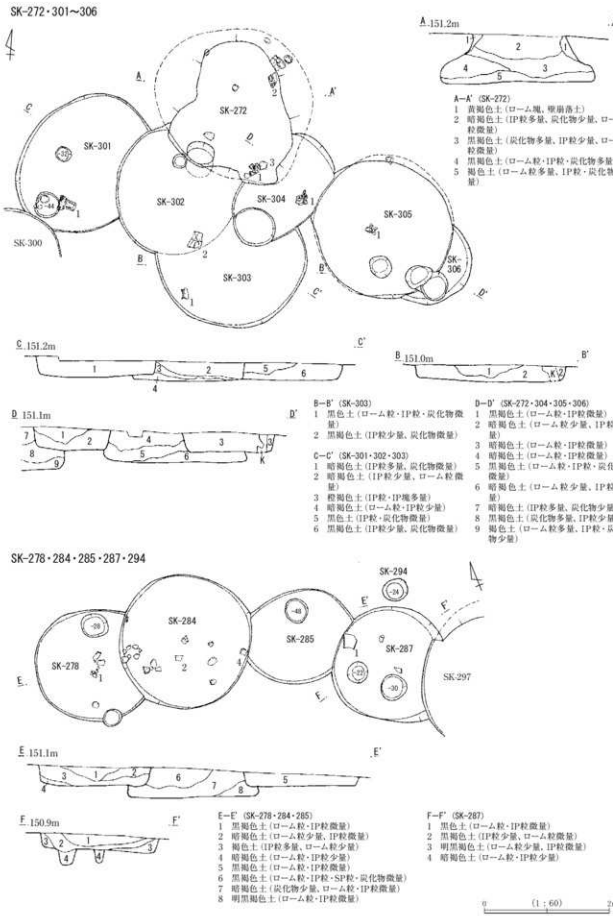
SK-275



F–F' (SK-275)
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒微量）

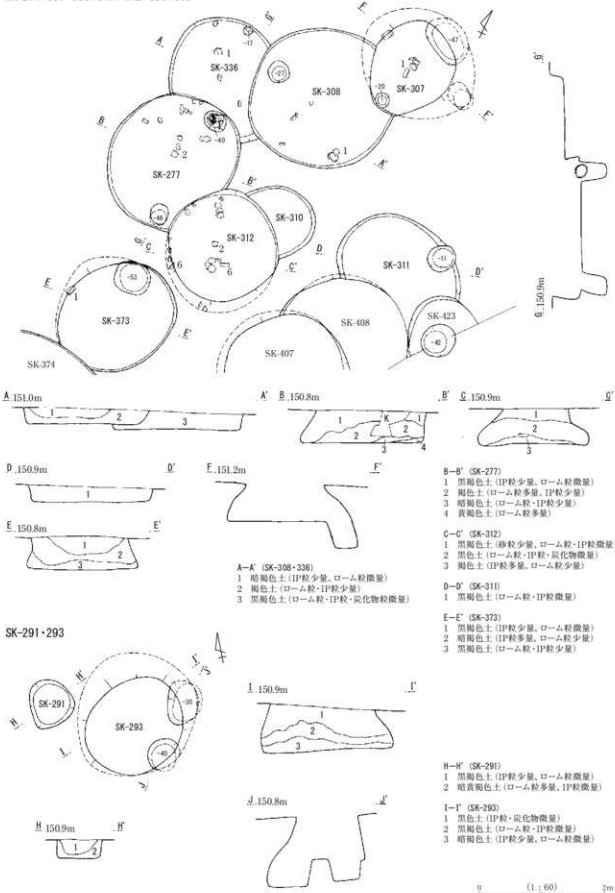
0 (1:60) 2m

第46図 SK-268・273~275・300・309・333・335・337 実測図



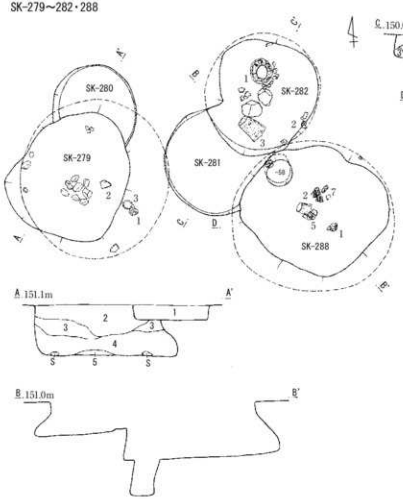
第47図 SK-272・278・284・285・287・294・301~306 実測図

SK-277・307・308・310～312・336・373



第48図 SK-277・291・293・307・308・310～312・336・373 実測図

SK-279～282・288

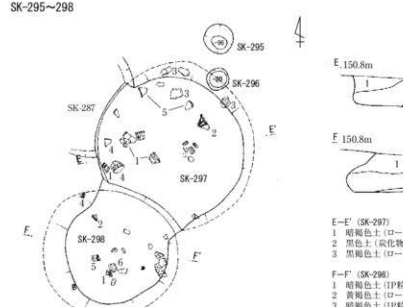


A–A'（SK-279・280）
1 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
2 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
3 暗褐色土（ローム塊少量、IP粒微量）
4 黒褐色土（砂粒多量、IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
5 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）

C–C'（SK-281・282）
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
3 褐色土（IP粒多量、ローム塊少量）
4 黄褐色土（ローム塊）
5 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
6 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
7 黒褐色土（IP粒・ローム粒極微）
8 黒色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒微量）

D–D'（SK-288）
1 黒褐色土（ローム塊少量、IP粒微量）
2 明黒褐色土（ローム粒多量、IP粒・炭化物少量）
3 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
4 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
5 黄褐色土（ローム塊・IP塊多量、壁崩落土）
6 黒褐色土（炭化物多量、IP粒少量）
7 褐色土（ローム粒・IP粒多量）
8 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
9 黄褐色土（ローム粒・IP粒多量）

SK-295～298

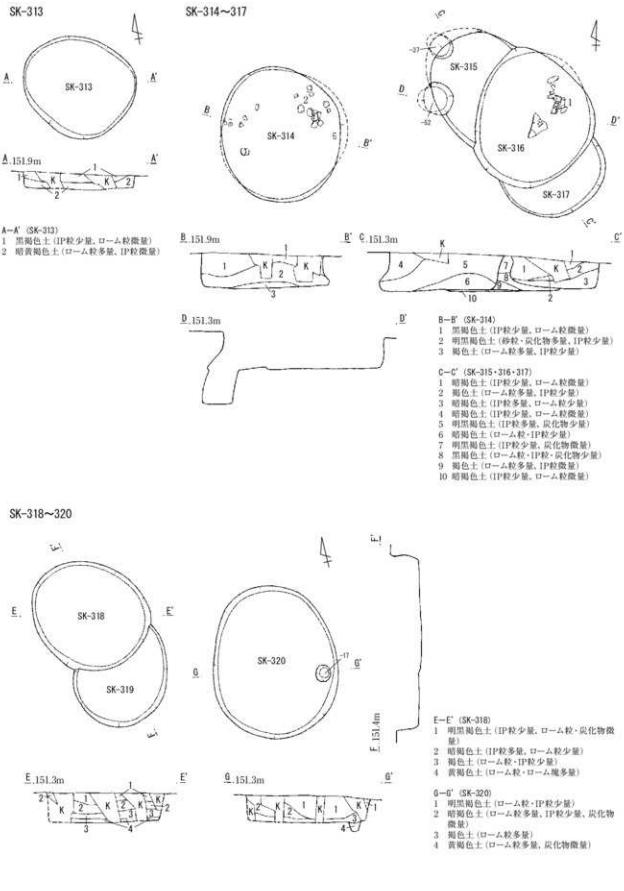


E–E'（SK-297）
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黒色土（炭化物少量、ローム粒・IP粒微量）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）

F–F'（SK-298）
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒・炭化物微量）
2 黄褐色土（ローム粒多量、人為的堆尻し）
3 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
4 黄褐色土（ローム粒多量）

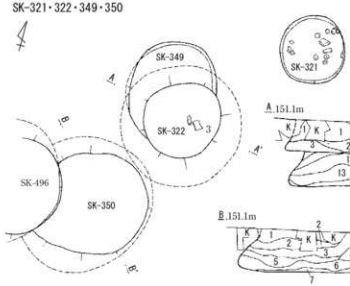
0 (1：60) 2m

第49図 SK-279～282・288・295～298 実測図



第50図 SK-313～320 実測図

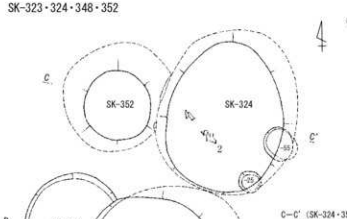
SK-321・322・349・350



A–A' (SK-322・349)
1 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
5 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
6 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
7 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
8 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
9 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
10 赤褐色土（IP粒・IP粒小塊多量、ローム粒少量）
11 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量、炭化物微量）
12 明黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
13 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）
14 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）

B–B' (SK-350)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 赤褐色土（IP粒・IP塊多量）
4 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
5 黒褐色土（炭化物・砂粒少量、ローム粒・IP粒微量）
6 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
7 褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）

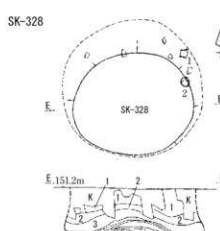
SK-323・324・348・352



C–C' (SK-324・352)
1 黒色土（ローム粒・IP粒少量、炭化物微量）
2 暗橙色土（IP粒・IP塊多量）
3 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
4 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
5 黄褐色土（ローム粒多量）
6 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）
7 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
8 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
9 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒少量）
10 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
11 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
12 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
13 暗褐色土（IP粒・IP粒小塊多量）

D–D' (SK-323・348)
1 黒色土（IP粒微量）
2 褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
3 明黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
4 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
5 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
6 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
7 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
8 暗黒褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
9 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
10 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
11 橙褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）

SK-328

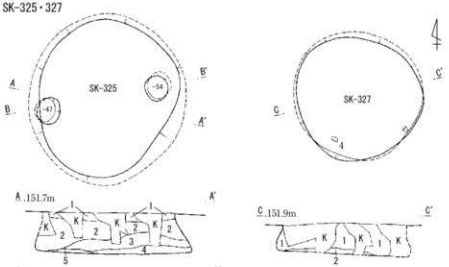


E–E' (SK-328)
1 黒色土（ローム粒・IP粒極微量）
2 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
3 明黒褐色土（炭化物少量、ローム粒・IP粒微量）
4 灰褐色土（砂質）
5 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
6 明黒褐色土（砂粒多量、ローム小塊少量）
7 黒褐色土（ローム粒・ローム小塊少量）
8 明褐色土（IP粒・SP粒多量、ローム粒少量）
9 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）

0 (1:60) 2m

第51図 SK-321~324・328・348~350・352 実測図

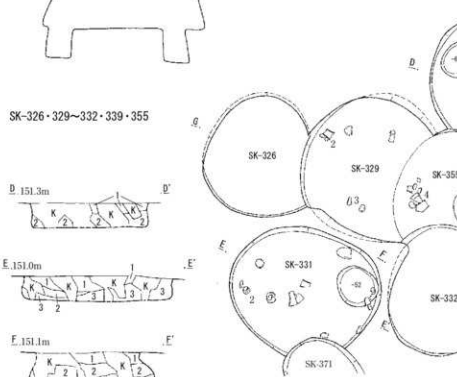
SK-325・327



A–A' (SK-325)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
5 黄褐色土（ローム粒多量）

C–C' (SK-327)
1 黒褐色土（炭化物多量、IP粒少量）
2 黄褐色土（ローム粒多量）

SK-326・329～332・339・355



D–D' (SK-330)
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

E–E' (SK-331)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 褐色土（ローム粒・IP粒多量）

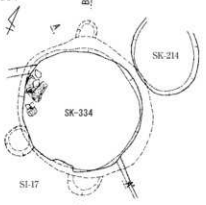
F–F' (SK-332)
1 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
2 明黒褐色土（砂粒多量、ローム粒・IP粒少量）
3 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
4 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
5 黄褐色土（ローム粒多量）

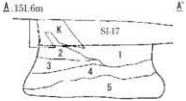
G–G' (SK-326・329・339・355)
1 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
2 黒褐色土（ローム粒・IP粒・炭化物少量）
3 褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
4 明黒褐色土（ローム粒少量、IP粒極微）
5 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
6 赤褐色土（IP粒・IP塊多量）
7 黒褐色土（ローム粒少量）
8 赤褐色土（IP粒・IP塊多量）
9 黄褐色土（ローム粒多量）
10 暗褐色土（ローム粒・炭化物少量）
11 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
12 褐色土（ローム粒多量）
13 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
14 褐色土（ローム粒・IP粒多量）
15 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
16 明黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
17 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
18 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）

0 (1:60) 2m

第52図 SK-325～327・329～332・339・355 実測図

SK-334

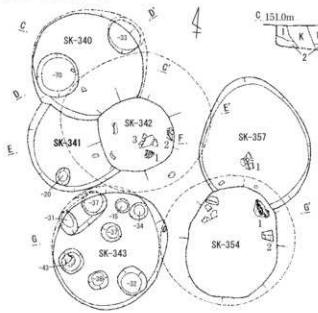


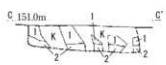


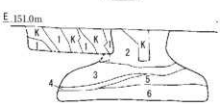
A–A' (SK-334)
1 褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 暗褐色土（ローム粒少量、・IP粒微量）
5 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

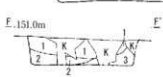


SK-340～343・354・357





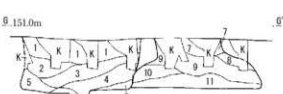




C–C' (SK-340)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

E–E' (SK-341・342)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 黒褐色土（炭化物・砂粒多量、IP粒少量）
5 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
6 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）

F–F' (SK-357)
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 赤褐色土（IP粒・IP塊少量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

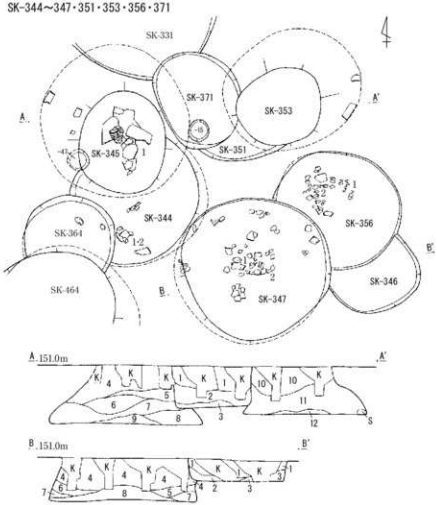


G–G' (SK-343・354)
1 黒褐色土（IP粒少量、炭化物微量）
2 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 橙褐色土（ローム粒・IP小塊多量）
5 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
6 黄褐色土（ローム粒多量）
7 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
8 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
9 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
10 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
11 黄褐色土（ローム粒多量）

0 (1：60) 2m

第53図 SK-334・340～343・354・357 実測図

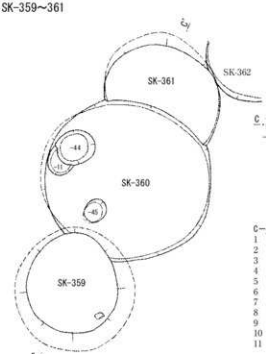
SK-344～347・351・353・356・371



A–A'（SK-345・353・371）
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
4 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
5 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
6 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒・砂粒微量）
7 明黒褐色土（ローム粒・砂粒少量、IP粒微量）
8 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
9 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
10 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
11 黒褐色土（炭化物多量、IP粒・ローム粒微量）
12 黄褐色土（ローム粒多量）

B–B'（SK-346・347）
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 橙褐色土（IP塊）
3 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
4 黒色土（炭化物多量、IP粒少量、ローム粒微量）
5 黒褐色土（IP塊少量、ローム粒微量）
6 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒・炭化物微量）
7 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
8 暗褐色土（ローム粒・炭化物多量、IP粒少量）

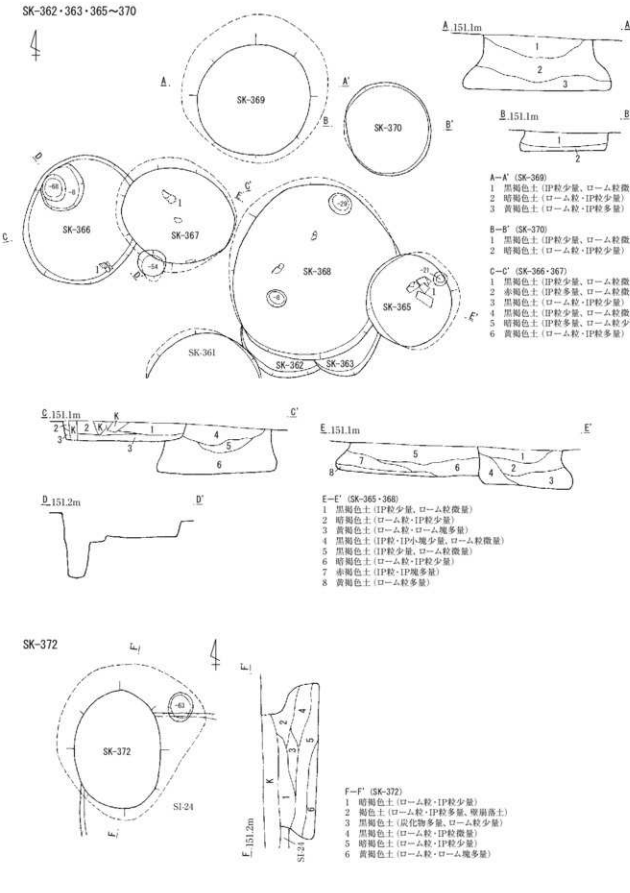
SK-359～361



C–C'（SK-359・360・361）
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
5 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
6 褐色土（ローム粒・IP粒少量）
7 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
8 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
9 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒・炭化物微量）
10 橙褐色土（IP粒・IP塊多量）
11 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

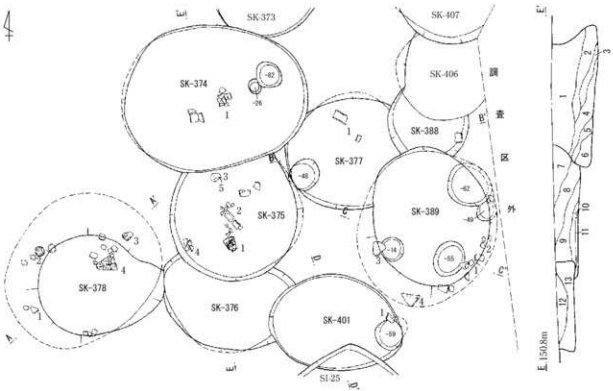
0 (1:60) 2m

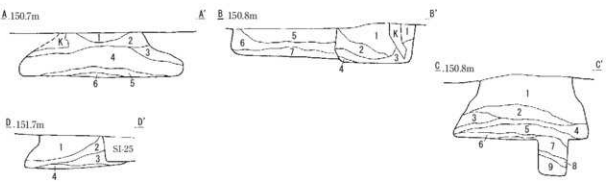
第54図 SK-344～347・351・353・356・359～361・371 実測図



第55図 SK-362･363･365～370･372 実測図

SK-374～378・388・389・401





A－A'（SK-378）
1 黒色土（IP粒・炭化物少量）
2 黒褐色土（ローム塊少量、IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
4 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
5 黒褐色土（ローム粒・ローム塊少量、IP粒微量）
6 暗黄褐色土（ローム粒多量）

B－B'（SK-377・388）
1 明褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
2 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
5 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
6 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
7 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

C－C'（SK-389）
1 黒褐色土（IP粒・炭化物少量）
2 暗褐色土（炭化物少量、ローム粒・IP粒微量）
3 橙褐色土（IP塊多量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
5 赤褐色土（焼土）
6 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
7 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
8 明褐色土（KP粒・KP塊多量）
9 褐色土（ローム粒・IP粒少量）

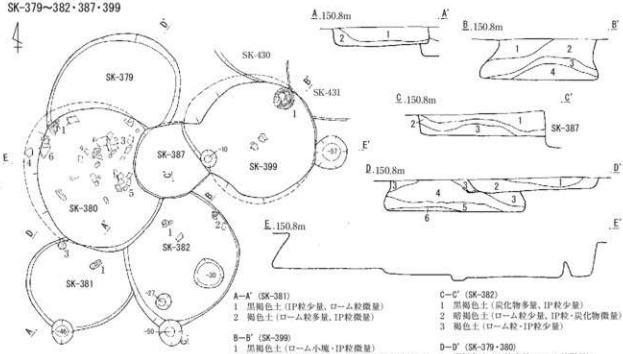
D－D'（SK-401）
1 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
2 黒色土（炭化物少量、ローム粒・IP粒微量）
3 明褐色土（ローム粒・ローム塊多量、IP塊少量）
4 明黒褐色土（ローム塊・IP塊多量）

E－E'（SK-374・375・376）
1 褐色土（ローム粒・IP粒多量）
2 明褐色土（IP粒・IP塊多量、炭化物少量）
3 明褐色土（炭化物・IP粒・IP塊多量）
4 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
5 黒褐色土（ローム粒・IP粒・炭化物微量）
6 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒・炭化物微量）
7 明褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
8 黒褐色土（IP粒・炭化物少量）
9 明黒褐色土（炭化物少量、IP粒微量）
10 明褐色土（IP粒・IP塊多量）
11 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
12 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
13 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）

0 (1：60) 2m

第56図 SK-374～378・388・389・401 実測図

SK-379~382・387・399



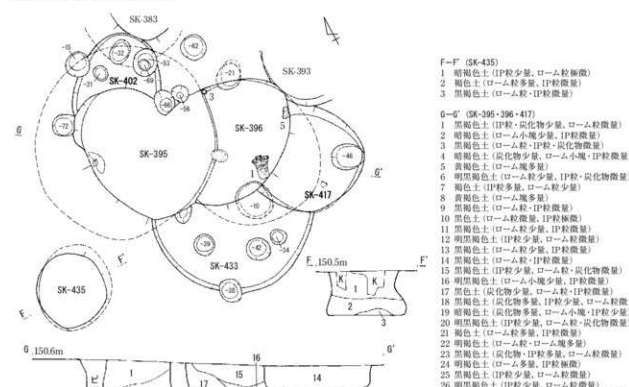
A–A' (SK-381)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

B–B' (SK-399)
1 黒褐色土（ローム小塊・IP粒微量）
2 黒色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒・SP粒微量）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
4 暗褐色土（ローム小塊・IP粒微量）

C–C' (SK-382)
1 黒褐色土（炭化物多量、IP粒少量）
2 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒・炭化物微量）
3 褐色土（ローム粒・IP粒少量）

D–D' (SK-379・380)
1 明褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 明褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
3 黒褐色土（IP粒・IP塊多量、ローム粒微量）
4 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒・炭化物微量）
5 黒褐色土（ローム・IP粒・炭化物微量）
6 黒褐色土（ローム小塊・IP粒少量）

SK-395・396・402・417・433・435

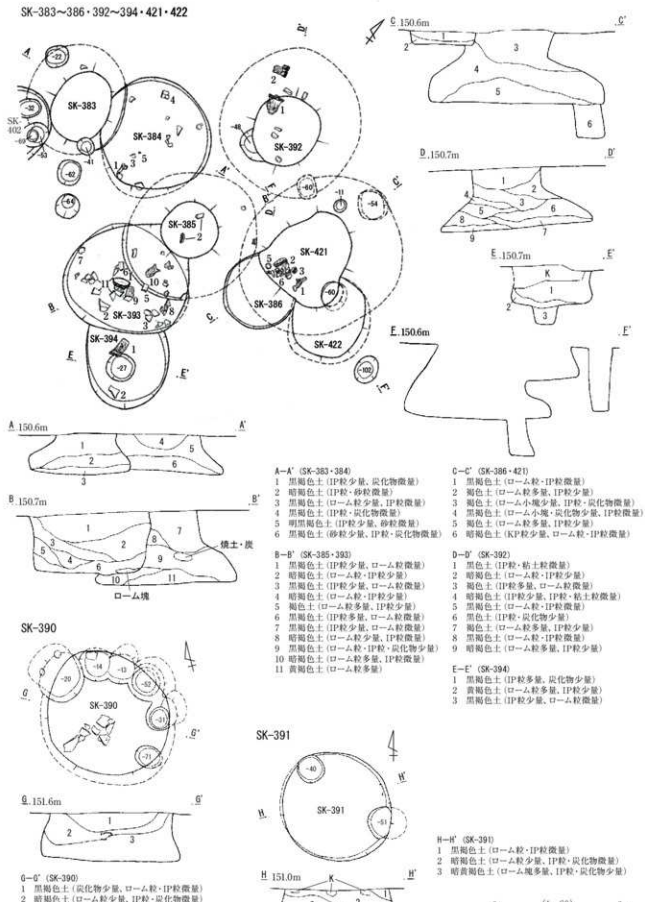


F–F' (SK-435)
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒極微）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）

G–G' (SK-395・396・417)
1 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム小塊少量、IP粒微量）
3 黒褐色土（ローム粒少量・IP粒微量）
4 暗褐色土（炭化物少量、ローム小塊・IP粒微量）
5 黄褐色土（ローム塊多量）
6 明黒褐色土（ローム粒少量、IP粒・炭化物微量）
7 褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
8 黄褐色土（ローム塊多量）
9 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
10 黒色土（ローム粒微量、IP粒極微）
11 黒褐色土（ローム粒少量・IP粒微量）
12 明黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
13 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
14 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
15 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒・炭化物微量）
16 明黒褐色土（ローム小塊少量、IP粒微量）
17 黒色土（炭化物少量、ローム粒・IP粒微量）
18 黒褐色土（炭化物多量、IP粒少量、ローム粒微量）
19 暗褐色土（炭化物多量、ローム小塊・IP粒少量）
20 明褐色土（IP粒少量、ローム粒・炭化物微量）
21 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
22 明褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
23 黒褐色土（炭化物・IP粒多量、ローム粒微量）
24 明褐色土（ローム多量、IP粒極微）
25 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
26 明黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
27 褐色土（ローム粒・ローム小塊多量、IP粒微量）
28 暗黄褐色土（ローム塊）
29 黒褐色土（IP粒・IP小塊多量、ローム粒微量）

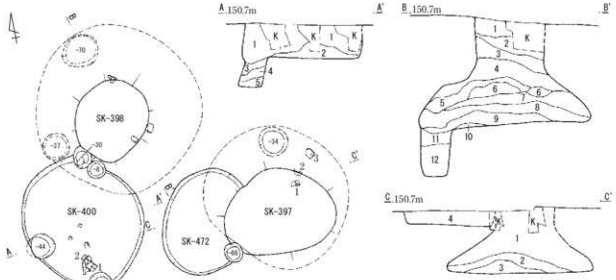
0 (1:60) 2m

第57図 SK-379~382・387・395・396・399・402・417・433・435 実測図



第58図 SK-383～386・390～394・421・422 実測図

SK-397・398・400・436・472



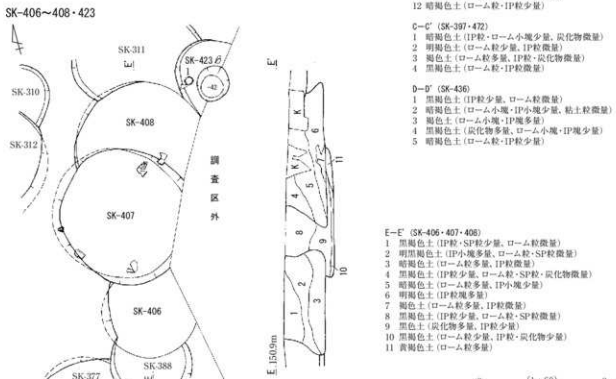
A–A' (SK-400)
1 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒多量、炭化物少量、IP粒微量）
3 明褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
4 褐色土（ローム小塊多量、IP塊少量）
5 明褐色土（ローム粒多量、炭化物少量、IP粒微量）

B–B' (SK-398)
1 黒色土（IP粒微量、ローム粒極微）
2 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
3 明黒色土（炭化物少量、ローム粒・IP粒微量）
4 黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
5 暗褐色土（ローム塊・IP塊多量）
6 黄褐色土（ローム塊）
7 黒褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
8 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
9 黒褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
10 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量、KP粒微量）
11 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
12 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

C–C' (SK-397・472)
1 暗褐色土（IP粒・ローム小塊少量、炭化物微量）
2 明褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒・炭化物微量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）

D–D' (SK-436)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム小塊・IP小塊少量、粘土粒微量）
3 褐色土（ローム小塊・IP塊多量）
4 黒褐色土（炭化物多量、ローム小塊・IP塊少量）
5 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

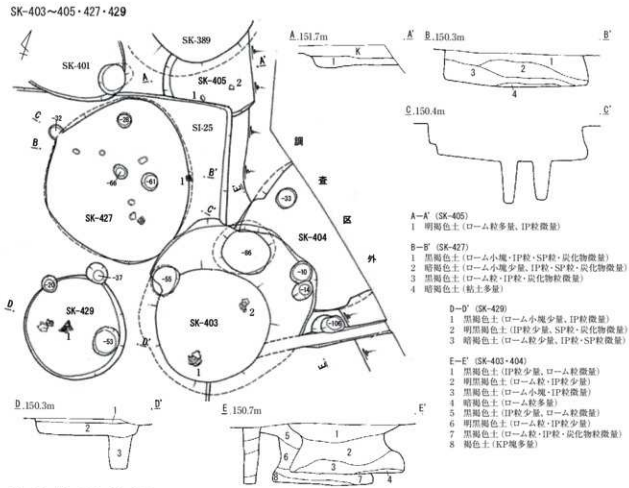
SK-406～408・423



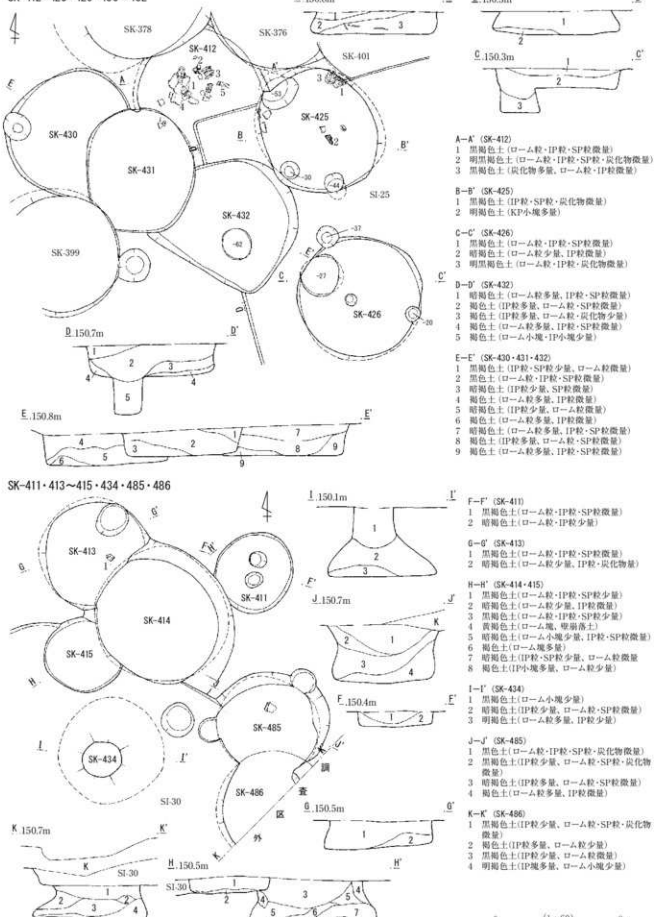
E–E' (SK-406・407・408)
1 黒褐色土（IP粒・SP粒少量、ローム粒微量）
2 明黒褐色土（IP小塊多量、ローム粒・SP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
4 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒・SP粒・炭化物微量）
5 暗褐色土（ローム粒多量、IPや塊少量）
6 明褐色土（IP粒塊多量）
7 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
8 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒・SP粒微量）
9 黒色土（炭化物多量、IP粒少量）
10 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒・炭化物少量）
11 黄褐色土（ローム粒多量）

0 (1：60) 2m

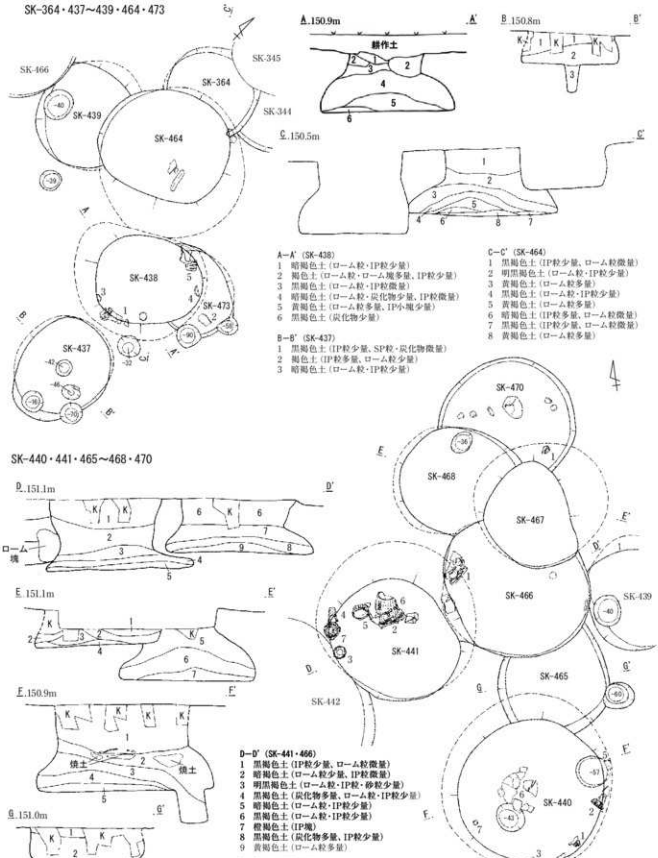
第59図 SK-397・398・400・406～408・423・436・472 実測図



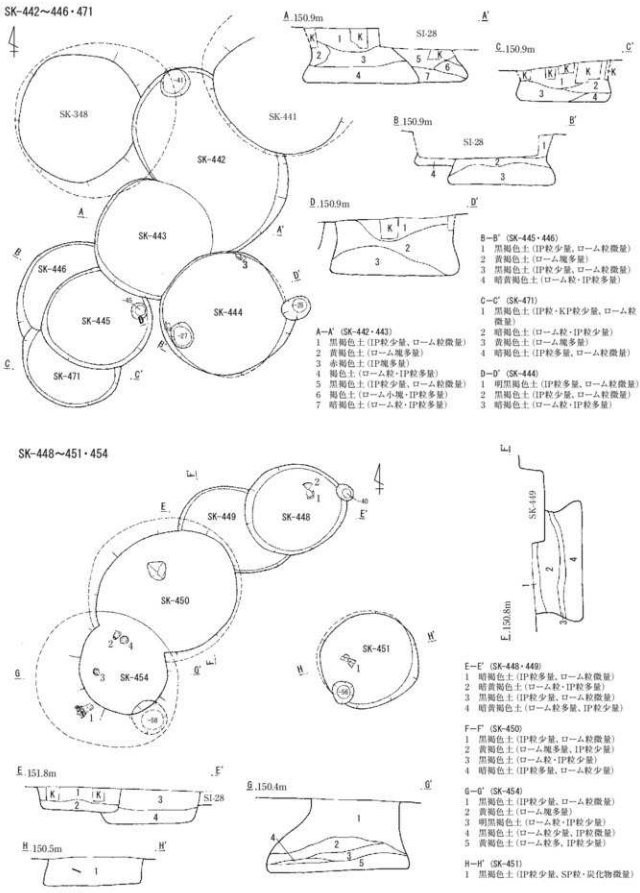
第60図 SK-403～405·410·418～420·424·427～429 実測図



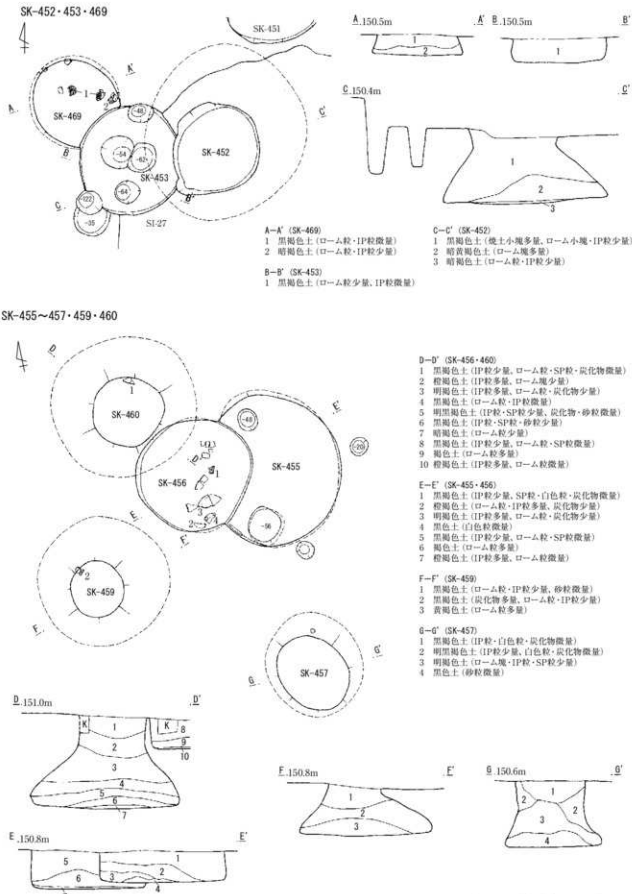
第61図 SK-411～415・425・426・430～432・434・485・486 実測図



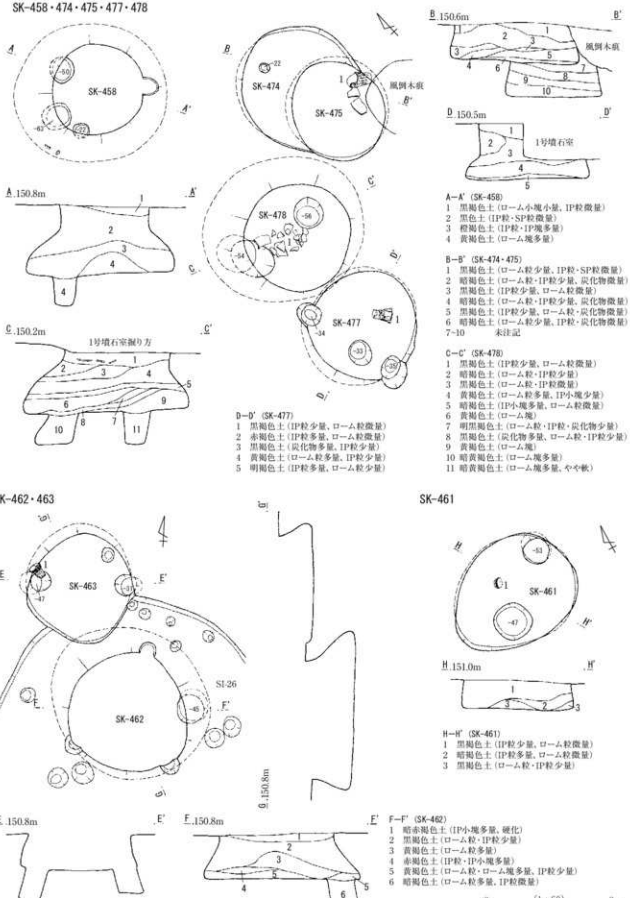
第62図 SK-364・437～441・464～468・470・473 実測図



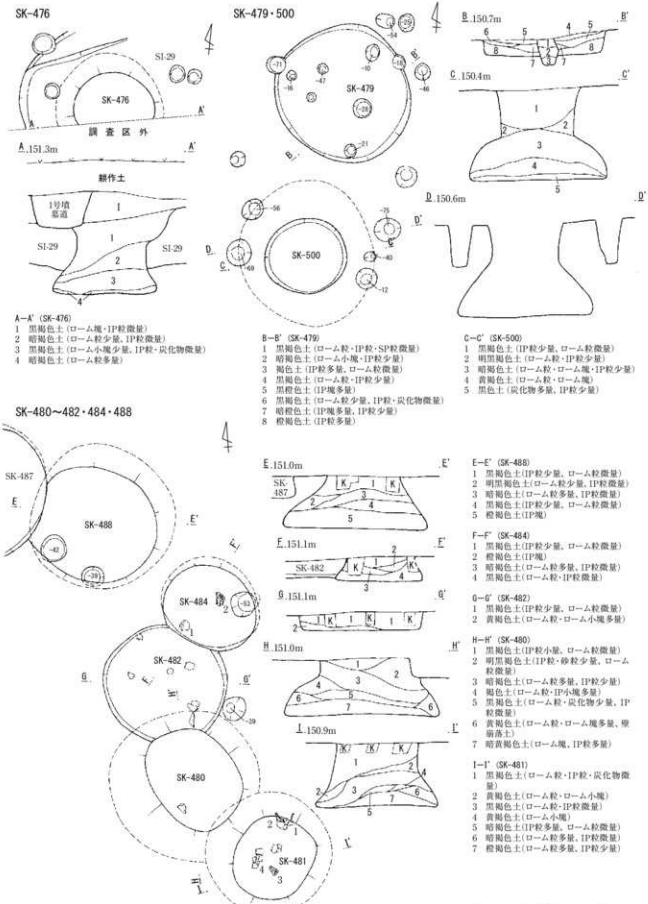
第63図 SK-442～446・448～451・454・471 実測図



第64図 SK-452·453·455~457·459·460·469 実測図



第65図 SK-458·461~463·474·475·477·478 実測図



A–A' (SK-476)
1 黒褐色土（ローム塊・IP粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
3 黒褐色土（ローム小塊・IP粒・炭化物微量）
4 暗褐色土（ローム粒多量）

B–B' (SK-479)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・SP粒微量）
2 暗褐色土（ローム小塊・IP粒少量）
3 褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
5 黒橙色土（IP塊多量）
6 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒・炭化物微量）
7 暗橙色土（IP塊多量、IP粒少量）
8 橙褐色土（IP粒多量）

C–C' (SK-500)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 明黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 暗褐色土（ローム粒・ローム塊・IP粒少量）
4 黄褐色土（ローム粒・ローム塊）
5 黒色土（炭化物多量、IP粒少量）

E–E' (SK-488)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 明黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
4 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
5 橙褐色土（IP塊）

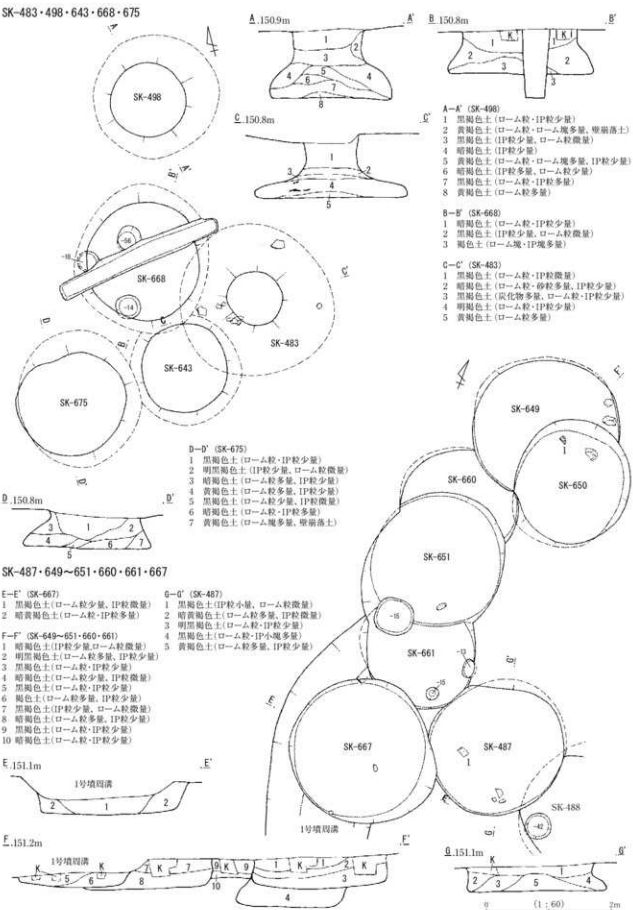
F–F' (SK-484)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 橙褐色土（IP塊）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）

G–G' (SK-482)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム粒・ローム小塊多量）

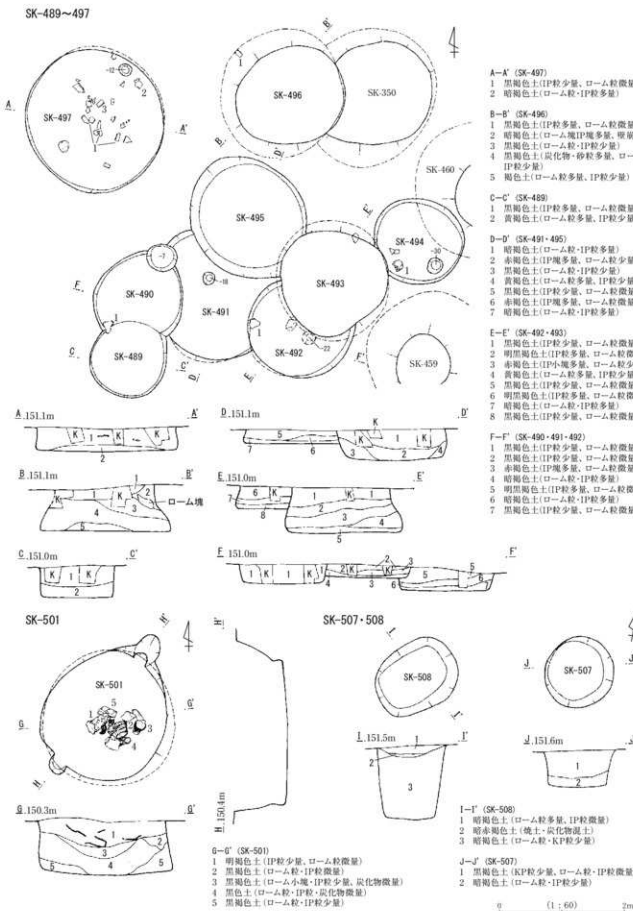
H–H' (SK-480)
1 黒褐色土（IP粒小量、ローム粒微量）
2 明黒褐色土（IP粒・砂粒少量、ローム粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 褐色土（ローム粒・IP小塊多量）
5 黒褐色土（ローム粒・炭化物少量、IP粒微量）
6 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量、壁崩落土）
7 暗黄褐色土（ローム塊、IP粒多量）

I–I' (SK-481)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・炭化物微量）
2 黄褐色土（ローム粒・ローム小塊）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
4 黄褐色土（ローム小塊）
5 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
6 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
7 橙褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

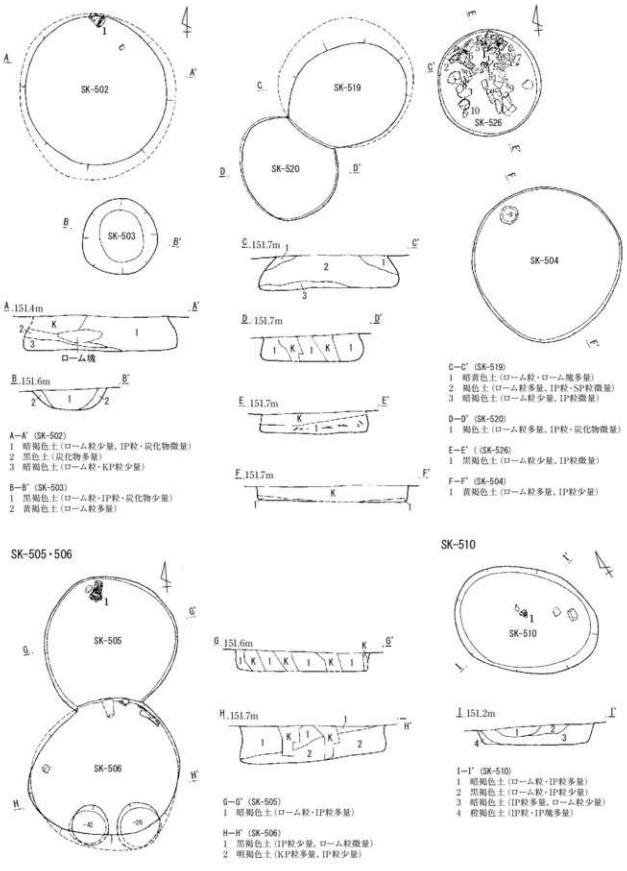
第66図 SK-476·479～482·484·488·500 実測図



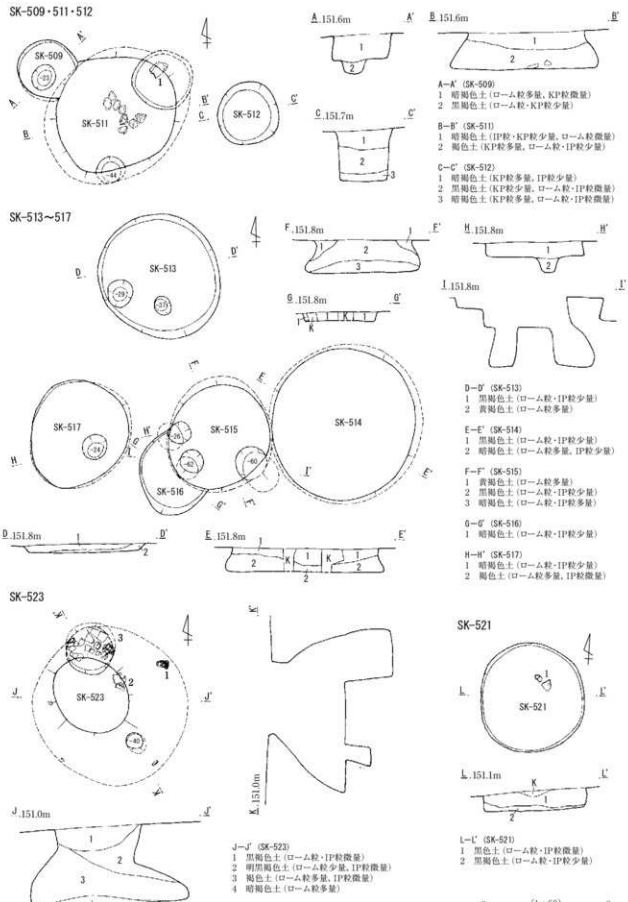
第67図 SK-483・487・498・643・649～651・660・661・667・668・675 実測図



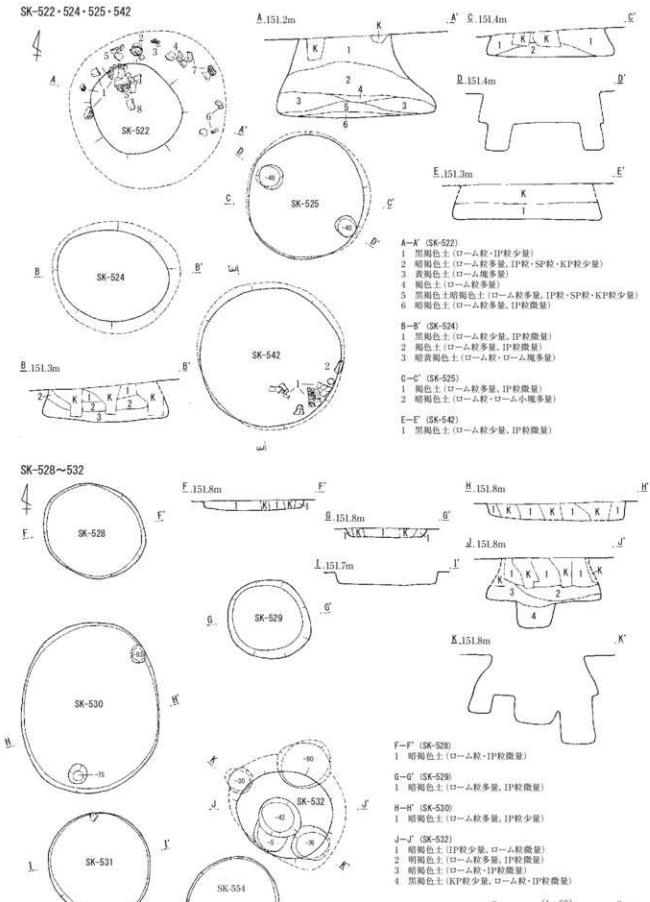
第68図 SK-489～497·501·507·508 実測図



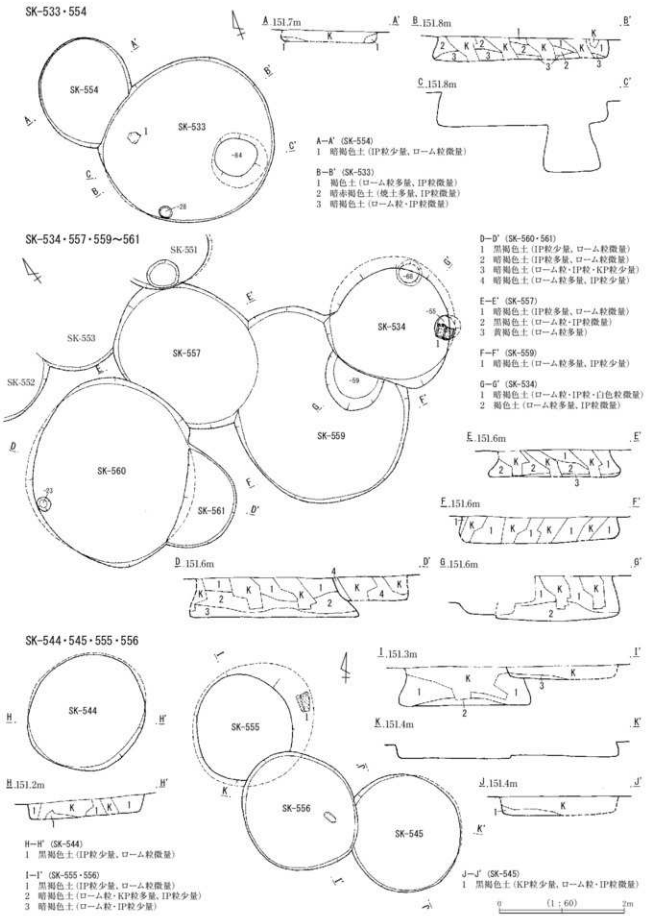
第69図 SK-502~506・510・519・520・526 実測図



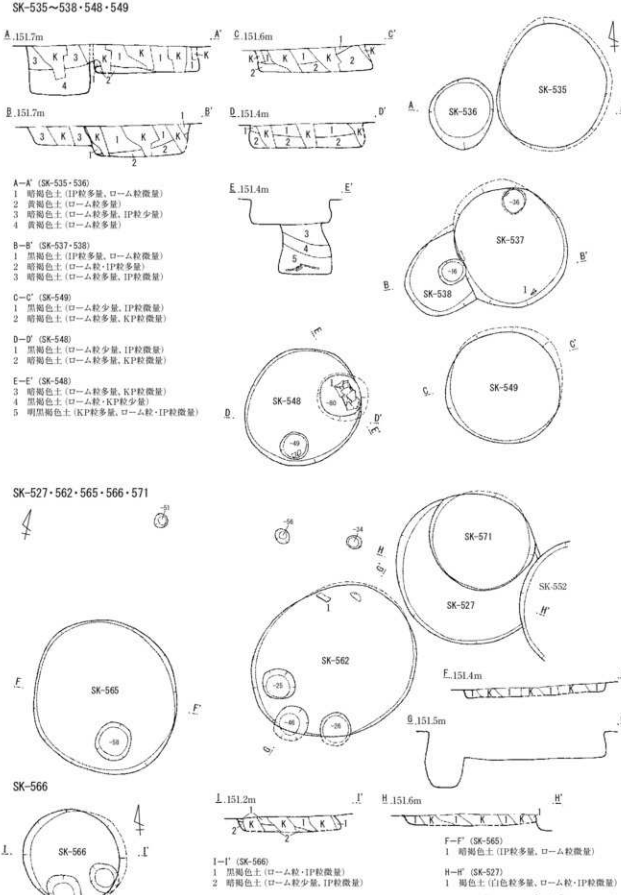
第70図 SK-509・511～517・521・523 実測図



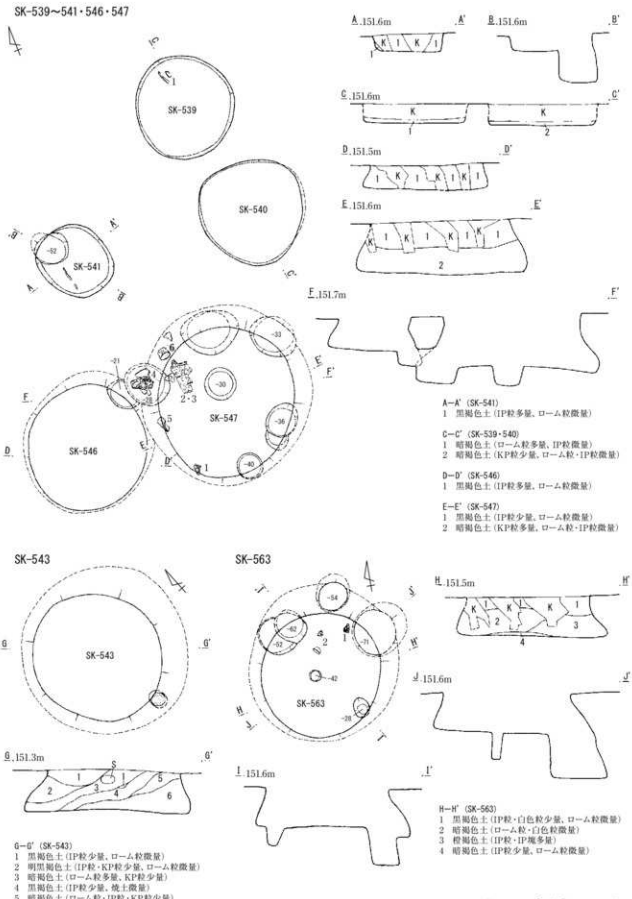
第71図 SK-522・524・525・528～532・542 実測図



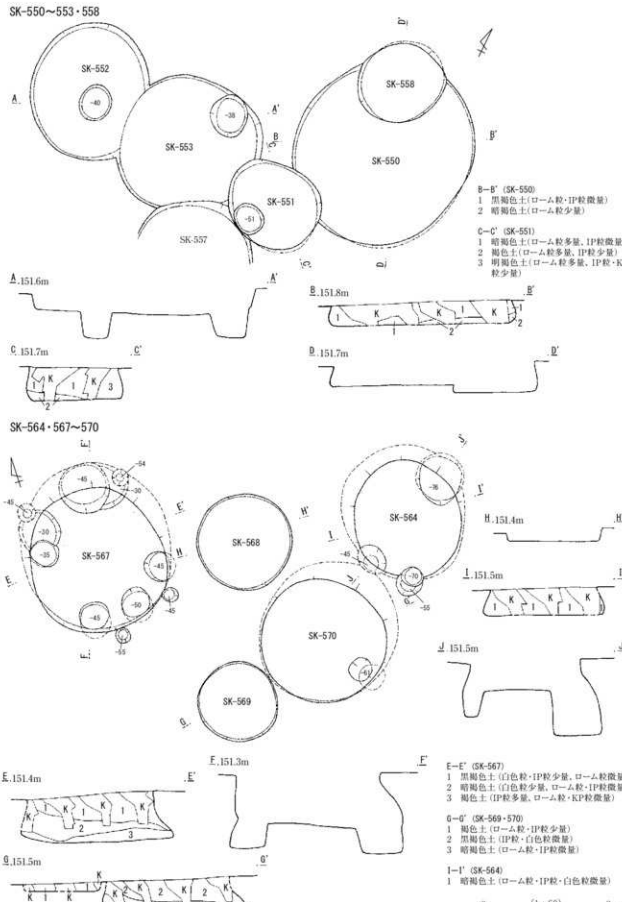
第72図 SK-533・534・544・545・554～557・559～561 実測図



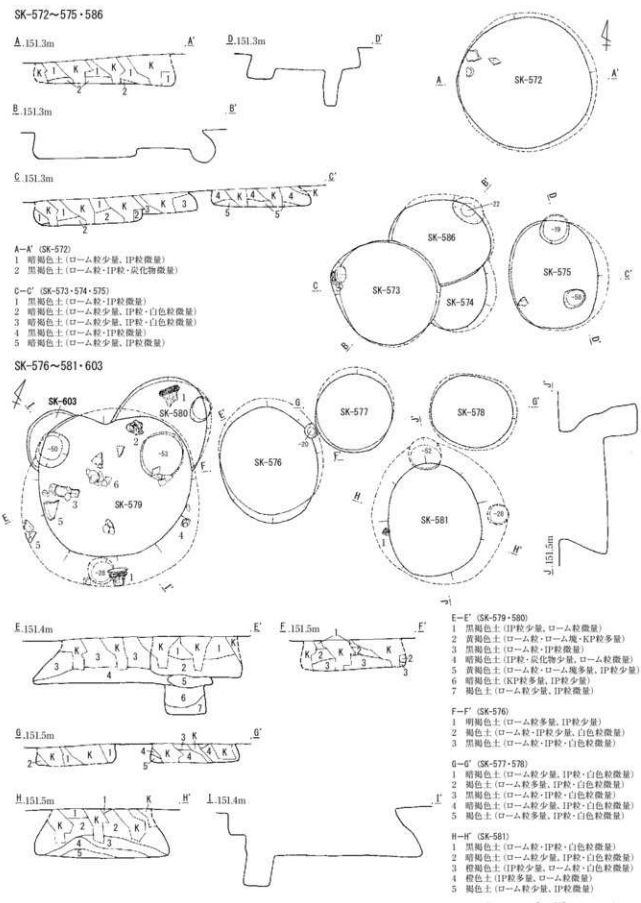
第73図 SK-527・535～538・548・549・562・565・566・571 実測図



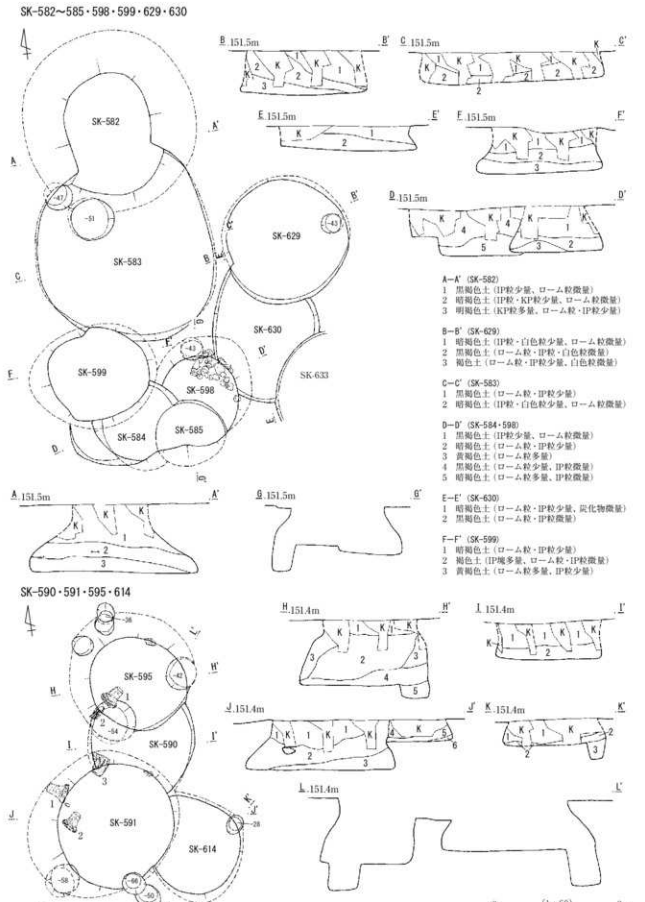
第74図 SK-539～541・543・546・547・563 実測図



第75図 SK-550~553・558・564・567~570 実測図



第76図 SK-572～581・586・603 実測図



第77図 SK-582～585・590・591・595・598・599・614・629・630 実測図

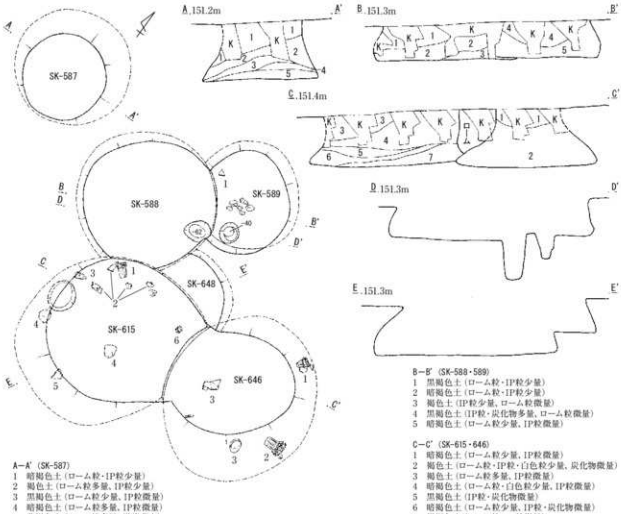
H–H′（SK-595）
1 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒・白色粒少量）
3 黄褐色土（ローム塊少量、焼塊混土）
4 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
5 明黄褐色土（KP粒多量）

I–I′（SK-590）
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

J–J′（SK-591・614）
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒多量）
2 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒・KP粒少量）
4 黒褐色土（ローム粒・IP粒・白色粒微量）
5 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
6 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

K–K′（SK-614）
1 黒褐色土（ローム・IP粒・白色粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

SK-587～589・615・646・648

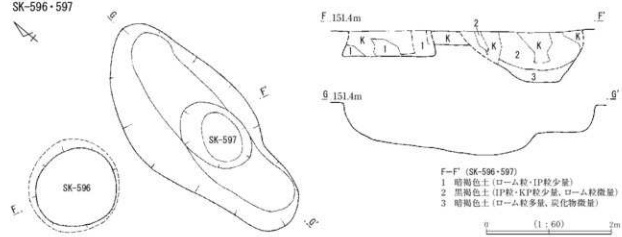


A–A′（SK-587）
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
3 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
4 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
5 黄褐色土（ローム塊多量、焼塊混土）

B–B′（SK-588・589）
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
3 褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
4 黒褐色土（IP粒・炭化物多量、ローム粒微量）
5 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）

C–C′（SK-615・646）
1 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
2 褐色土（ローム粒・IP粒・白色粒少量、炭化物微量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
4 暗褐色土（ローム粒・白色粒少量、IP粒微量）
5 黒褐色土（IP粒・炭化物微量）
6 暗褐色土（ローム粒少量、IP粒・炭化物微量）
7 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）

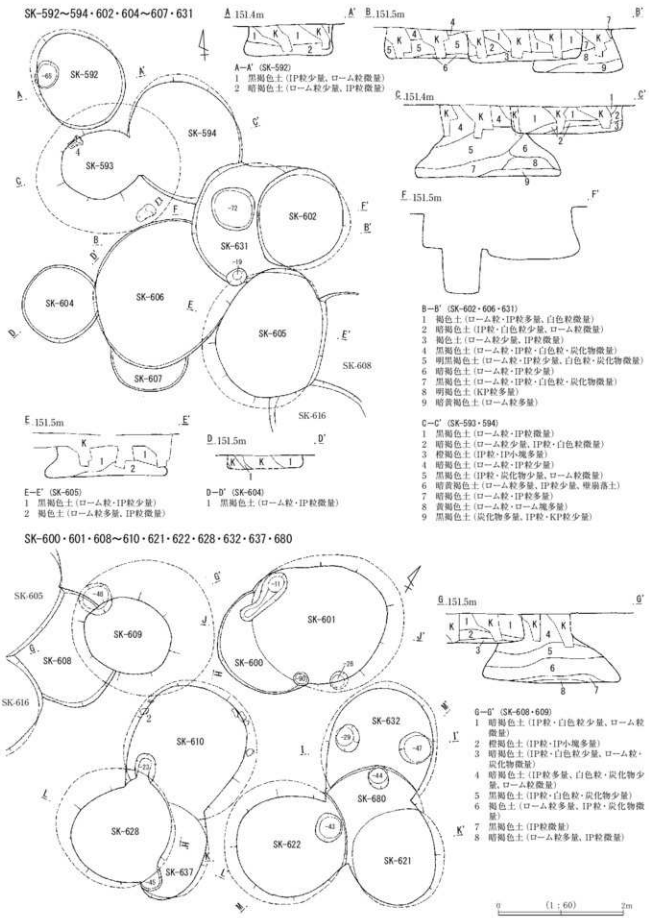
SK-596・597



F–F′（SK-596・597）
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 黒褐色土（IP粒・KP粒少量、ローム粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、炭化物微量）

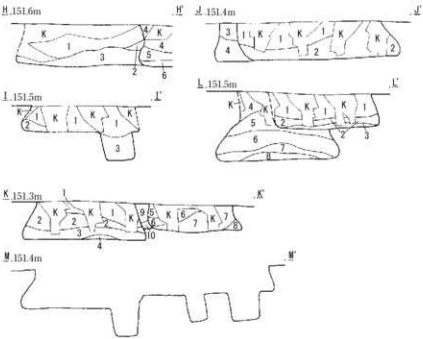
0 (1：60) 2m

第78図 SK-587～589・596・597・615・646・648 実測図



第79図 SK-592～594・600～602・604～610・621・622・628・631・632・637・680 実測図

SK-600・601・610・621・622・628・632・637・680



H–H'（SK-610・637）
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 明黒褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒・KP粒少量）
4 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
5 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
6 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

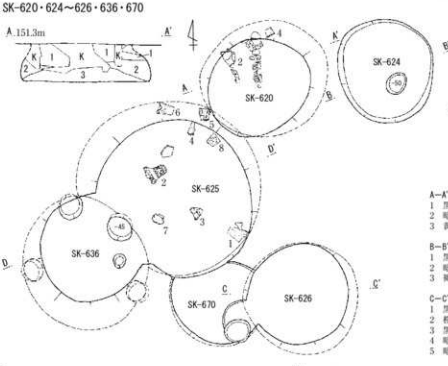
I–I'（SK-632）
1 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
3 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）

J–J'（SK-600・601）
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

K–K'（SK-621・622・680）
1 黒色土（IP粒・白色粒微量）
2 橙褐色土（IP粒・IP小塊多量、ローム粒少量）
3 明橙褐色土（ローム粒・IP粒・IP小塊多量）
4 黒褐色土（IP粒少量・硬化）
5 黒褐色土（ローム粒・IP粒・白色粒微量）
6 明黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
7 暗褐色土（ローム粒・IP粒・白色粒少量）
8 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
9 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒・SP粒微量）
10 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

L–L'（SK-628・637）
1 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 暗褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
5 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
6 黒褐色土（IP粒・KP粒・炭化物多量、ローム粒微量）
7 暗褐色土（ローム粒・KP粒多量、IP粒微量）
8 褐色土（ローム粒多量、IP粒・KP粒微量）

SK-620・624～626・636・670



A–A'（SK-620）
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
3 黄褐色土（ローム粒・IP粒多量）

B–B'（SK-624）
1 黒褐色土（IP粒・白色粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

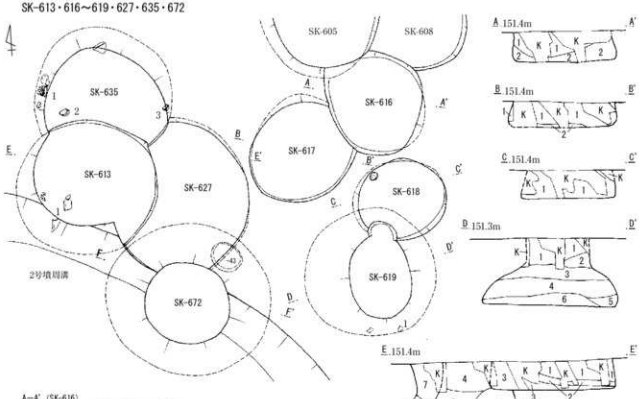
C–C'（SK-626）
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・KP粒微量）
2 橙褐色土（IP粒・IP塊多量）
3 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 暗褐色土（IP粒多量、KP粒・炭化物少量）
5 暗黄褐色土（ローム粒・IP塊多量）

D–D'（SK-625・636）
1 黒褐色土（IP粒・白色粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
3 黄褐色土（ローム粒多量）
4 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒少量）
5 褐色土（ローム粒・IP粒多量）
6 黄褐色土（ローム塊粒多量）

0 (1:60) 2m

第80図 SK-600・601・610・620～622・624～626・628・632・636・637・670・680 実測図

SK-613・616～619・627・635・672



A–A′ (SK-616)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・白色粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）

B–B′ (SK-617)
1 黒褐色土（IP粒少量、白色粒・ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム粒多量）

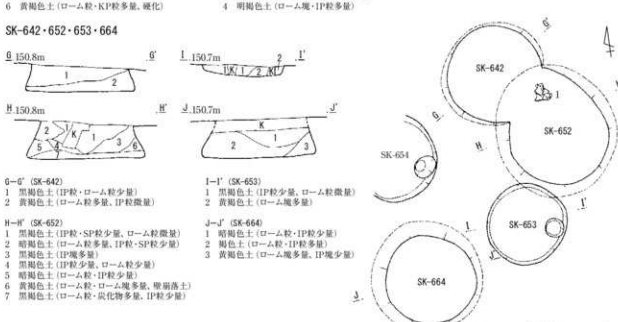
C–C′ (SK-618)
1 暗褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）

D–D′ (SK-619)
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量、壁崩落土）
3 明黒褐色土（IP粒少量、IP粒少量、ローム粒微量）
4 黒褐色土（炭化物多量、IP粒・KP粒少量・硬化）
5 暗褐色土（IP粒・KP粒多量）
6 黄褐色土（ローム粒・KP粒多量、硬化）

E–E′ (SK-613・627・635)
1 黒褐色土（IP粒・白色粒少量、ローム粒微量）
2 橙褐色土（IP粒・IP塊多量）
3 暗黄褐色土（ローム粒・IP塊多量）
4 黒褐色土（IP粒多量、ローム粒微量）
5 明黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
6 暗褐色土（IP粒多量、ローム少量）
7 褐色土（ローム粒・IP粒多量）
8 暗褐色土（IP粒・KP粒少量、ローム粒微量）

F–F′ (SK-672)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒、IP粒多量）
3 黄褐色土（ローム塊多量、IP粒少量）
4 明褐色土（ローム塊・IP粒多量）

SK-642・652・653・664



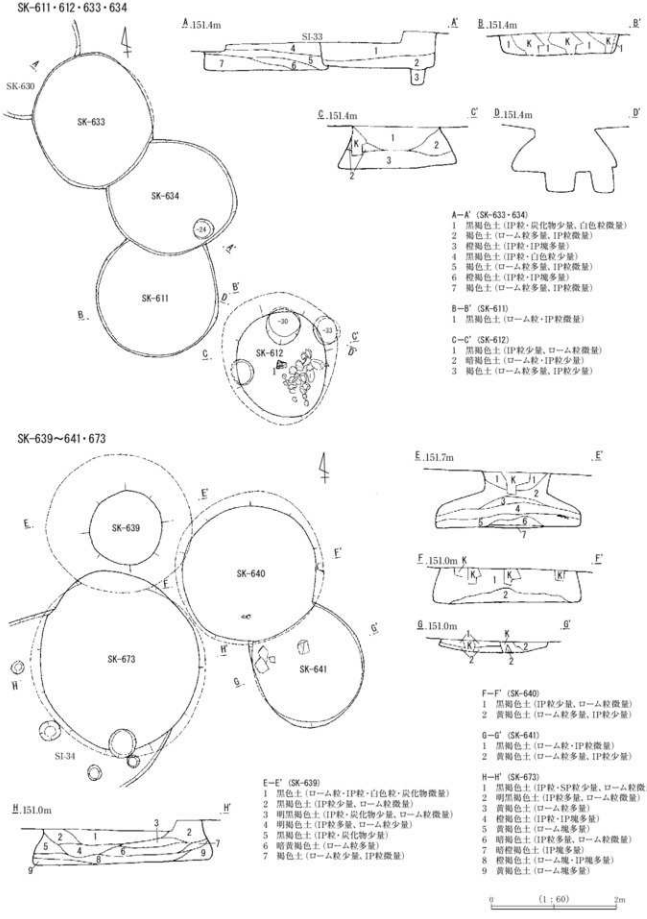
G–G′ (SK-642)
1 黒褐色土（IP粒・ローム粒少量）
2 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

H–H′ (SK-652)
1 黒褐色土（IP粒・SP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒・SP粒少量）
3 黒褐色土（IP塊多量）
4 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒少量）
5 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
6 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量、壁崩落土）
7 黒褐色土（ローム粒・炭化物多量、IP粒少量）

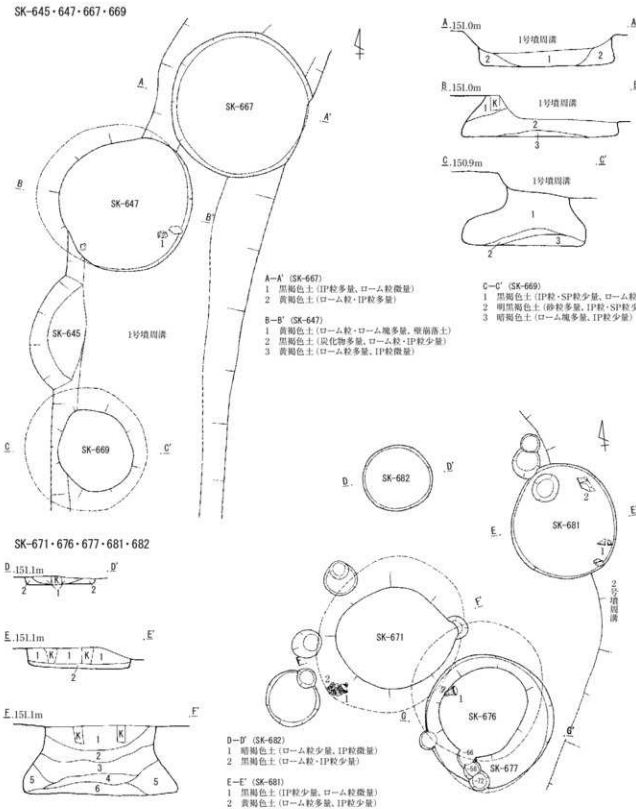
I–I′ (SK-653)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム塊多量）

J–J′ (SK-664)
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 褐色土（ローム粒・IP粒多量）
3 黄褐色土（ローム塊多量、IP塊少量）

第81図 SK-613・616～619・627・635・642・652・653・664・672 実測図

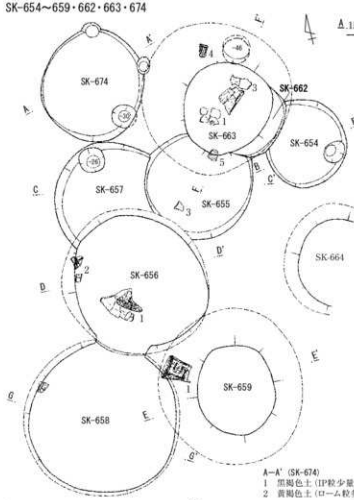


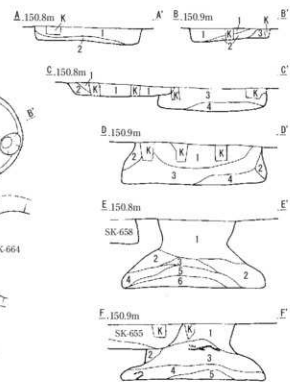
第82図 SK-611・612・633・634・639～641・673 実測図



第83図 SK-645・647・667・669・671・676・677・681・682 実測図

SK-654～659・662・663・674





D–D′ (SK-656)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム塊多量、壁崩落土）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒多量）
4 褐色土（ローム粒・IP塊多量）

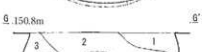
A–A′ (SK-674)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム粒多量）

E–E′ (SK-659)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒・炭化物少量）
2 黒色土（炭化物多量、IP粒少量、ローム粒微量）
3 明黒褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒少量）
5 褐色土（ローム粒、IP粒多量）
6 黄褐色土（ローム塊多量、IP粒少量）

B–B′ (SK-654)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム粒多量）
3 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）

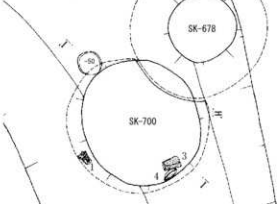
F–F′ (SK-663)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量、壁崩落土）
3 明黒褐色土（IP粒・炭化物少量、ローム粒微量）
4 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒少量）
5 黄褐色土（ローム粒多量）

C–C′ (SK-655・657)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒微量）
2 黄褐色土（ローム粒多量）
3 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
4 黄褐色土（ローム粒多量）



G–G′ (SK-658)
1 黒褐色土（IP粒・IP小塊少量、ローム粒微量）
2 暗褐色土（ローム粒・IP粒・炭化物少量）
3 褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 黄褐色土（ローム粒多量）

SK-678・700



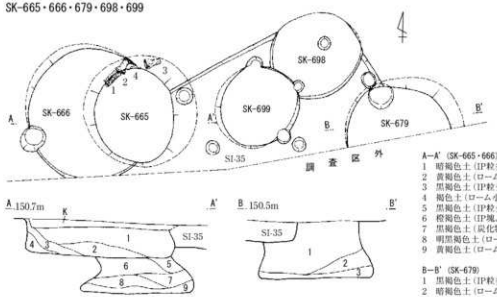


H–H′ (SK-678)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 褐色土（ローム粒・IP粒多量）
3 暗褐色土（ローム塊・IP粒多量、粘土少量）

0 (1：60) 2m

第84図 SK-654～659・662・663・674・678・700 実測図

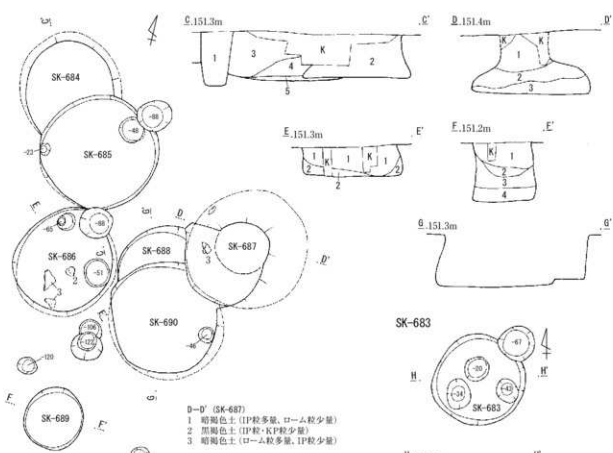
SK-665・666・679・698・699



A–A' (SK-665・666)
1 暗褐色土 (IP粒多量, ローム粒微量)
2 黄褐色土 (ローム粒多量, IP粒少量)
3 黒褐色土 (IP粒少量, ローム粒微量)
4 褐色土 (ローム小塊多量, IP粒少量)
5 黒褐色土 (IP粒少量, ローム粒微量)
6 焼褐色土 (IP塊, 壁崩落土)
7 黒褐色土 (炭化物多量, ローム粒少量)
8 明黒褐色土 (ローム塊・IP粒多量, 炭化物少量)
9 黄褐色土 (ローム小塊多量)

B–B' (SK-679)
1 黒褐色土 (IP粒多量, ローム粒微量)
2 暗褐色土 (ローム粒, IP粒多量)
3 黄褐色土 (ローム粒多量)

SK-684~690



C–C' (SK-684・685)
1 黒褐色土 (ローム粒少量, IP粒微量)
2 黒褐色土 (IP粒少量)
3 暗褐色土 (ローム粒・IP粒少量)
4 黄褐色土 (ローム粒多量, IP粒少量)
5 暗褐色土 (ローム粒・IP粒少量)

D–D' (SK-687)
1 暗褐色土 (IP粒多量, ローム粒少量)
2 黒褐色土 (IP粒・KP粒少量)
3 暗褐色土 (ローム粒多量, IP粒少量)

E–E' (SK-686)
1 暗褐色土 (ローム粒・IP粒少量)
2 黄褐色土 (ローム粒多量, IP粒少量)

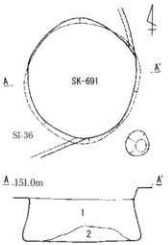
F–F' (SK-689)
1 黒褐色土 (ローム粒・IP粒少量)
2 暗褐色土 (ローム粒多量, IP粒微量)
3 暗褐色土 (ローム粒・IP粒・焼土少量)
4 黒褐色土 (ローム粒少量, IP粒微量)

H–H' (SK-683)
1 黒褐色土 (IP粒・白色粒微量)

0 (1:60) 2m

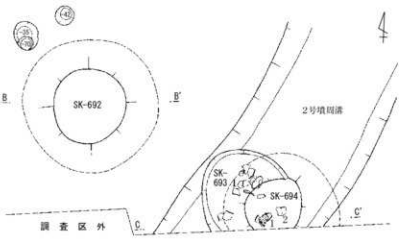
第85図 SK-665・666・679・683~690・698・699 実測図

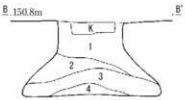
SK-691



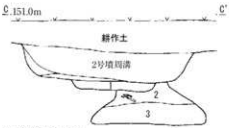
A–A' (SK-691)
1 黒褐色土（IP粒少量、ローム粒微量）
2 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）

SK-692～694



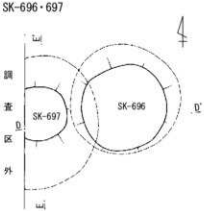


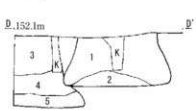
B–B' (SK-692)
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）
3 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
4 黄褐色土（ローム粒多量）



C–C' (SK-693・694)
1 黒褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 暗褐色土（ローム粒多量、IP粒少量）
3 黒褐色土（炭化物多量、ローム粒・IP粒少量）

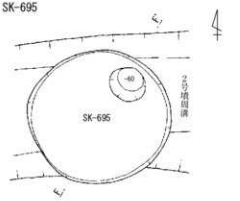
SK-696・697

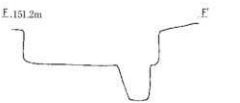




D–D' (SK-696・697)
1 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
2 黄褐色土（ローム粒・ローム塊多量）
3 暗褐色土（ローム粒・IP粒少量）
4 黒褐色土（ローム粒少量、IP粒微量）
5 黄褐色土（ローム粒多量、IP粒微量）

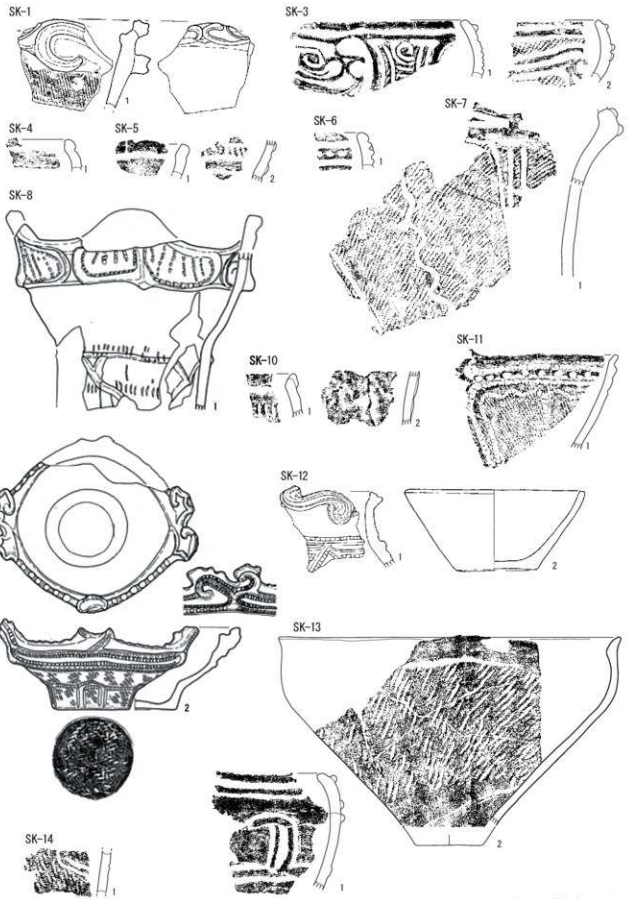
SK-695



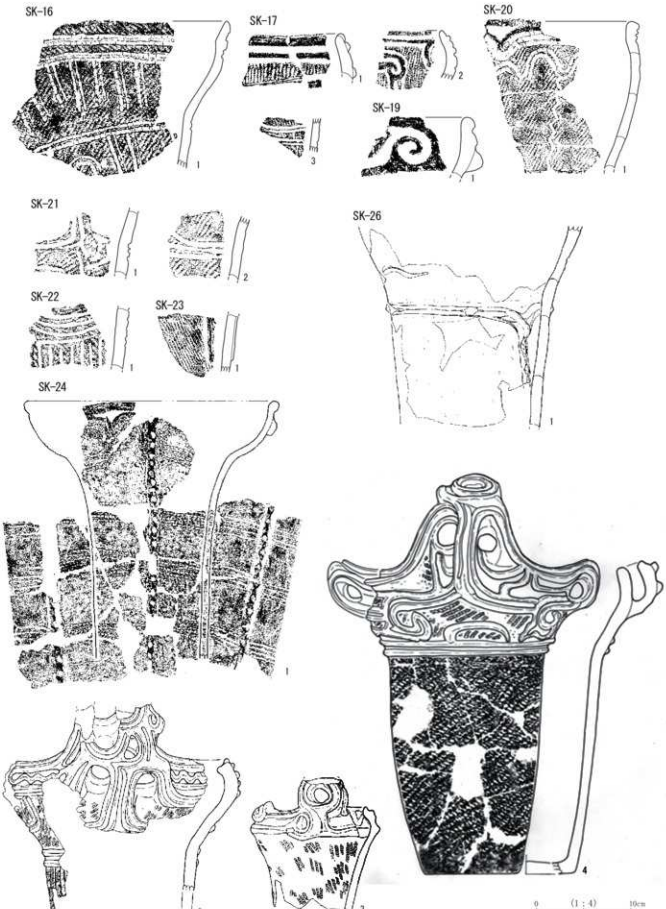


0 (1：60) 2m

第86図 SK-691～697 実測図

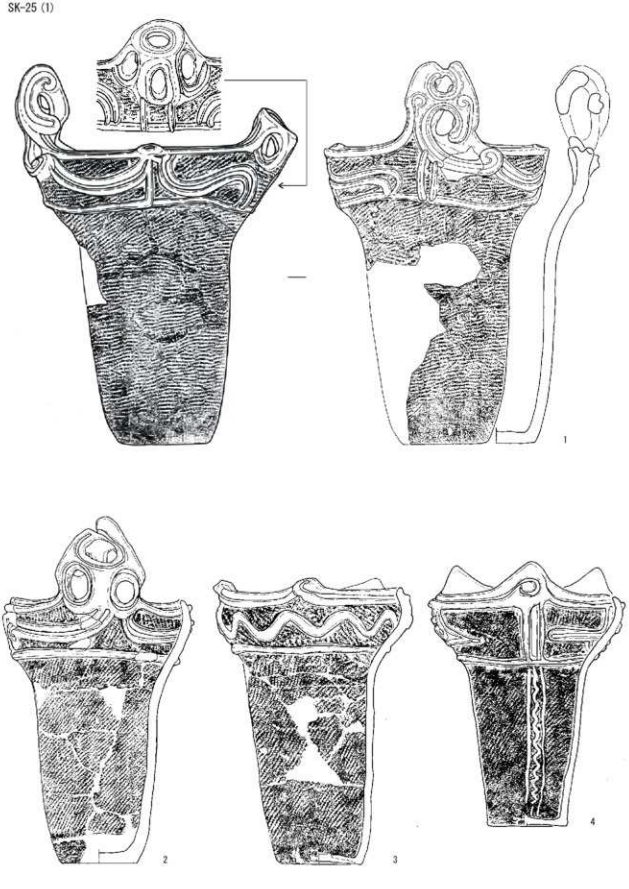


第87図 SK-1·3~8·10~14 出土土器実測図

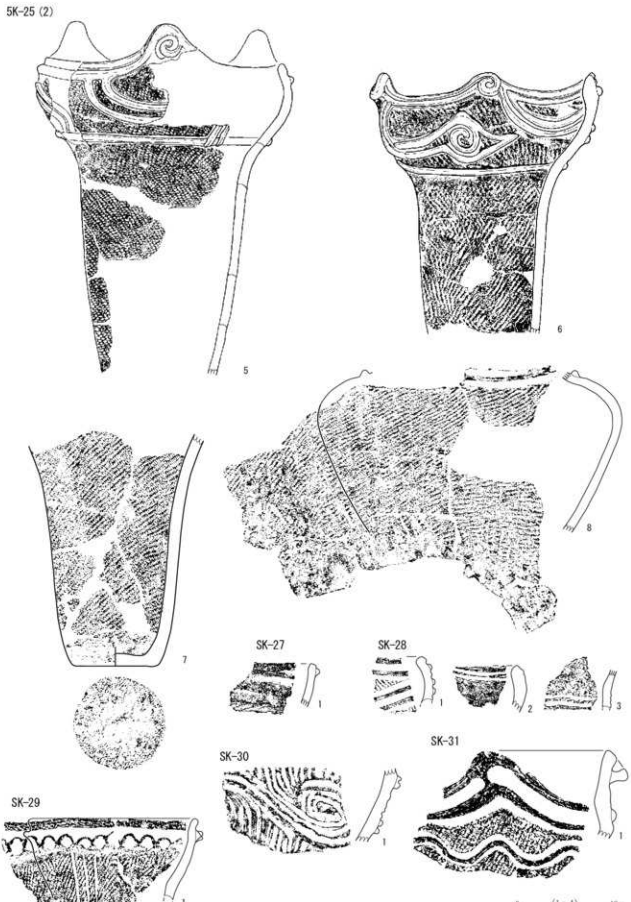


第88図 SK-16·17·19～24·26 出土土器実測図

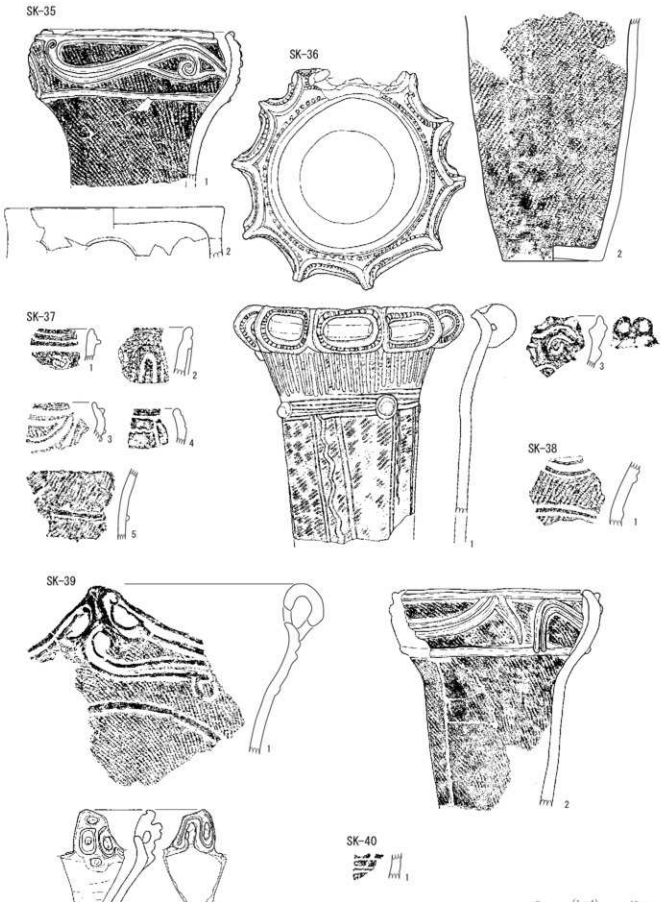
SK-25 (1)



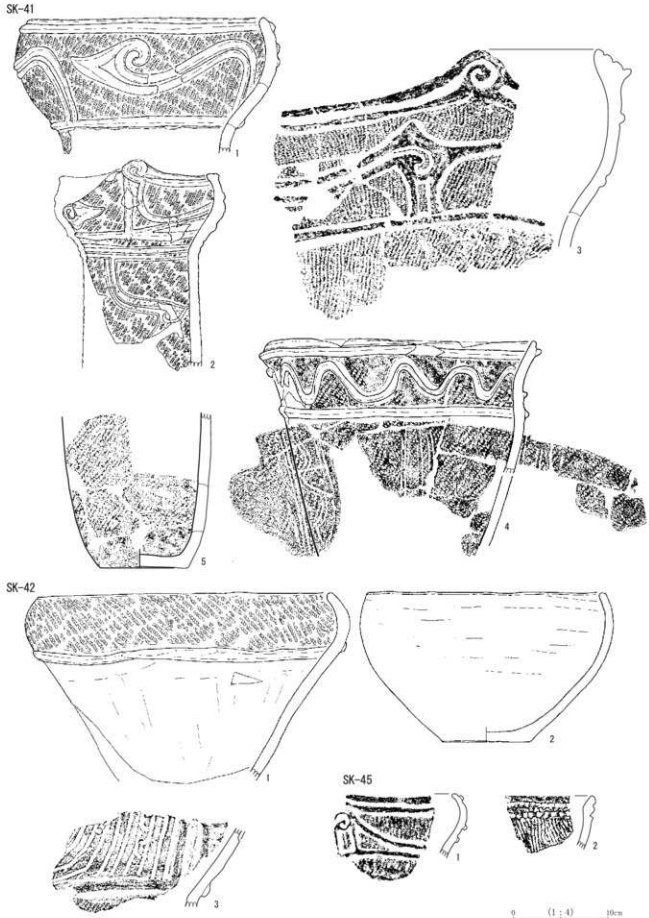
第89図 SK-25(1) 出土土器実測図



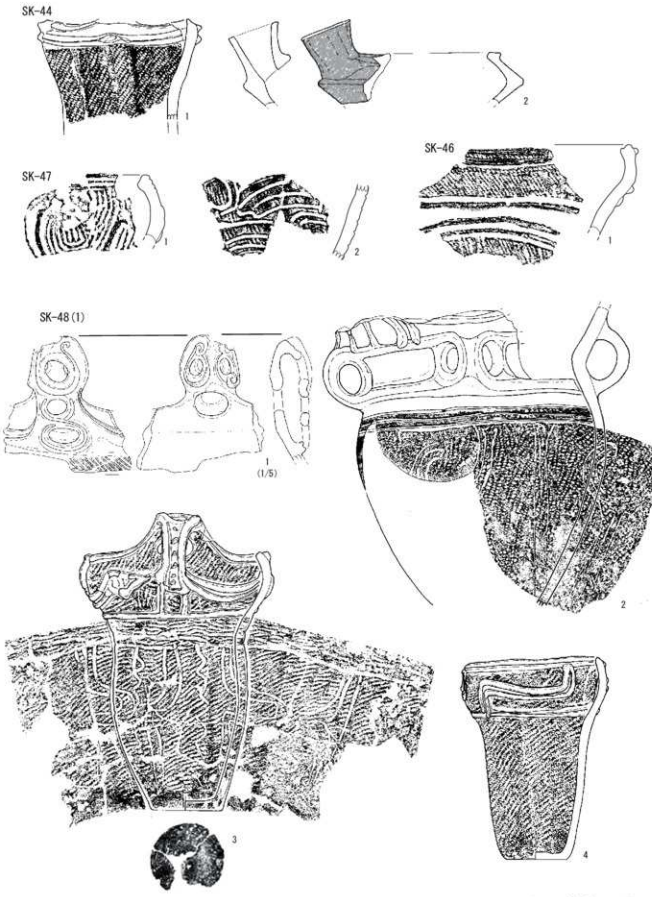
第90図 SK-25(2)·27~31 出土土器実測図



第91図 SK-35~40 出土土器実測図



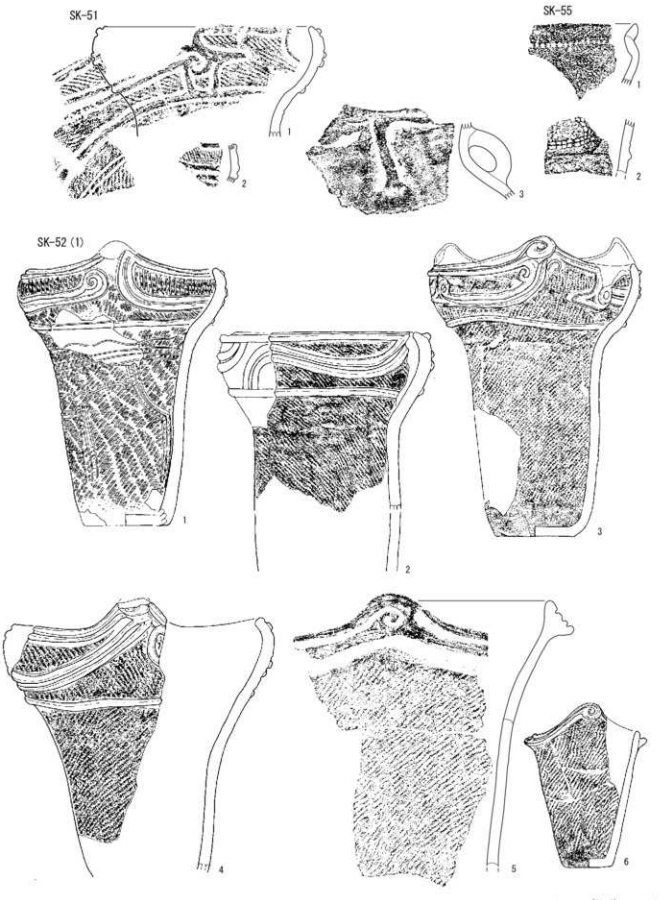
第92図 SK-41·42·45 出土土器実測図



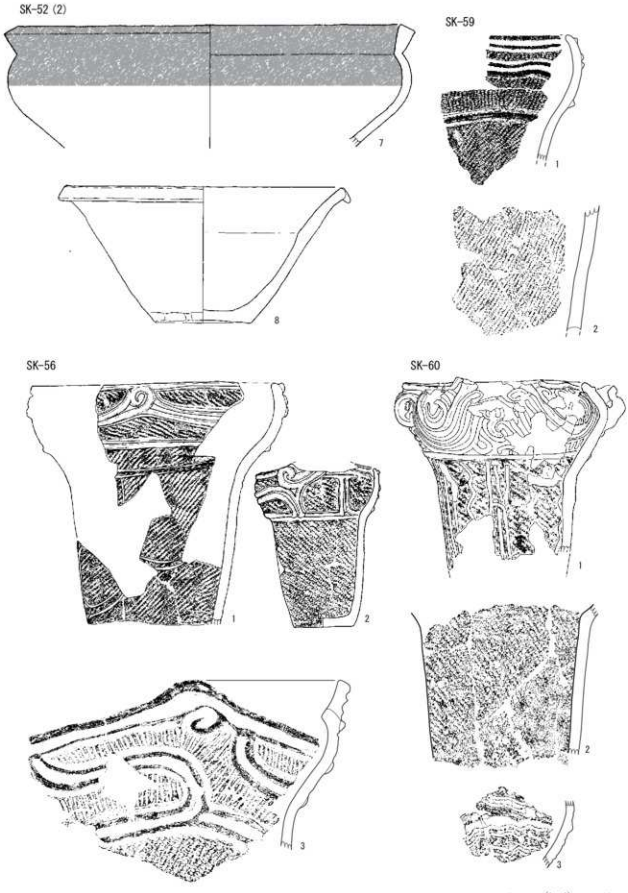
第93図 SK-44·46~48(1) 出土土器実測図



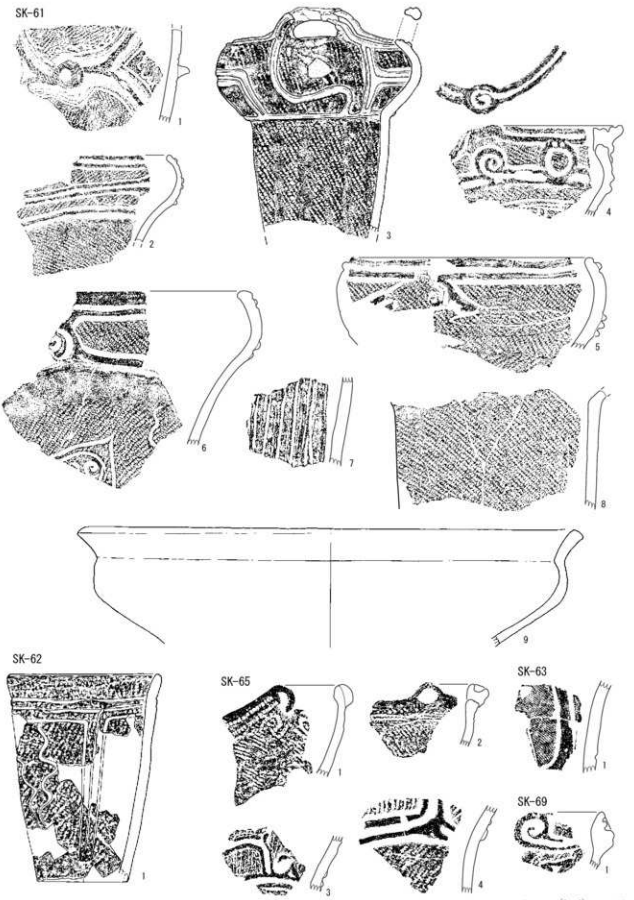
第94図 SK-48(2)~50 出土土器実測図



第95図 SK-51·52(1)·55 出土土器実測図



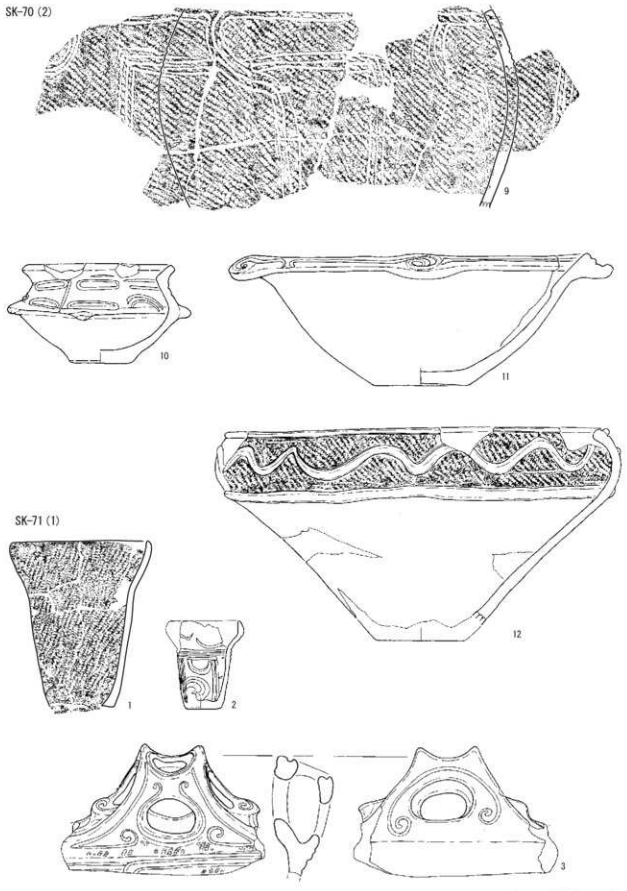
第96図 SK-52(2)·56·59·60 出土土器実測図



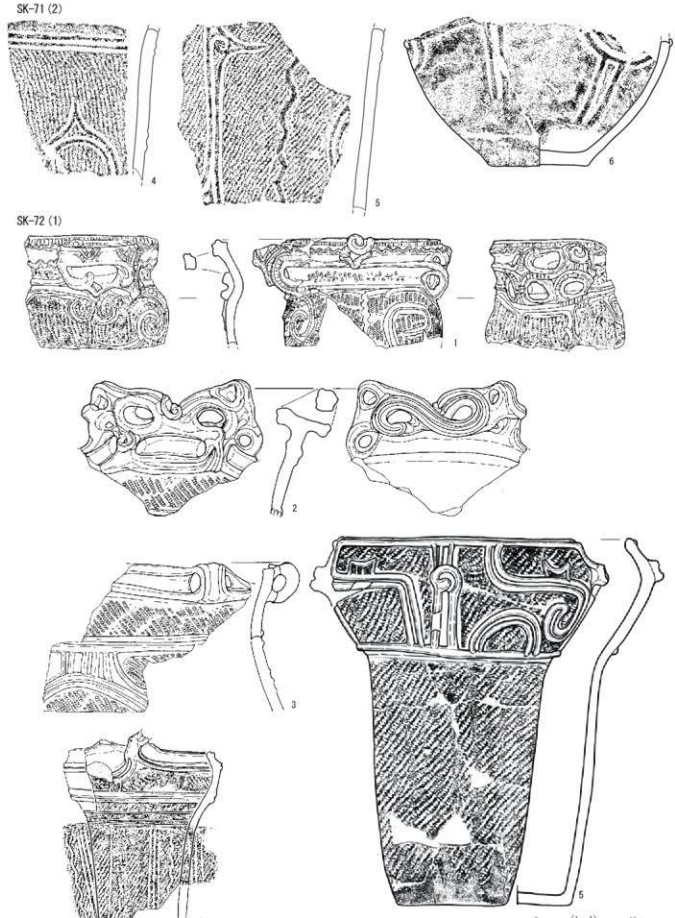
第97図 SK-61～63･65･69 出土土器実測図



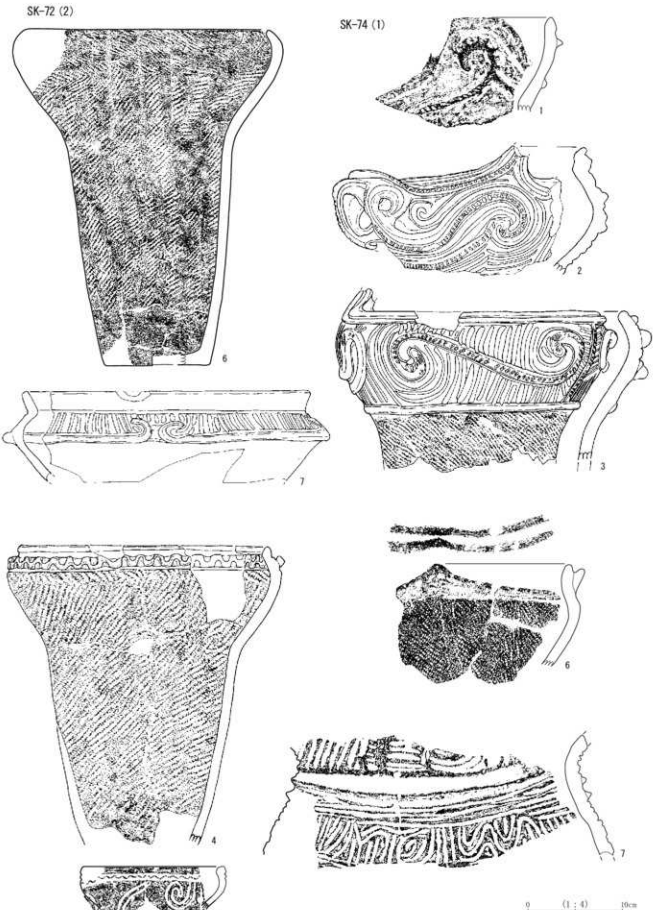
第98図 SK-66·67·70(1) 出土土器実測図



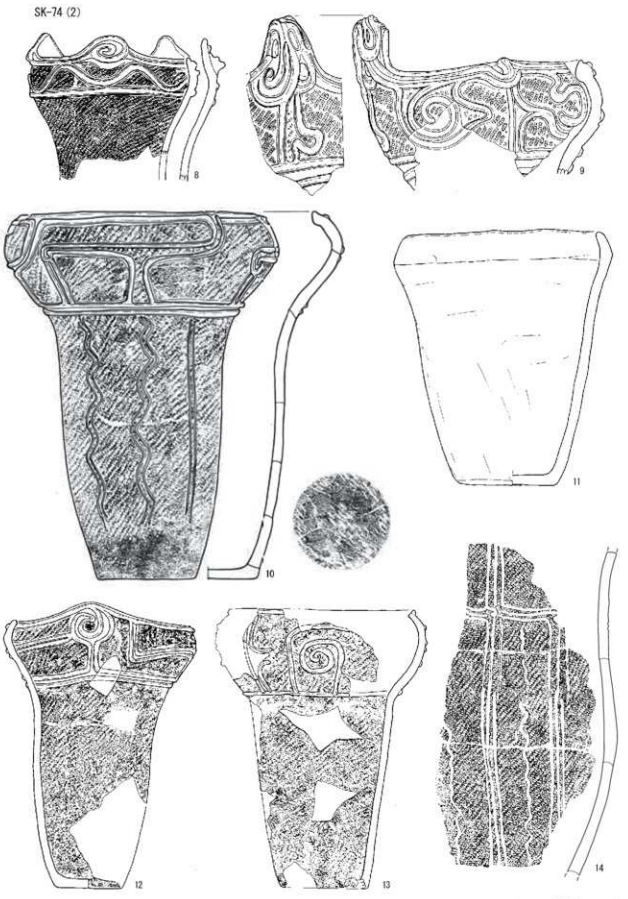
第99図 SK-70(2)·71(1) 出土土器実測図



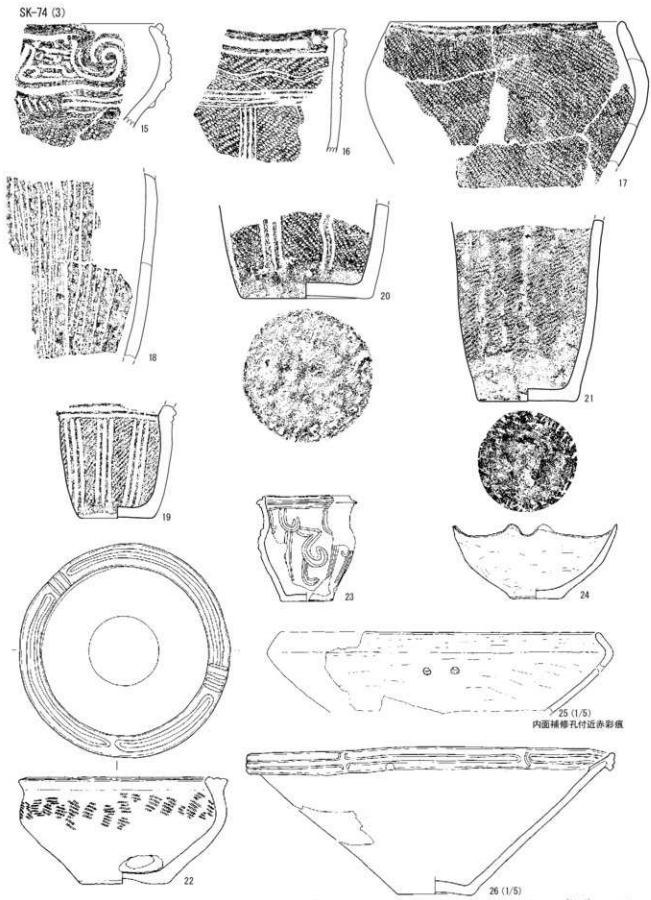
第100図 SK-71(2)・72(1) 出土土器実測図



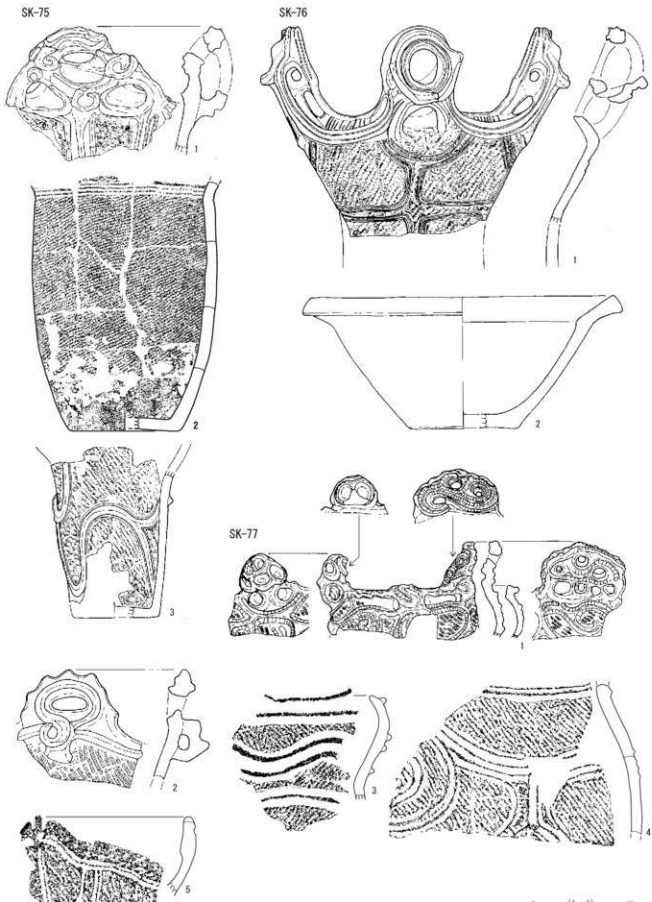
第101図 SK-72(2)·74(1) 出土土器実測図



第102図 SK-74(2) 出土土器実測図



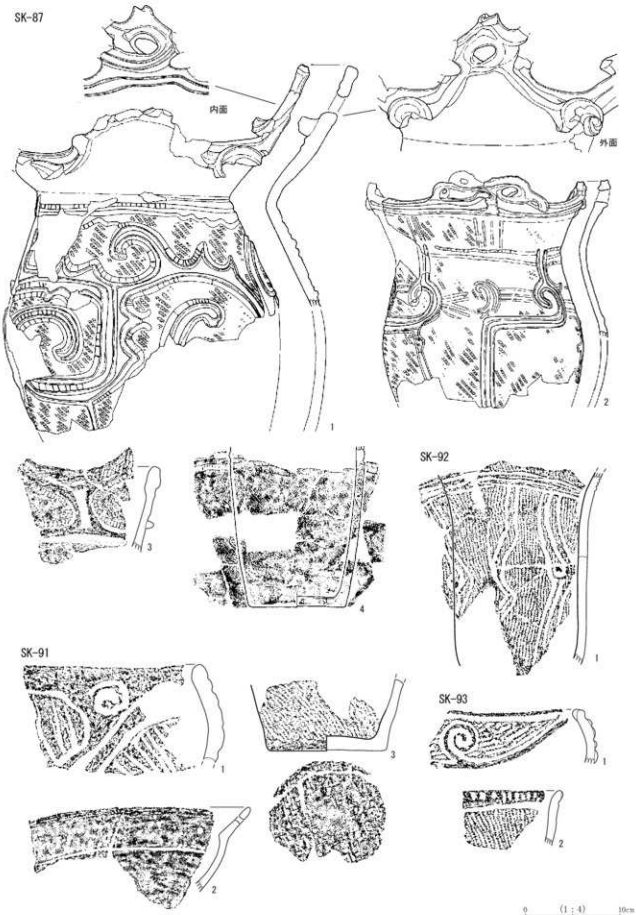
第103図 SK-74(3) 出土土器実測図



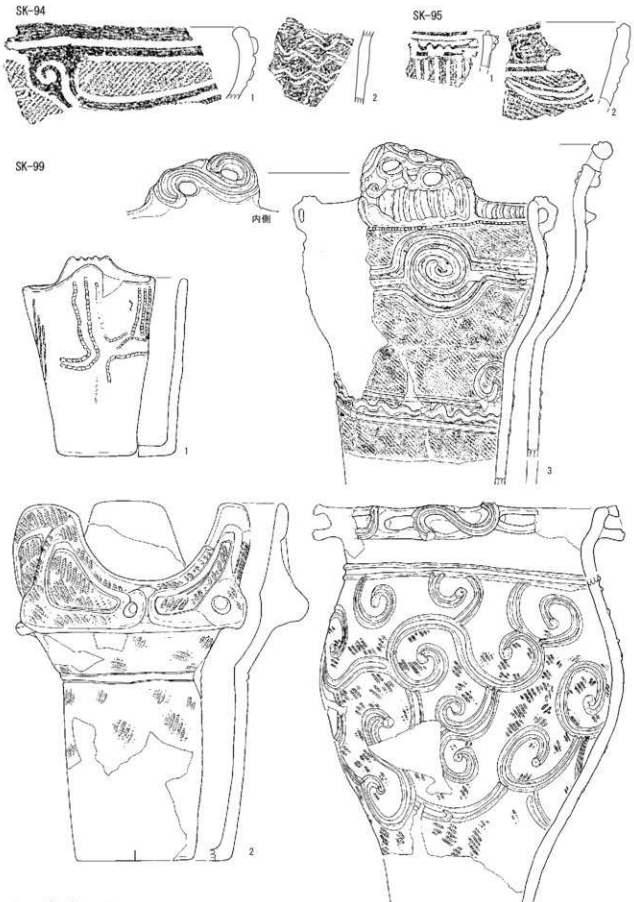
第104図 SK-75～77 出土土器実測図



第105図 SK-78~81·85·88~90 出土土器実測図



第106図 SK-87·91~93 出土土器実測図



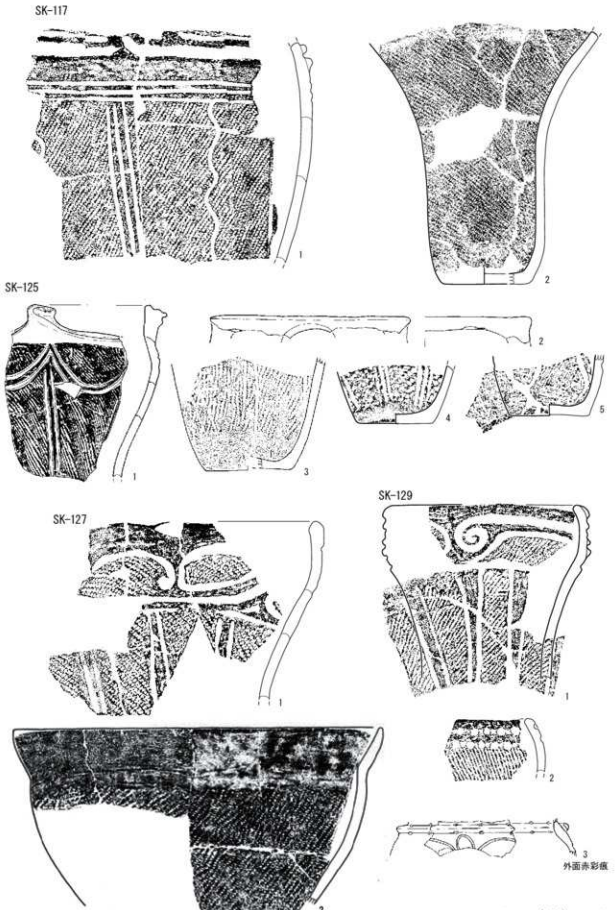
第107図 SK-94·95·99 出土土器実測図



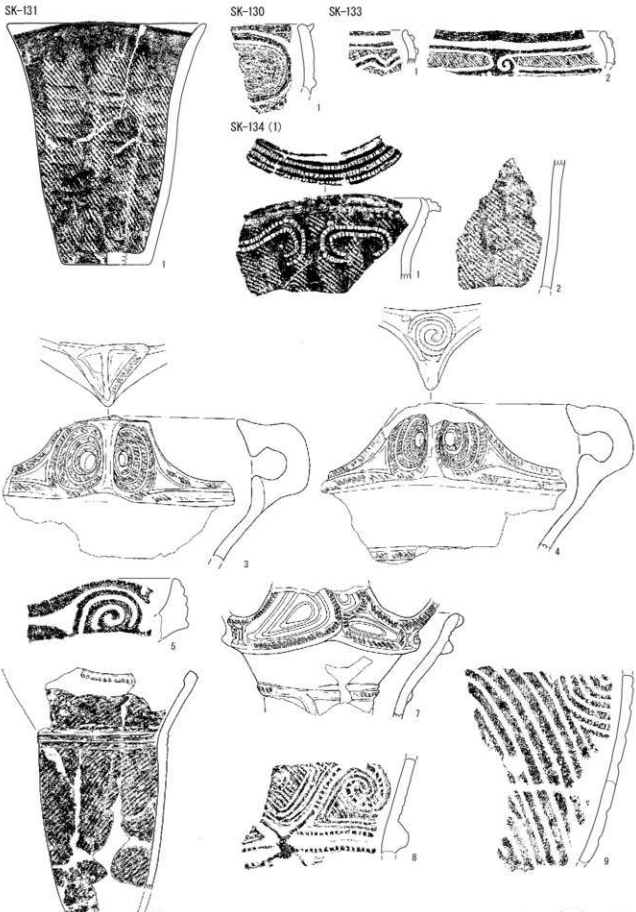
第108図 SK-96~98·100~102·104·106 出土土器実測図



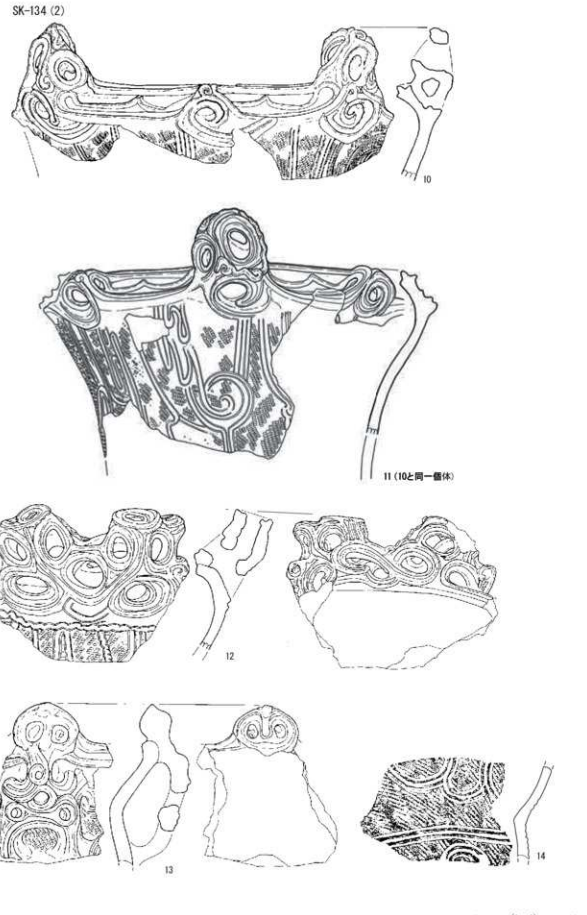
第109図 SK-107·109～113·115·118·126·128 出土土器実測図



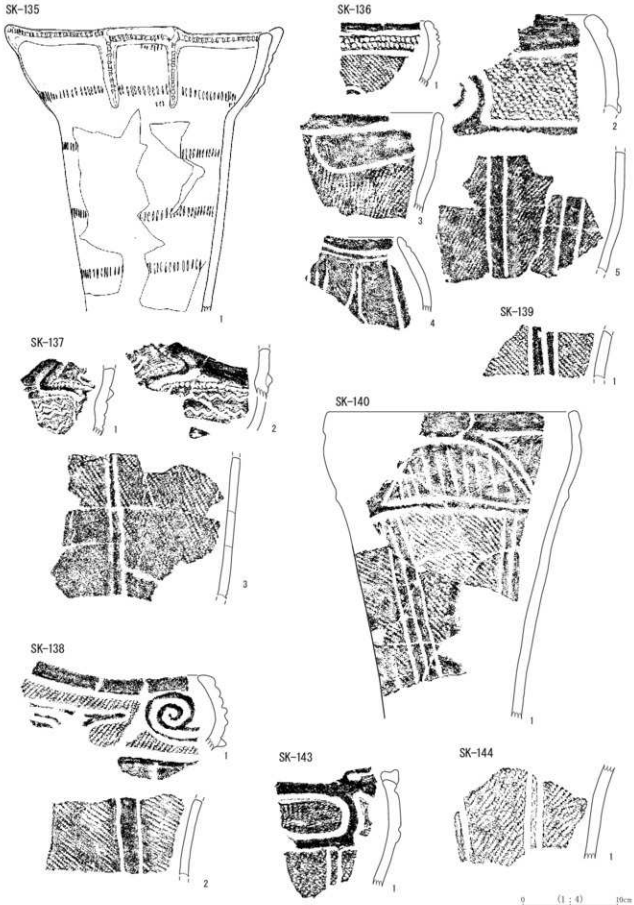
第110図 SK-117·125·127·129 出土土器実測図



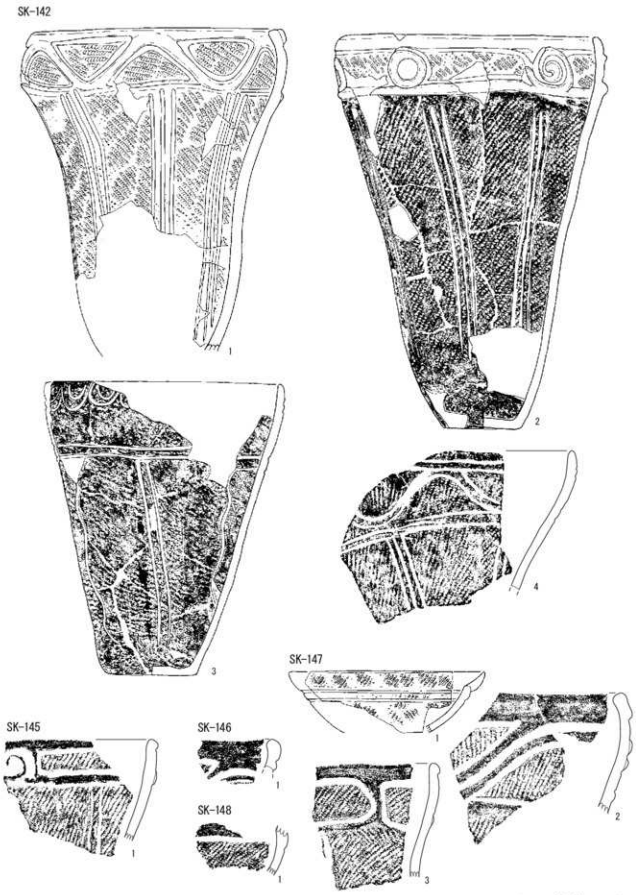
第111図 SK-130·131·133·134(1) 出土土器実測図



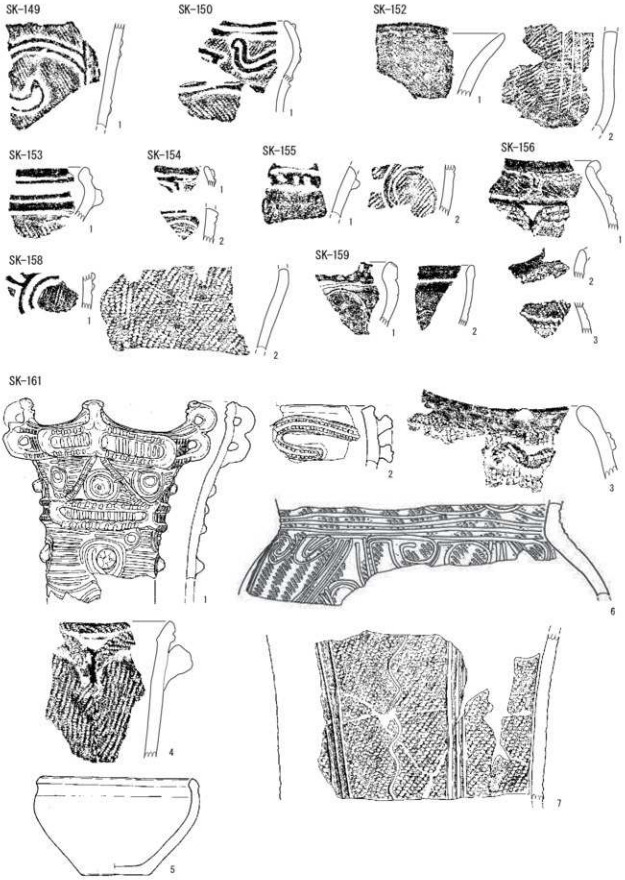
第112図 SK-134(2) 出土土器実測図



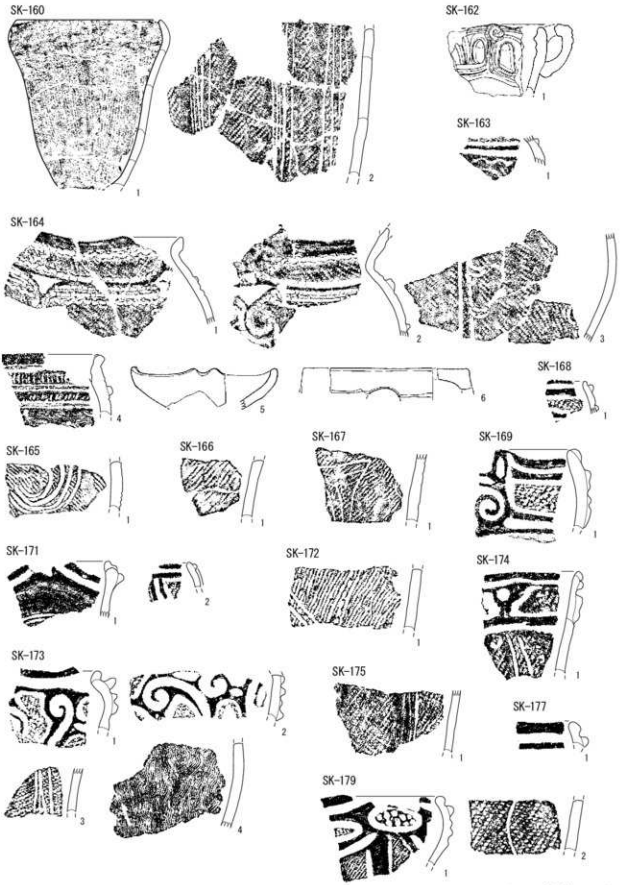
第113図 SK-135~140·143·144 出土土器実測図



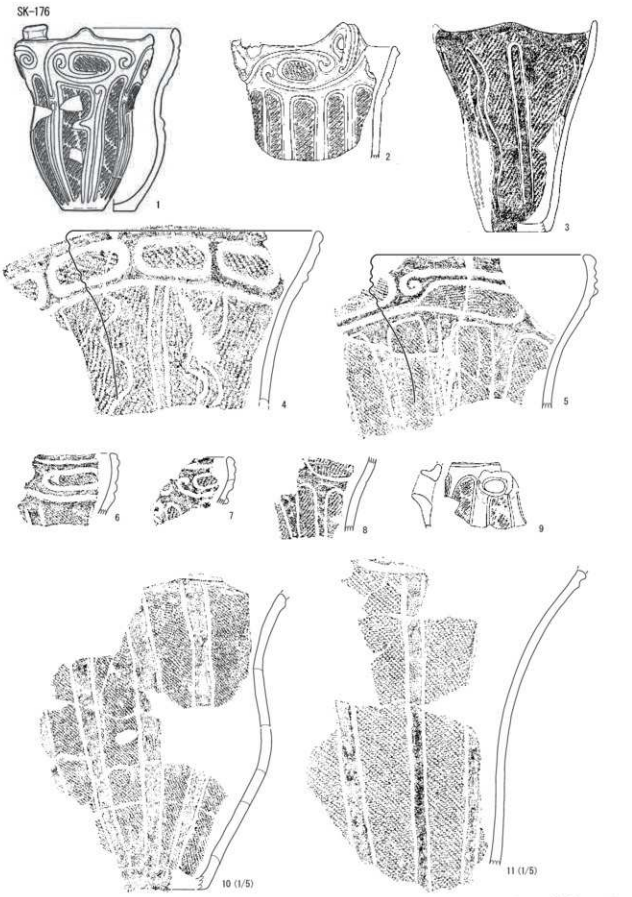
第114図 SK-142·145～148 出土土器実測図



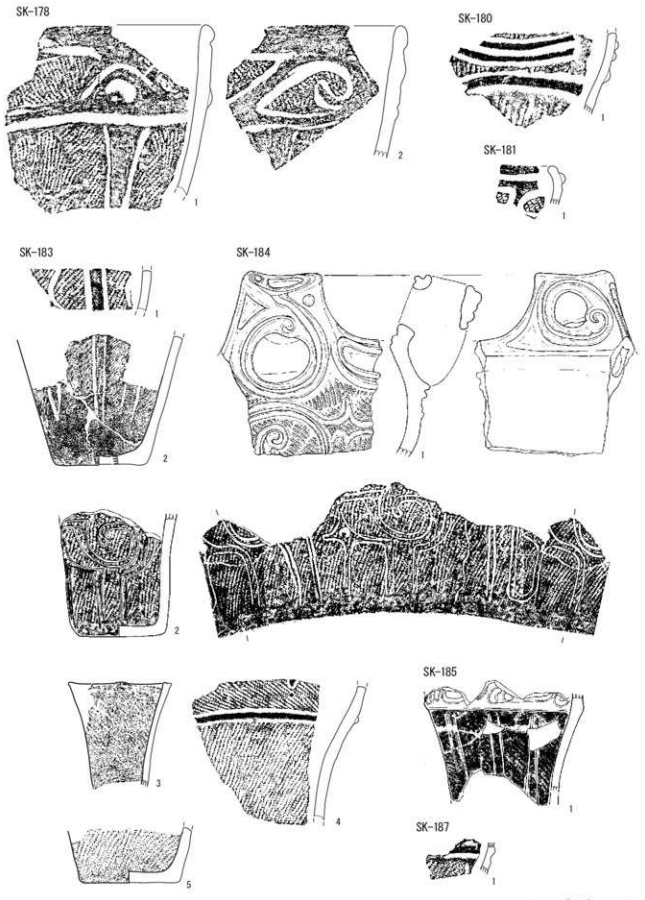
第115図 SK-149·150·152~156·158·159·161 出土土器実測図



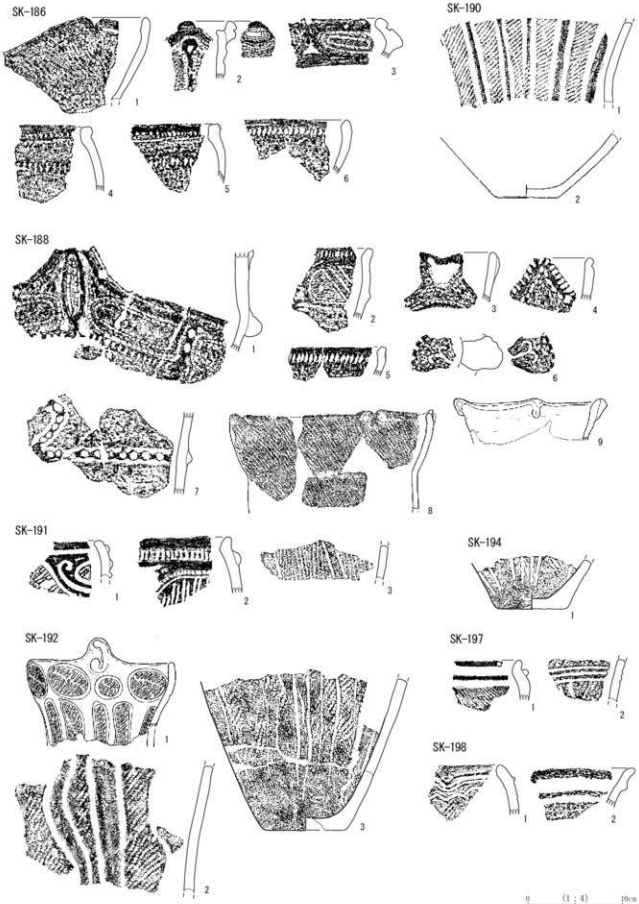
第116図 SK-160·162~169·171~175·177·179 出土土器実測図



第117図 SK-176 出土土器実測図



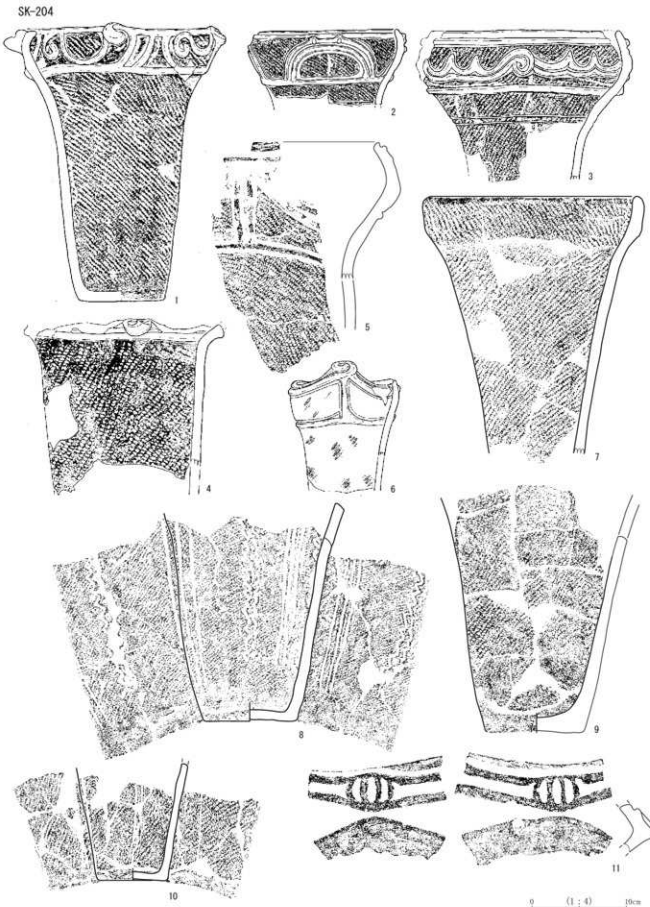
第118図 SK-178·180·181·183～185·187 出土土器実測図



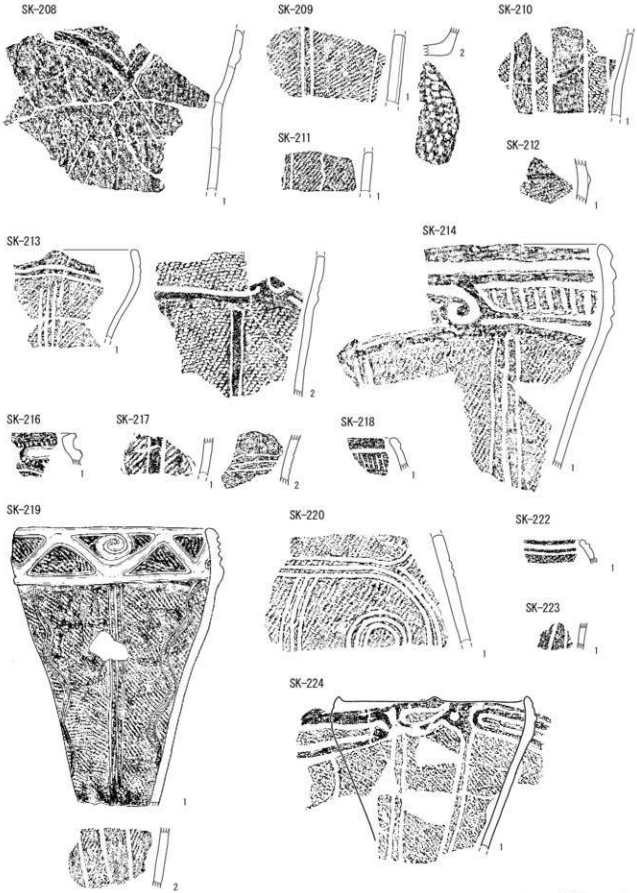
第119図 SK-186·188·190~192·194·197·198 出土土器実測図



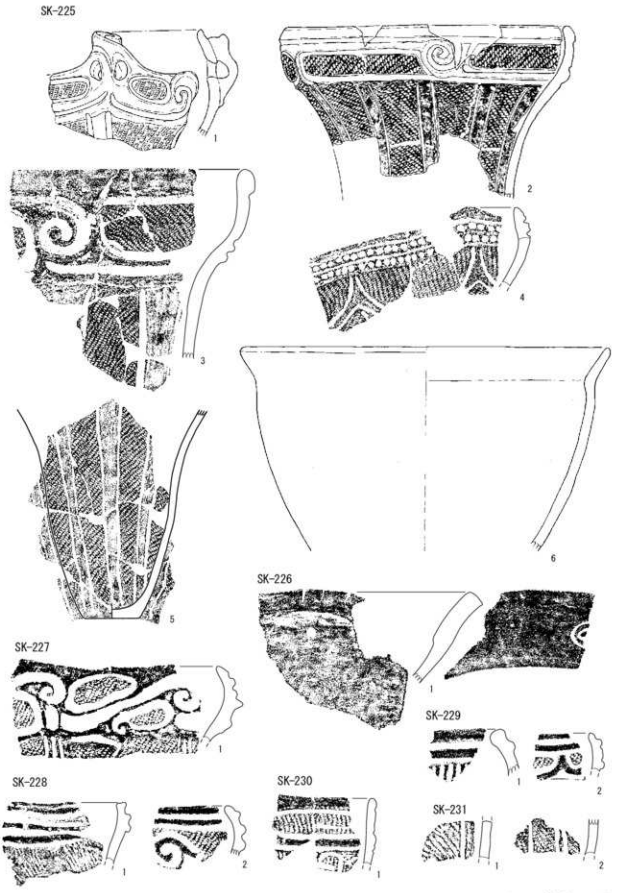
第120図 SK-193·195·199~202·205~207 出土土器実測図



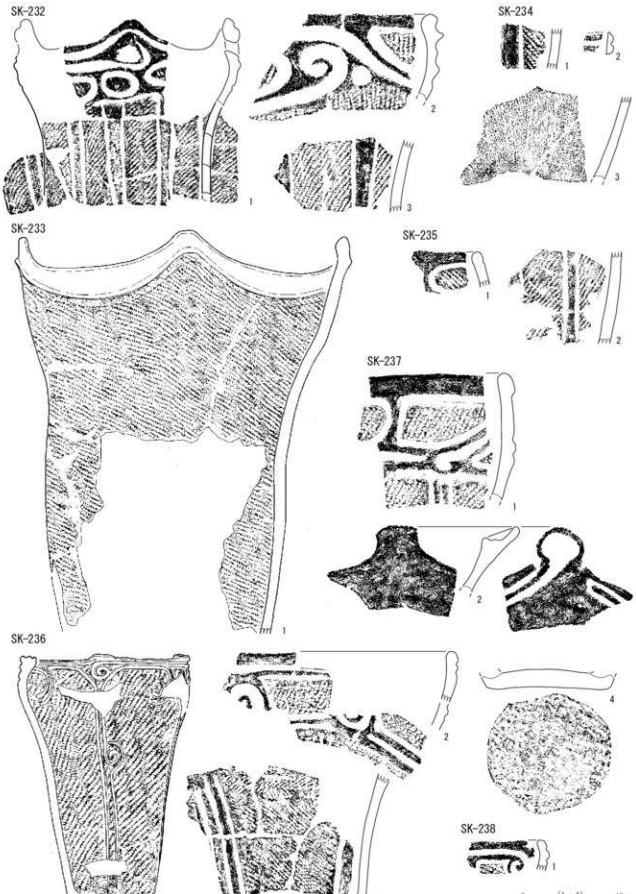
第121図 SK-204 出土土器実測図



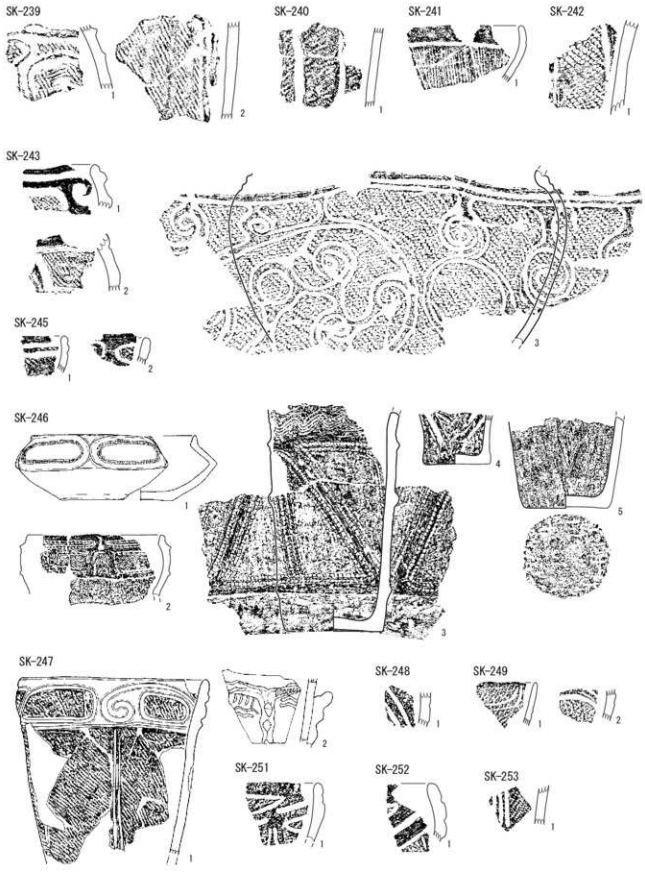
第122図 SK-208~214·216~220·222~224 出土土器実測図



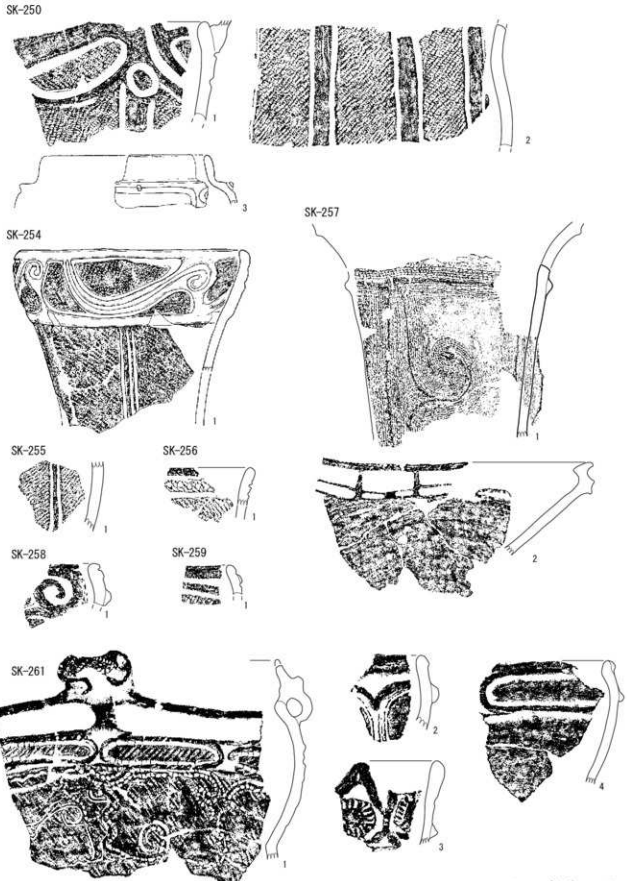
第123図 SK-225～231 出土土器実測図



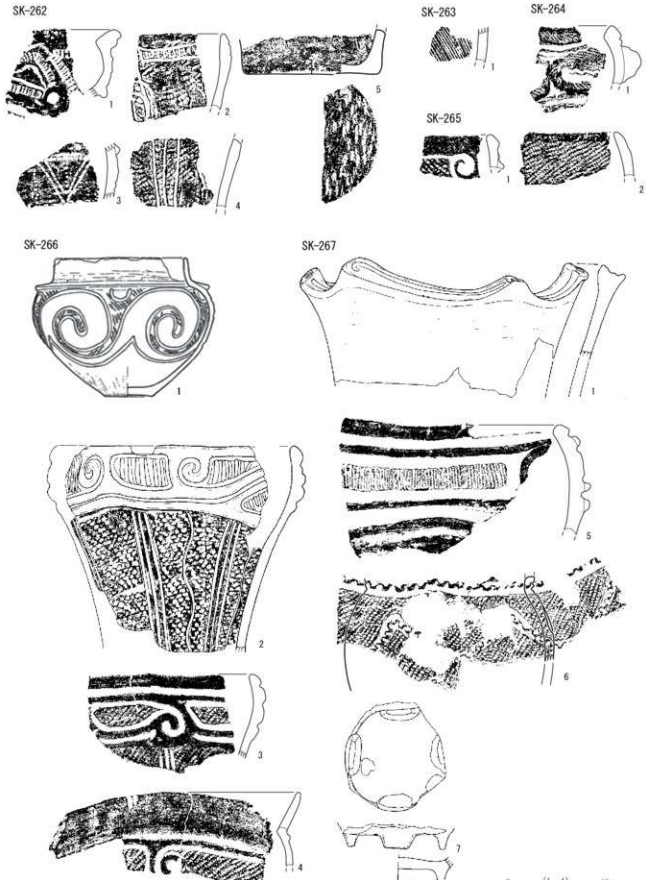
第124図 SK-232～238 出土土器実測図



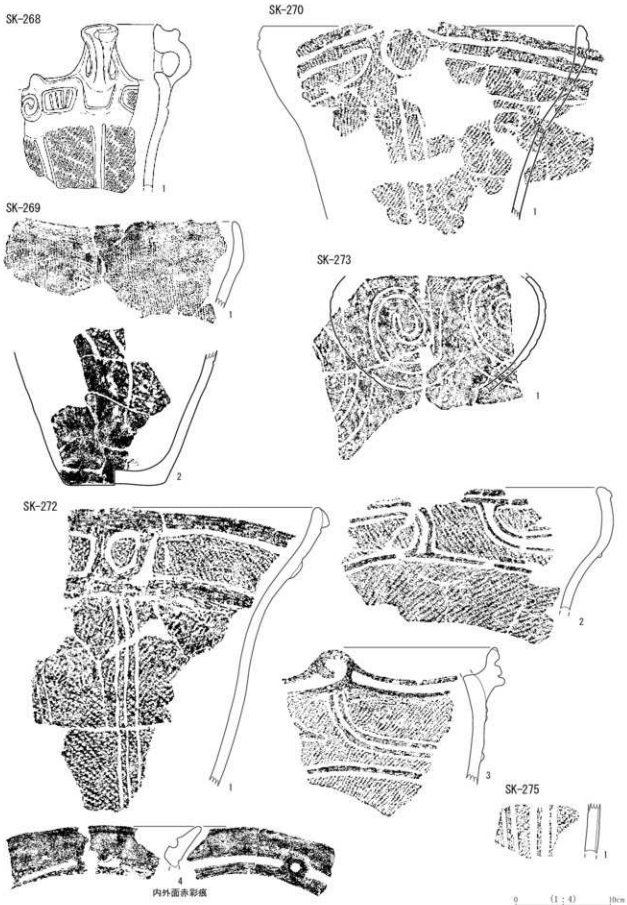
第125図 SK-239~243·245~249·251~253 出土土器実測図



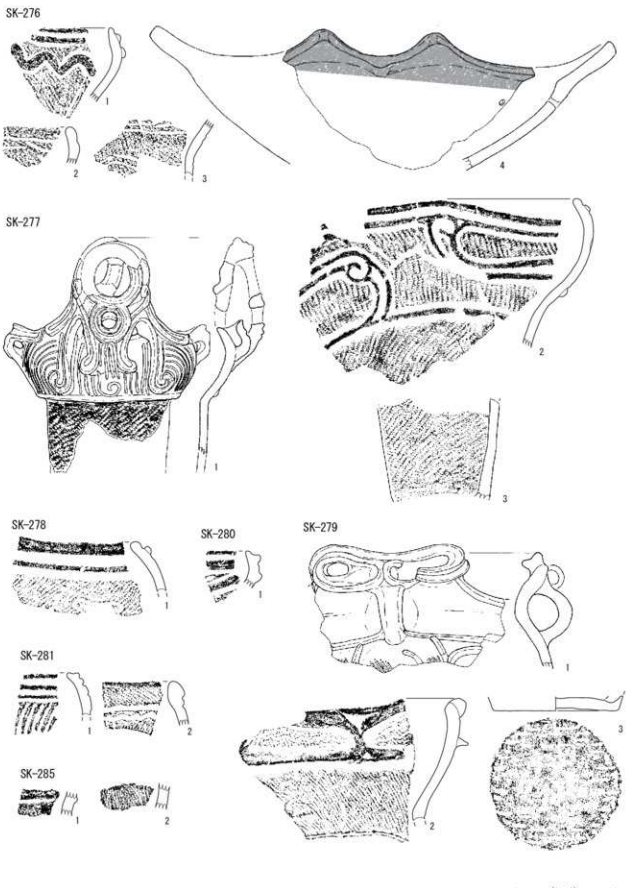
第126図 SK-250·254～259·261 出土土器実測図



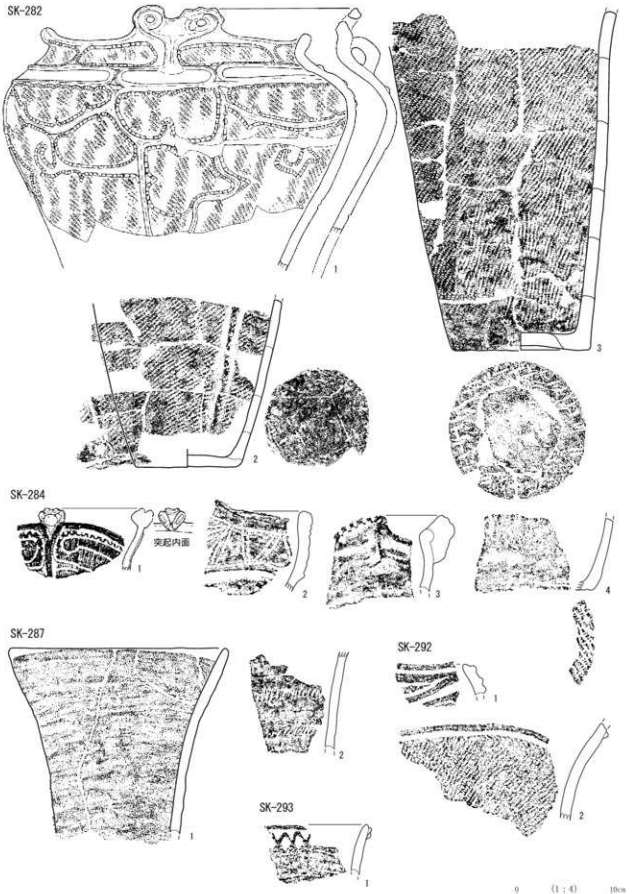
第127図 SK-262~267 出土土器実測図



第128図 SK-268～270・272・273・275 出土土器実測図

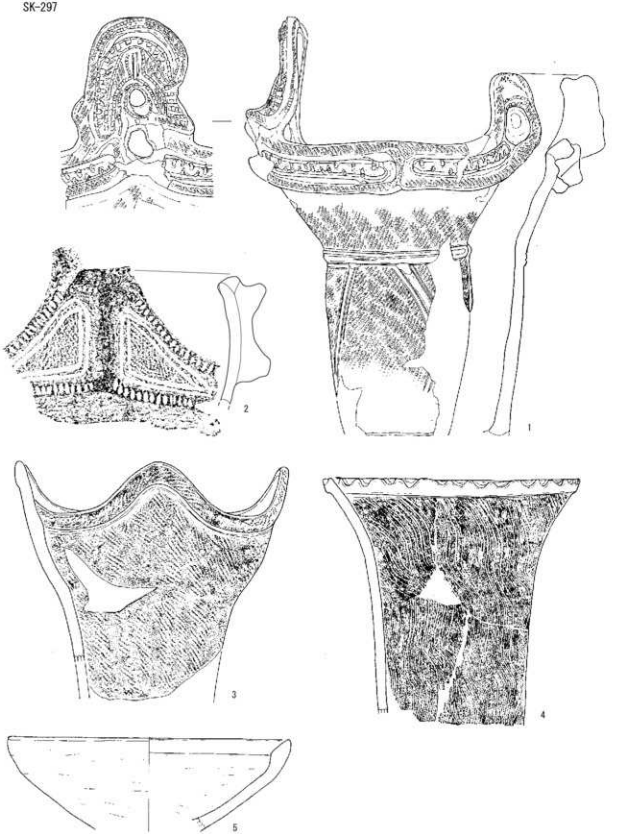


第129図 SK-276~281·285 出土土器実測図

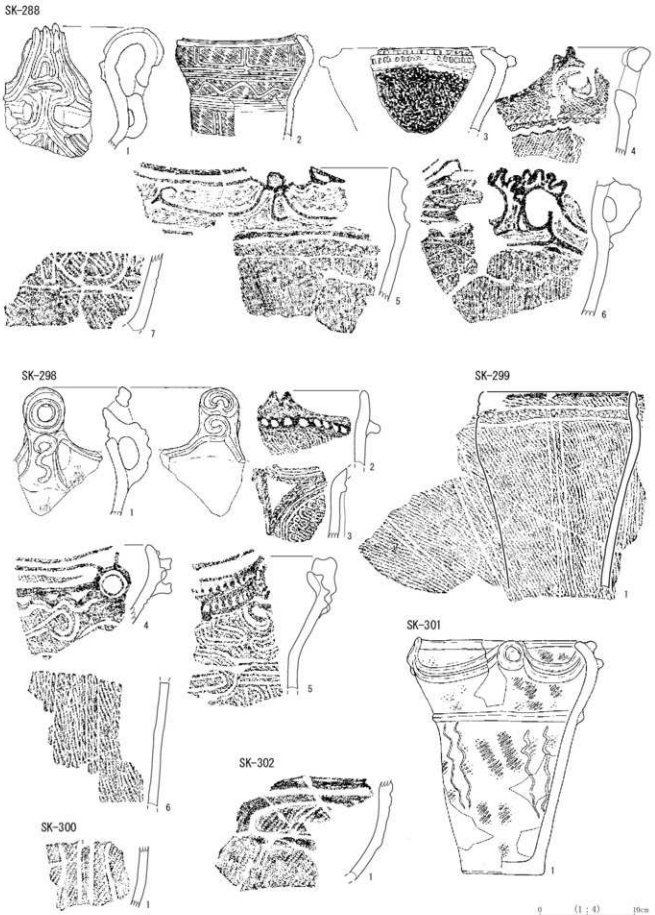


第130図 SK-282·284·287·292·293 出土土器実測図

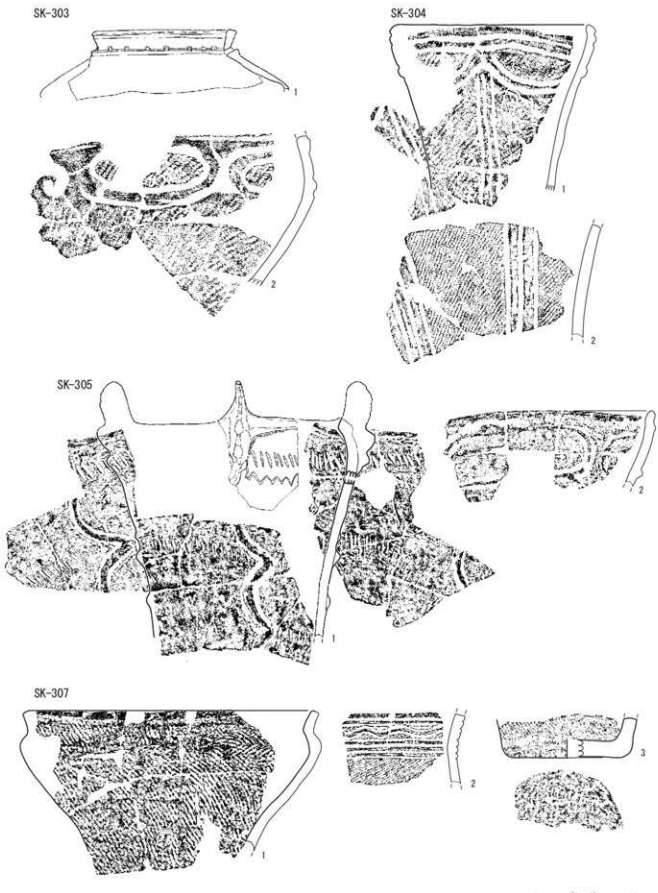
SK-297



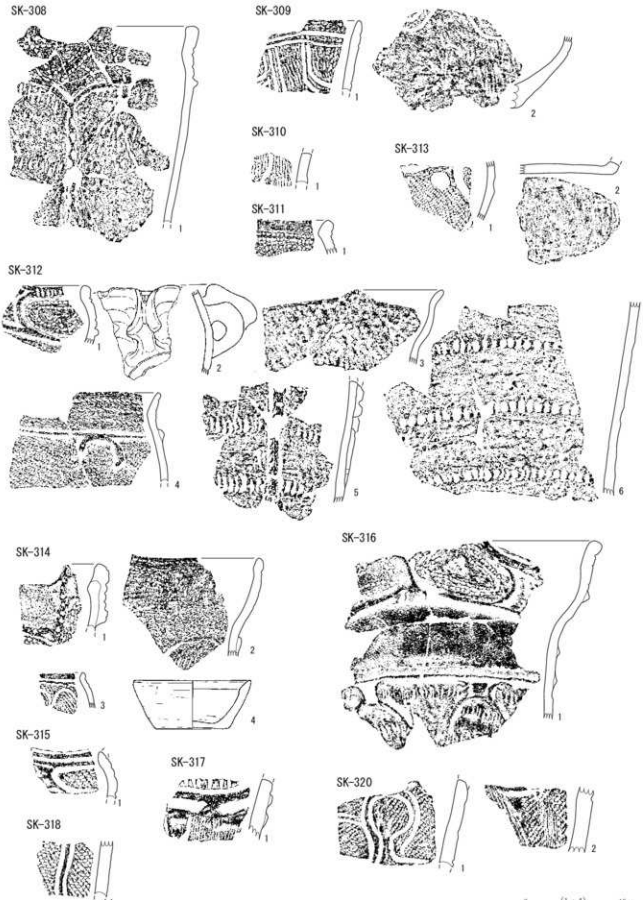
第131図 SK-297 出土土器実測図



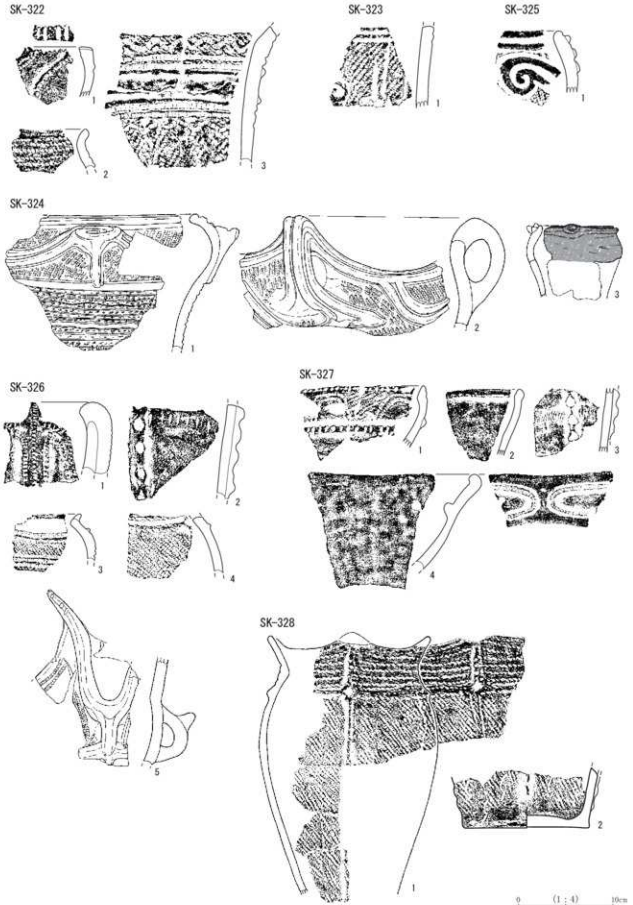
第132図 SK-288·298~302 出土土器実測図



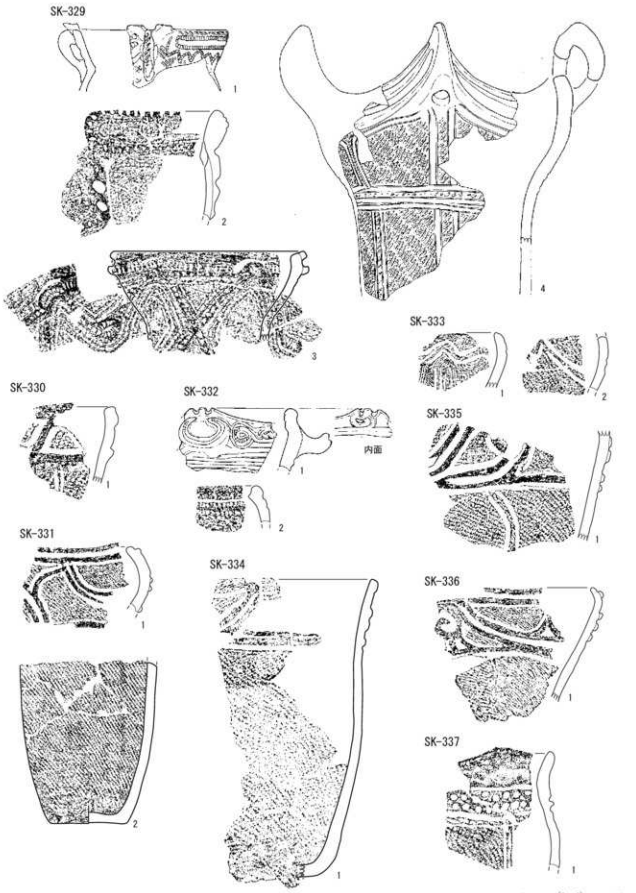
第133図 SK-303~305·307 出土土器実測図



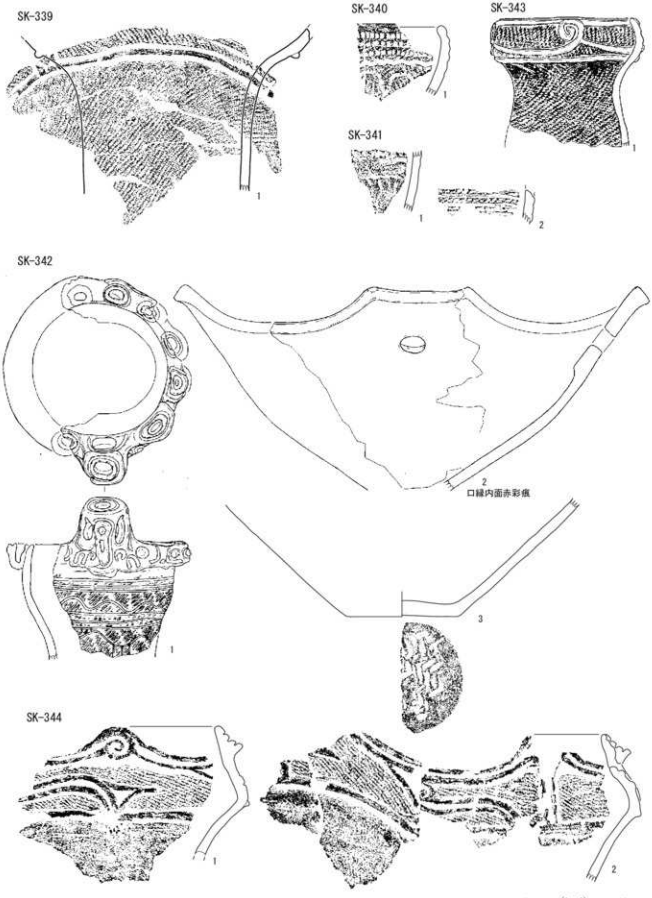
第134図 SK-308～318･320 出土土器実測図



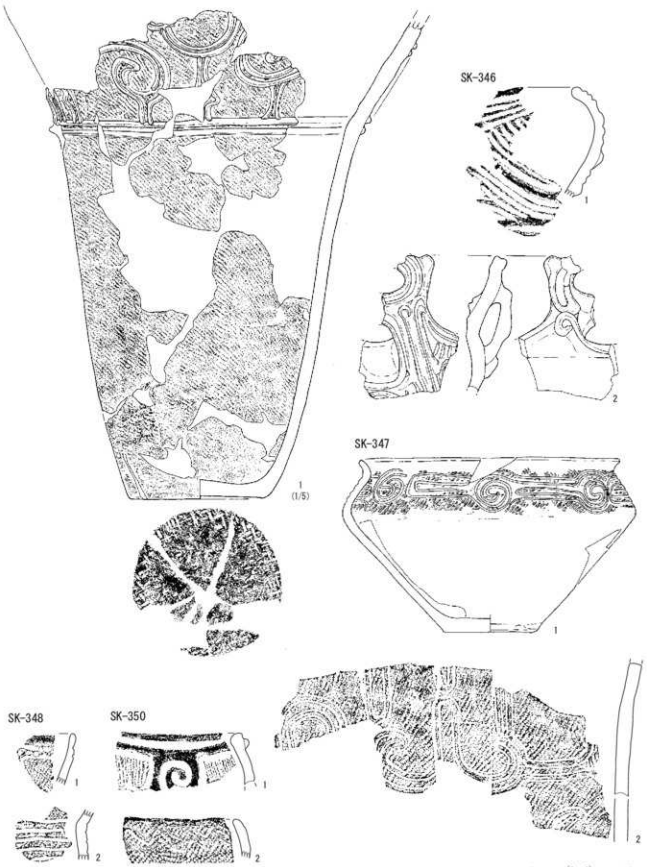
第135図 SK-322~328 出土土器実測図



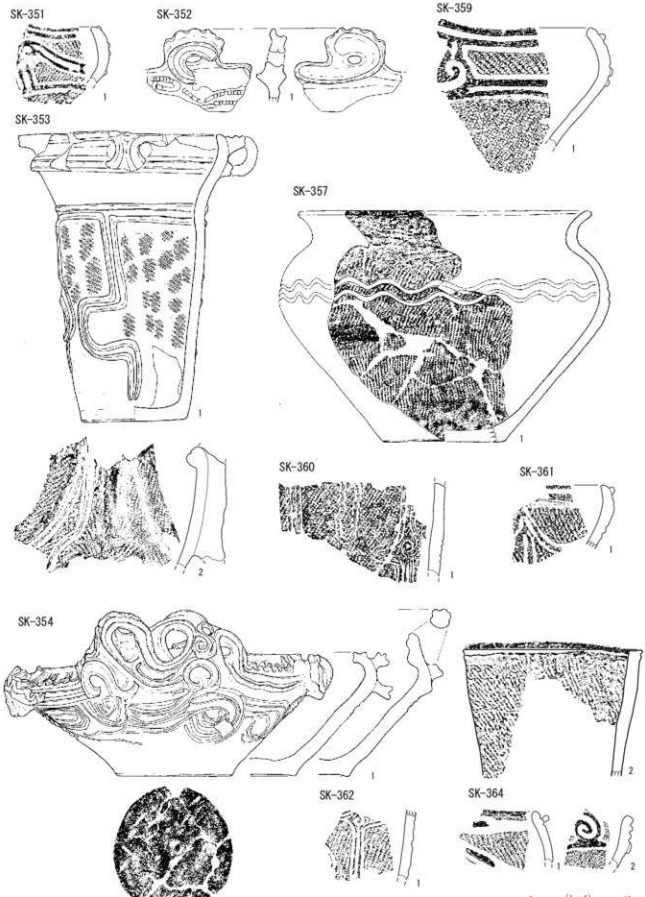
第136図 SK-329～337 出土土器実測図



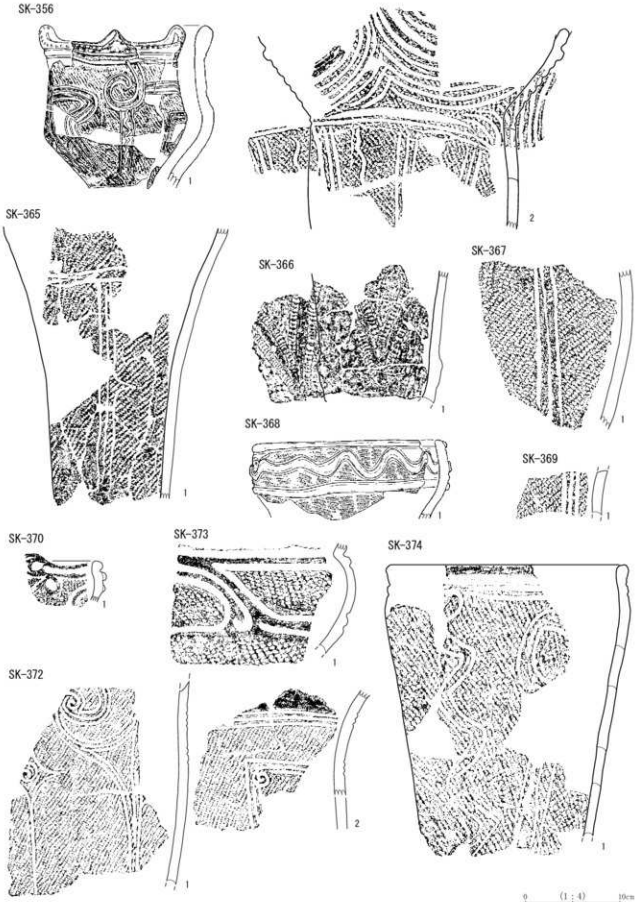
第137図 SK-339~344 出土土器実測図



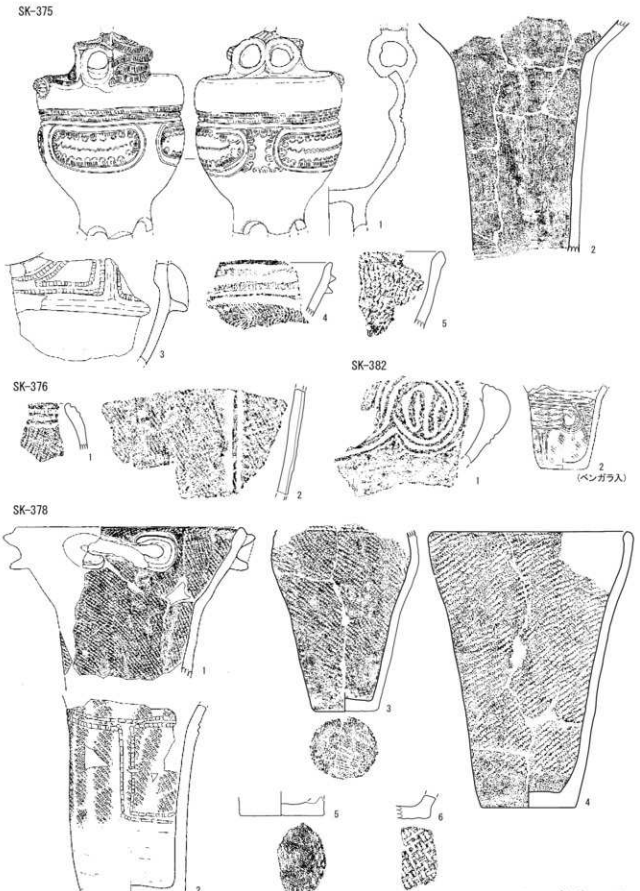
第138図 SK-345~348·350 出土土器実測図



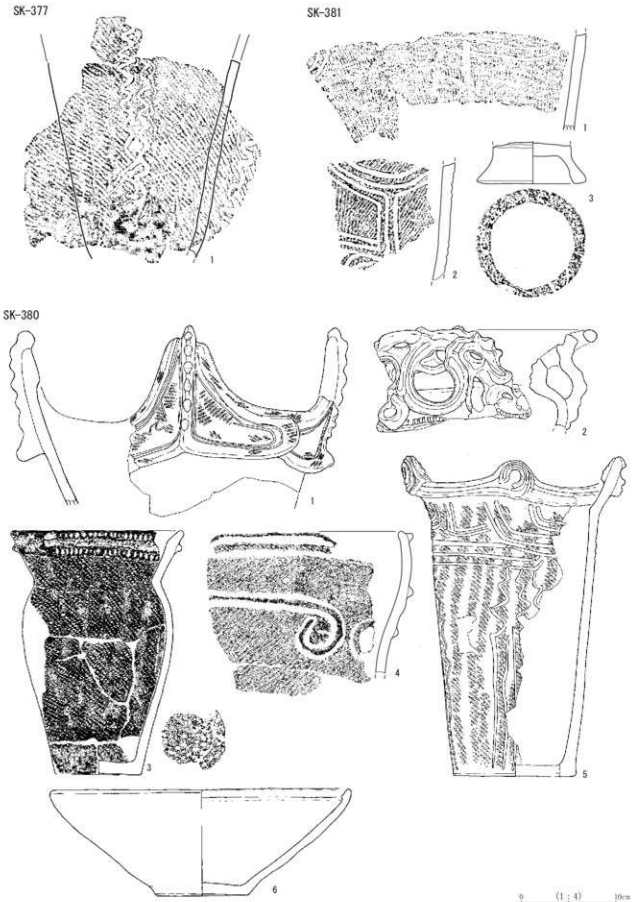
第139図 SK-351~354·357·359~362·364 出土土器実測図



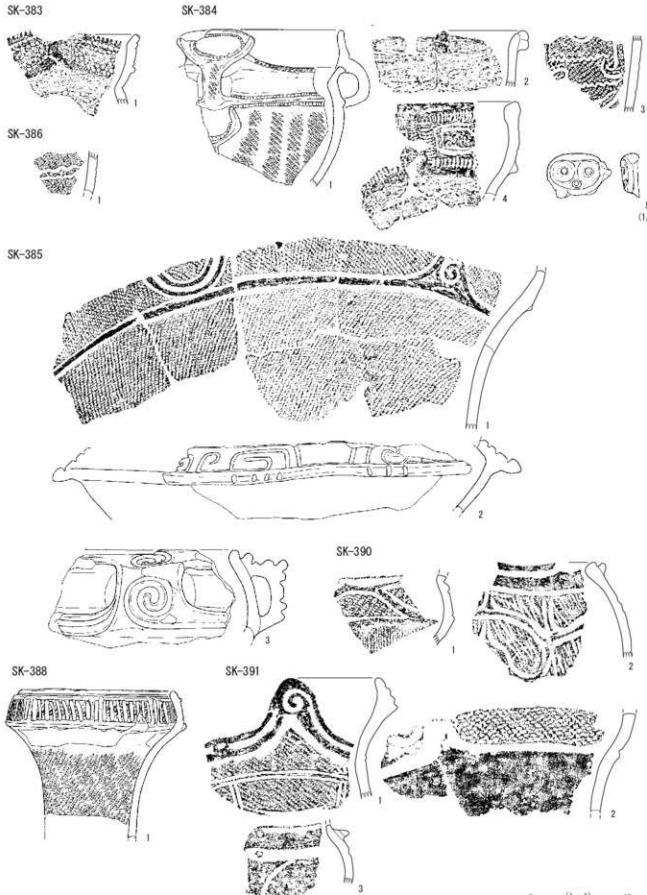
第140図 SK-356·365~370·372~374 出土土器実測図



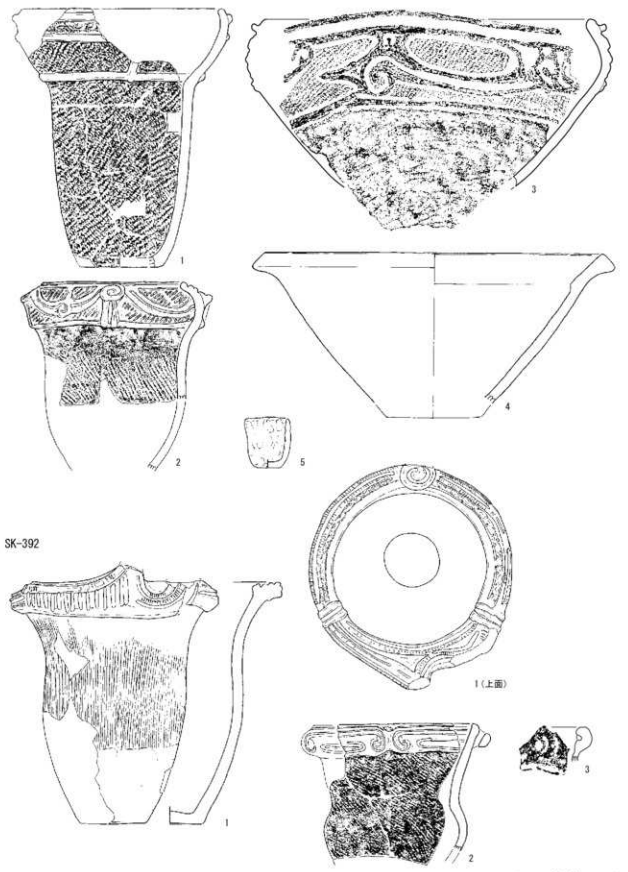
第141図 SK-375·376·378·382 出土土器実測図



第142図 SK-377·380·381 出土土器実測図



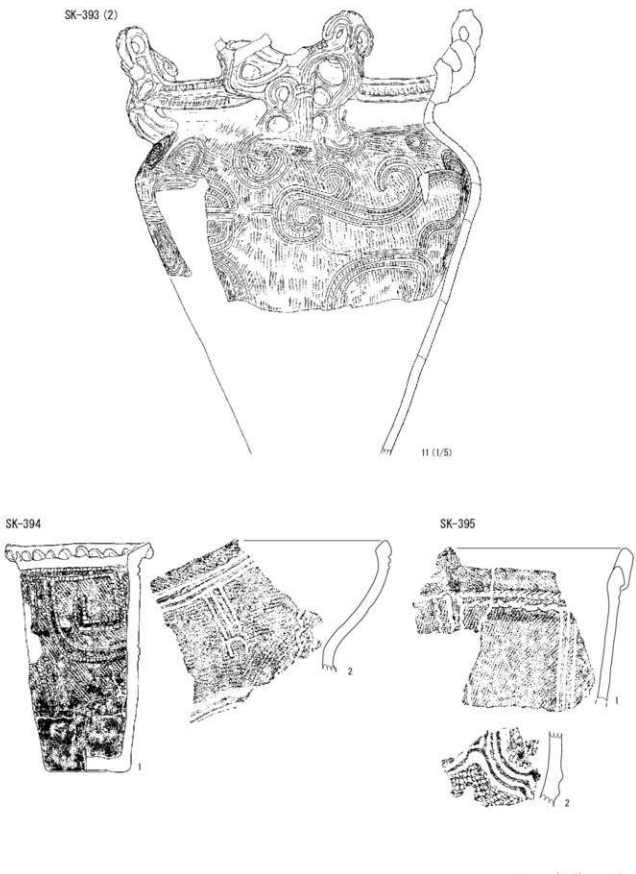
第143図 SK-383~386·388·390·391 出土土器実測図



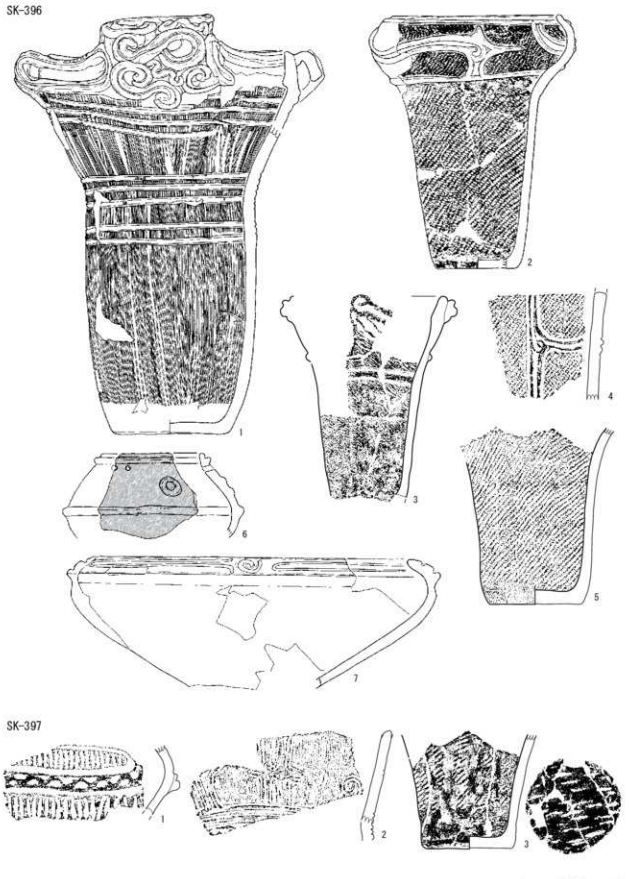
第144図 SK-389･392 出土土器実測図



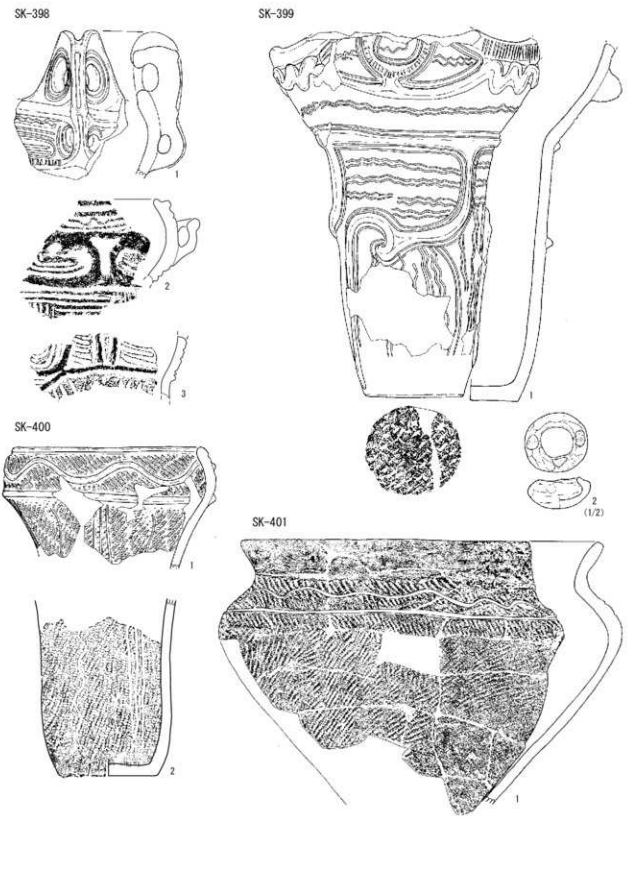
第145図 SK-393(1) 出土土器実測図



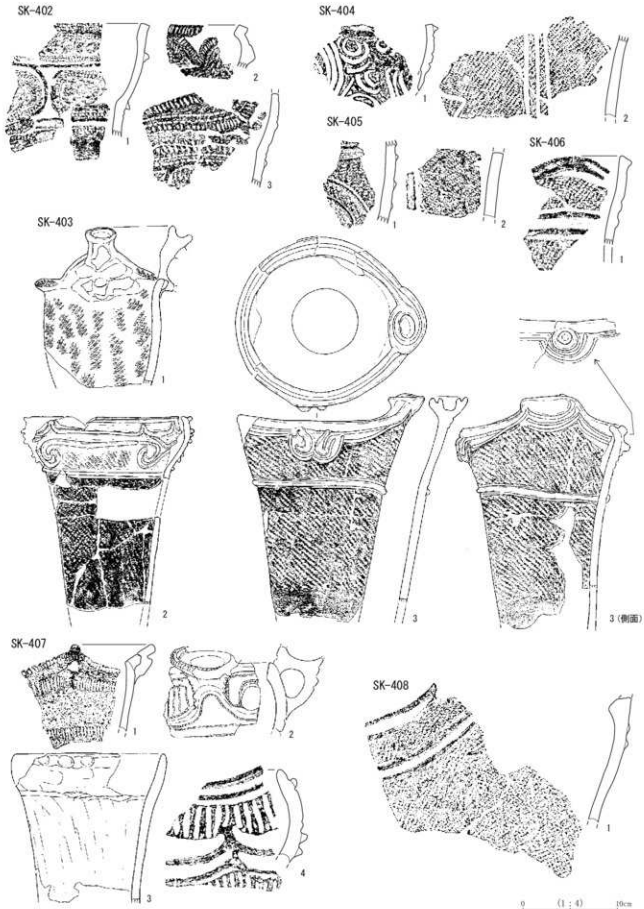
第146図 SK-393(2)～395 出土土器実測図



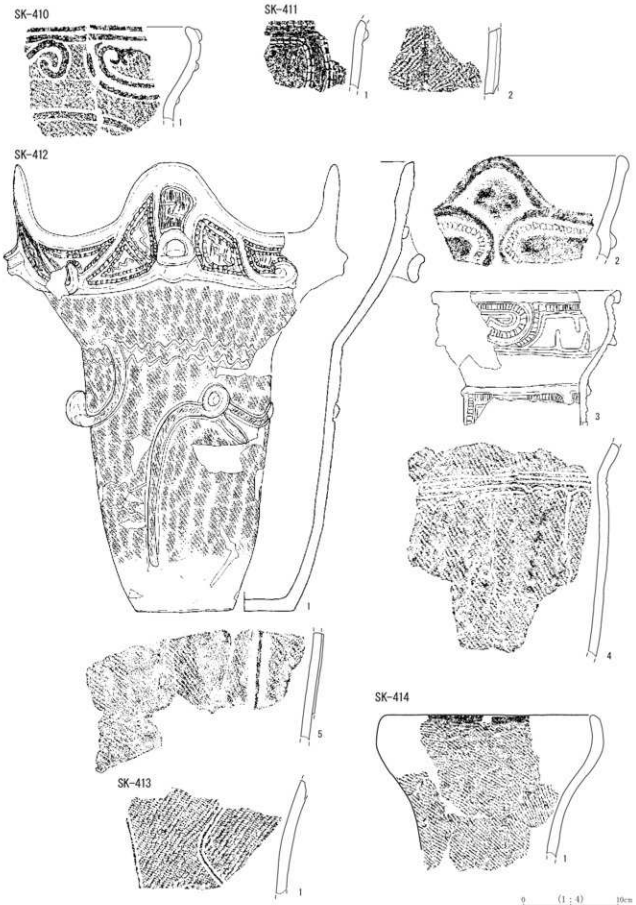
第147図 SK-396･397 出土土器実測図



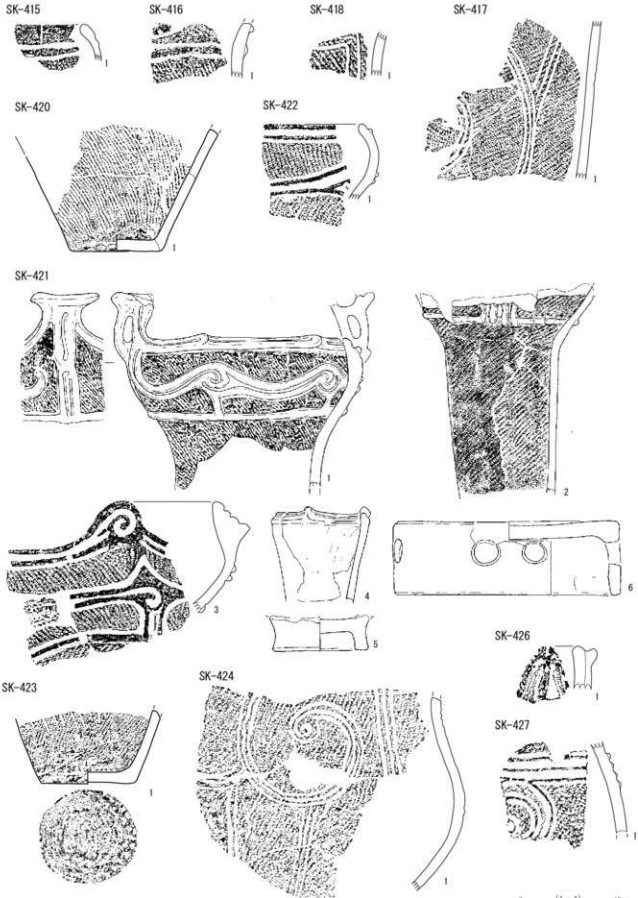
第148図 SK-398~401 出土土器実測図



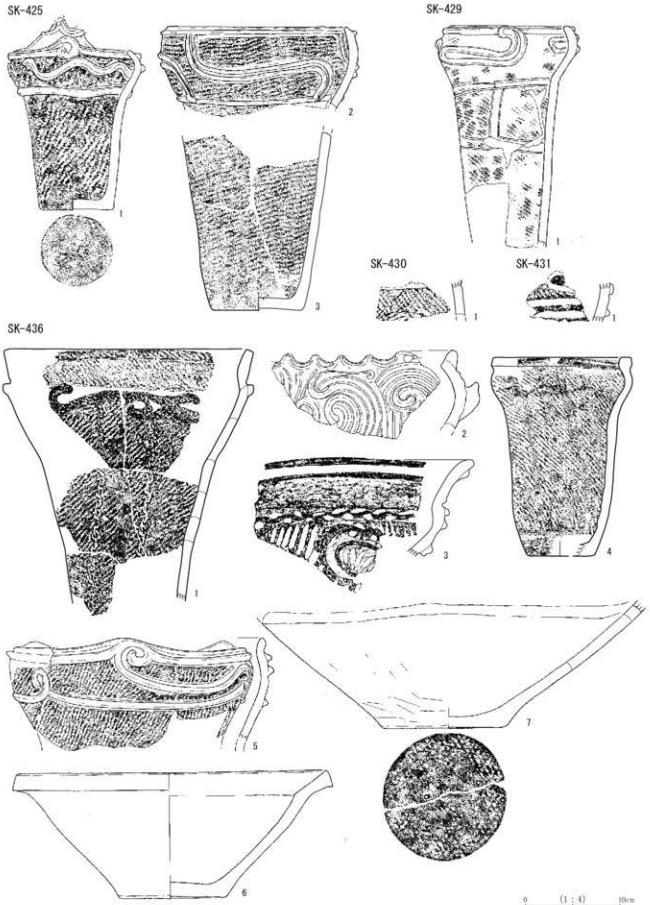
第149図 SK-402～408 出土土器実測図



第150図 SK-410～414 出土土器実測図



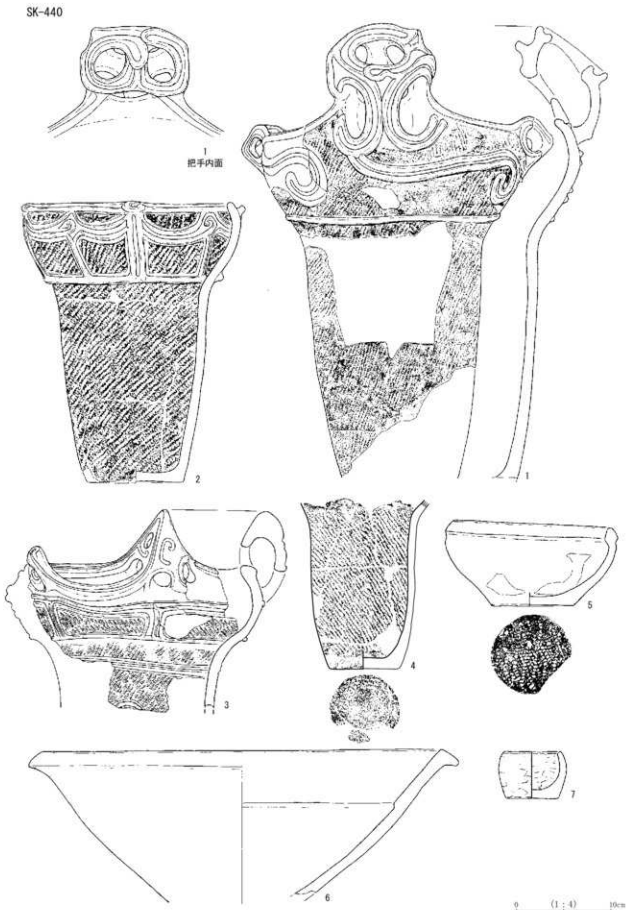
第151図 SK-415~418·420~424·426·427 出土土器実測図



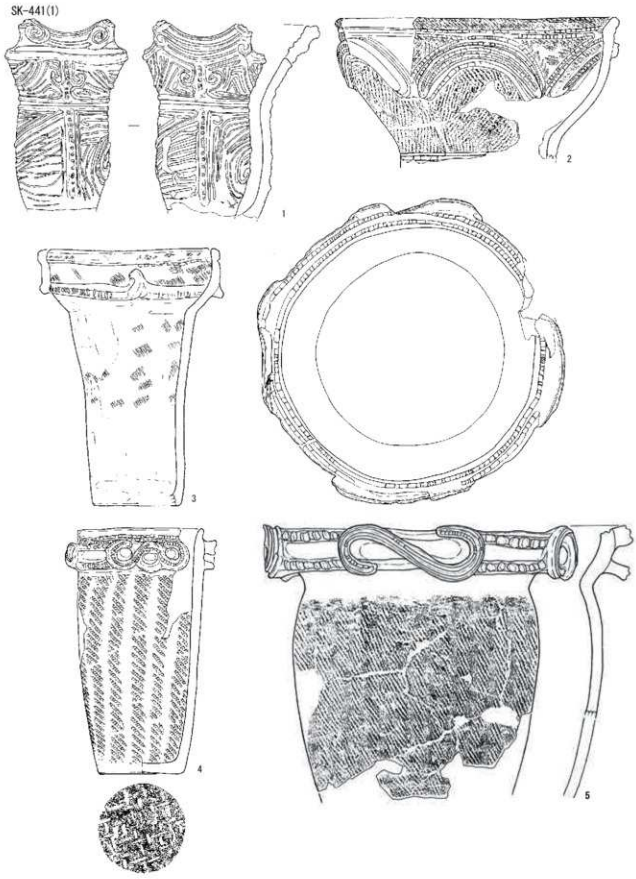
第152図 SK-425·429~431·436 出土土器実測図



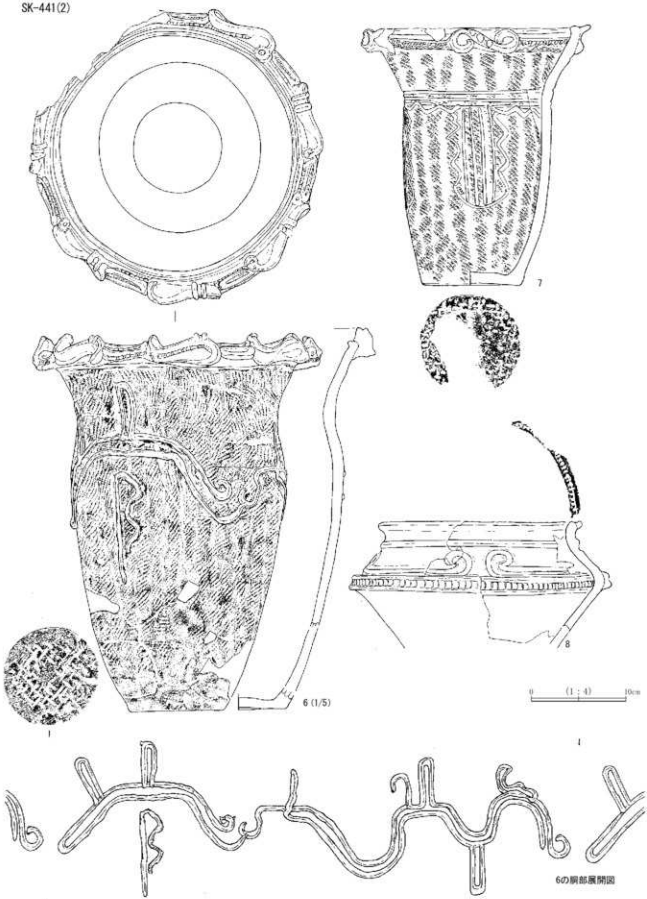
第153図 SK-433·434·437~439 出土遺物実測図



第154図 SK-440 出土土器実測図



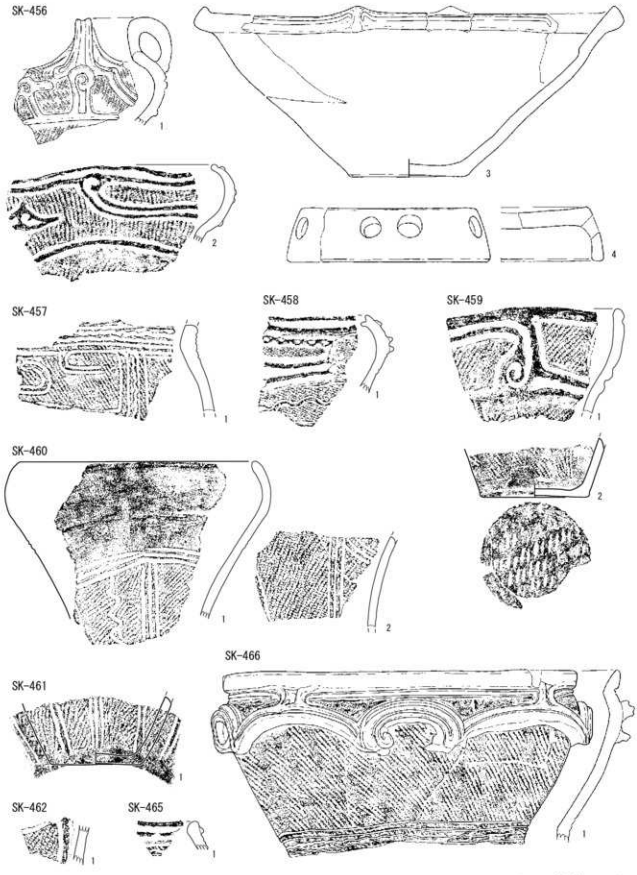
第155図 SK-441(1) 出土土器実測図



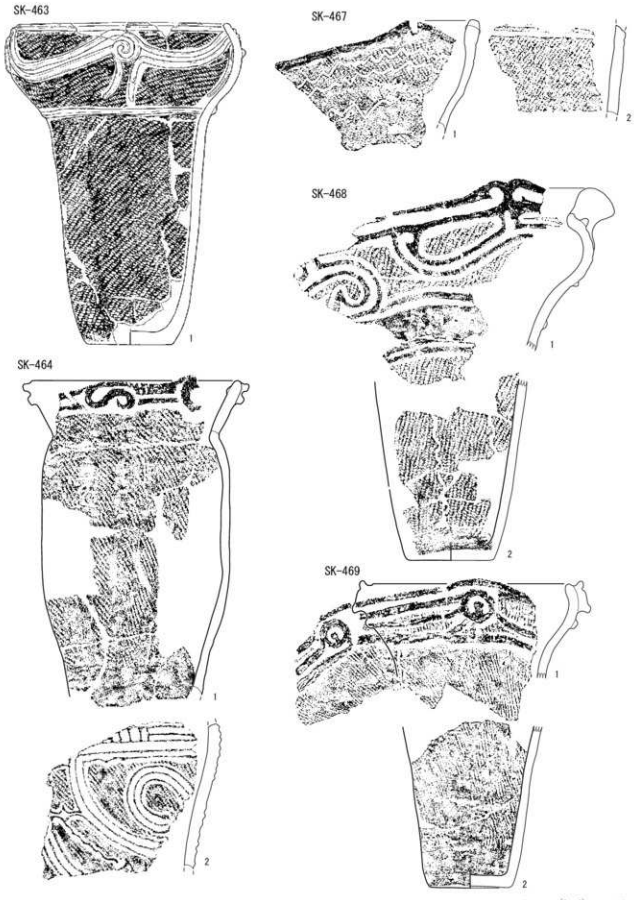
第156図 SK-441(2) 出土土器実測図



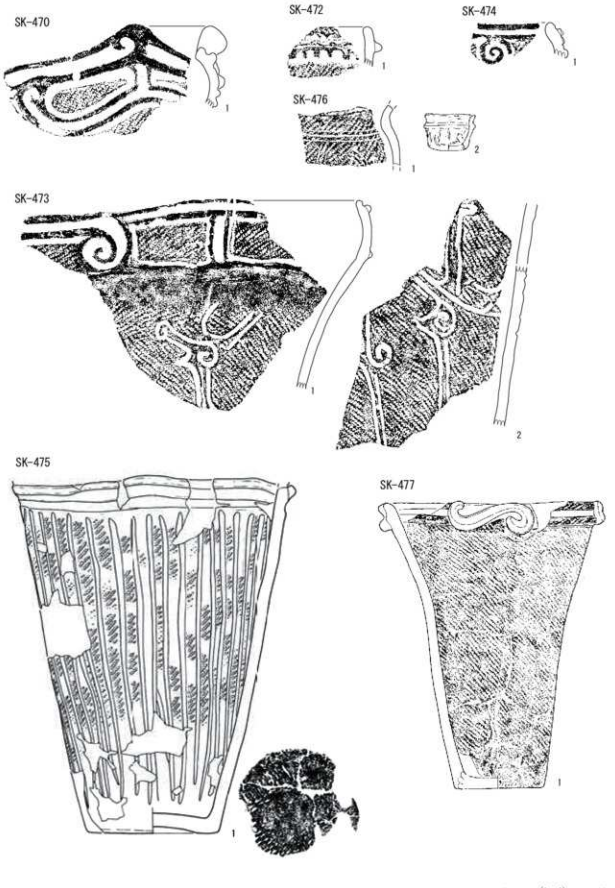
第157図 SK-442~452·454·455 出土土器実測図



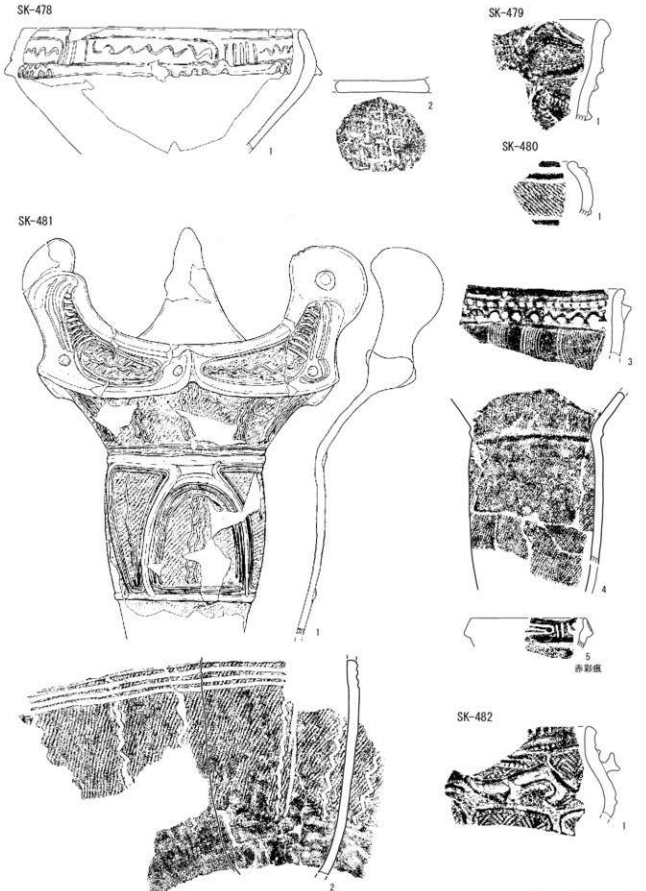
第158図 SK-456~462·465·466 出土土器実測図



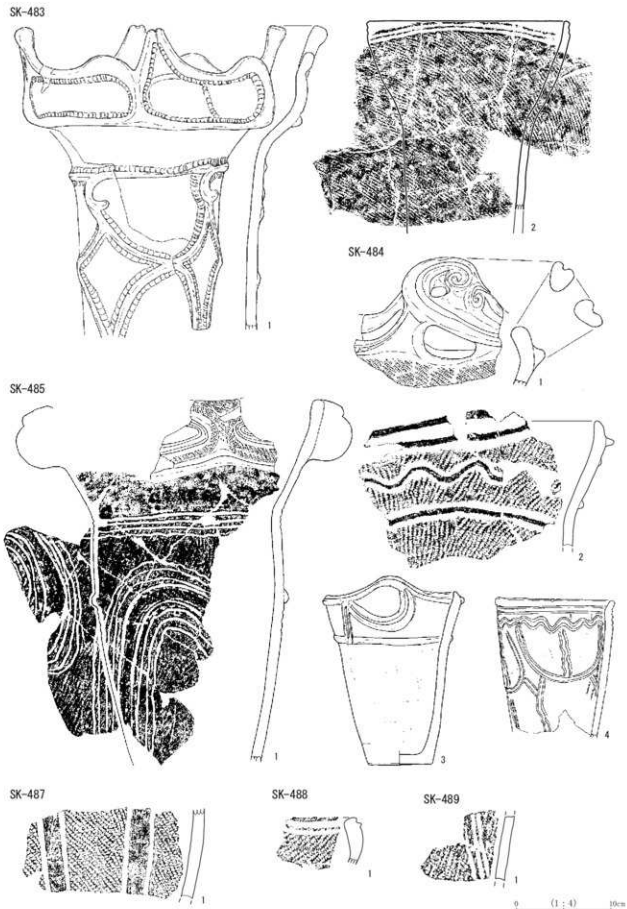
第159図 SK-463·464·467~469 出土土器実測図



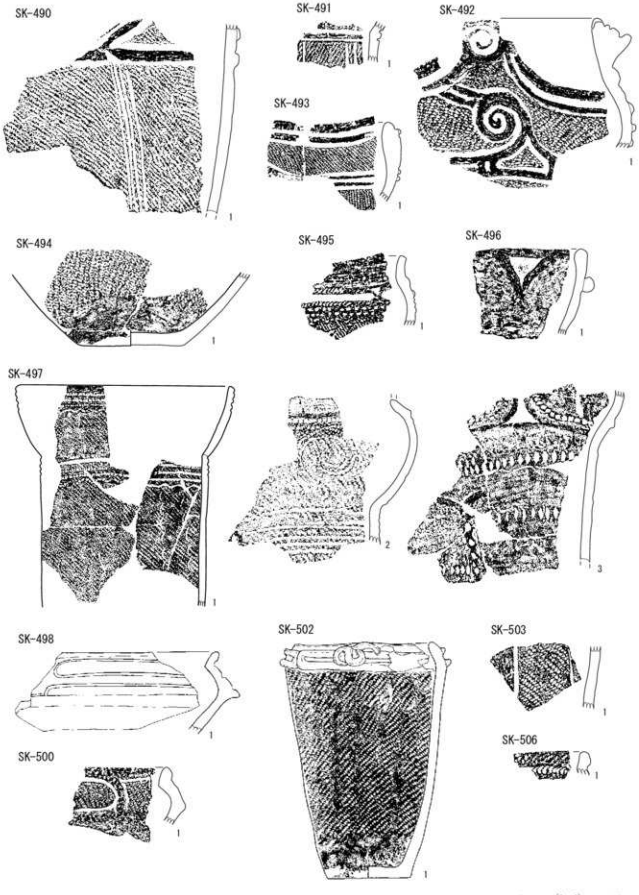
第160図 SK-470·472~477 出土土器実測図



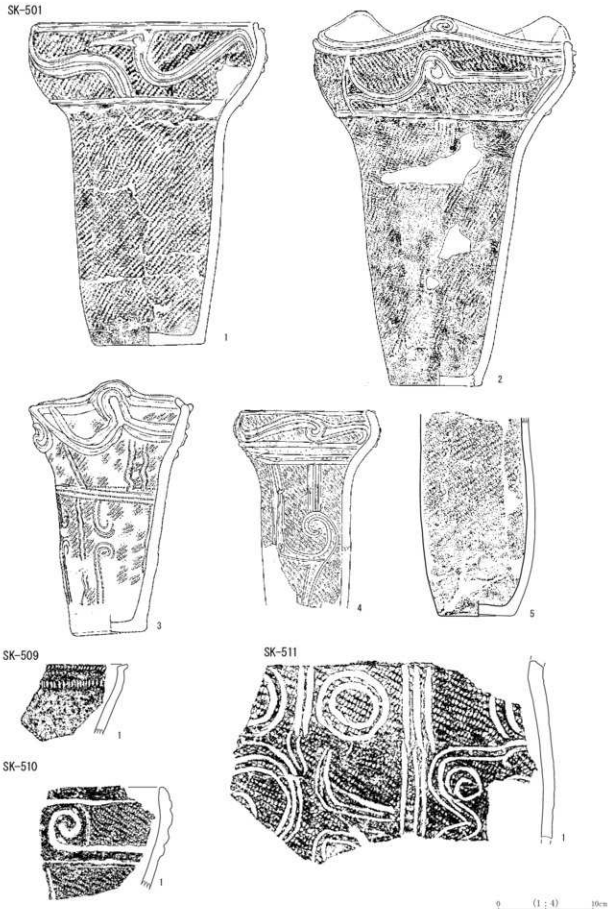
第161図 SK-478~482 出土土器実測図



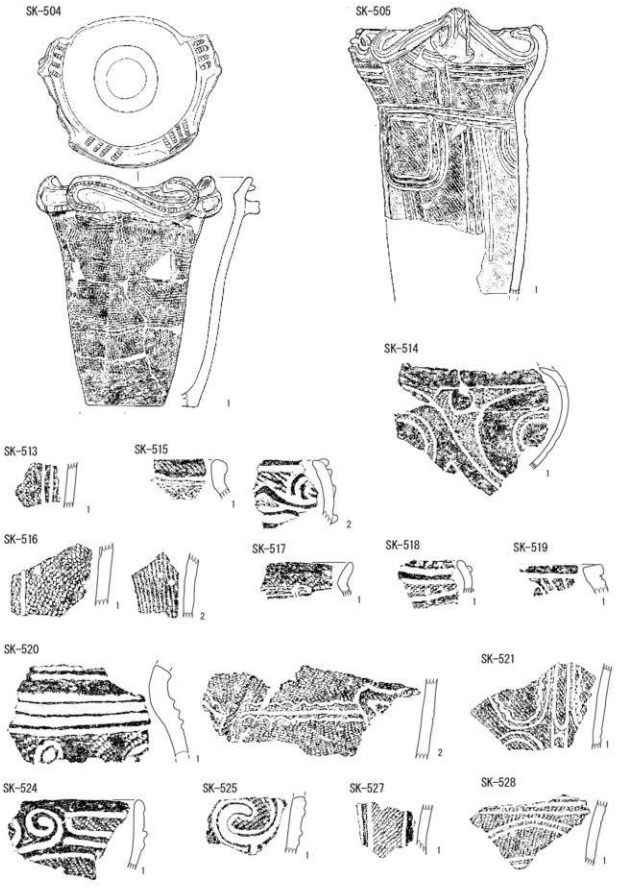
第162図 SK-483~485·487~489 出土土器実測図



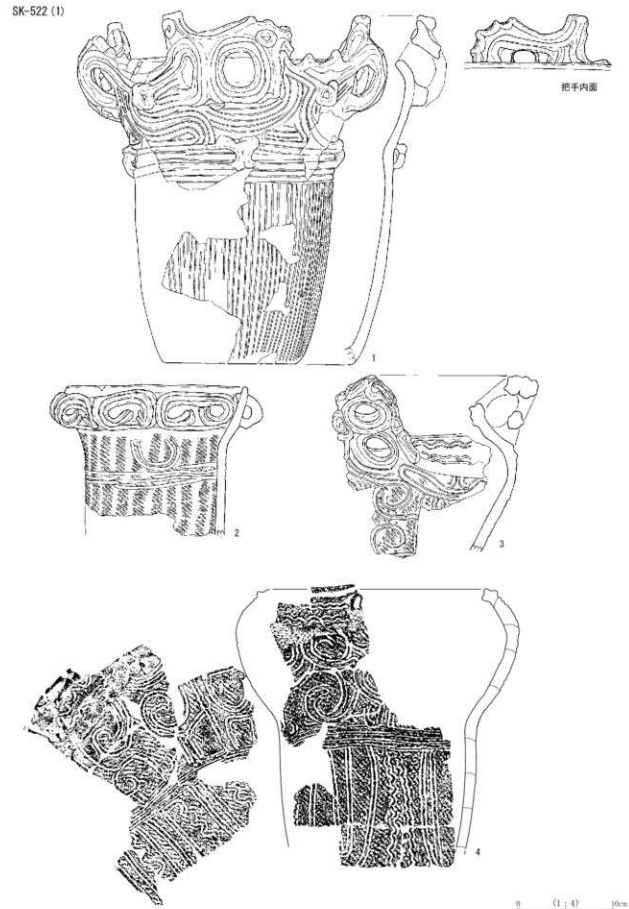
第163図 SK-490~498·500·502·503·506 出土土器実測図



第164図 SK-501·509～511 出土土器実測図

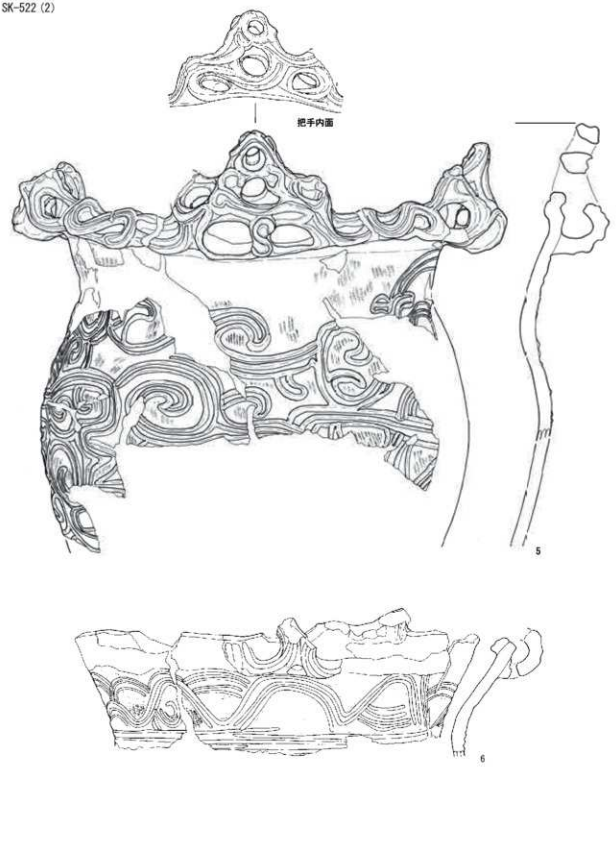


第165図 SK-504·505·513~521·524·525·527·528 出土土器実測図

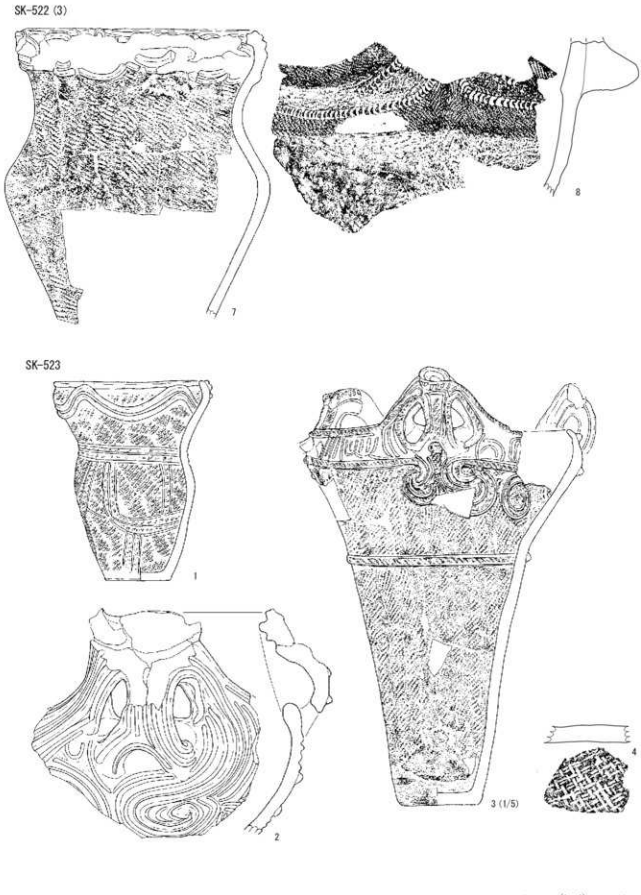


第166図 SK-522(1) 出土土器実測図

SK-522 (2)

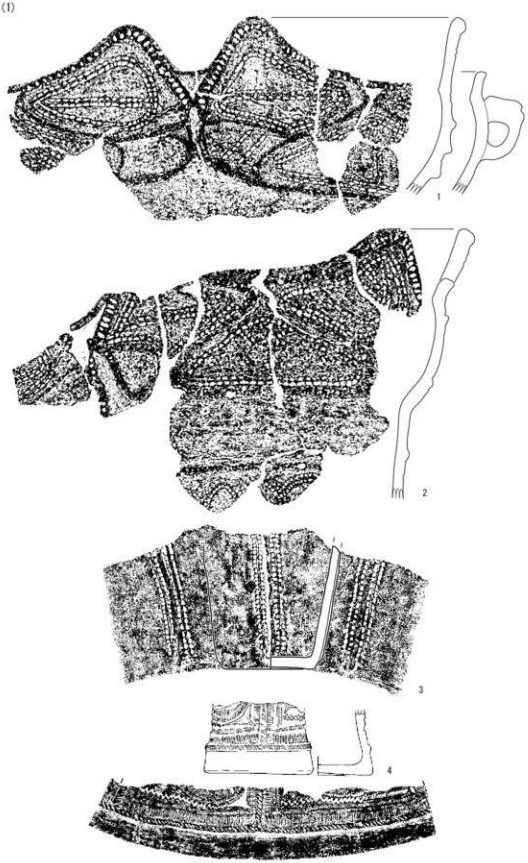


第167図 SK-522(2) 出土土器実測図

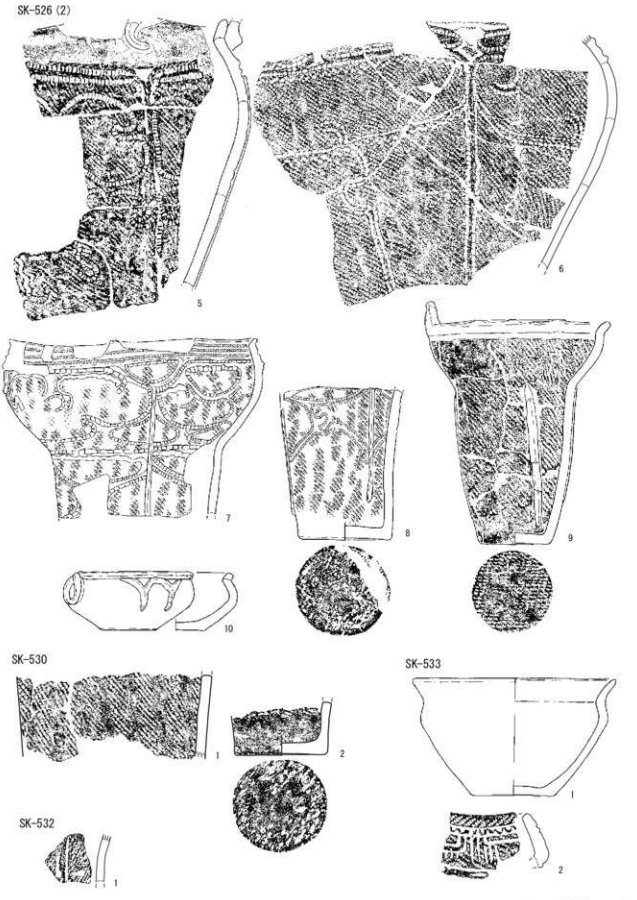


第168図 SK-522(3)･523 出土土器実測図

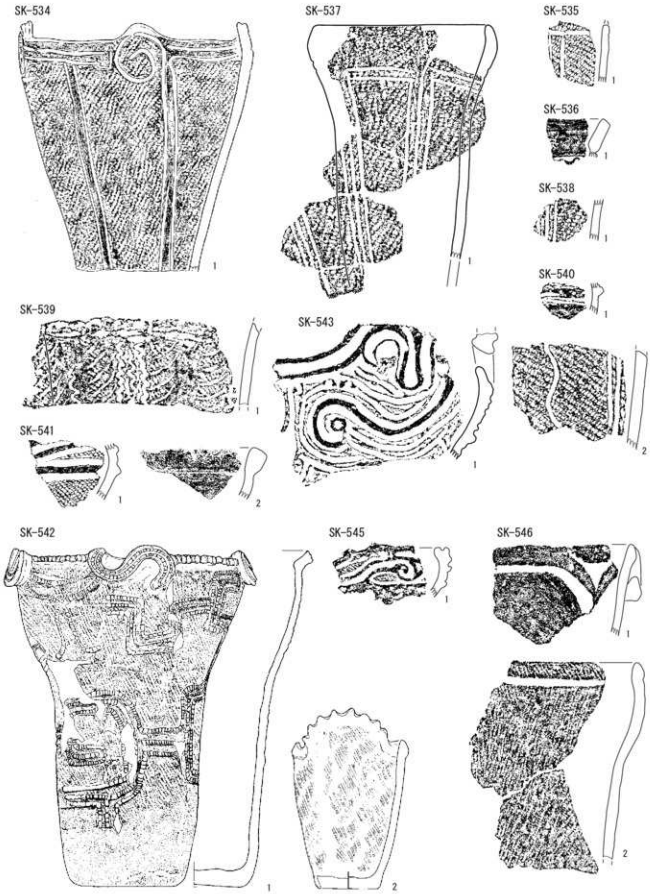
SK-526 (1)



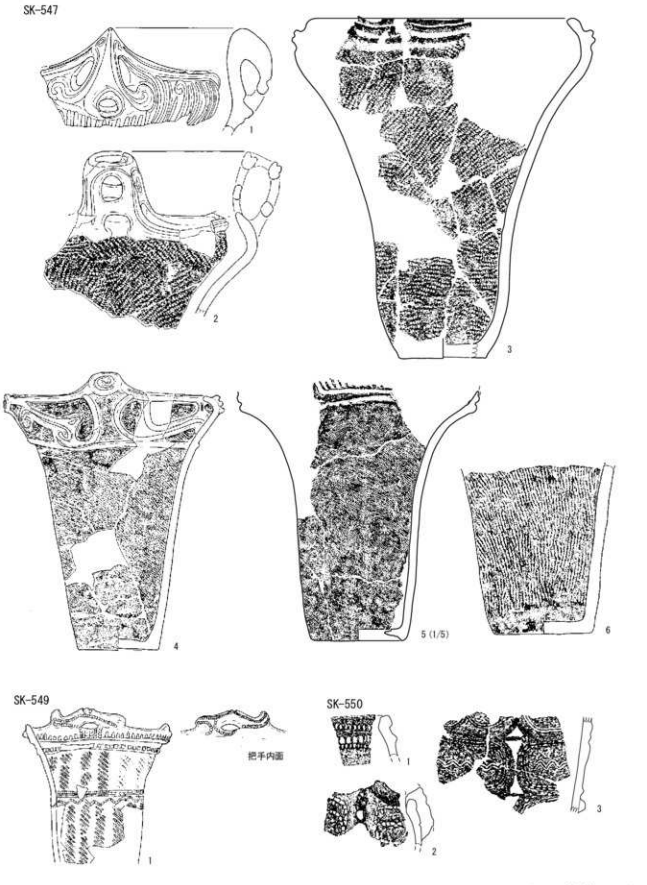
第169図 SK-526(1) 出土土器実測図



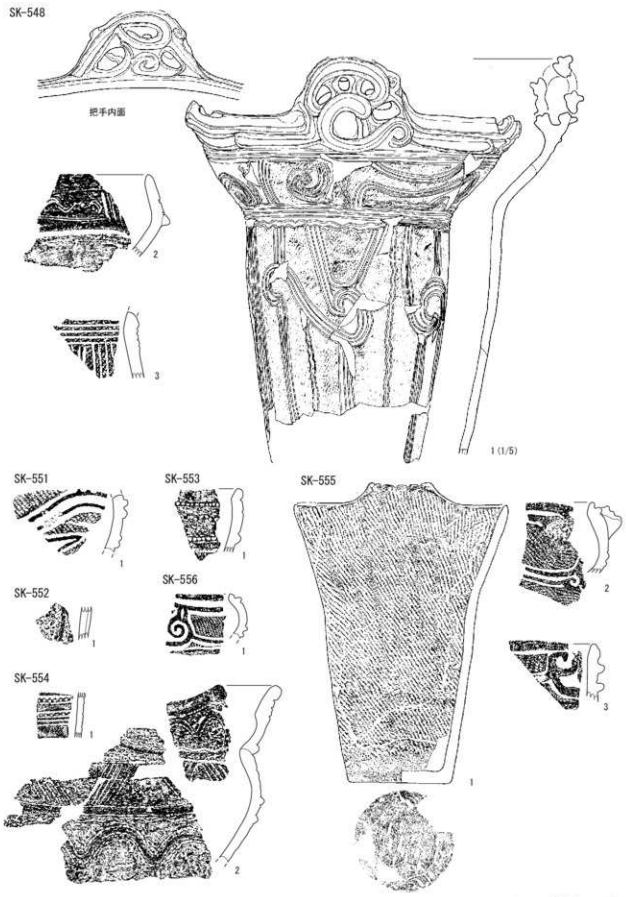
第170図 SK-526(2)·530·532·533 出土土器実測図



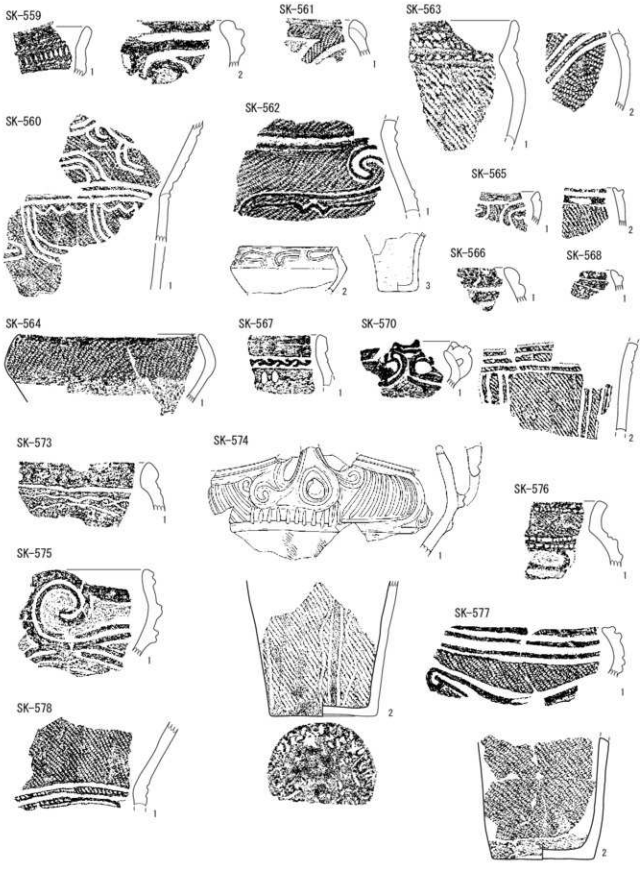
第171図 SK-534～543·545·546 出土土器実測図



第172図 SK-547·549·550 出土土器実測図

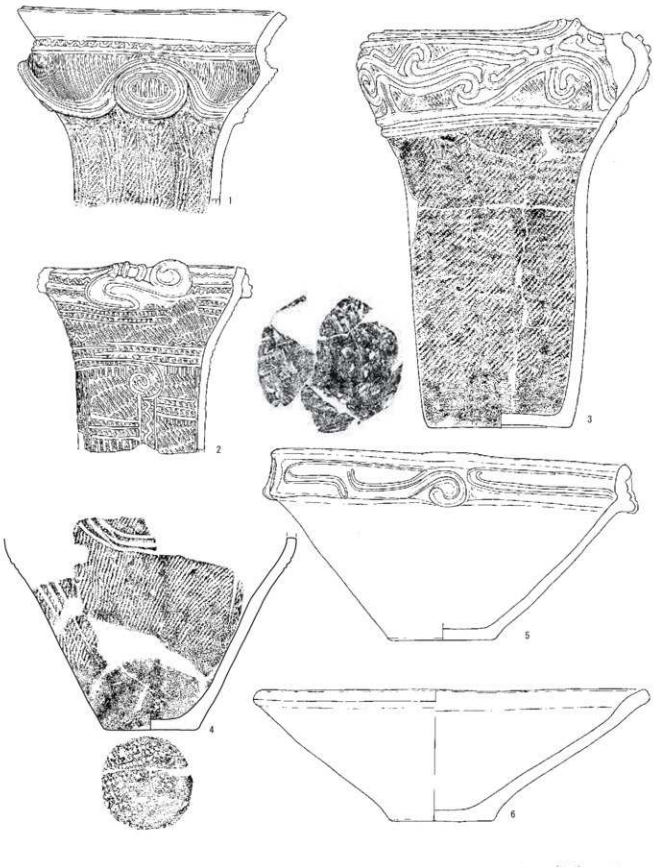


第173図 SK-548·551~556 出土土器実測図

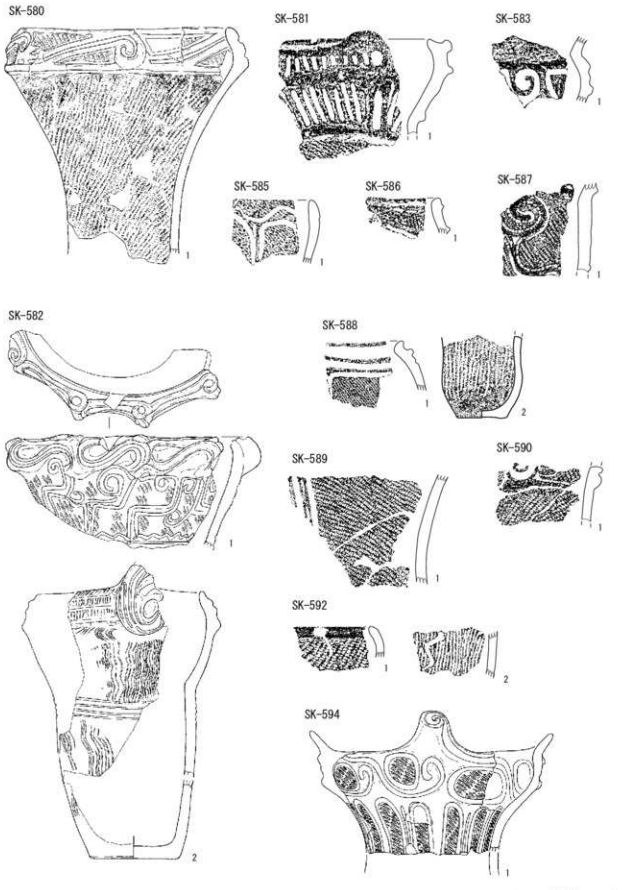


第174図 SK-559~568·570·573~578 出土土器実測図

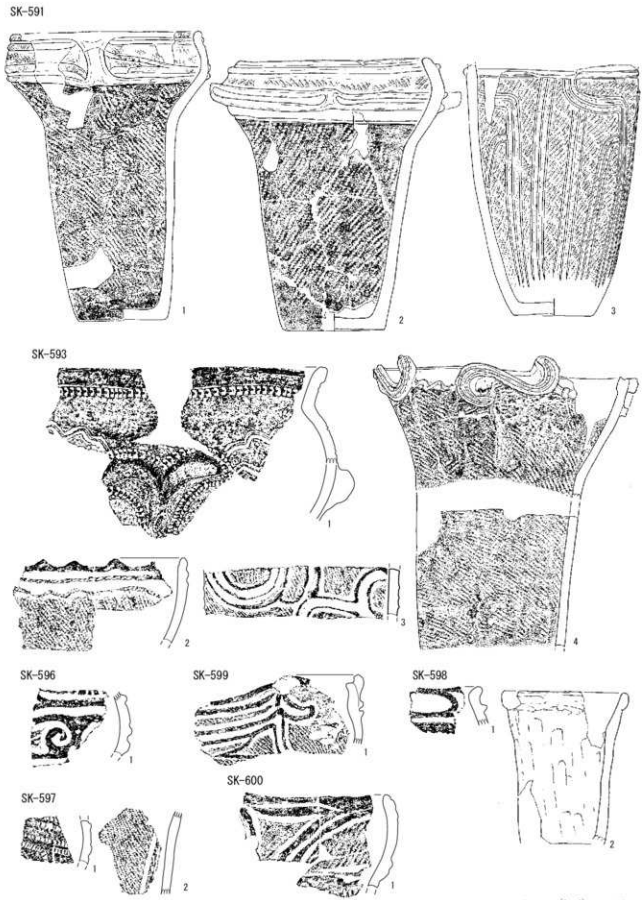
SK-579



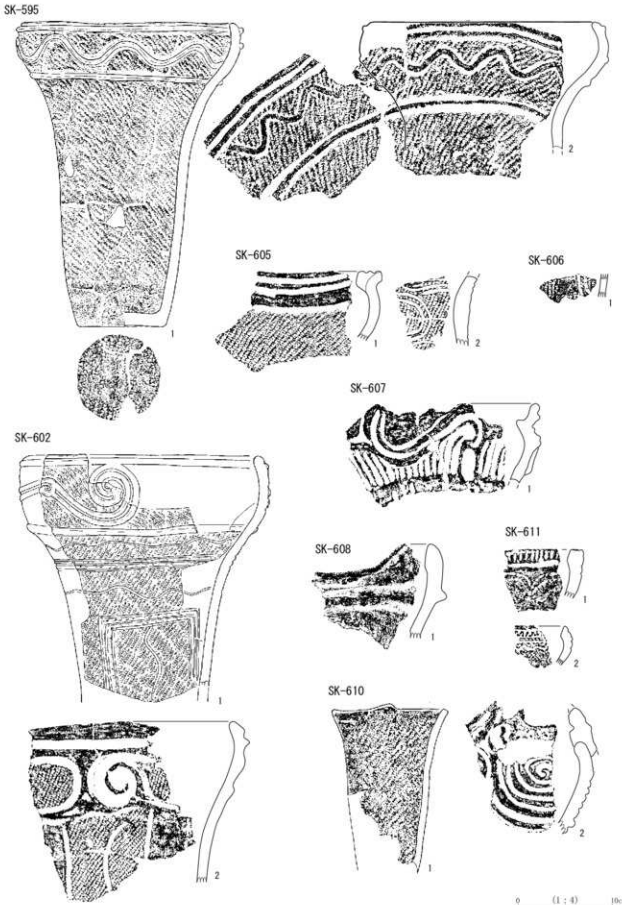
第175図 SK-579 出土土器実測図



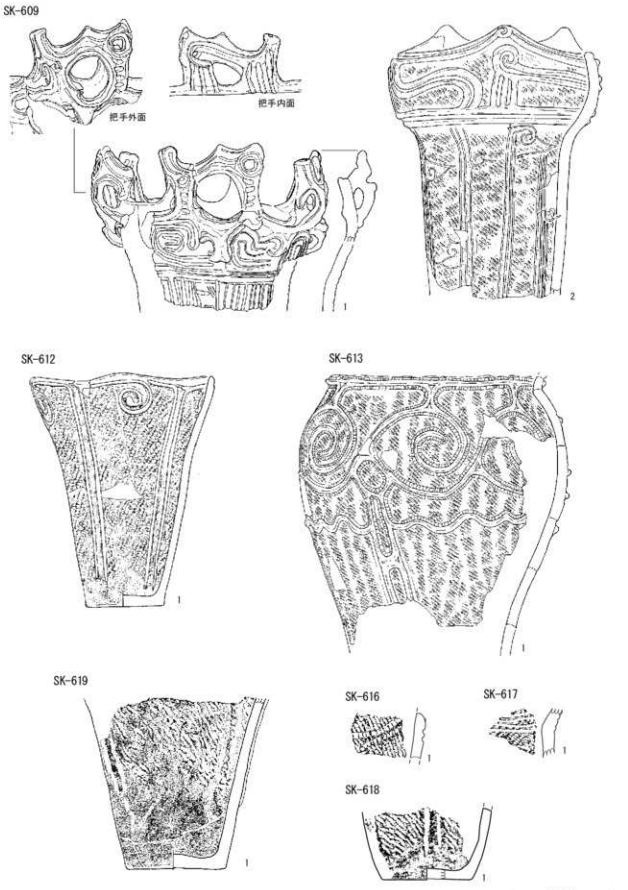
第176図 SK-580~583·585~590·592·594 出土土器実測図



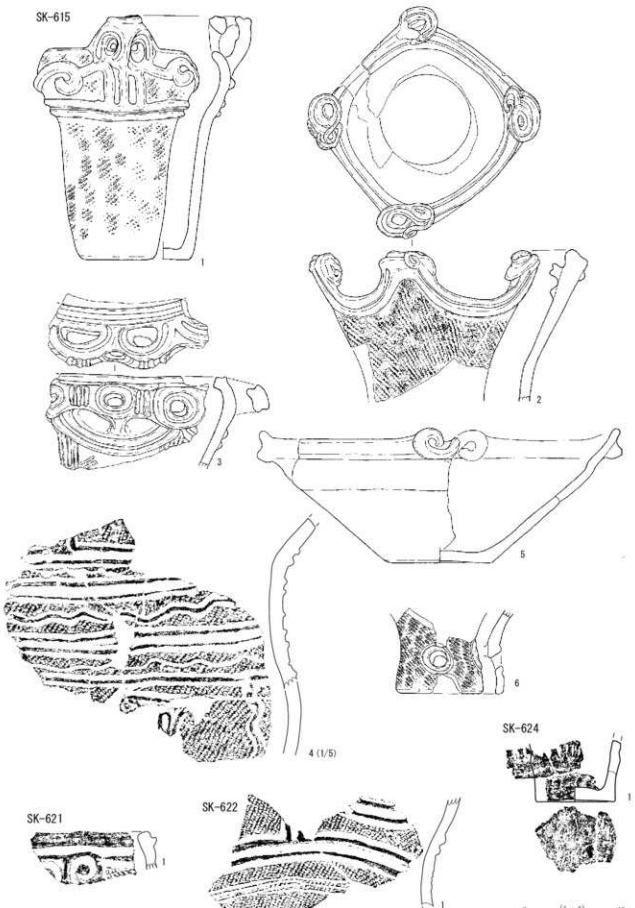
第177図 SK-591·593·596~600 出土土器実測図



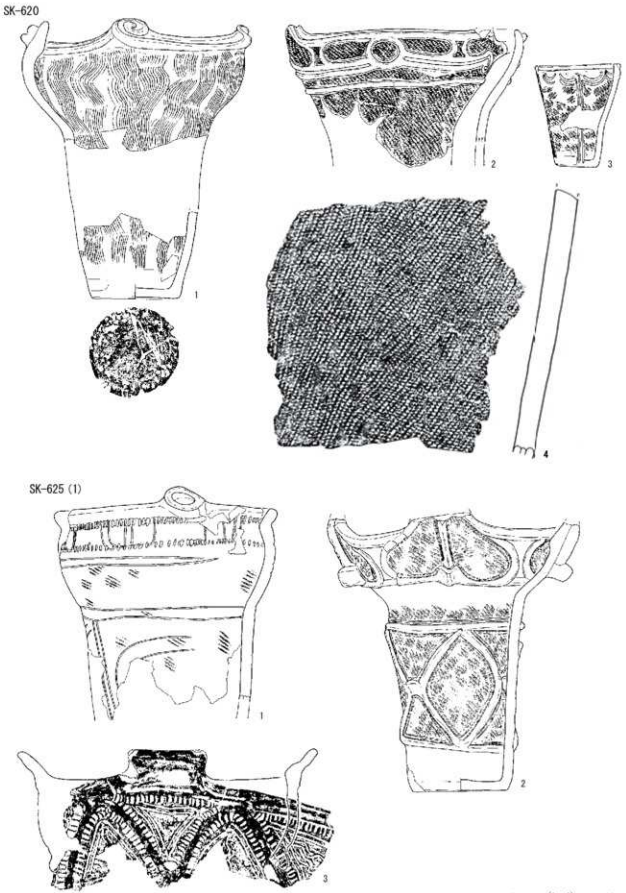
第178図 SK-595·602·605～608·610·611 出土土器実測図



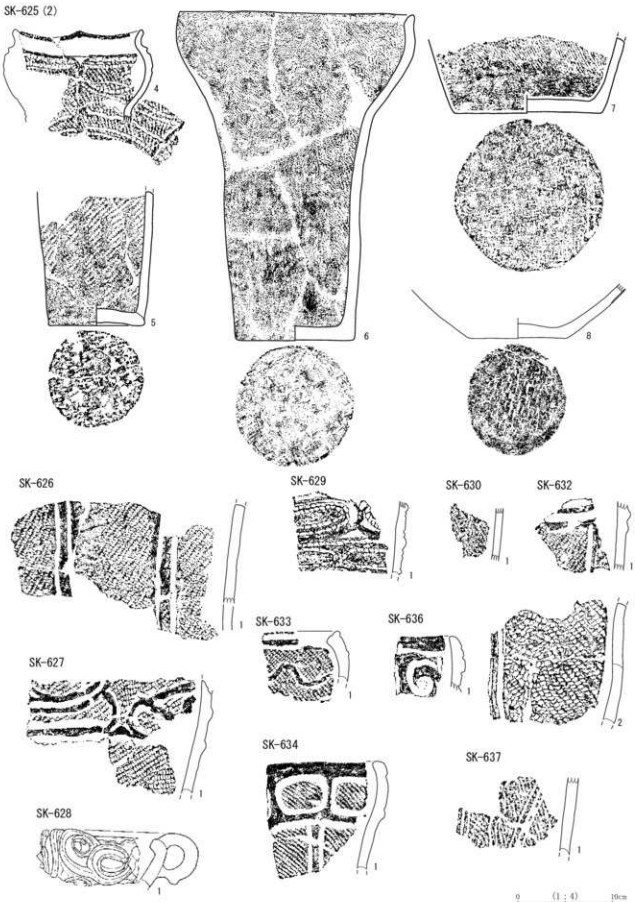
第179図 SK-609·612·613·616～619 出土土器実測図



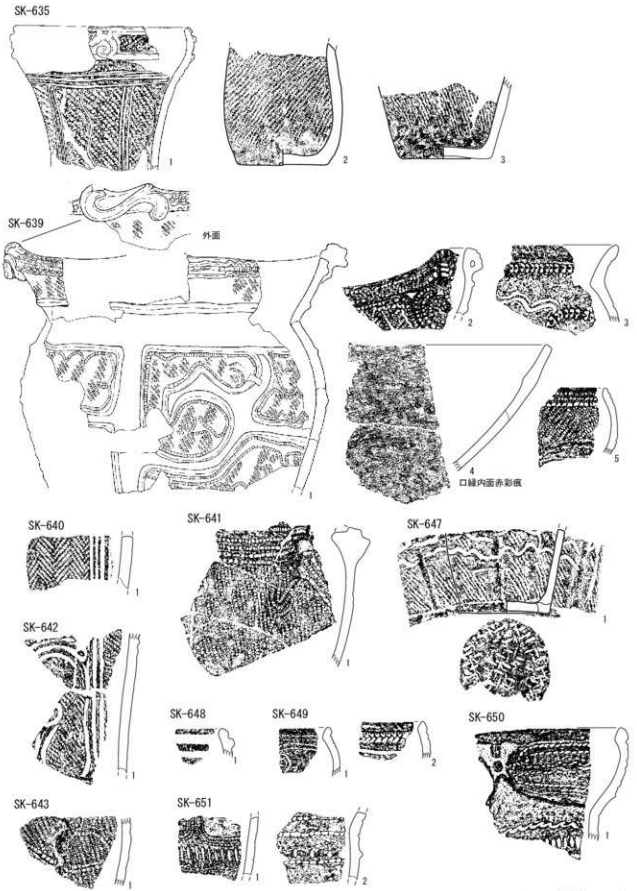
第180図 SK-615·621·622·624 出土土器実測図



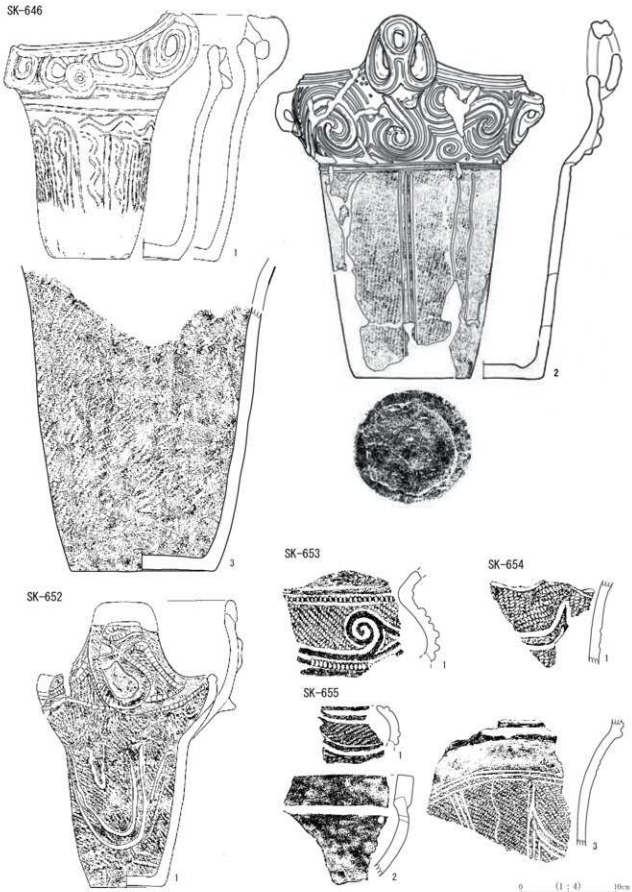
第181図 SK-620·625(1) 出土土器実測図



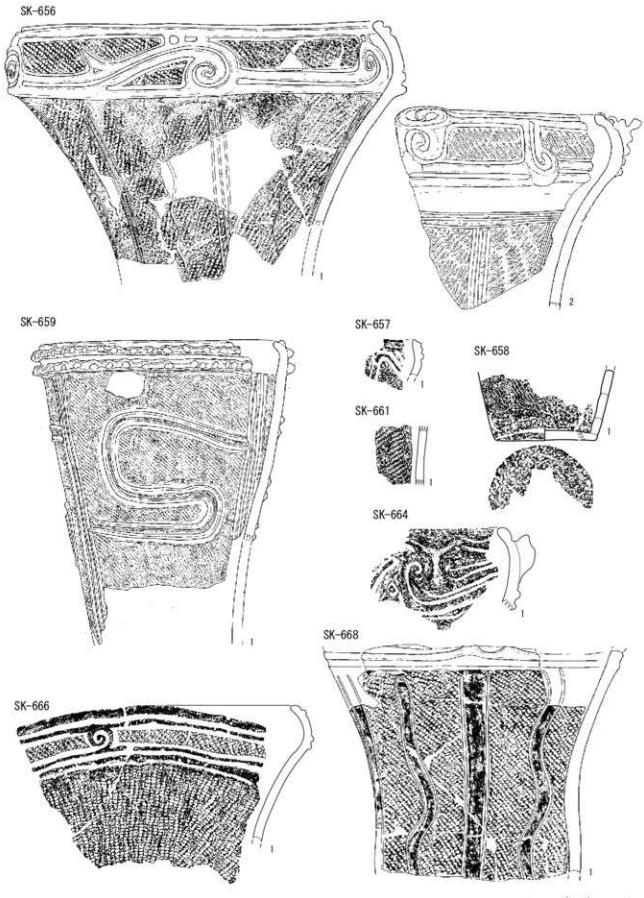
第182図 SK-625(2)~630·632~634·636·637 出土土器実測図



第183図 SK-635·639~643·647~651 出土土器実測図



第184図 SK-646·652~655 出土土器実測図

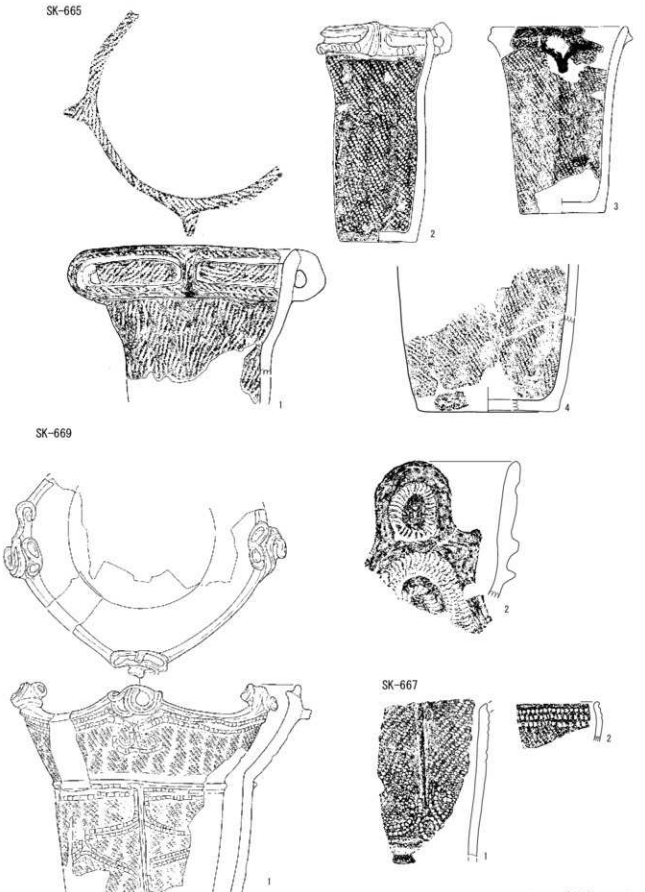


第185図 SK-656～659・661・664・666・668 出土土器実測図

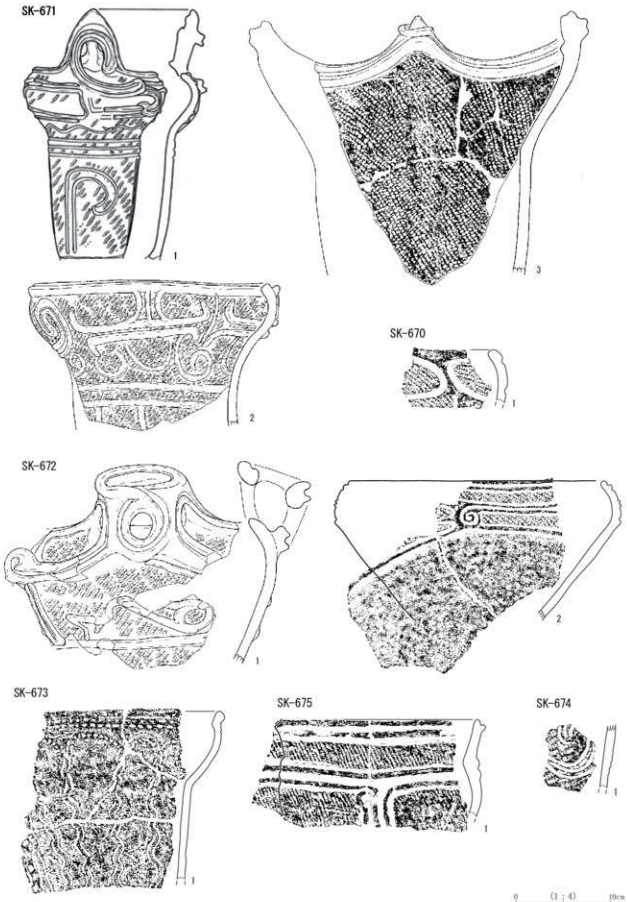
SK-663



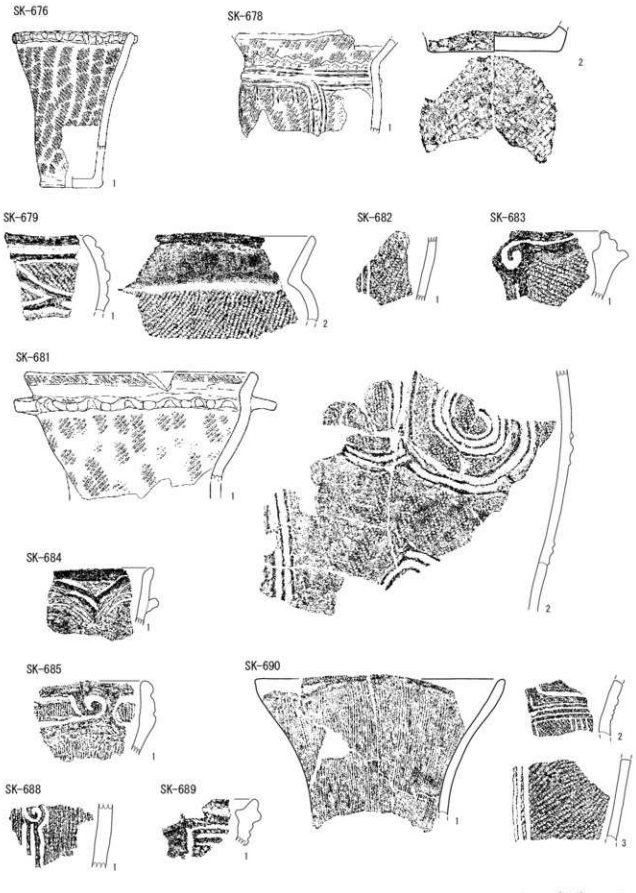
第186図 SK-663 出土土器実測図



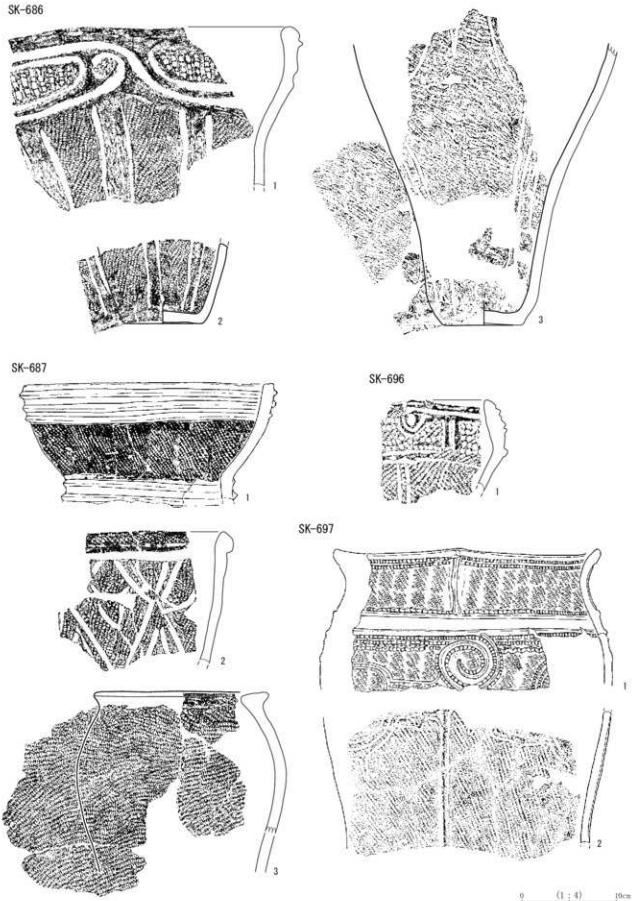
第187図 SK-665·667·669 出土土器実測図



第188図 SK-670～675 出土土器実測図



第189図 SK-676·678·679·681～685·688～690 出土土器実測図



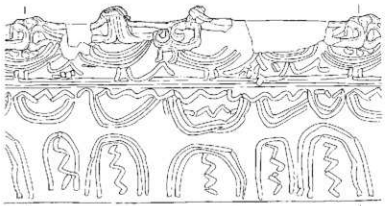
第190図 SK-686·687·696·697 出土土器実測図

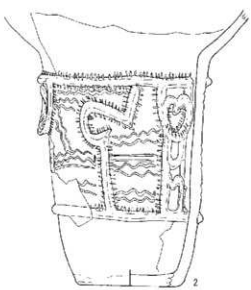


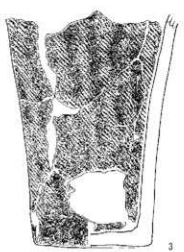
第191図 SK-692~694 出土土器実測図

SK-700











0 (1 : 4) 10cm

第192図 SK-700 出土土器実測図

（4）集石遺構・小穴群

SX-1（第193・213図）

F-5aグリッドに位置し、SK-89・90・96・121に囲まれる。大きな多孔石とその周辺から大小6個の礫が同じレベルから出土している。

SX-2（第193図）

G-5cグリッドに位置し、周囲にSK-187・192・199・272・301がある。石皿の破片を含む大小20数個の礫が集まって検出された。集石を中心に半径1mの範囲が10cmほどなだらかにくぼむ。礫は被熱赤変しているものがある。

SX-3（第193図）

H-5c・dグリッドに位置し、SK-346・347・398・400・437・438などと重複する。確認面は南東に向かって緩やかに傾斜している。直径6mほどの範囲に、12個のピットが確認された。直径40～50cmで、P-1～9は環状に巡るようにも見える。深さは最深141cm（P-6）、最浅35cm（P-8）で、70～100cmのものが多い。

（5）捨て場（第194～197・205・210・214・215図、図版66・67）

図面がなく明確ではないが、調査区（A区）南北2カ所で壊れた土器などの捨て場が検出されている。1カ所は調査区の北側、E-4グリッドに位置する谷状の斜面のB区で、コンテナ70箱の土器・石器が出土している。ほとんどが破片で、土器は台地上の遺構と同じ阿玉台Ⅰb式から加曽利EⅢ式期までの土器片で加曽利EⅠ式期のものが多い。また、石器は磨製石斧・磨石・石皿・多孔石などで、石皿・多孔石が多い。希少な資料として、破片ではあるが4脚の壺形土器（第197図47）や、内面に凹線で曲線的文様が描かれた台形土器（第197図48）、土製垂飾（第216図35）。コハクの破片（原色図版7）などがある。

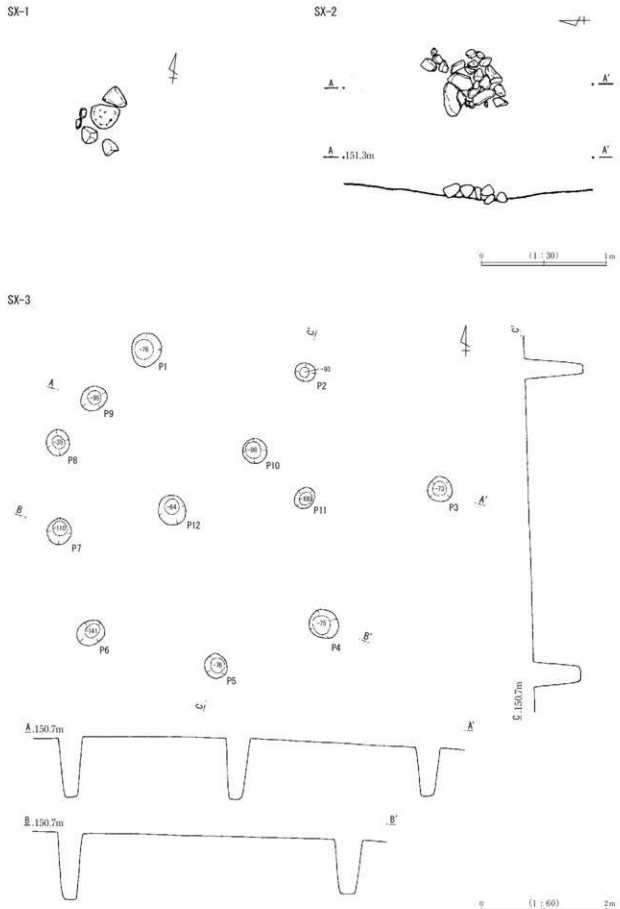
もう一つは調査区南側、Ⅰ-5・Ⅰ-6グリッド付近の緩斜面のC区で、遺物の出土は土器片と石器がコンテナ3箱のほどで少ない。

（6）遺構外出土及び出土遺構不明土器（第198・199図）

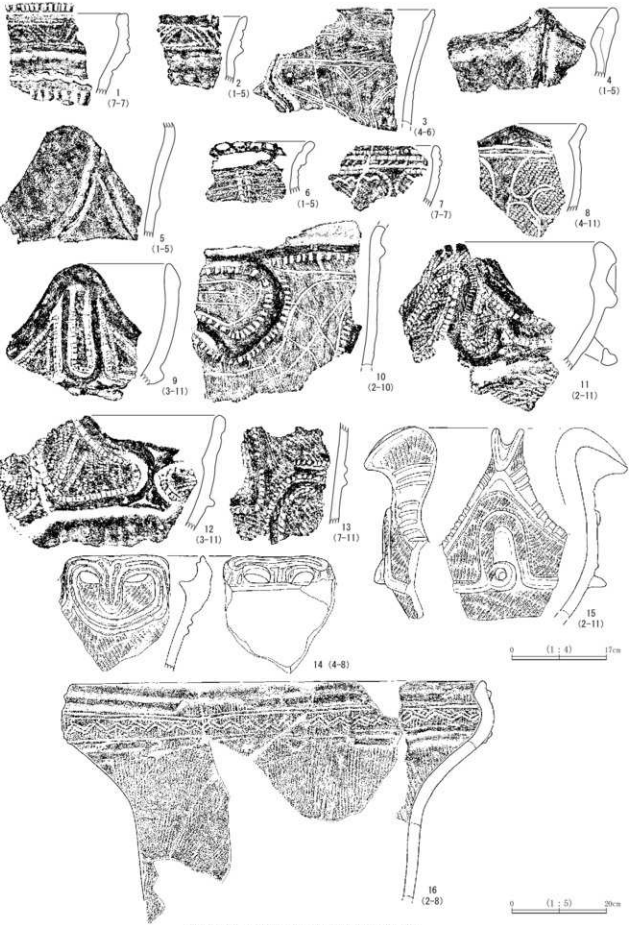
確認調査時に出土した器形のわかる土器5点（第198図）と、調査から整理作業の段階で出土遺構が不明となってしまったほぼ完形の土器1点（第199図）を図示した。

第198図1・2は深鉢形土器である。1は口頸部が隆帯で区画文が展開するⅥ期の土器、2は口縁部が渦巻き文と沈線による楕円区画文、胴部が蛇行沈線と2条の垂下沈線間を無文とするⅧ期の土器である。3・4は浅鉢形土器で、3は区画内に複列の結節沈線が施されるもの、4は2個1対の波状口縁で刻みを施した縦長の貼付文を施すⅡ期の土器である。5は器壁が厚い小型の壺形土器である。内外面横方向のミガキが施される。

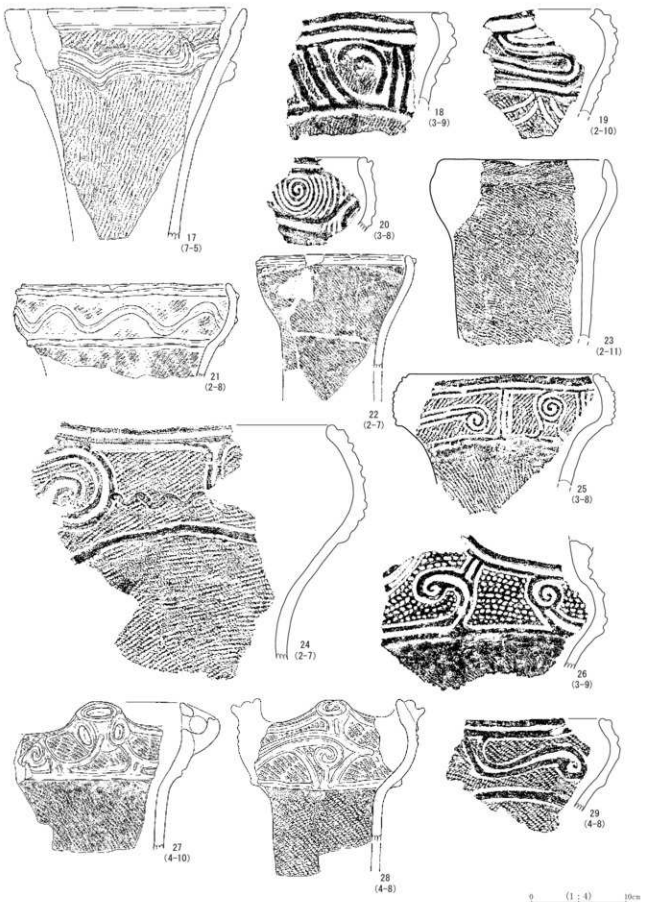
199図1は把手上端と胴部下半から底部の一部を欠く。口縁部には環状の大形把手と若干ずれるが対向部に小型の把手が付き、口縁部には沈線の添う隆帯で渦巻文などが展開し、胴部には蛇行沈線と2～3条の垂下沈線などが展開する。Ⅵ期の土器である。



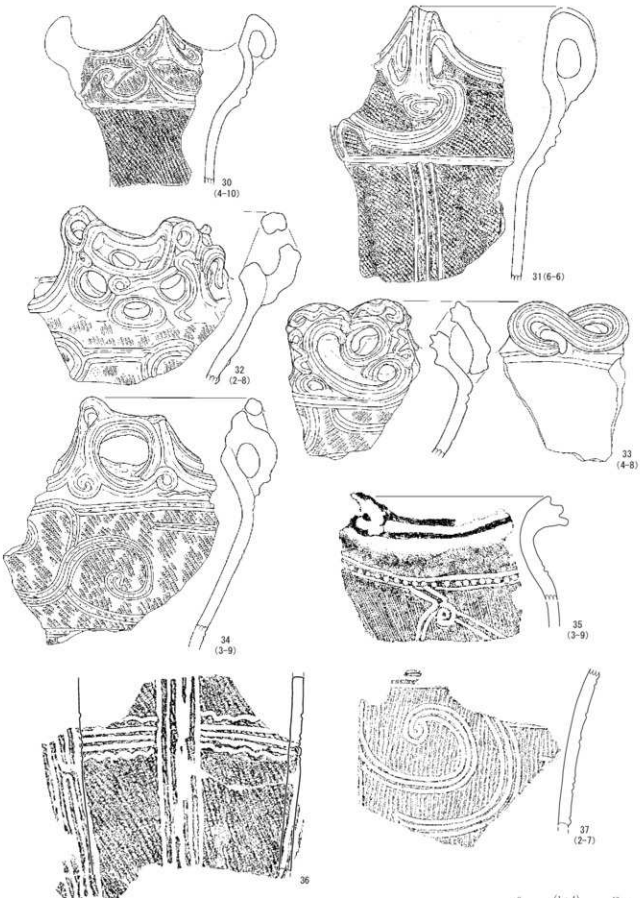
第193図 SX-1~3 実測図



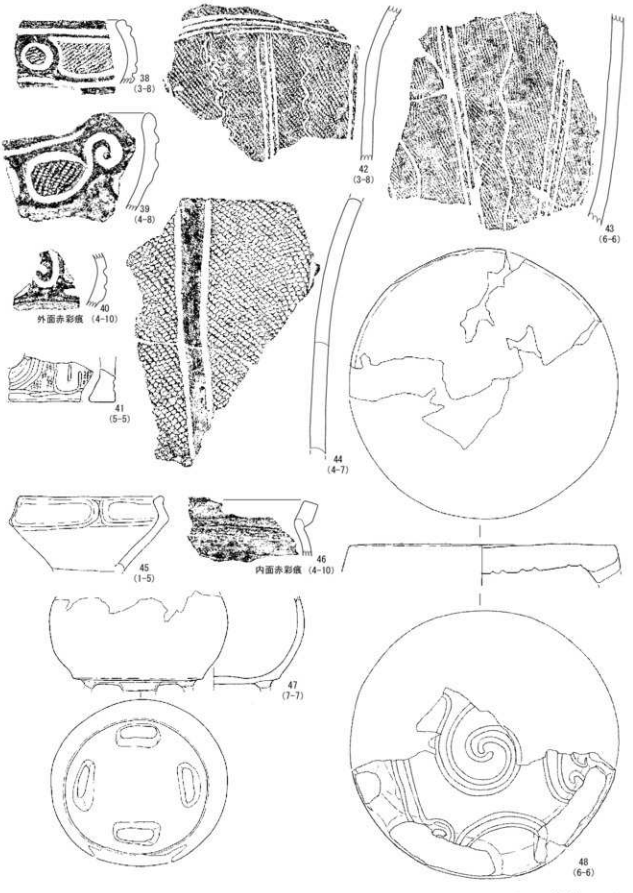
第194図 B区捨て場 出土土器実測図(1)



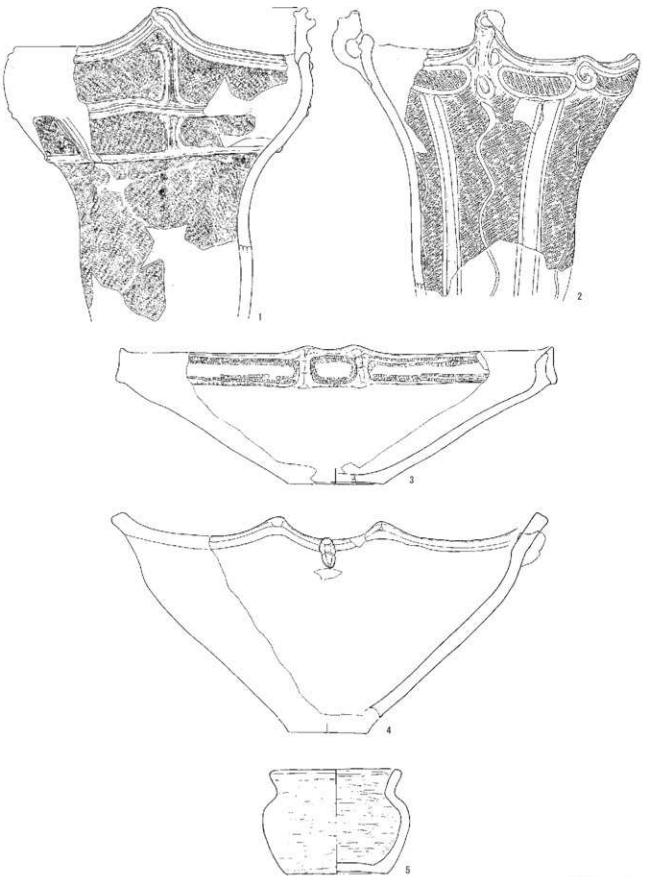
第195図 B区捨て場 出土土器実測図(2)



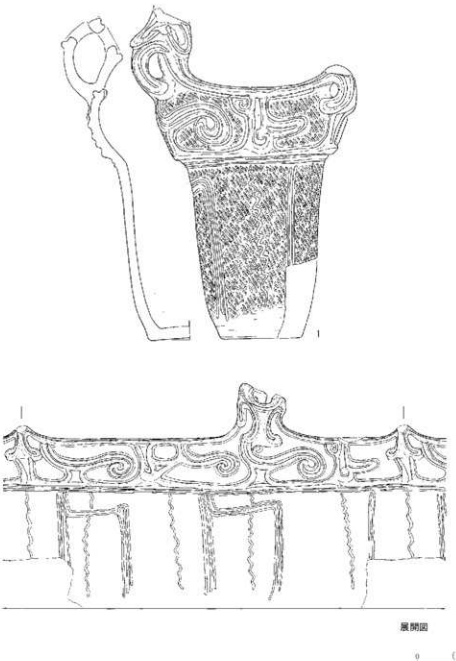
第196図 B区捨て場 出土土器実測図(3)



第197図 B区捨て場 出土土器実測図(4)



第198図　遺構外出土土器実測図



第199図 出土遺構不明土器実測図

（7）石器

① 尖頭器・石槍・掻削器・三脚石器（第200図）

いずれも土坑出土である。尖頭器・石槍は6点（1～6）出土しており、1・2は基部片でやや肉厚である。2・3は珪質頁岩製で、周縁の調整は丁寧である。チャート製のやや肉厚の三脚石器と思われるものが1点（7）、剥片などの側縁に剥離調整を加えた掻削器が3点（8～10）出土している。

② 三角錐形石器・敲打器・礫器（第200図）

三角錐形石器は大小2点（11・12）出土しており、いずれも凝灰岩製である。11は1面に自然面を大きく残す。基部は敲打整形で細く整形している。細長い礫を用いた敲打器が3点（13～15）、礫器が5点（16～20）出土している。いずれも土坑からの出土である。

③石鏃（第201図）

57点出土している。住居跡から4点、土坑から53点である。大きさは長さ3.9㎝（35）が最大で、1.4㎝（3）が最小である。形状は正三角形のものから、細長い二等辺三角形のものがあり、側縁については直線的なもの、やや曲線的なもののほか、屈曲するもの（37）もある。基部に注目すると、内湾する凹基、直接的な平基のもの、外湾する円基、突基有茎がある。凹基のものが40点と多く、平基・円基が14点で、突基有茎が1点である。凹基のものは薄く丁寧なつくりのものが少なくないが、円基で正三角形のものは厚さがありずんぐりしたものが多い。石材は約チャートが41点で7割を占め、黒曜石が6点でそれに次ぐ。

④ 石錐（第202図）

9点出土しているがいずれも土坑出土である。剥離調整によって整形されたもの4点（1～4）はいずれもチャート製で、1は摘み部を有し、2・3は摘みと錐部の境界が不明瞭で細長い三角形の形態である。4は基部と先端部を欠く。他に打割や研磨によって先端を尖らせた粘板岩や流紋岩製のものが5点（5～9）ある。

⑤ 打製石斧（第202・203図）

未製品を含め39点（竪穴住居跡2、土坑37）出土している。石材はホルンフェルスが最も多く、緑色片岩・安山岩・砂岩などがそれに次ぐ。

形態的には破損品も多く明確な分類は難しいが、A類：刃部と基部の幅がほぼ同じで、両側縁が直線的なもの（短冊形）、B類：刃部が基部に比べ幅広で両側縁が直線的なもの（撥形）で、基部が緩やかな面をもつもの(B-1)と、尖るもの(B-2)がある。C類：中位に括れをもち、刃部が丸みを持つもの（分銅形）、D類：側縁の括れが曲線的で、基部が小さいもの（筈形）、E類：その他、未製品を含む。に分類される。B類は長さ12～15㎝のものが多いが、1・2のような長さ20㎝の大形品もある。C類も14～15㎝の大形のもの（20・21）から、5～6㎝の小型のもの（26・27）までである。B類・C類が多く、割合はほぼ二分する。

⑥ 磨製石斧（第203～205図）

小型から大型品、未製品を含め総数90点（竪穴住居跡6、土坑76、B区捨て場7、遺構外1）出土している。未製品・破損品が多く、完存品は一割にもみたない。

長さ5～8㎝の小型品は蛇紋岩や角閃石名のものが多く、擦切り痕（5・9・12）や分割するための擦切りの細い線が施されたもの(19)がある。2～4は棒状のもので整形前の素材と考えられる。刃部幅が基部幅を若干上回る細身の定角式のものが多い。

長さ10～15cmのものは、折損品も多いがほとんどが定角式の範疇で捉えられるものである。石材は砂岩が最も多く、安山岩がそれに次ぐ。72は基部を欠くが、刃部が広く撥形の形状となる。折損後に剥離整形が施されているもの（46・49）や敲石（61）や砥石（90）として転用されたものもある。また、素材と思われるもの（44・45）、敲打整形までのもの（74・85）、研磨整形が途中のもの（64・88）など、製作工程のわかるようなものも少なくない。

⑦ **磨石・凹石**（第206～210図）

総数160点ほど出土している。石材は安山岩が最も多く8割を占め、砂岩・花崗岩・凝灰岩が少数ある。長さ15cm、幅10cm前後の楕円状のものと、長さ８～9cmほどの円形で扁平なものに大別される。いずれも片手で握れる大きさで、表裏両面に磨痕の認められるものが多い。側縁や先端に敲打痕の認められるもの、表裏中央に敲打痕（凹痕）を残すものが多く、楕円形のものは2個1対、円形のものは1個の凹痕を持つものが多い。被熱しているものも30点ほどあり、SK-246ではベンガラを潰したものと思われる磨石（63）が出土している。

⑧ **石皿・多孔石**（第211～215図）

石皿・多孔石は37点（土坑27、B区捨て場７、集石遺構１、表採２）図示した。石材はほとんどが安山岩で、凝灰岩・砂岩が少数ある。石皿は、A類：凹面となる磨り部が中央にあり、周囲に陵をもつ縁部を有するもの（5・24・25）、B類：中央磨り部がわずかに凹程度で周囲の陵が不明瞭なもの（1・2・12・23）がある。A類には掻き出し口をもつもの（29・37）、縁部及び裏面に多数の凹痕をもつもの（3・5・6・24・30・33）が少なくない。21は棒状の大形礫で、一面に平坦な磨り面がみられる。20は中央に敲打痕が残る未製品であろう。磨り面がない多数の凹痕だけのものは8・10・36などがある。35は全面磨整形され、各面1・2個の凹痕がある。

第６表　尖頭器・石槍・三脚石器・掻削器・三角錐形石器・敲打器・礫器観察表

No.	出土遺構	器種	最大長	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	備考
1	SK-245	尖頭器	4.1	2.9	1.1	14.43	珪質安山岩	200上段	116上段	半壊品、写真図版SK-205
2	SK-587	尖頭器	3.4	2.1	1.3	6.49	珪質頁岩	200上段	116上段	半壊品、写真図版SK-581
3	SK-391	尖頭器	7	2	0.8	11.24	珪質頁岩	200上段	116上段	先端欠損
4	SK-579	石槍	5.8	2.4	1.2	14.04	チャート	200上段	116上段	
5	SK-687	石槍	4.2	2.3	0.8	6.63	チャート	200上段	116上段	
6	SK-74	石槍	5.5	3.2	2.3	34.88	チャート	200上段	116上段	
7	SK-106	三脚石器	3.3	2.6	1.5	8.87	チャート	200上段	116上段	
8	SK-312	掻削器	5.6	4.5	1.1	24.92	玉髄	200上段	116上段	
9	SK-666	掻削器	6	5	1.3	23	玄武岩	200上段	117上段	
10	SK-487	掻削器	4.6	3.2	0.9	14.2	チャート	200上段	117上段	
11	SK-74	三角錐状石器	18	10	6	780	凝灰岩	200下段	119下段	
12	SK-690	三角錐状石器	13.5	8.4	5.6	570	凝灰岩	200下段	119下段	基部欠損
13	SK-556	敲打器	21.3	10.2	6.4	2,200	砂岩	200下段	119下段	
14	SK-600	敲打器	23.5	7.1	5.7	1,470	安山岩	200下段	119下段	
15	SK-673	敲打器	10.5	7.7	3	490	石英閃緑岩	200下段	119下段	
16	SK-262	礫器	7.3	9.1	3.1	200	礫岩	200下段	119上段	
17	SK-200	礫器	9	9.8	2.2	180	ホルンフェルス	200下段	119上段	
18	SK-305	礫器	10.6	14.5	5	1,100	安山岩	200下段	119上段	
19	SK-312	礫器	8.6	12.1	3.5	500	安山岩	200下段	119上段	
20	SK-29	礫器	10.2	11.5	5	600	泥岩	200下段	119上段	

第7表　石鏃観察表

No.	出土遺構	形状(基部)	最大長	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	備考
1	SK-7	凹基	1.4	1.8	0.3	0.52	チャート	201	113下段	
2	SK-158	凹基	1.5	1.5	0.4	0.6	黒曜石	201	115下段	
3	SK-648	凹基	1.4	1.3	0.5	0.51	黒曜石	201	115下段	
4	SK-112	凹基	1.9	1.7	0.6	1.01	黒曜石	201	115下段	先端欠損
5	SK-167	凹基	1.7	1.5	0.3	0.76	黒曜石	201	115下段	
6	SK-14	凹基	1.6	1.2	0.3	0.59	チャート	201	113下段	
7	SK-481	凹基	2	1.3	0.4	0.77	玉髄	201	115上段	先端欠損
8	SK-1	凹基	1.7	1.3	0.4	0.66	流紋岩質凝灰岩	201	115上段	先端欠損
9	SK-8	凹基	1.8	1.2	0.2	0.68	チャート	201	113下段	
10	SK-13	凹基	2	1.2	0.3	0.59	チャート	201	113下段	
11	SI-16	凹基	1.9	1.5	0.4	0.99	チャート	201	113上段	
12	SK-305	凹基	2	1.6	0.4	0.87	チャート	201	114上段	
13	SK-643	凹基	2	1.2	0.5	0.62	チャート	201	114下段	
14	SK-61	凹基	2	1.2	0.3	0.8	凝灰岩	201	115上段	先端欠損
15	SK-123	凹基	1.7	1.5	0.3	0.9	チャート	201	113下段	先端欠損
16	SK-620	凹基	1.7	2.2	0.2	0.4	チャート	201	114下段	
17	SK-94	凹基	2.4	1.4	0.4	1.57	チャート	201	113下段	
18	SK-481	凹基	1.5	1.3	0.3	0.45	チャート	201	114下段	
19	SK-130	凹基	2.1	1.2	0.4	0.99	チャート	201	114上段	
20	SK-191	凹基	2	1.5	0.5	0.83	チャート	201	114上段	
21	SK-445	凹基	2.5	1.6	0.5	1.24	メノウ	201	115上段	
22	SK-67	凹基	2	1.6	0.3	0.67	チャート	201	113下段	
23	SI-29	凹基	2.4	1.6	0.4	0.93	チャート	201	113上段	
24	SK-613	凹基	2.2	1.5	0.5	1.22	チャート	201	114下段	先端欠損
25	SK-610	凹基	2.2	1.9	0.3	0.87	チャート	201	115上段	
26	SK-37	凹基	2.3	2	0.5	1.39	流紋岩	201	113下段	
27	SK-95	凹基	2.8	1.8	0.5	1.29	チャート	201	113下段	基部一部欠損
28	SK-103	凹基	2.6	1.8	0.4	0.89	チャート	201	113下段	
29	SK-59	凹基	2.5	1.4	0.4	1.05	チャート	201	113下段	基部両端欠損
30	SK-602	凹基	2.5	1.3	0.4	1.08	チャート	201	114下段	
31	SK-305	凹基	2.2	1.8	0.5	1.38	チャート	201	114上段	未製品, 先端・側縁欠損
32	SK-305	凹基	2.4	1.6	0.4	0.94	チャート	201	114上段	
33	SK-519	凹基	2.6	1.3	0.4	1.13	チャート	201	114下段	
34	SK-460	凹基	3.1	1.4	0.5	1.81	流紋岩	201	115上段	
35	SK-625	凹基	3.9	1.5	0.7	3.36	黒曜石	201	115下段	
36	SK-374	凹基	3.3	1.3	0.4	1.82	珪質頁岩	201	114上段	基部一部欠損
37	SK-268	凹基	2.6	1.5	0.4	0.89	チャート	201	114上段	
38	SK-327	凹基	1.9	2.3	0.5	1.18	黒曜石	201	115下段	先端欠損, 石鏃？
39	SK-613	平基	2.6	1.7	0.6	2.29	チャート		114下段	
40	SK-158	平基	2.5	1.7	0.3	1.47	チャート	201	114上段	
41	SK-305	平基	2.6	2.1	0.5	3.21	チャート	201	114上段	
42	SK-139	凹基	2	2.6	0.4	2.3	チャート	201	114上段	先端欠損
43	SI-25	円基	2.5	2.2	1	4.02	流紋岩	201	113上段	
44	SK-605	円基	2.5	2.2	0.9	5.22	チャート	201	113上段	
45	SK-56	平基	3.2	2.4	1	7.3	流紋岩質凝灰岩	201	115上段	
46	SK-573	円基	3.3	2.8	1	7.67	チャート	201	113上段	
47	SK-380	円基	3	2	0.8	3.9	チャート	201	113上段	
48	SK-447	円基	3	2.5	1	6.64	チャート	201	113上段	
49	SK-102	円基	2.9	2.1	1	6.99	チャート	201	—	
50	SK-256	円基	2.4	1.5	0.6	2.01	チャート	201	114上段	
51	SI-11	円基	2.3	1.3	0.6	0.68	流紋岩質凝灰岩	201	—	基部一部欠品
52	SK-490	平基	2.3	1.1	0.4	1.13	チャート	201	114下段	
53	SK-112	—	2.8	1.7	0.8	3.18	チャート	201	113下段	未製品
54	SI-26	—	2.8	1.3	0.8	2.22	チャート	201	113上段	未製品
55	SK-305	—	2.3	1.5	0.3	1.19	チャート	201	114上段	未製品
56	SK-588	円基	2.4	1.3	0.4	1.3	チャート	201	114下段	
57	SK-447	有茎	2.1	1	0.3	0.4	チャート	201	114下段	

第8表　石錐観察表

No.	出土遺構	器種	最大長	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	備考
1	SK-493	石錐	2.6	2.2	1	4.49	チャート	202上段	116下段	先端欠損
2	SK-497	石錐	4.2	2	1.3	7.7	チャート	202上段	116下段	先端欠損
3	SK-301	石錐	2.9	1.2	0.5	1.66	チャート	202上段	116下段	
4	SK-311	石錐	2	0.7	0.5	1.28	チャート	202上段	—	両端欠損
5	SK-252	石錐	3	1	0.7	2.38	流紋岩	202上段	116下段	
6	SK-87	石錐	9.1	1.6	0.6	8.03	粘板岩	202上段	116下段	
7	SK-275	石錐	7.5	1.4	1.1	8.15	粘板岩	202上段	116下段	基部欠損
8	SK-644	石錐	6.9	2.3	0.5	9.4	粘板岩	202上段	116下段	
9	SK-298	石錐	5	0.8	0.6	3.78	粘板岩	202上段	—	基部欠損

第9表　打製石斧観察表

No.	出土遺構	器種	最大長	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	備考
1	SK-130	B-1	20.7	8.1	1.2	300	緑色片岩	202図	117下段	
2	SK-455	B-1	20.9	6.1	1.1	200	粘板岩	202図	118下段	
3	SK-184	B-1	16.1	4.5	2.1	200	ホルンフェルス	202図	117下段	自然面を残す
4	SK-444	B-1	15.3	6.4	2.1	230	緑色片岩	202図	118上段	
5	SK-67	B-1	13.9	5.1	1.3	120	ホルンフェルス	202図	117下段	自然面を残す
6	SK-324	B-1	14.6	4.8	1.2	100	緑色片岩	202図	118下段	
7	SK-444	B-2	15.5	7.2	1.4	160	緑色片岩	202図	118上段	
8	SK-404	B-1	9.4	4.9	2.2	120	ホルンフェルス	202図	118上段	基部欠損
9	SK-48	B-1	13.7	5.3	2.6	220	ホルンフェルス	202図	117下段	側縁敲打整形、未製品
10	SK-444	B-2	14.6	5	2.2	130	ホルンフェルス	202図	118上段	
11	SK-564	B-2	12.5	5.2	1.8	130	緑色片岩	202図	118下段	被熱、磨滅顕著
12	SK-456	B-1	12.4	4.4	1.5	100	ホルンフェルス	202図	118下段	未製品
13	SK-610	B-1	10.1	4.4	1.4	85	凝灰岩	202図	119上段	
14	SK-579	A	11.7	5.7	3	260	チャート	202図	118下段	刃部破損
15	SK-644	A	13.7	6.6	2.1	200	粘板岩	202図	119上段	
16	SK-620	B	10	5.9	1.6	100	ホルンフェルス	202図	119上段	基部欠損
17	SK-257	B	8.3	5.9	1.9	120	ホルンフェルス	202図	118上段	基部欠損
18	SK-540	B	7.1	3.5	1.6	43	ホルンフェルス	202図	118下段	写真図版SK-564→SK-540、刃部及び基部欠損
19	SK-140	C	12.2	10	2.5	440	安山岩	203図	117下段	自然面を残す
20	SK-174	C	15	9.8	1.9	340	安山岩	203図	117下段	自然面を大きく残す
21	SK-219	C	14.1	9.2	2.6	400	砂岩	203図	118上段	自然面を残す
22	SK-229	C	11.4	7.3	2.9	200	ホルンフェルス	203図	118上段	
23	SK-655	C	11.1	8.4	2.2	250	ホルンフェルス	203図	119上段	自然面を大きく残す
24	SK-298	C	11.8	8.4	2.1	260	安山岩	203図	118上段	自然面を残す
25	SK-97	C	9.1	5.7	2	100	ホルンフェルス	203図	117下段	自然面を残す
26	SK-397	C	8.2	5.2	1	40.1	不明	203図	117上段	
27	SK-529	C	7.5	5.7	1.3	35.8	花崗岩	203図	117上段	左右非対称
28	SI-36	C	7.4	7.9	2.1	180	ホルンフェルス	203図	117下段	1/2欠損、自然面を残す
29	SK-236	C	7.4	6.3	2.2	110	砂岩	203図	118上段	自然面を残す
30	SK-235	C	6.6	8.6	2.7	180	安山岩	203図	118上段	1/2欠損、自然面を残す
31	SK-390	C	8	5.9	2.2	110	ホルンフェルス	203図	—	刃部大きく欠損。自然面を残す
32	SK-391	C	5.7	8.7	2.4	130	安山岩	203図	118上段	2/3欠損、自然面を残す
33	SK-533	D	6.5	5	1.5	40.2	粘板岩	203図	117上段	小型
34	SI-34	D	11	8.4	1.7	160	ホルンフェルス	203図	117下段	
35	SK-50	E	11.7	6.3	2.7	230	砂岩	203図	117下段	一側縁から刃部にかけのみ整形、B類未製品
36	SK-564	E	10.5	4.5	1.7	84	ホルンフェルス	203図	118下段	側縁未整形、刃部欠損、B類未製品
37	SK-316	E	10.7	5.8	2.7	180	ホルンフェルス	203図	118上段	B類未製品
38	SK-564	E	9.3	4.4	1.1	30	緑色片岩	203図	118下段	写真図版SK-540→SK-564　側縁のみ整形、自然面を大きく残す。B類未製品
39	SK-582	E	7.8	6.7	2.9	200	凝灰岩	203図	118下段	D類未成品

第10表　磨製石斧観察表

No.	出土遺構	器種	最大長	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	備　考
1	SK-16	小型棒状	8.3	1.6	0.8	14.1	粘板岩	203図	120上段	断面方形で細長い紡錘状、全体的に研磨が施されている
2	SK-97	小型棒状	8	2	1.3	22.2	角閃岩？	203図	120上段	全体的に研磨が施されている
3	SK-595	小型棒状	12.3	2	1.6	43.9	粘板岩	203図	120上段	先端は折損後磨滅、全体的に研磨が施されている
4	SK-672	小型棒状	9.9	1.3	1	14.4	角閃岩？	203図	120上段	全体的に丁寧な研磨が施されている
5	SK-71	小型定角	8	1.9	1.5	39.7	緑色片岩	203図	120上段	基部側面に擦切り痕
6	SK-579	小型定角	8.5	2.2	0.8	24.8	安山岩	203図	120下段	SK-474の基部と接合
7	SK-476	小型定角	7.4	2.9	1.6	53.2	砂岩	203図	120下段	基部及び刃部一部欠損
8	SI-25	小型定角	6.7	3.5	1.7	51	緑色片岩	203図	120下段	基部側欠損、側面に擦切り痕、全体的に丁寧な研磨、光沢を帯びる
9	SK-477	小型定角	6	2	1.2	20.1	角閃岩？	203図	120上段	側面に擦切り痕
10	SK-477	小型定角	5.5	1.5	1.2	13.2	粘板岩？	203図	120上段	全体的に丁寧な研磨が施され、光沢を帯びる
11	SK-536	小型定角	2.3	2	0.7	5.5	蛇紋岩	203図	120下段	基部破片、丁寧な研磨で光沢を帯びる
12	SK-640	小型定角	3.5	2	0.8	8.8	玄武岩	203図	120下段	基部側欠損、側面に擦切り痕、全体的に丁寧な研磨、光沢を帯びる
13	SK-312	小型定角	6.7	2	0・9	18.5	千枚岩	203図	120下段	両側縁に敲打整形痕
14	SK-41	小型定角	3.4	2.8	1.6	15	流紋岩？	203図	120下段	基部側欠損、側面に擦切り痕、全体的に丁寧な研磨、光沢を帯びる
15	SI-16	小型	5.1	2.2	0.8	14.2	安山岩	203図	120下段	刃部欠損、基部は丸い
16	SK-279	小型	3.5	2.7	1.4	20.9	蛇紋岩？	203図	120下段	基部側欠損、丁寧な研磨、刃部は光沢を帯びる
17	SK-60	小型	4.7	1.2	1	8.1	蛇紋岩	203図	120下段	基部欠損
18	SK-656	小型	4	2.6	1	13.8	粘板岩	203図	120下段	刃部破片
19	SK-694	小型	4.5	2.8	1.1	23.8	蛇紋岩？	203図	120下段	片面に擦切りのための溝あり
20	SK-225	小型	5.4	2.6	1.2	22.1	安山岩	204図	120下段	刃部側欠損
21	SK-640	小型棒状	6.1	1.8	1	8.2	角閃片岩	204図	120下段	破片、全体的に丁寧な研磨
22	SI-9	定角	12.7	4.8	2.2	260	安山岩	204図	121上段	刃部磨滅
23	SI-14	定角	6.6	4.2	2	100	砂岩	204図	121上段	基部側欠損
24	SI-28	定角	3.7	3.9	2.9	70	砂岩	204図	121上段	基部のみ遺存、SK-74№33と同一個体の可能性
25	SI-27	定角	12	4.4	3.1	300	砂岩	204図	121上段	刃部欠損、P1出土
26	SK-61	定角	12	5.8	3.3	400	角閃岩	204図	121上段	基部側欠損
27	SK-74	定角	12.5	4.3	2.9	300	緑色凝灰岩	204図	121上段	基部及び刃部敲打欠損
28	SK-45		12.4	3.8	2	120	蛇紋岩	204図	121上段	刃部は丸く鈍い。中央で二つに折れ、剥落顕著
29	SK-24		8.4	5	2.8	150	砂岩	204図	121上段	基部側欠損。刃部は丸い。火熱により赤化、剥離
30	SK-6	定角	7.5	3.2	2.2	100	砂岩	204図	121上段	刃部側欠損
31	SK-74	定角	7	4.6	3.4	210	安山岩	204図	121上段	基部側遺存、敲打整形痕
32	SK-74	定角	6.7	4.8	1.5	70	砂岩	204図	121上段	刃部遺存、SK-28№25と同一個体の可能性
33	SK-85	定角	5.2	4.5	2.6	80	安山岩	204図	121上段	基部のみ遺存
34	SK-107		6	6	2.6	160	砂岩	204図	121上段	基部のみ遺存、側面敲打整形痕、裏面節理痕
35	SK-297	定角	9.2	5	3.6	240	緑色凝灰岩	204図	121下段	基部側及び刃部欠損、敲打整形痕残
36	SK-193	定角	6.9	4.7	3	140	閃緑岩	204図	121上段	基部側欠損、刃部使用痕
37	SK-200	定角	9.3	5	3.5	300	砂岩	204図	121下段	刃部欠損
38	SK-305	定角	8.8	4.7	2.8	180	安山岩	204図	121下段	基部欠損、欠損部整形
39	SK-312	定角	9	4.9	3.6	210	緑泥片岩	204図	121下段	基部側欠損、刃部使用痕、刃こぼれ
40	SK-314	定角	8.7	4.6	3.3	280	輝緑凝灰岩	204図	121下段	刃部側欠損
41	SK-298	未製品	13.6	6.4	4	540	砂岩	204図	121下段	敲打及び剥離整形痕、裏面自然面残、未製品
42	SK-314	未製品	11.7	6.6	4.1	510	石英閃緑岩	204図	121下段	刃部及び基部欠損、被熱、側縁敲打痕残
43	SK-341	未製品	11.6	5.7	2.7	340	蛇紋岩	204図	121下段	側縁打ち欠き後、敲打整形
44	SK-347	素材	15.4	5	3.8	460	ホルンフェルス	204図	121下段	基部欠損
45	SK-392	素材	15.8	6	3.6	440	砂岩	204図	122上段	全体的に敲打痕、一側縁のみ研磨
46	SK-380	素材	12.5	7.1	4.1	610	石英閃緑岩	204図	121下段	側縁敲打整形、刃部欠損
47	SK-380	未製品	12.2	5.5	3.6	440	安山岩	204図	121下段	刃部側欠損、側縁敲打整形
48	SK-391	定角	13.2	4.8	3.2	390	砂岩	204図	122上段	刃部欠損、丁寧な研磨で光沢を帯びる
49	SK-389	定角	10.1	4.2	1.5	80	砂岩	204図	122上段	刃部は敲打痕剥後磨滅、基部は丸く仕上げる
50	SK-444	定角	11.2	4.2	2.5	280	緑色片岩	204図	122上段	刃部欠損、基部剥落数か所
51	SK-452	定角	9.5	4.8	3.6	270	安山岩	204図	122上段	刃部側欠損、側縁は敲打整形と研磨

52	SK-325	定角	7.2	4.3	2.5	140	緑色片岩	204図	121下段	刃部側欠損。基部先端敲打痕
53	SK-412	定角	7.4	3.8	1.8	70	花崗岩	204図	122上段	刃部側欠損。基部は丸く仕上げる
54	SK-408	定角	6.4	5.5	2.4	100	砂岩	204図	122上段	刃部のみ遺存。丁寧な研磨で光沢を帯びる
55	SK-420	定角	9.4	4.3	3	205	砂岩	204図	122上段	刃部側欠損、被熱
56	SK-441	定角	7	6.4	2	180	安山岩	204図	122上段	刃部側遺存、側縁は片側のみ敲打整形、好打整形刃部鈍い
57	SK-434	定角	7.3	5.7	2.4	180	緑泥片岩	204図	122上段	基部側欠損、全体的に丁寧な研磨で光沢を帯びる
58	SK-427	未製品	11.2	6.2	3.4	440	安山岩	205図	122上段	側縁敲打整形、基部側折損後敲打整形
59	SK-433	定角	13.7	4.9	1.6	160	緑色片岩	205図	118下段	基部及び側縁未整形
60	SK-454	定格式	13	4.6	2.4	230	輝石安山岩	205図	122上段	刃部側で折損接合、先端部刃こぼれ
61	SK-454	定角	11.2	4.5	3	240	凝灰岩	205図	122下段	刃部破損、側縁敲打痕、表裏にも2個1列の敲打凹痕
62	SK-456	定角	9.7	4.8	2.9	200	蛇紋岩	205図	122下段	基部側欠損
63	SK-477	定角	10.3	4.3	3.2	220	安山岩	205図	122下段	刃部欠損後整形
64	SK-440	未製品	13	7.8	5	820	緑色片岩	205図	122上段	基部側欠損、敲打整形、刃部片面のみ研磨
65	SK-469	定角	11.5	7	4.2	540	閃緑岩	205図	122下段	基部側欠損、敲打整形、刃部は鈍い
66	SK-591	未製品	12.8	5.6	3.3	400	ホルンフェルス	205図	123上段	基部欠損、全体的に敲打整形、刃部は鈍い
67	SK-493	定角	14.7	5.1	3.1	380	緑色片岩	205図	122下段	完存、全体的に敲打整形残
68	SK-668	定角	13.4	5.1	2.8	302	花崗岩	205図	123上段	刃部欠損、丁寧な研磨整形
69	SK-460	定角	7.7	4.9	2.3	160	花崗岩	205図	122下段	基部側欠損
70	SK-460	定角	8	4.8	2.3	150	安山岩	205図	122下段	刃部側欠損後、一部研磨整形
71	SK-477	定角	10	3.1	1.3	64	安山岩	205図	122下段	完存
72	SK-481	定角	8.5	7.3	2.2	170	ホルンフェルス	205図	122下段	基部側欠損、前面丁寧な研磨整形
73	SK-477	定角	8.8	4.3	1.8	50	安山岩	205図	122下段	完存
74	SK-591	未製品	8.8	5.9	4.4	390	緑色片岩	205図	123上段	刃部側欠損
75	SK-481	定角	10.5	4.5	2.9	220	緑色凝灰岩	205図	122下段	完存、側縁敲打整形残
76	SK-514	定角	9.8	3.6	2.9	200	砂岩	205図	123上段	刃部側欠損
77	SK-667	定角	12.1	4.3	3.2	280	砂岩	205図	123上段	完存、刃部磨滅
78	B区1-4	定角	12.2	4.6	2.9	300	砂岩	205図	—	刃部欠損。丁寧な研磨整形
79	B区3-8	定角	13.2	4.1	2.4	210	安山岩	205図	—	完存、側縁敲打整形痕。
80	B区7-6	定角	11.3	4.2	1.6	110	凝灰岩	205図	—	裏節理面残、側縁敲打整形
81	SK-477	素材	6.5	3.2	1.2	42	安山岩	205図	122下段	刃部破損、被熱ひび割れ
82	SK-667	素材	7.3	3.5	1.5	70	砂岩	205図	123上段	全体的に丁寧な研磨
83	SK-606	定角	8	6.4	3	280	安山岩	205図	123上段	基部側欠損。刃部刃こぼれ
84	SK-673	定角	8.8	5.4	2.9	210	砂岩	205図	123上段	刃部側欠損
85	B区1-7	未製品	7.7	5.1	3.6	260	砂岩	205図	—	刃部側欠損、表面中央以外敲打整形
86	表採	定角	9.7	4.7	2.7	240	砂岩	205図	123上段	刃部側欠損、丁寧な研磨整形
87	B区3-12	定角	9.6	5.2	3	230	砂岩	205図	—	基部側欠損、全体的に敲打整形
88	B区2-8	未製品	8.5	6.4	3.1	300	石英閃緑岩	205図	—	基部側欠損、側縁剥離後敲打整形
89	B区3-11	定角	7.1	5.3	2.8	180	砂岩	205図	—	基部側欠損、僅かに刃こぼれあり
90	SK-591	定角	7.7	4.5	2	140	砂岩	205図	123上段	刃部刃こぼれ、基部折損後整形、砥石転用

第11表　磨石・凹石観察表

No.	出土遺構	最大長	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	備考
1	SI-8	13.2	8.1	3	610	安山岩	206図	123下段	表面中央敲打痕、表裏面磨痕
2	SI-11	15.7	7.6	4.1	920	安山岩	206図	123下段	表裏面敲打痕、表裏側縁磨痕
3	SI-16	13	8.6	3.8	680	安山岩	206図	123下段	表裏面2個の凹、表裏面磨痕、両端敲打痕
4	SI-26	10.7	9.3	3.7	540	安山岩	206図	123下段	半壊品、表裏面敲打痕、表裏面磨痕
5	SI-27	13.7	9.8	3.5	760	凝灰岩	206図	123下段	表面中央2個凹、裏面敲打痕、側縁敲打痕
6	SI-27	15.4	8.5	3.6	970	安山岩	206図	123下段	表裏面磨痕、打ち欠き後先端敲打痕
7	SK-6	11.7	5	3.4	320	砂岩	206図	123下段	全体的に磨痕、裏面中央軽い敲打痕
8	SK-7	9.3	8.9	5	590	安山岩	206図	123下段	表裏面磨痕
9	SK-8	11.8	6.8	3.6	480	安山岩	206図	123下段	表裏面2個浅い凹、全体的に磨痕
10	SK-7	17	9.4	4.7	950	安山岩	206図	123下段	表裏面磨痕、周縁敲打痕、打ち欠き後先端敲打痕
11	SK-8	11.2	8	4.4	460	安山岩	206図	124上段	半壊品、全体的に磨痕、表裏面中央に軽い敲打痕
12	SK-25	12.1	9.3	4.6	700	安山岩	206図	124上段	全体的に磨痕、被熱
13	SK-33	11.6	8.5	4.1	600	安山岩	206図	124上段	全体的に磨痕、表裏面中央に軽い敲打痕、被熱
14	SK-35	14.9	8.9	4.2	860	花崗岩	206図	124上段	表裏面磨痕、中央に2・3の凹、側縁敲打痕
15	SK-59	15.4	6.4	4.2	580	安山岩	206図	124上段	半壊品、全体的に磨痕、表裏面に軽い敲打痕
16	SK-61	13.7	9.1	4.9	900	安山岩	206図	124上段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、端部敲打痕、被熱
17	SK-61	14.9	9.5	4	840	安山岩	206図	124下段	全体的に磨痕、側縁敲打痕
18	SK-71	13.4	9.1	4.6	800	安山岩	206図	124下段	表裏面磨痕、中央に2個の軽い凹、被熱
19	SK-72	14.2	11.3	5.8	1240	凝灰岩	206図	124下段	表裏面磨痕、中央に2個の軽い凹、端部敲打痕

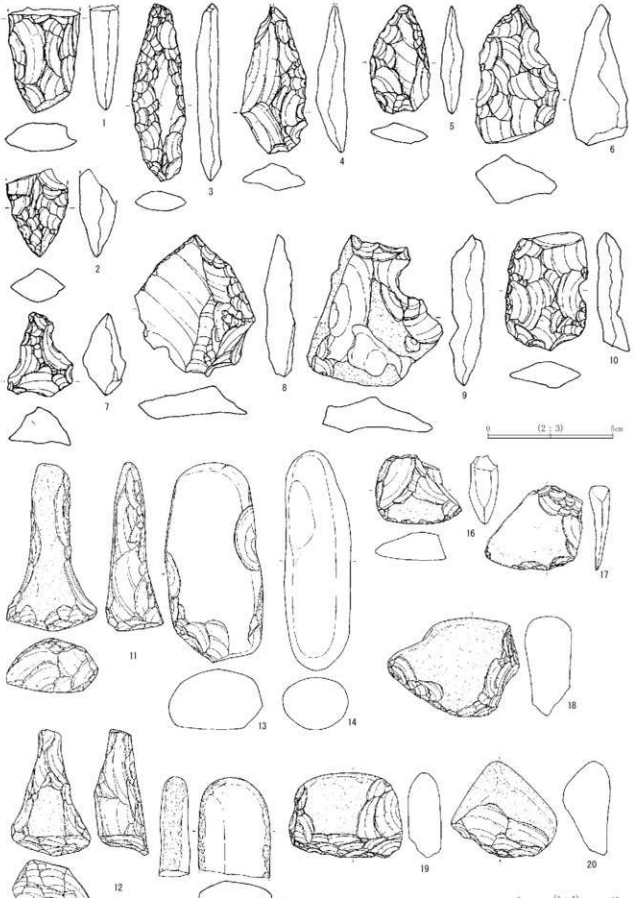
20	SK-74	14.2	8.2	4	760	安山岩	206図	124下段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、端部欠損後敲打
21	SK-75	18.6	10.6	4.5	1300	安山岩	206図	124下段	表裏面磨痕、被熱
22	SK-77	12.5	5.6	3.7	420	安山岩	206図	124下段	全体的に磨痕
23	SK-79	13.7	9.9	6.1	1000	砂岩	206図	124下段	約1/4欠損。表裏中央敲打痕
24	SK-93	12.7	8.9	4.6	810	安山岩	206図	125上段	表裏面磨痕、表面2個浅い凹、裏面中央及び側縁軽い敲打痕
25	SK-99	13.4	9.9	4.6	950	安山岩	206図	125上段	表裏側面磨痕、中央軽い敲打痕、端部敲打痕、被熱
26	SK-91	12.4	5	3	340	砂岩	206図	125上段	半場品、端部欠損、表裏面磨痕
27	SK-36	10.5	6.7	3.8	400	安山岩	206図	124上段	表裏面磨痕、中央に2個凹、被熱
28	SK-48	8.2	7	2.5	240	安山岩	206図	124上段	表裏側面磨痕、表裏中央に凹
29	SK-55	10	8.3	5.4	350	砂岩	206図	124上段	表裏面中央に凹
30	SK-61	6.4	8.2	4.1	270	安山岩	206図	124上段	半場品、全体的に磨痕、表裏面中央に軽い敲打痕、被熱
31	SK-70	9.9	6.7	3	350	安山岩	206図	124下段	半場品、表裏面磨痕、2個浅い凹、端部端部敲打痕
32	SK-70	10.6	7.8	4.5	580	安山岩	206図	124下段	表裏面磨痕、中央に2個の凹、周縁敲打痕
33	SK-85	15	5.4	2.7	390	安山岩	206図	124下段	全体的に磨痕
34	SK-93	15.9	10.1	4.7	1140	砂岩	207図	125上段	表裏面磨痕、表面2個凹、裏面中央敲打痕
35	SK-102	11.1	7.8	4	490	安山岩	207図	125上段	約1/3欠損、表裏面磨痕、表面中央敲打痕
36	SK-102	10	7.6	4.7	550	安山岩	207図	125上段	表裏面磨痕、中央敲打痕、両端部敲打痕
37	SK-110	10.9	5.8	4.2	380	安山岩	207図	125上段	全体的に磨痕、表裏中央に敲打痕
38	SK-110	11.6	7.6	4.1	520	安山岩	207図	125上段	全体的に磨痕、表裏中央に2個の浅い凹
39	SK-111	14.5	7.5	4.8	820	安山岩	207図	125上段	全体的に磨痕、表裏中央に2個の浅い凹、側縁敲打痕、被熱
40	SK-117	11.8	9.3	6.1	990	安山岩	207図	125上段	全体的に磨痕、表裏中央に軽い敲打痕
41	SK-132	8.2	9.6	3.7	480	安山岩	207図	125下段	半場品、表裏面磨痕及び敲打痕、先端敲打痕、被熱
42	SK-131	11.4	8	3.5	400	砂岩	207図	125下段	表裏面磨痕
43	SK-132	9.5	7.4	3.5	400	安山岩	207図	125下段	表裏面磨痕、中央に1個凹、側縁及び両端敲打痕
44	SK-133	10.5	7	4.4	450	砂岩	207図	125下段	表裏面磨痕、中央に表浅い2個凹と裏軽い敲打痕
45	SK-133	13.4	9	4.2	720	安山岩	207図	125下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、周裏軽い敲打痕、被熱
46	SK-135	11.1	8.6	3.5	520	安山岩	207図	125下段	表裏面磨痕、表面中央に軽い2個凹、端部敲打痕
47	SK-147	9.7	6.5	2.5	230	安山岩	207図	125下段	全体的に磨痕
48	SK-160	13.6	8.5	3.9	660	砂岩	207図	125下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、端部敲打痕、被熱
49	SK-161	13.1	9.1	4.6	610	砂岩	207図	125下段	欠損品、表裏面磨痕、中央に1個凹、側縁敲打痕、被熱
50	SK-166	13.7	9	3.8	750	安山岩	207図	126上段	表裏面磨痕、中央に凹、側縁及び両端敲打痕
51	SK-231	14	10.5	3.8	812	安山岩	207図	126上段	表裏面磨痕、中央に軽い凹、側縁敲打痕
52	SK-188	12.5	9.2	5.2	790	安山岩	207図	126上段	一部欠損、表裏面磨痕、中央に2個凹、周縁敲打痕
53	SK-188	15.5	9.4	3.5	850	凝灰岩	207図	126上段	表裏面磨痕、端部敲打痕
54	SK-204	13.3	7.6	3.6	480	安山岩	207図	126上段	表裏面磨痕、中央に2～3個凹、側縁敲打痕
55	SK-231	13.1	8.3	4.3	750	安山岩	207図	126上段	表裏面磨痕
56	SK-238	15.2	9.7	5.3	1190	安山岩	207図	126上段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側縁敲打痕
57	SK-237	17	9.5	3.7	980	安山岩	207図	126上段	表裏面磨痕
58	SK-237	12.9	8.5	4.6	660	安山岩	207図	126上段	全体的に磨痕、表面中央軽い敲打痕、裏面2カ所剥落
59	SK-261	17.5	12.9	4.8	1460	安山岩	207図	126下段	表裏面磨痕、先端敲打痕
60	SK-160	7.9	7.3	4	300	砂岩	207図	125下段	表裏面磨痕、中央に敲打痕
61	SK-193	8.5	8.7	3	360	砂岩	207図	126上段	表裏面磨痕、被熱
62	SK-246	9.8	4.8	4.3	240	砂岩	207図	126下段	全体的に磨痕
63	SK-246	8.9	8.6	4	400	安山岩	207図	126下段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、被熱、赤色顔料付着
64	SK-261	11.7	8.5	3.2	450	安山岩	207図	126下段	表裏中央2個軽い凹、表裏面磨痕
65	SK-261	11.1	8.5	4.2	590	安山岩	207図	126下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側体部敲打痕
66	SK-279	10.5	7.7	4.7	540	石英閃緑岩	207図	126下段	表裏面磨痕、中央軽い敲打痕、被熱
67	SK-262	15	10.5	4	880	安山岩	208図	126下段	表中央2個凹、裏中央軽い敲打痕、表裏面磨痕,被熱
68	SK-272	11.9	8.5	4.7	680	安山岩	208図	126下段	表裏側面磨痕、中央に2個凹
69	SK-272	10	8.3	4.3	680	安山岩	208図	126下段	半場品、表平坦面敲打・研磨・赤色顔料痕
70	SK-279	12	8.6	3.5	590	安山岩	208図	126下段	表裏面2個凹、表裏側面磨痕、両端敲打痕、被熱
71	SK-282	11.5	10.2	3.7	700	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕、表面中央軽い敲打痕
72	SK-282	11	9.5	4	580	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕、表面中央軽い敲打痕
73	SK-282	12.9	8.6	3.5	590	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕
74	SK-282	7.3	8.8	3.5	360	安山岩	208図	127上段	半場品、表裏面磨痕、表面中央に2個凹、裏面中央軽い敲打痕
75	SK-284	8.2	9.5	3.3	480	安山岩	208図	127上段	半場品、表裏面磨痕
76	SK-312	11.7	9.4	4.7	670	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕、裏面中央軽い敲打痕
77	SK-312	15.8	11	4.9	1160	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕
78	SK-312	12	9.1	4	650	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕、中央に2個凹
79	SK-312	13.9	8.2	4.5	680	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側縁敲打痕及び磨痕
80	SK-312	10.5	7.1	4	380	安山岩	208図	127上段	表裏面磨痕、中央に2個凹
81	SK-314	9.5	9.3	4.3	540	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に凹、側縁に敲打痕
82	SK-329	11.3	8.9	4.2	560	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、側縁に敲打痕
83	SK-351	10.5	8.6	4.4	600	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側縁に敲打痕、被熱

84	SK-342	10	8.6	4.6	540	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に凹
85	SK-331	15.6	8.4	4.7	1600	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、端部敲打痕、被熱
86	SK-345	9.7	9.2	3.8	480	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に凹。側縁に敲打痕
87	SK-345	16.5	8.8	5.2	1300	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、表面中央に凹、端部敲打後研磨
88	SK-351	15.2	10.9	4.1	1060	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、表面中央に軽い敲打痕、側縁敲打痕
89	SK-329	14.3	7.6	4.2	660	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、裏面端部剥落あり、被熱
90	SK-364	13	10.3	4.5	740	安山岩	208図	127下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側縁に敲打痕
91	SK-427	11.7	7.8	3.7	440	安山岩	208図	128上段	表裏面磨痕、中央に3個凹、側面敲打後研磨
92	SK-348	15	11.3	5.8	1500	安山岩	208図	128上段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕
93	SK-378	15.4	11	2.8	720	安山岩	208図	128上段	表裏面磨痕、中央に敲打痕
94	SK-380	12.2	7.9	3.7	500	安山岩	208図	128上段	表裏面磨痕、中央に2・3個凹、側縁軽い敲打痕
95	SK-392	9	6.9	3.8	390	安山岩	208図	128上段	表裏面磨痕、中央に2個の浅い凹
96	SK-392	9.6	8.1	4.1	480	安山岩	208図	128上段	表裏面磨痕、中央に2個の浅い凹
97	SK-414	9.9	9	4.4	550	安山岩	209図	128上段	表裏面磨痕、被熱、裏面数か所剥落
98	SK-378	9.8	8.2	4.4	590	安山岩	209図	128上段	表裏側面磨痕、中央に2個凹、側縁敲打痕
99	SK-427	10.6	9.1	4.1	530	安山岩	209図	128上段	1/3破損、表裏面磨痕及び軽い敲打痕、側面磨痕
100	SK-420	9.1	9.1	4.3	480	安山岩	209図	128下段	表裏側面磨痕、中央に凹、側縁敲打痕、被熱
101	SK-420	17.3	9.8	3.9	750	安山岩	209図	128上段	表裏側面磨痕、裏面中央軽い敲打痕
102	SK-441	11.9	10.5	4.3	740	安山岩	209図	128下段	表裏側面磨痕、中央に2個凹
103	SK-440	17.8	9.9	3.5	1100	安山岩	209図	128下段	一部欠損、表裏面磨痕、表面中央に2個凹、側縁敲打痕
104	SK-440	11.5	7.5	5.2	730	安山岩	209図	128下段	表裏側面磨痕、中央に2個凹、側縁敲打痕
105	SK-446	12.5	8.5	3.8	740	安山岩	209図	128下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、両端敲打痕、被熱
106	SK-450	10.4	8	4.7	580	砂岩	209図	128下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、周縁敲打痕
107	SK-466	10.6	9.6	3	340	安山岩	209図	128下段	表裏面磨痕、表面中央に2個凹、裏面中央軽い敲打痕
108	SK-470	10.2	8.9	4	520	安山岩	209図	128下段	表裏面磨痕、表面中央に2個凹、側縁敲打痕
109	SK-481	9	8.8	3.8	440	安山岩	209図	128下段	半壊品、表裏面磨痕、表面中央に軽い敲打痕、被熱
110	SK-480	11.9	9.6	3.9	700	安山岩	209図	128下段	表裏側面磨痕、中央に2個凹、端部敲打痕
111	SK-481	13.7	9.1	4.8	810	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に凹、被熱
112	SK-551	10.7	9.9	5.8	730	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に凹
113	SK-553	10.3	9.8	3.4	520	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に凹
114	SK-581	12.2	6.5	2.8	360	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側縁敲打痕、被熱
115	SK-570	15.8	6.8	5.2	840	砂岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に2個凹、両端敲打痕
116	SK-578	13.5	9.9	4.7	860	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に2個凹、両端敲打痕、被熱
117	SK-570	10.7	9.7	4.9	600	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、表面中央に2個凹、裏面中央軽い敲打痕、被熱
118	SK-559	13.8	8.8	3.3	660	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側縁敲打痕
119	SK-596	14.1	9.5	5.3	840	安山岩	209図	129下段	表裏面磨痕、中央に2個凹
120	SK-615	16.1	10.6	4	1180	安山岩	209図	129下段	表裏側面磨痕、表面はわずかに凹面
121	SK-581	13.9	5	3.4	360	砂岩	209図	129上段	全体的に磨痕、裏面中央軽い敲打痕
122	SK-591	11.9	9.9	3	520	安山岩	209図	129上段	表裏面磨痕、中央に2凹、側縁・端部敲打痕
123	SK-605	11.3	7.7	3.2	430	安山岩	209図	129下段	表裏側面磨痕、両端敲打痕、被熱
124	SK-621	11.4	8.1	3.9	540	安山岩	209図	129下段	表裏側面磨痕、中央に2・3個凹、側縁・端部敲打痕
125	SK-625	9.4	8.4	4	400	安山岩	209図	129下段	表裏側面磨痕、表面中央に軽い敲打痕
126	SK-621	10.2	8.6	5.3	680	安山岩	209図	129下段	表裏側面磨痕、中央に軽い敲打痕
127	SK-621	12.5	7.8	4.2	630	安山岩	209図	129下段	表裏側面磨痕、中央に軽い敲打痕
128	SK-610	10.9	8.8	5	700	安山岩	210図	129下段	表裏側面磨痕、中央に浅い凹、被熱
129	SK-615	8.8	7.3	3.6	300	凝灰岩	210図	129下段	表裏面磨痕、中央に凹、側縁敲打痕
130	SK-635	14.2	8.2	4	530	安山岩	210図	129下段	表裏面磨痕、中央に2凹、両端部敲打痕
131	SK-476	8.6	6.9	1.8	190	安山岩	210図	130上段	表裏面磨痕
132	SK-635	7.7	7	2.3	180	安山岩	210図	130上段	表裏面磨痕
133	SK-667	8	6.8	2.7	180	安山岩	210図	130上段	表裏面磨痕、中央に凹
134	SK-678	11.8	7.2	2	190	安山岩	210図	130上段	表裏面磨痕、被熱
135	SK-686	12.8	5.5	2.3	260	安山岩	210図	130上段	表裏面磨。
136	SK-673	11	5.7	3.5	300	安山岩	210図	130上段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕
137	SK-378	9.8	9.3	3.4	480	安山岩	210図	130下段	一部破損、表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、被熱
138	SK-670	12	6.4	4.1	508	花崗岩	210図	130上段	表裏面磨痕、中央に凹
139	SK-480	11.7	7.8	4	480	安山岩	210図	130下段	表裏側面磨痕、中央に1・2個の凹
140	SK-316	14.9	8	4.4	810	安山岩	210図	130下段	表裏面磨痕、裏面はわずかに凹面
141	SK-309	14	8.8	3.5	580	安山岩	210図	130下段	表裏面磨痕、中央に2個凹、側縁及び端部に敲打痕
142	SK-131	11.9	8	3.2	580	安山岩	210図	130下段	表裏面磨痕、中央に2個の浅い凹、被熱
143	SK-651	14.3	9.3	5.1	1050	安山岩	210図	130下段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕
144	SK-678	17.8	9.6	4.4	1140	安山岩	210図	130下段	表裏面磨痕。
145	SK-684	13.8	11	5.4	950	砂岩	210図	130下段	表裏面磨痕、中央に2個凹
146	SK-688	13	10.8	2.3	480	安山岩	210図	130下段	表裏側面磨痕、中央に軽い敲打痕
147	SK-160	11.1	8.6	4.9	630	安山岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕
148	SK-482	8.7	7.4	3.5	310	安山岩	210図	—	表裏面磨痕

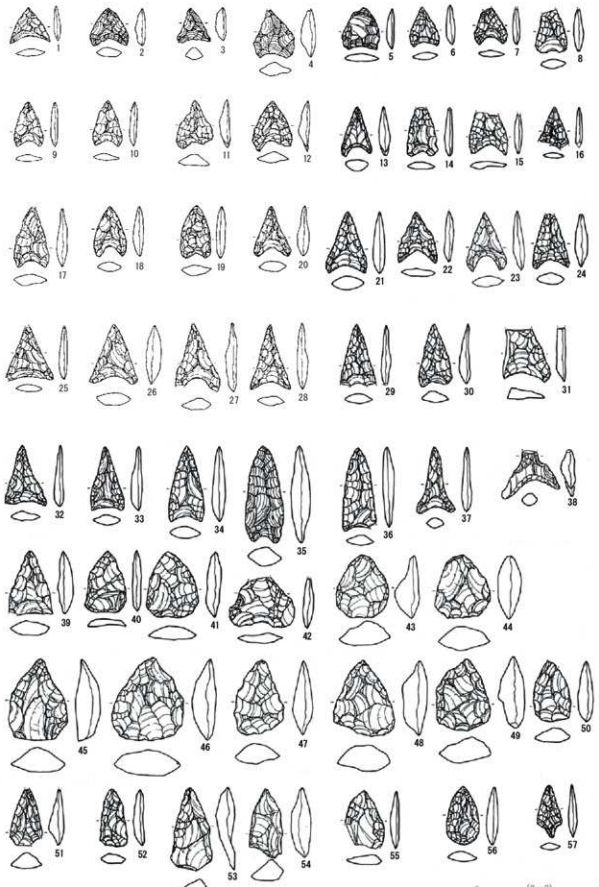
149	B区3-8	9.4	7.1	2.6	290	凝灰岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、側縁敲打痕
150	B区3-10	10.9	8.8	4.3	500	安山岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に2個凹
151	B区3-11	11.3	9.3	4.1	600	安山岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に2個凹、両端敲打痕
152	B区4-7	11.1	8.3	4.4	560	安山岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に凹
153	B区4-10	9	7.4	4.1	400	安山岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕
154	B区7-6	11	8.5	4.3	520	安山岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に2個凹
155	B区8-6	10.1	8.6	5.3	570	安山岩	210図	—	表裏面磨痕、中央に2個凹
156	B区9-6	10.6	7.5	3.8	400	安山岩	210図	—	半壊品、表裏面磨痕、表面1個、裏面2個の凹、被熱
157	SK-466	8.9	9.5	4.7	546	流紋岩	210図	133下段	表裏面磨痕、中央に軽い敲打痕、側縁一部敲打痕
158	B区4-10	6.9	6.1	3.5	200	凝灰岩	210図	—	表裏面磨痕
159	SK-459	7.9	4	3	140	安山岩	210図	—	端部敲打痕
160	SK-582	6.7	2.9	2	72	安山岩	210図	—	端部敲打痕

第12表　石皿・多孔石観察表

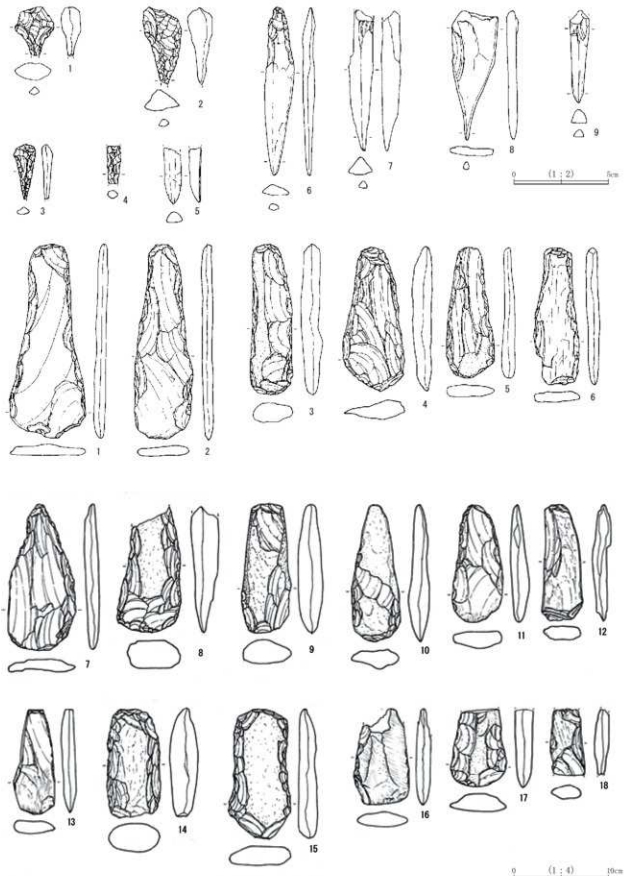
No.	出土遺構	最大長	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	備考
1	SI-37・38	17.1	23	4.8	2,660	凝灰岩	211図	131上段	破片、磨り面平坦、裏面凹痕
2	SK-85	16.3	20.8	5.9	3,360	凝灰岩	211図	131上段	破片、磨り面凹面、裏面多数凹痕
3	SK-72	30.3	35.4	9.5	1,190	凝灰岩	211図	131上段	半欠品、磨り面中央凹面、表面周縁及び裏面多数凹痕、被熱により赤変
4	SK-288	20.1	16.8	11.4	5,800	安山岩	211図	—	破片、表面凹痕
5	SK-61	21.7	14.2	7.1	1,480	凝灰岩	211図	131上段	破片、磨り面凹面、表面周縁及び裏面多数凹痕
6	SI-184	27	14.8	7.5	2,220	凝灰岩	211図	131上段	半欠品、有縁、磨り面中央凹面、表裏多数凹痕
7	SK-248	10.6	13.3	5.7	1,100	砂岩	211図	—	破片、表面多数凹痕、裏面凹痕
8	SK-143	25.8	18.1	7.2	4,390	凝灰岩	211図	132上段	半欠品、表裏周囲多数凹痕
9	SK-232	12.2	16.1	5.4	1,550	安山岩	211図	—	破片、磨り面わずかに凹面
10	SK-188	18.5	15.3	14.3	5,020	安山岩	212図	132上段	完存、球形、凹痕多数
11	SK-208	25.3	13.9	7.1	2,230	安山岩	212図	—	破片接合、磨り面凹面、表裏面多数凹痕
12	SK-354	17.1	23.5	6	2,810	安山岩	212図	132上段	破片、表面剥落、表面敲痕、裏面多数凹痕、裏面耕作機削り痕
13	SK-331	22.2	17.4	6.5	2,830	砂岩	212図	132上段	半欠品、表面中央磨痕平坦
14	SK-359	15.1	19.4	6.4	2,260	安山岩	212図	131上段	破片、磨り面凹面
15	SK-389	18.3	14	10.3	2,340	安山岩	212図	—	破片、有縁、表裏面凹痕
16	SK-380	18.3	11.5	5.1	1,800	安山岩	212図	—	破片、表面凹痕
17	SK-395	18.5	20.6	6	2,860	礫岩?	212図	—	破片、磨り面凹面、裏面多数凹痕、全体的に被熱
18	SK-531	16.2	15.5	6.2	1,500	安山岩	212図	132下段	破片、有縁、表裏面多数凹痕
19	SK-567	21.7	22.3	6.6	3,780	凝灰岩	212図	131下段	破片、磨り面平坦、表面敲痕、裏面多数の凹痕、破断面貝の化石
20	SK-519	19.8	22.3	8	4,320	安山岩	212図	132上段	半欠品、表面敲打凹面、裏面多数凹痕
21	SK-464	36.4	9.8	7.8	4,230	安山岩	213図	—	完存、棒状礫、表面磨痕平滑
22	SK-573	27.8	23.2	11	8,350	安山岩	213図	132上段	ほぼ完存、表裏面多数凹痕
23	SK-625	16.4	22.9	4.5	3,000	凝灰岩	213図	—	破片、磨り面平滑
24	SK-615	21.9	20.9	10.2	3,610	安山岩	213図	131下段	破片、有縁、磨り面中央凹面、表裏多数凹痕、写真図版SK-568
25	SK-650	27.5	18.8	9	3,220	安山岩	213図	131下段	半欠品、有縁、磨り面中央凹面、表裏多数凹痕
26	SK-625	28.5	24.6	8.6	830	安山岩	213図	131下段	破片接合、表裏中央凹面、周縁多数凹痕、裏面敲打剥落
27	SX-1	21.1	16.4	9.5	3380	凝灰岩	213図	132下段	破片、表裏面多数凹痕
28	SK-700	17	14	8	1,670	安山岩	213図	—	破片、磨り面凹面、裏面多数凹痕
29	B区捨て場6-7	40.6	35.1	8.5	13,940	安山岩	214図	131下段	ほぼ完存、有縁、表面中央凹面、裏面多数凹痕、
30	B区捨て場2-8・9	41.2	24	13.9	13,000	安山岩	214図	—	完存、磨り面凹面、表面周縁及び裏面多数凹痕
31	B区捨て場4-12	13.8	16	4.2	1,080	安山岩	214図	—	半欠品、小形、磨り面凹面
32	B区捨て場2-8	17.7	19.1	7	2,700	安山岩	214図	—	小破片、有縁、裏面凹痕
33	B区捨て場4-11	20.7	24.3	12.6	3,880	安山岩	214図	—	半欠品、表面周縁及び裏面多数凹痕
34	B区捨て場4-8	22.3	17.5	6.6	3,100	安山岩	214図	—	半欠品、磨り面凹面、裏面多数凹痕
35	B区捨て場1-4	12.8	13.1	13.2	2,380	安山岩	214図	—	円柱状、上下磨痕、各面浅い凹痕
36	C区採集	24.7	16.5	8.2	5,600	安山岩	214図	—	全面に多数凹痕
37	表採	38.4	28.5	12.7	1,750	安山岩	214図	131下段	ほぼ完存、有縁、裏面多数凹痕



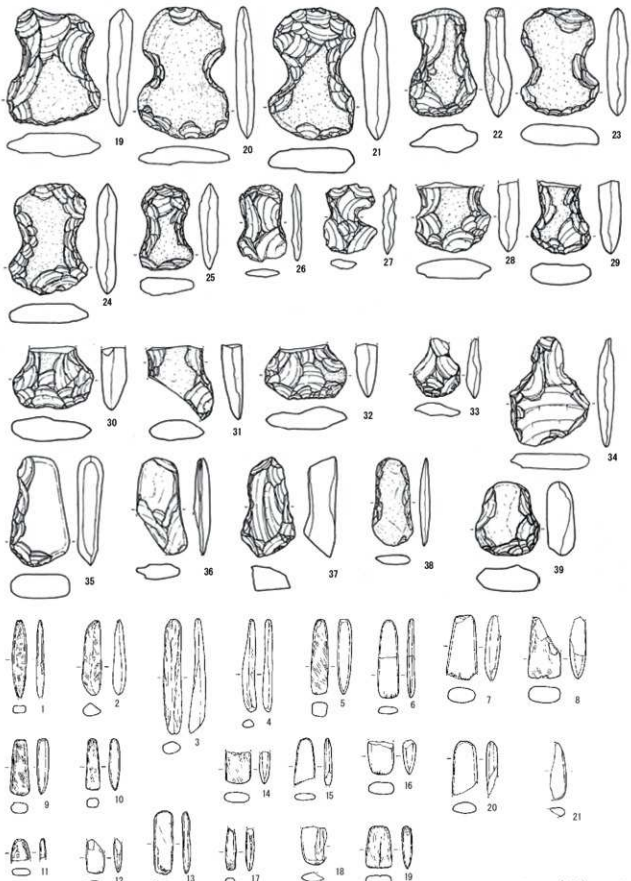
第200図 石器(尖頭器・石槍・掻削器・三角錐形石器・敲打器・礫器等)実測図



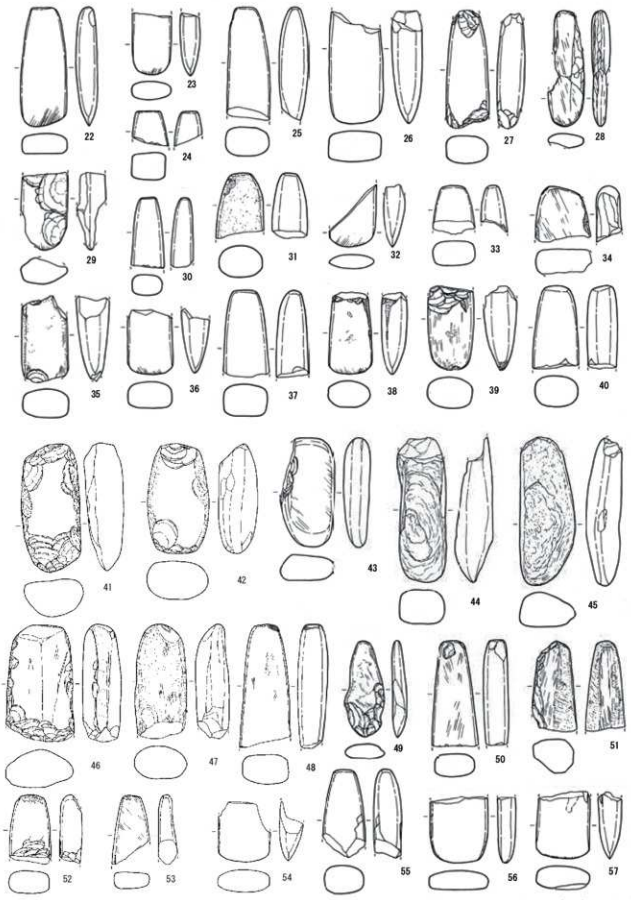
第201図 石器(石鏃)実測図



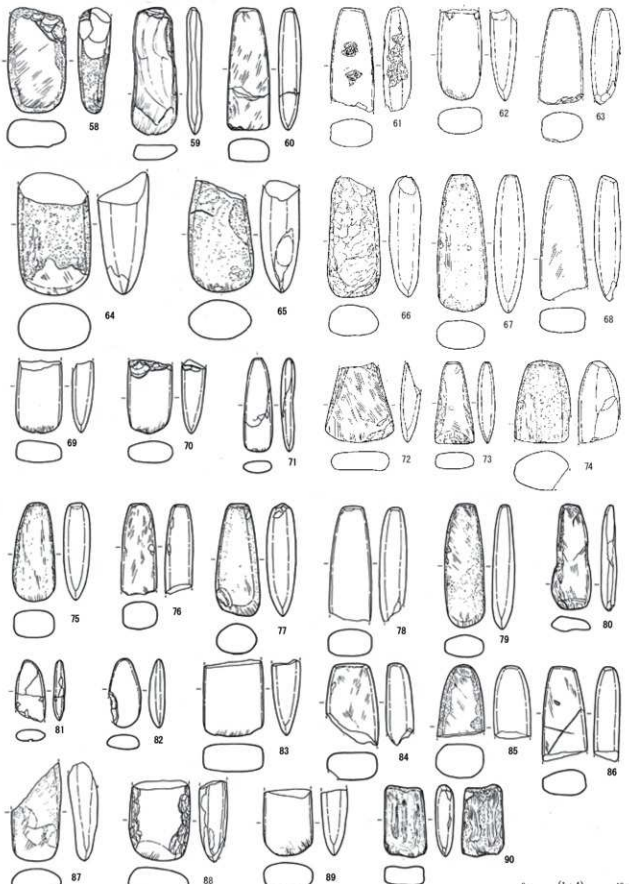
第202図 石器(石錐・打製石斧)実測図



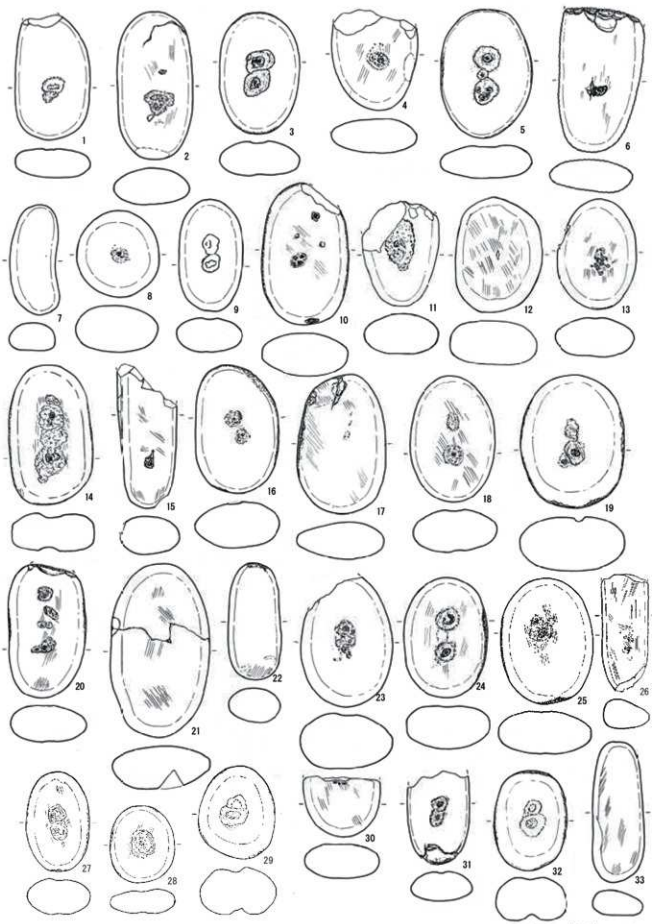
第203図 石器(打製石斧・磨製石斧)実測図



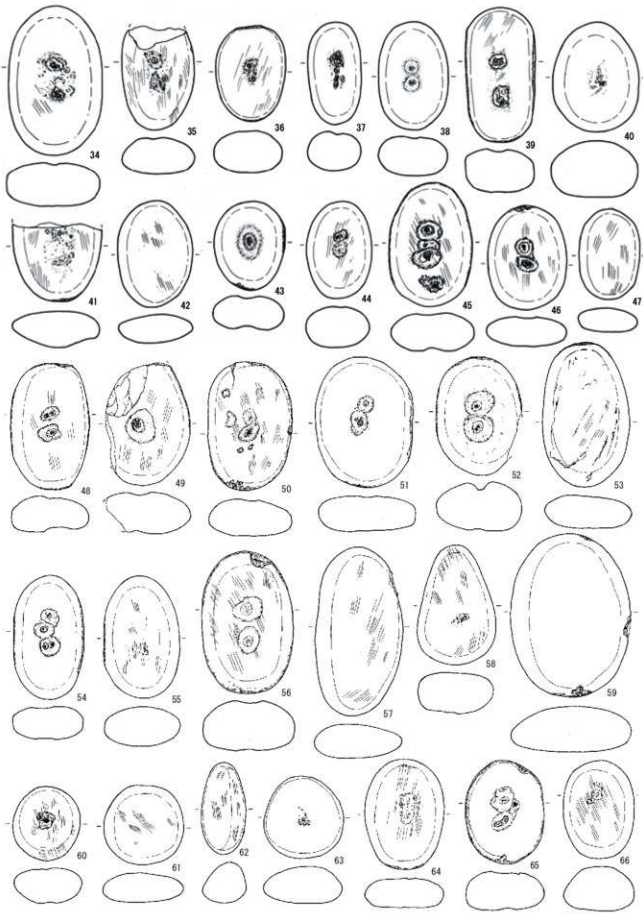
第204図 石器(磨製石斧)実測図



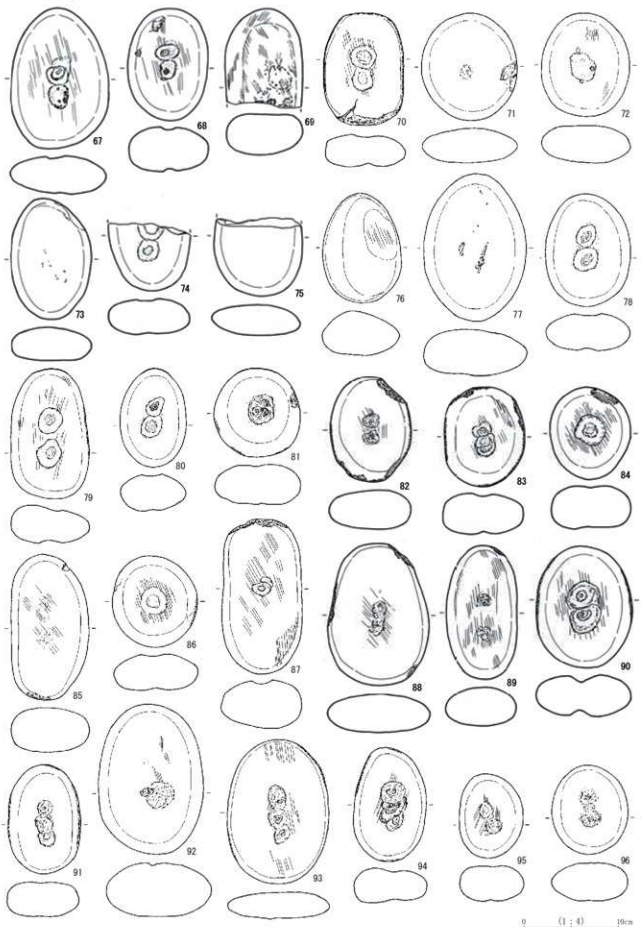
第205図 石器(磨製石斧)実測図



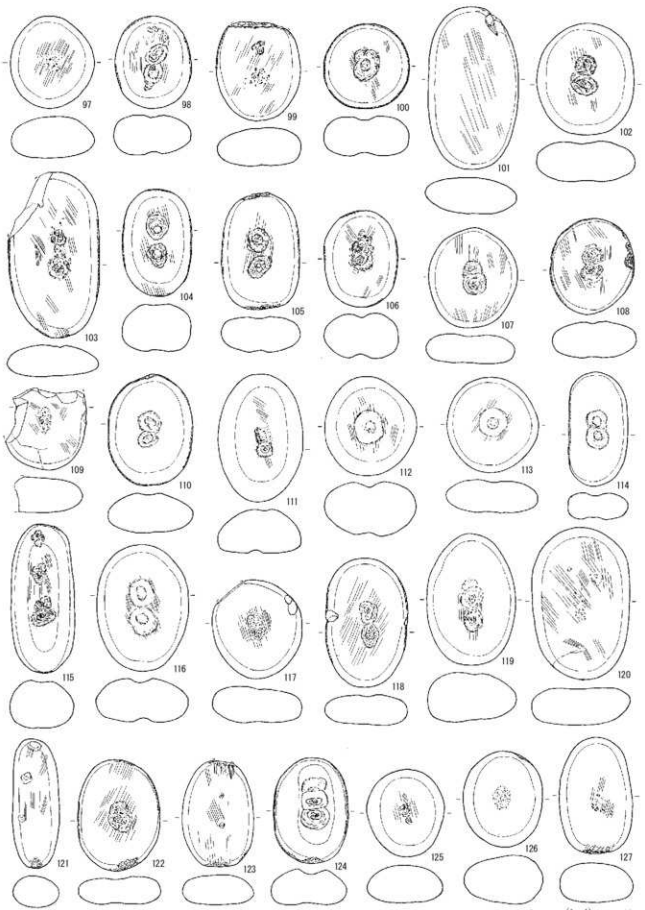
第206図 石器(磨石・凹石)実測図



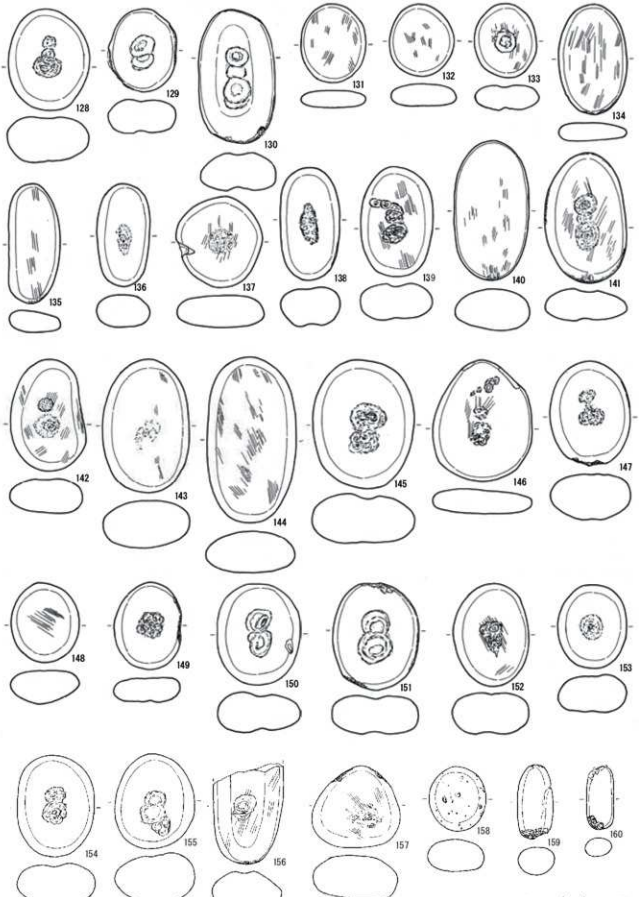
第207図 石器(磨石･凹石)実測図



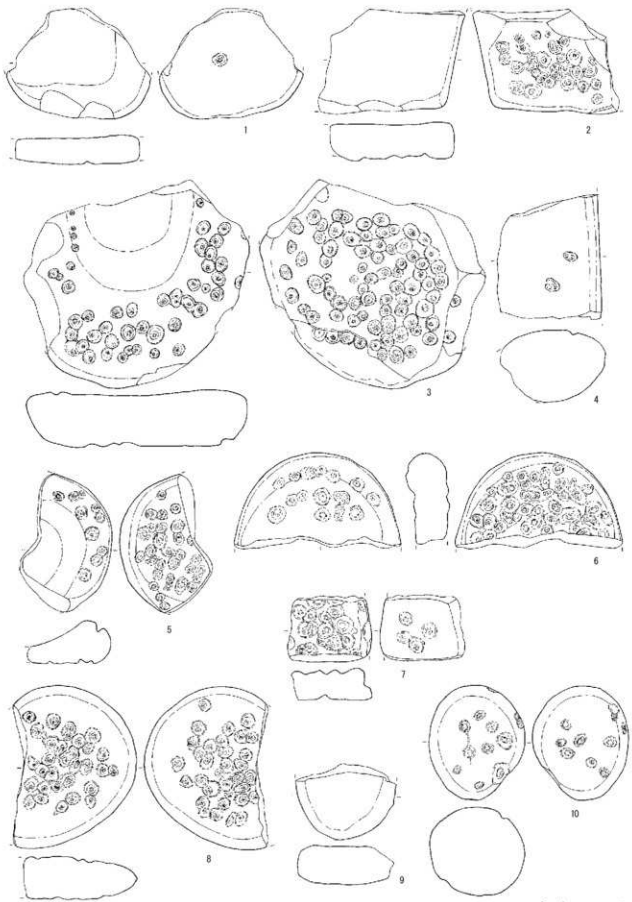
第208図 石器(磨石・凹石)実測図



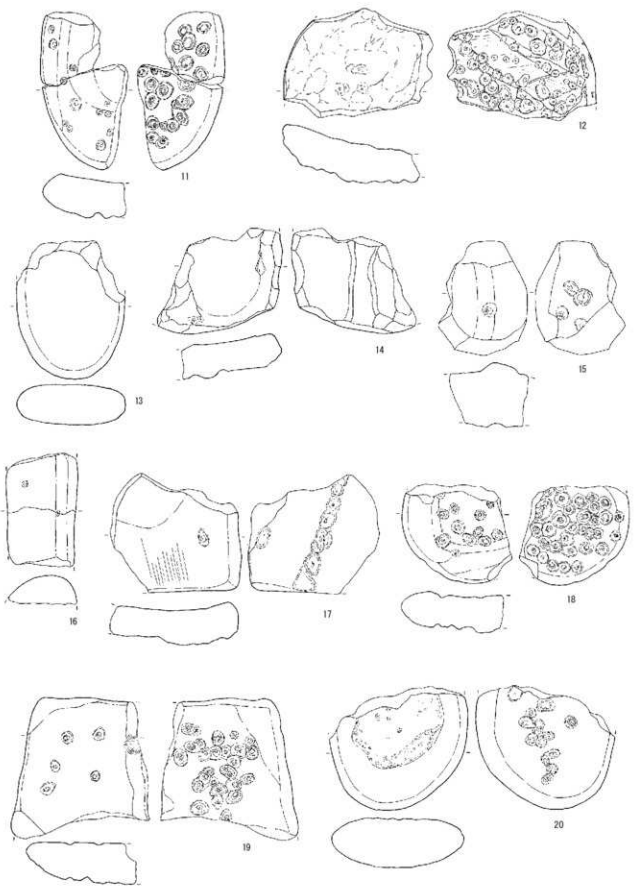
第209図 石器(磨石･凹石)実測図



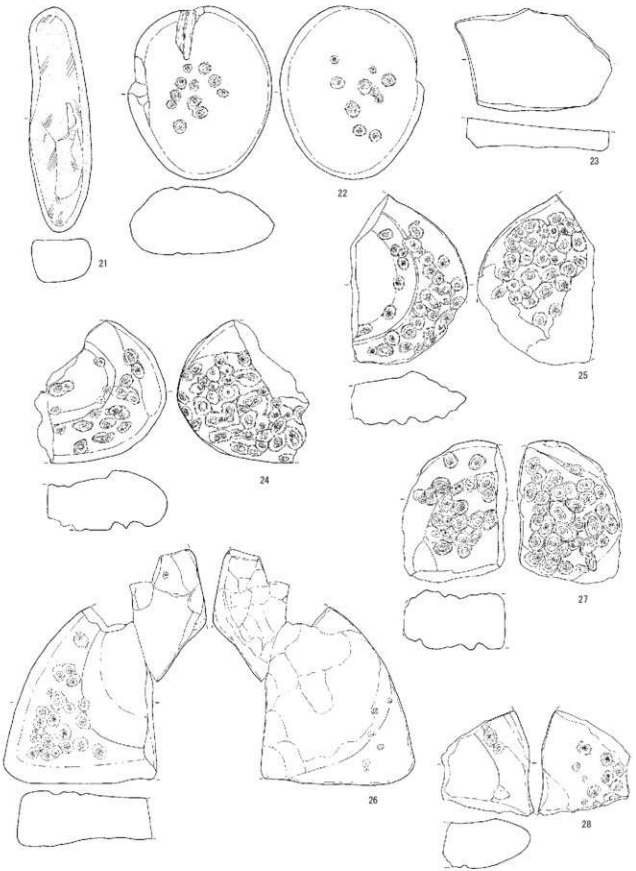
第210図 石器(磨石・凹石等)実測図



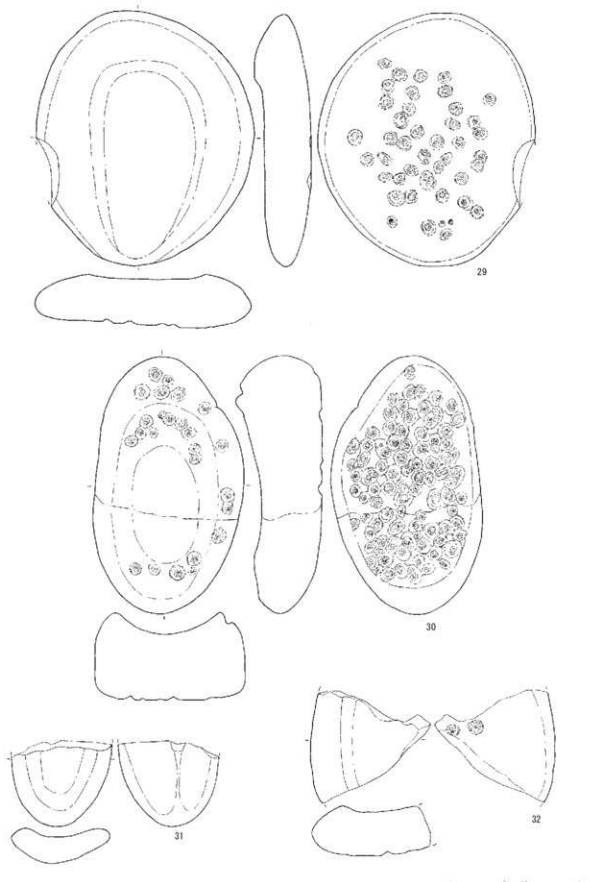
第211図　石器（石皿・多孔石等）実測図



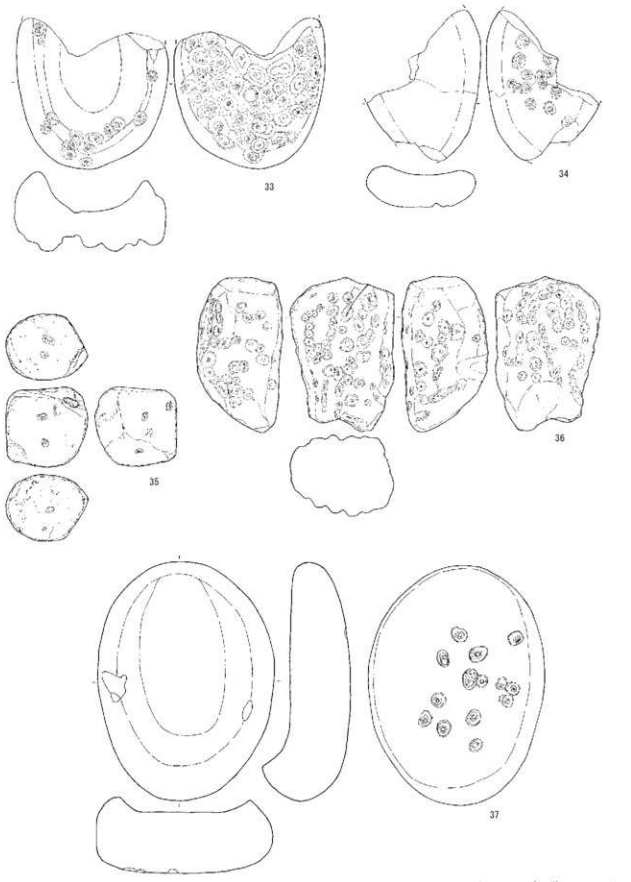
第212図　石器(石皿・多孔石等)実測図



第213図　石器(石皿・多孔石等)実測図



第214図　石器(石皿・多孔石等)実測図



第215図　石器(石皿・多孔石等)実測図

（8）土製品

① 土製円盤（第216図）

総数20点（竪穴住居跡２、土坑15、その他２）出土している。直径1.3～６㎝まであり、３㎝以下の小型のものが多い。周縁の磨滅は小型のものほど顕著である。有文のものは爪形文（２・５・16）、有節沈線（12）、網代痕（14・20）などがあるが、無文のものが多い。土器の胴部を使用したものが多いと思われるが、底部を使用したもの（10・13・14・20）、土器把手の先端装飾と思われるもの（12）等がある。無文のものについても胎土に雲母を含むものが少なくなく、阿玉台Ⅱ式期及びその前後のものが多い。

② ミニチュア土器（第216図）

小型のナデ整形の土器で５点図示した。皿状のもの（21）、筒状のもの（22・25）、扁球状のもの（23）がある。21・22はユビの整形痕が顕著で、23は肩部3カ所に剥離痕が認められる。24は微隆帯により口縁部と胴部を区分し、胴部には浅い沈線が縦方向にランダムに施される。

③ 耳飾り・垂飾等（第216図）

耳飾りは6点出土している。26は径６㎝ある鼓形で、全面に赤色の塗彩痕が認められる。27・28は滑車形で、大きさ・胎土・色調なども酷似する。出土した土坑は60m以上離れている。29～31は糸巻形で、30の片面には粗雑な3条の重弧文が3単位施されている。

32は崩れた円柱状で、両面から穿孔が施されている。

33は小さなタカラガイ形の土製品で、外面中央に凹点、周囲に刻線で文様が施される。34は中央に孔が施された円形の土製品の破片、35は棒状の垂飾である。上方に横方向の穿孔、刻線で上端に渦巻状、側面に２条の平行沈線と菱形状の文様が施される。

④ 土器装飾（第217図）

36・37 は土器の装飾と考えられる。36 は三方から粘土を合わせ、三角状に整形した装飾である。中央が三叉状の空白となり、周囲を形状に沿って沈線が巡る。37は土器の突起に付く顔面装飾と考えられる。顔の輪郭は楕円状で、竹管による円形の刺突で目と口が表現されている。裏面は剥離痕が認められる。

⑤ 粘土塊（第217図）

4点図示した。38～40は手のひらサイズの粘土紐を握り潰したようなものである。41は中空のもので、外面には幅1㎝ほどの横方向のナデ、内側には接合痕が横方向に巡る。土偶の肩部ないし腰部の可能性もあるが明確ではない。全体的に磨滅が著しい。

（9）石製品

① 玉類（第217図）

3点図示した。1・２は垂飾で、1は長さ7.7㎝の完存品。２は硬玉製太珠の半壊品である。被熱しており、G-4グリッド杭（グリッド南西端）付近から出土している。3は管状の玉で、丁寧な研磨が施され光沢をおびる。

② 大形石棒（第217図）

頭部２点、体部3点を図示した。いずれも土坑から出土している。4・5は被熱により剥落・ひび割れが顕著である。4は体部のみであるが、Ⅱ期の土坑（SK-135）から出土している。５は半球状の頭部、６は円柱状の頭部の頂部を丸く仕上げており、頭部及び体部に凹痕がみられる。

③ 小形石棒（第218図）

3点図示した。いずれも緑色片岩製で、9は６ｍほど離れたSK-174とSK-179の破片が接合した。断面は楕円状の不整形のものが多く、9・10には抉りにより体部と頭部を区分している。11は破損部を敲打整形し、細い柄部を作り出している。刃の作り出しはないが全体の形状は石刀に近い。先端が尖る。いずれも加曽利ＥⅠ新～ＥⅡ式期の土坑からの出土である。

④ 線刻石（第218図）

4点図示した。12・14は断面三角の細い刻線で、12は側縁に、14は3面にわたり文様が施されている。13・15は凹線が施されるもので、15は楕円状の礫の先端に1条巡らしたもので、ベンガラの入った土器が出土した土坑(SK-382)から出土している。

第13表　土製円盤観察表

No.	出土遺構	長径	短径	厚さ	重量	挿図No.	遺存状況	周縁調整	特徴
1	SI-27	1.3	1.3	0.7	1.78	216図	完存	研磨	無文
2	SK-14	2.1	2.1	0.7	4.28	216図	完存	研磨	爪形文、阿玉台Ⅱ式深鉢胴部使用
3	SK-125	2	1.9	0.8	3.24	216図	完存	研磨	無文
4	SK-209	1.6	1.2	0.7	1.96	216図	完存	研磨	無文
5	SK-276	1.4	1.4	0.7	1.87	216図	完存	研磨	爪形文、阿玉台Ⅱ式深鉢胴部使用
6	SK-308	2.4	2.1	0.9	4.7	216図	完存	粗い研磨	無文、胎土に雲母混入、阿玉台式
7	SK-314	1.7	1.5	0.8	2.8	216図	完存	研磨	無文
8	SK-550	2.1	2	0.7	4.1	216図	完存	研磨	無文
9	C区採集	1.9	1.7	0.6	2.3	216図	完存	打欠・研磨	胎土に雲母混入、内面ミガキ、外面剥落
10	SI-26	2.7	2.6	1.1	8.2	216図	完存	研磨	無文、底部使用
11	SK-481	2.7	2.3	0.9	7	216図	完存	打欠・研磨	無文、胎土に雲母混入、阿玉台式
12	SK-407	3.5	3.1	1	11.2	216図	完存	—	有節沈線による渦巻文。渦巻状粘土紐整形。土器突起部の装飾か
13	SK-541	4.5	4.4	0.9	24.7	216図	完存	打欠・研磨	無文、土器底部使用、内面半分剥離、胎土に雲母混入、阿玉台式
14	SK-572	6	3.9	1.2	31	216図	半欠	打欠・研磨	網代痕、土器底部使用
15	SK-646	3.8	3.6	1.1	19.5	216図	完存	研磨	無文
16	SK-470	5.4	5	1	37.9	216図	完存	打ち欠き	爪形文、押圧隆帯、阿玉台Ⅱ式深鉢胴部使用
17	SK-475	4.8	4.5	0.9	18.2	216図	完存	打ち欠き	無文、小形土器底部使用
18	SK-625	4.8	4.7	1.2	34.4	216図	完存	ナデ	内面周縁は隆起。
19	2号墳覆土	5.2	4.6	1.3	36.7	216図	完存	研磨	無文、胎土に雲母混入、内外面ミガキ
20	C区採集	5	4.9	1	26.8	216図	完存	打欠・研磨	網代痕、土器底部使用

第14表　ミニチュア土器観察表

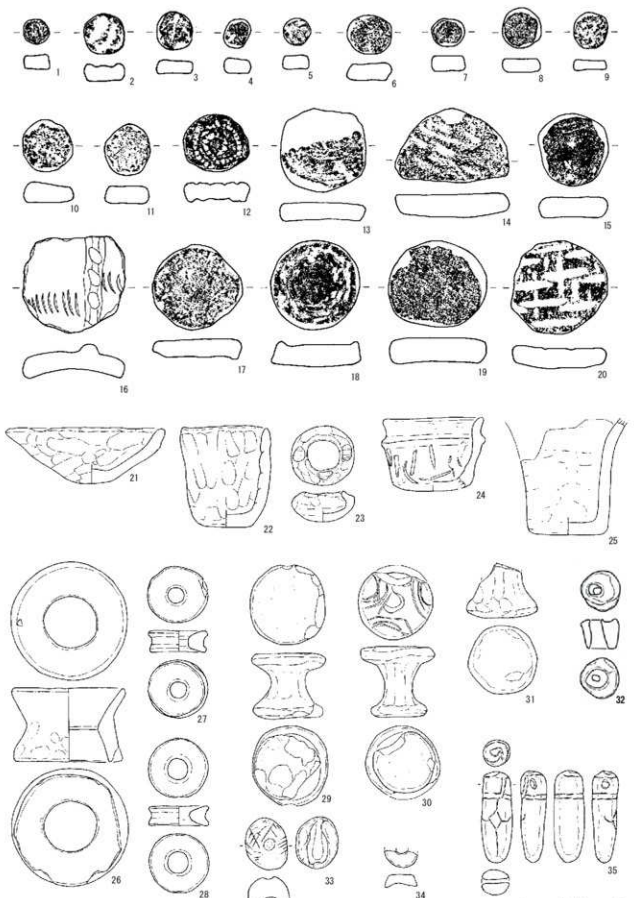
No.	出土遺構	口径	底径	器高	遺存状況	挿図No.	写真図版	特徴
21	SK-385	8	—	3	ほぼ完存	216図	110	潰れた円錐形。外面粗いナデ整形
22	SK-389	4.8	2.8	5.3	完存	216図	110	コップ状、外面ナデ整形、内側は粘土紐痕がみられる
23	SK-399	2.1	—	1.5	ほぼ完存	216図	110	潰れた扁球状。口縁に3カ所の刺落痕、ナデ整形
24	SK-476	5.4	4	3.9	1/2遺存	216図	110	口縁下に断面三角形の突帯が巡る、胴部にはランダムな縦方向の沈線
25	SK-562	—	3.8	-6.1	胴部上半欠損	216図	110	円筒状の胴部から上方に開く、ナデ整形

第15表　耳飾り・垂飾等観察表

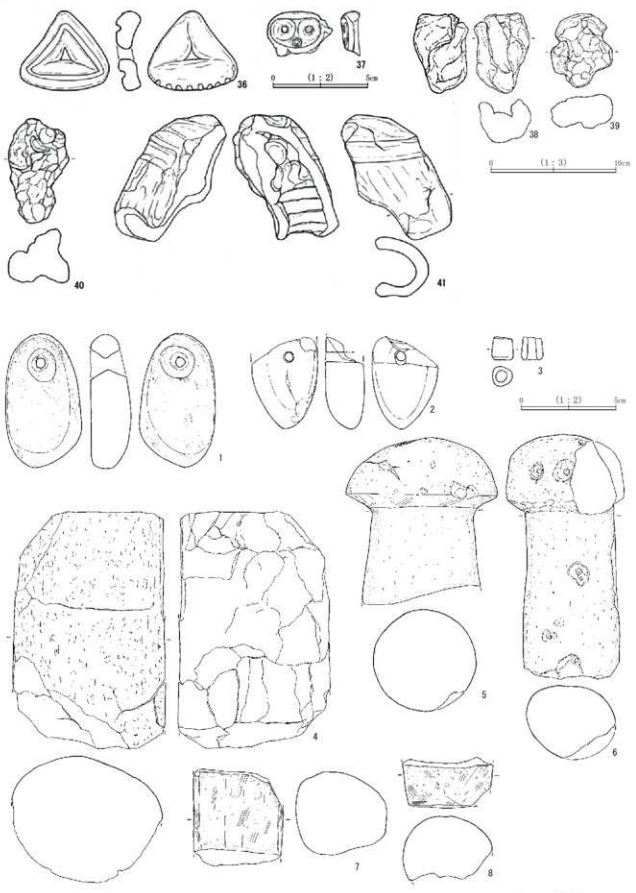
No.	出土遺構	径	孔径	器高	重量	挿図No.	写真図版	特徴
26	SK-301	6.1	2.3	4	60.7	216図	110	鼓形、全面に塗彩
27	SK-307	3.1	0.9	1.2	10.1	216図	111	扁平な滑車形、28と酷似。
28	SK-525	3.3	1.1	1.1	9.6	216図	111	扁平な滑車形、27と酷似
29	SK-391	3.9	—	3.5	37.3	216図	110	糸巻形、ナデ整形、周縁は若干剥落
30	SK-613	3.6	—	3.8	39.2	216図	110	糸巻形、雑な沈線で中央に円文、周縁に3条の3単位弧文、周縁は若干剥落
31	B区採集	3.6	—	2.9	27	216図	111	糸巻形耳飾り半壊品か、ナデ整形
32	SK-230	2.1	0.7	1.6	8.2	216図	111	円柱状、両面から穿孔、写真図版編SK-525
33	SK-693	2.8×2.3	—	1	9	216図	111	表面中央に円凹、細沈線文、タカラガイ形
34	SK-629	1.7	0.6	0.7	1.8	216図	111	半壊品
35	B区 捨て場	1.6	0.4	4.9		216図	111	上面に凸巻状、側面に2条の沈線巡らし，菱形状の文様、上方に横方向の穿孔

第16表　土器装飾・粘土塊等観察表

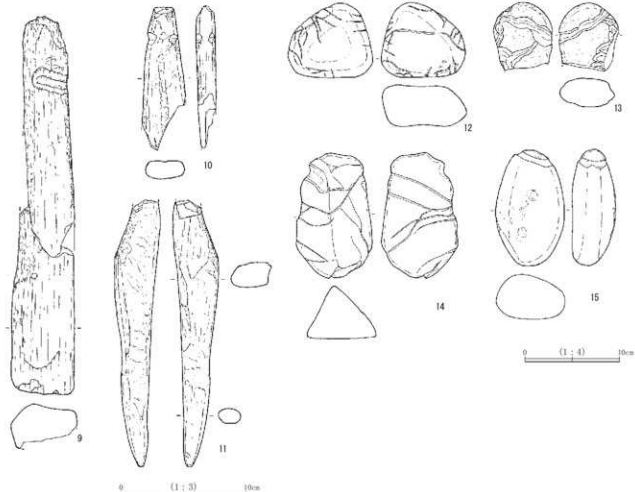
No.	出土遺構	長さ	幅	厚さ	重量	挿図No.	写真図版	特徴
37	SK-74	4.2	4.8	1	—	217図	111	三角形の貼付文、中央に三叉状の孔とそれを囲む沈線、裏面の一辺に連続刻み
36	SK-384	2.4	3.4	0.9	—	217図	110	顔面モチーフの貼付文、顔の輪郭横円形、目・口竹管刺突、裏面剥落痕
38	SK-395	6.3	4.2	3.5	56	217図	111	粘土塊
39	SK-12	5.9	5	2.8	68	217図	—	粘土塊
40	SK-12	8.3	4.9	4.3	112	217図	—	粘土塊
41	SK-426	10.1	6.9	4.8	223	217図	111	表面ナデ・摩耗顕著、上方に凹線状の窪みが巡る、中空で内側に粘土紐痕



第216図 土製品(円盤・ミニチュア土器・耳飾り・玉等)実測図



第217図　土製品(土器装飾・粘土塊)・石製品(玉・大形石棒)実測図



第218図 石製品(小形石棒)・線刻石実測図

第17表 玉類観察表

No.	出土遺構	長さ	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	特徴
1	SK-452	7.2	4	2.3	68	砂岩	217図	134上段	全面丁寧な研磨、両面から穿孔、孔径(表裏面1.1cm、中央0.6cm)、被熱
2	C区表採	(4.6)	(3.5)	2.1	52	翡翠	217図	134上段	大珠、半壊品、両面から穿孔、孔径0.6cm、被熱、G－4グリッド杭付近出土
3	C区表採	1.3	1.2	1.1	1.3	蛇紋岩	217図	—	管状、全面丁寧な研磨、上下から穿孔

第18表 大形石棒観察表

No.	出土遺構	長さ	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	特徴
4	SK-135	25.2	15.8	12.8	6,200	安山岩	217図	132下段	体部のみ、表面研磨整形、被熱剥落顕著
5	SK-403	16.8	12.4	12.4	4450	凝灰岩	217図	132下段	有頭(笠形)石棒、頭部先端敲打痕、被熱によりひび割れ、頭部一部欠損
6	SK-329	26.5	10.2	10.7	3,140	凝灰岩	217図	132下段	有頭石棒。頭部損壊後敲打整形、頭部及び体部に凹痕
7	SK-26	10.4	9.6	9.2	1,460	凝灰岩	217図	—	体部のみ、表面研磨整形
8	SK-406	5.5	9.4	6.8	520	凝灰岩	217図	—	体部破片、表面研磨整形

第19表 小形石棒観察表

No.	出土遺構	長さ	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	特徴
9	SK-174・209	30.4	5.3	3.2	518	緑色片岩	218図	133上段	SK-174(上)とSK-209(下)接合、抉りにより柄部形成、縦方向研磨、断面隅形成、携理面で縦方向に破損
10	SK-183	11.4	3.1	1.6	68	緑色片岩	218図	133上段	抉りにより頭部作出、縦方向研磨整形、断面長楕円形
11	SK-459	21.3	3.5	2.1	172	緑色片岩	218図	133上段	研磨整形をしているが素材の凹凸が残る、断面楕円形。先端が尖る、破損部整形

第20表 線刻石観察表

No.	出土遺構	長さ	最大幅	厚さ	重量	石質	挿図No.	写真図版	特徴
12	SK-244	18	9.1	4.3	510	安山岩	218図	133下段	周縁に多数の細い線刻、表裏は軽い凹面、被熱
13	SK-343	7	6.4	2.6	180	凝灰岩	218図	133上段	表裏にやや太い凹線刻
14	SK-303	12.8	7.2	5.7	620	凝灰岩	218図	133下段	三角錐状、各面に細い線刻、表面ベンガラ付着?
15	SK-382	12.5	7.3	4.8	610	花崗岩	218図	133下段	先端に凹線刻が巡る

第３節　古墳時代

（１）竪穴住居跡

竪穴建物跡は調査区南側から3軒検出されている。調査区南端の古墳の北～東側に位置し、それぞれの住居跡は20m以上離れている。

SI-17（第219・221図、図版149）

位置：調査区のほぼ中央、G-５aグリッド、古墳時代の遺構では最も北に位置する。縄文時代のSK-334・391と重複する。**規模と形状**：平面形は東西が北壁で5.6m、南壁で5.0m、南北が5.0mでやや歪んだ方形。確認面から床面までの深さは30～35cmである。主軸方向はN-40°-Eである。**覆土**：トレンチャーの攪乱が著しい。自然堆積で、IP粒を少量含む暗褐色土とローム粒を少量含む褐色土の2層に分層した。**柱穴**：ピットは5本確認された。大きさと床面から深さは、P1が径53cm、深さ32cm、P2が径38cm、深さ32cm、P3が43×32cm、深さ32cm、P4が24×26cm、深さ36cm、P5が44×40cm、深さ36cmである。4本主柱であるが、平面形とカマドの位置からきれいな対角線上の配置とはならない。北東主柱穴のP２は壁際に寄り、南東主柱穴については、西側のP１－P５と柱間が同間隔のP4の可能性もあるが、規模的にはP3である。東側主柱穴のP2・P3は西側に比べ壁際に寄る。西側の柱間（P１－P５）は2.5m、東側の柱間（P２－P３）は４m、東西の柱間は3.5mで台形状の配置となる。**カマド**：北壁ほぼ中央に構築されている。煙道は壁外へ30cmほど掘り込まれている。袖は長さ85cm、幅140cmである。**出土遺物**：坏3点、甕1点、甕2点、土製勾玉3点を図示した。復元可能な個体(4～6)はカマド及びその周辺から出土している。土製勾玉はカマド前面から2点、住居中央南東寄りから1点出土している。

SI-25（第220～222図、図版136・149・150）

位置：調査区の南東端、G-６a・dグリッドに位置する。SK-401・403・424～427など、多くの縄文時代の土坑と重複する。北西20mにSI-17、南西25mに1号墳が位置する。**規模と形状**：平面形は東西6.1m、南北5.85mのほぼ方形。確認面から床面までの深さは概ね30cm、西壁際で36cm、東壁際で26cmである。主軸方向はN-85°-Eである。**覆土**：自然堆積で黒色土と黒褐色土の2層に分層した。**柱穴**：ピットは対角線上に4本確認された。大きさと床面から深さは、P1が径28cm、深さ108cm、P2が径25cm、深さ105cm、P3が径25cm、深さ95cm、P4が径24cm、深さ90cmである。柱穴間は3.6～3.7mである。**カマド**：東壁の中央から若干南側に位置し、ロームと砂利の混土で構築されている。煙道は壁外へ15cmほど突出する。袖は長さ120cm、幅120cmで、やや丸く作られている。焚口の袖の内壁は川原石を立てて補強している。甕は正位で掛けられた状態のものと、壊されて散乱したものが2個体出土している。火床には支脚と考えられる逆位に立てた高坏(19)が出土している。**出土遺物**：坏16点、椀1点、高坏3点、甕５点を図示した。主柱穴の外側、壁際からの出土が多く、坏・高坏はカマドのある東側に特に多い。甕はカマド内と北西及び北東コーナー付近の床面から正立状態で出土している。

SI-33（第219・222図、図版137・150）

位置：調査区の南東端、H-３b・cグリッドに位置する。西側は縄文時代のSK-629・630・633・634と重複する。南側10mほどに1・2号墳が位置する。**規模と形状**：東西4.6m、南北が西壁で5.2m、東壁が4.5mで、平面形はやや南北が長い歪んだ方形である。確認面から床面までの深さはほぼ20cm、北壁際で23cm、西壁際で16cmである。主軸方向はN-10°-Wである。**覆土**：トレンチャーによる攪乱が多いが、IP粒を少量含む黒褐色土1層である。柱穴：ピットは６本確認された。大きさと床面から、深さはP1が46×50cm、深さ45cm、P2が30×28cm、深さ38cm、P3が25×25cm、深さ46cm、P４が33×30cm、深さ50cm、P5が35×36cm、深さ12cm、P6が23×24cm、深さ76cmである。P2がカマドの前面

を避けたため対角線上から外れるが、P1～P4の4本主柱と考えられる。P5・P6は壁に接し、P6は斜方向に掘り込まれている。**カマド**：北壁の北東コーナー寄りに構築されている。煙道は壁外へ85cmほどU字状に掘り込まれている。袖はロームと砂利の混土で構築されており、幅130cm、長さ70cmである。焚口および火床面の掘り込みは認められない。**出土遺物**：高坏と甕各1点、甕２点、白玉1点を図示した。カマド内から高坏(1)と甕の下半部(4)、カマド西側から甑(2)と甕の上半(3)が出土している。白玉(5)はP3北の覆土中から出土した。

第21表　SI-17出土土器観察表

No.	器種	計測値	出土状況	成形・調整の特徴	胎土・焼成	色　調	遺存状況	写真図版	備　考
1	坏	口径：[12.4] 器高：(3.8)	西側主柱穴間、床面より20cm上、破片　No.5	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラミガキ 内：口縁ヨコナデ・ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	灰色微砂粒少量、良好	外5YR7/6橙 内5YR8/4淡橙	1/5遺存	—	摩耗顕著
2	坏	口径：[12.4] 器高：5.4	カマド	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラミガキ 内：口縁ヨコナデ・ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	黒色微砂粒多量、白色微砂粒少量、良好	外5YR5/6明赤褐 内2.5YR5/6明赤褐	口縁部1/8及び体部遺存	149	口縁部及び内面赤彩痕、内面摩耗顕著
3	坏	口径：13.4 器高：6.0	カマド	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラミガキ 内：口縁ヨコナデ・ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	黒色微砂粒多量、白色細砂粒少量、良好	外5YR5/6明赤褐 内10R5/8赤	口縁部1/2、体部2/5欠損	149	口縁部及び内面赤彩痕、外面摩耗顕著
4	甕	口径：18.2 器高：15.7 丸底：2.5	カマド右袖脇から横転、No.2	外：ヘラナデ、ナデ 内：口縁ヨコナデ・体部ヘラケズリ、ヘラミガキ	灰色微砂粒多量、白色細砂粒少量、良好	外2.5YR7/6橙 内2.5YR6/8橙	口縁部～体部上方3/4欠損	149	内面下方整用凹凸残
5	甑	口径：18.0 胴径：25.6 器高：(22.1)	北東主柱穴西床面より10cm上部立、No.3・4	外：口縁ヨコナデ、頸部ヘラナデ・ヘラミガキ、胴部ヘラナデ・ヘラミガキ・ナデ 内：口縁ヨコナデ・胴部ヘラナデ	灰色細砂粒多量、白色細砂粒少量、良好	外5YR5/8明赤褐 内5YR6/6橙	口縁～胴部上半及び胴部下半1/4遺存	149	頸部及び胴部中央に黒斑
6	甑	口径：[17.8] 胴径：[27.0] 器高：32.0 底径：8.0	カマド内、破片接合、No.1	外：口縁ヨコナデ、頸部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ、ナデ 内：口縁ヨコナデ・胴部ヘラケズリ、ヘラナデ	灰色微砂粒多量、白色細砂粒少量、良好	外2.5YR5/8明赤褐 内5YR5/8明赤褐	口縁～胴部上半1/2及び底部遺存、胴部下半7/8欠損	—	

第22表　SI-25出土土器観察表

No.	器種	計測値	出土状況	成形・調整の特徴	胎土・焼成	色　調	遺存状況	写真図版	備　考
1	坏	口径：12.8 器高：5.2	覆土中	外：口縁ヨコナデ、ヘラミガキ　体部ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色細砂粒少量、白色細砂粒微量、良好	外5YR8/3浅橙 内2.5YR7/6橙	口縁部及び底部1/6欠損	—	口縁部及び内面赤彩痕、摩耗顕著
2	坏	口径：14.1 器高：6.1	覆土中	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ・ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色・黒色細砂粒少量、良好	外5YR7/3にぶい橙 内2.5YR7/6橙	口縁部5/6欠損	—	口縁部及び内面赤彩痕、摩耗顕著
3	坏	口径：13.8 器高：5.1	南壁際中央、床面から20cm上近位、No.5	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ・ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色細砂粒少量、やや不良	外5YR7/6橙 内2.5YR7/8橙	口縁部1/4欠損	150	底部黒斑
4	坏	口径：16.4 器高：(5.0)	覆土中	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ・ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ・ヘラミガキ、	灰色・黒色細砂粒少量、白色細砂粒微量、やや不良	外2.5YR6/8橙 内2.5YR6/8橙	口縁～体部1/3遺存	—	内外面摩耗顕著
5	坏	口径：12.6 器高：6.0	P3西、床面から20cm上、No.4	外：口縁ヨコナデ、体上ヘラナデ　体下ヘラケズリ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色・黒色細砂粒少量、白色細砂粒微量、良好	外2.5YR6/8橙 内2.5YR6/8橙	口縁部1/4欠損	150	底部ヘラケズリ整形痕顕著
6	坏	口径：13.0 器高：4.4	覆土中	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ・ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色・黒色細砂粒少量、白色細砂粒微量、良好	外2.5YR6/8橙 内2.5YR5/6明赤褐	1/4遺存。	—	口縁部及び内面赤彩痕、内面摩耗顕著
7	坏	口径：13.8 器高：5.8	覆土中	外：口縁ヘラミガキ、体部ヘラナデ？ 内：口縁ヨコナデ・ヘラミガキ、	灰色細砂粒少量、赤色細砂粒微量、やや不良	外5YR7/4にぶい橙 内7.5YR8/3浅黄橙	3/4遺存。	—	内外面摩耗顕著
8	坏	口径：14.4 器高：(5.0)	北西隅、床面から20cm上破片、No.10	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色・黒色細砂粒少量、白色細砂粒微量、良好	外7.5YR5/2灰褐 内7.5YR4/2灰褐	口縁～体部1/3遺存	—	内外面赤彩痕、摩耗顕著
9	坏	口径：12.4 器高：5.3	南東隅、床面斜正立、No.23	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色細砂粒少量、白色・黒色細砂粒微量、良好	外5YR5/6明赤褐 内5YR7/4にぶい橙	口縁～体部上半1/3欠損	150	口縁部及び内面赤彩痕、内面摩耗顕著
10	坏	口径：14.1 器高：5.4	覆土中	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ・ヘラナデ　内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色細砂粒少量、良好	外5YR5/6明赤褐 内10R5/8赤	口縁部3/4欠損	—	内面赤彩
11	坏	口径：14.2 器高：(5.9)	覆土中	外：口縁ヨコナデ、ヘラミガキ　体部ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色細砂粒少量、良好	外2.5YR6/4にぶい橙 内5YR7/6橙	口縁部1/4及び底部欠損	—	内外面摩耗顕著
12	坏	口径：15.2 器高：(7.3)	覆土中	外：ヘラミガキ？　内：ヘラミガキ？	灰色細砂粒少量、やや不良	外2.5YR6/8橙 内5YR6/6橙	口縁～体部上半1/4欠損	—	内外面摩耗顕著
13	坏	口径：12.4 器高：5.1	北東隅、床面破片散乱、No.24	外：口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ・ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラミガキ、	灰色細砂粒・白色砂粒少量、黒色細砂粒微量、良好	外2.5YR6/8橙 内2.5YR6/8橙	1/3遺存	—	内外面摩耗顕著
14	坏	口径：14.0 器高：4.9	P2脇、床面から7cm上、No.16	外：口縁ヘラミガキ、体部ヘラケズリ・ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ・ヘラミガキ、	灰色細砂粒少量、良好	外7.5YR6/2灰褐 内7.5YR6/1褐灰	口縁部1/2欠損	150	内外面摩耗顕著、口縁部歪仕上げ
15	坏	口径：13.0 器高：4.8	中央西寄り、床面から7cm上、No.8	外：口縁ヘラミガキ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ 内：口縁ヘラミガキ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ	灰色細砂粒少量、良好	外7.5YR5/2灰褐 内7.5YR6/2灰褐	3/4遺存。	150	歪仕上げ？

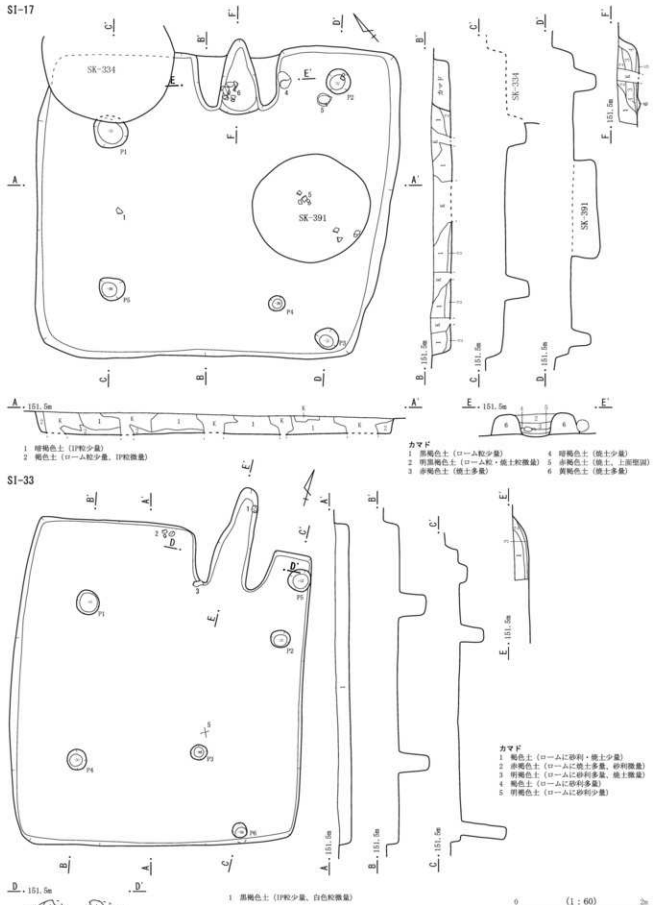
16	坏	口径：19.4 器高：(6.0)	北壁際西寄り北。床面から25cm上。No.13	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ・ヘラナデ 内：口縁ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラミガキ	灰色細砂粒少量、白色・黒色細砂粒微量、良好	外2.5YR5/8明赤褐 内2.5YR6/8橙	口縁～体部1/5遺存。	—	内面赤彩、摩耗顕著
17	鉢	口径：12.5 器高：(10.0)	覆土中	外：口縁ヨコナデ 内：口縁ヨコナデ、体部ヘラミガキ	灰色細砂粒少量、白色細砂粒微量、良好	外10R5/6赤 内2.5YR6/8橙	口縁～体部上半の み遺存	150	二次焼成。外面は気れている。
18	高坏	口径：12.6 器高：(11.2)	P3南西、床面から15cm上横転。No.3	外：口縁ヘラミガキ・ヨコナデ、体部ヘラミガキ　脚部ヘラナデ・ナデ　裾部ヘラミガキ 内：坏部ヘラミガキ、脚ヘラナデ・ナデ	灰色細砂粒・白色砂粒少量、黒色細砂粒微量、良好	外2.5YR5/8明赤褐 内2.5YR4/6赤褐	坏部2/3、裾部大半欠損	150	坏部内面光沢をおびる
19	高坏	口径：17.4 裾径：11.0 器高：13.2	カマド内須立（支脚）、No.3・4	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラミガキ　脚部へラナデ、裾部ヘラミガキ、裾部ヨコナデ 内：坏部ヘラミガキ、裾部ヘラナデ・ナデ	白色細砂少量、灰色・黒色細砂粒微量、良好	外2.5YR5/6明赤褐 内2.5YR5/6明赤褐	ほぼ完存	150	坏部内面光沢をおびる
20	高坏	口径：12.6 器高：(9.1)	カマド北側、床面直上横転。No.19	外：口縁ヨコナデ、体部ヘラミガキ　脚部へラナデ・ナデ 内：坏部ヘラミガキ	灰色細砂少量、良好	外5YR8/4浅橙 内5YR8/3浅橙	口辺1/2及び裾部欠損	150	
21	手捏ね	口径：9.0 器高：6.0 底径：6.0	覆土中	内外面ヘラナデ・ナデ	灰色・黒色細砂粒少量、滅色砂粒微量、良好	外5YR6/4にぶい橙 内5YR6/4にぶい橙	口縁～体部1/2欠損	150	頸部粘土紐接合痕顕著
22	手捏ね	口径：6.4 器高：1.9	P3南西、床面から20cm上、No.2	内外面ナデ	灰色・白色細砂粒少量、黒色細砂粒微量、良好	外2.5YR5/6明赤褐 内2.5YR5/6明赤褐	完存	150	口縁部はやや凹凸あり
23	壺	口径：14.4 胴径：19.3 器高：21.3 底径：7.2	南壁際東寄り、床面近位。	外：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ、ナデ 内：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ	灰色・白色細砂粒少量、黒色細砂粒微量、良好	外5YR6/4にぶい橙 内5YR6/4にぶい橙	口縁部1/5欠損	149	胴部中央についの黒斑
24	壺	口径：14.8 胴径：18.0 器高：20.0 底径：6.5	カマド南、東壁際床面近位、No.22	外：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ、ナデ 内：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ	灰色細砂粒多量、白色・黒色細砂粒微量、良好	外2.5YR7/6橙 内2.5YR7/6橙	口縁部1/2、胴部1/5欠損	149	二次焼成。外面は気れている。
25	壺	胴径：18.3 器高：(17.8) 底径：7.8	カマド内正位	外：頸部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、ナデ 内：胴部ヘラナデ	灰色・白色砂粒多量、黒色細砂粒微量、良好	外2.5YR5/6明赤褐 内5YR6/4にぶい橙	底部～胴部2/3遺存	—	二次焼成。外面は気れている。
26	壺	口径：15.0 胴径：27.0 器高：29.2 底径：7.0	カマド内破片散乱、No.18	外：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ、上半一部ヘラミガキ 内：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ	灰色細砂粒多量、白色砂粒少量、良好	外2.5YR7/6橙 内2.5YR7/6橙	口縁部及び胴部上半1/2欠損	149	口縁部摩耗顕著
27	壺	口径：18.6 胴径：25.6 器高：26.2 底径：6.8	北東隅、床面正位、No.3(20)	外：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ・ナデ、 内：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ	灰色細砂粒・白色砂粒少量、良好	外5YR5/4にぶい赤褐 内2.5YR6/8橙	口辺部1/2、胴部上半1/5欠損	149	内外面気れている

第23表　SI-33出土土器観察表

No.	器種	計測値	出土状況	成形・調整の特徴	胎土・焼成	色　調	遺存状況	写真図版	備　考
1	高坏	口径：11.6 器高：(8.6)	カマド内	外：口縁ヨコナデ、坏下～脚部ヘラナデ・ナデ　裾部ヨコナデ 内：坏部ヘラナデ、根コビ押え・ヘラナデ	白色及び灰色細砂粒多量、良好	外2.5YR6/8橙 内5YR7/4にぶい橙	裾部欠損	150	外面は被熱により気れている
2	甕	口径：26.4 器高：25.6、 孔径：9.4	カマド西側北隅寄り床面、No.1	外：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ、ナデ 内：口縁ヨコナデ　胴部ヘラナデ・ヘラミガキ	白色及び灰色細砂粒多量、良好	外2.5YR6/8橙 内5YR6/8橙	1/4欠損	150	外面下方は気れている
3	壺	口径：[20.0] 胴径：29.0 器高：(16.5)	カマド西側北隅寄り床面、No.1	外：口縁ヨコナデ、胴部ヘラナデ、上半一部ヘラミガキ 内：胴部ヘラナデ	白色及び灰色細砂粒少量、良好	外2.5YR7/6橙 内5YR5/6明赤褐	口縁部1/8、胴部1/2遺存	—	口縁部内面気れている
4	壺	胴径：29.4 器高：(15.5) 底径：7.2	カマド内	外：ヘラナデ・ナデ 内：ヘラナデか	白色細砂粒多量、灰色細砂粒少量、良好	外2.5YR6/8橙 内2.5YR5/1赤灰	胴部下半～底部2/3遺存	—	内面は気れている

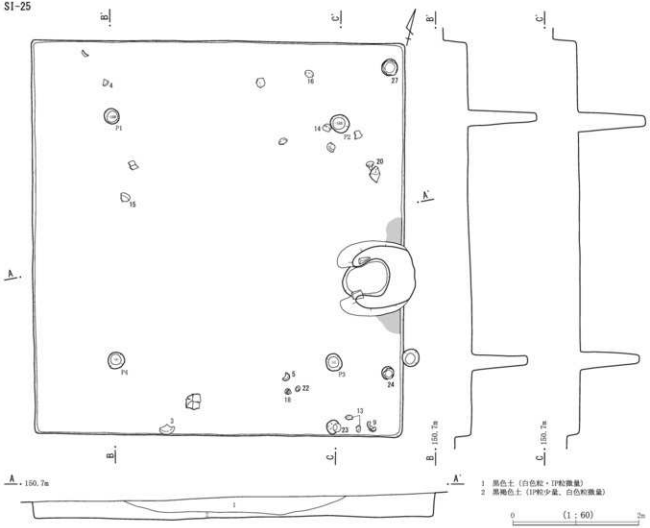
第24表　竪穴住居跡出土玉類観察表

出土遺構-No.	種別	出土状況	計測値（長さcm、重さg）	材質	挿図No.	写真図版	備　考
SI-17-7	勾玉	カマド右袖前床面	縦：2.2　横：1.0　厚さ：0.7　孔径：0.1～0.2　重さ2.3	土製	221	151下	
SI-17-8	勾玉	カマド右袖前床面	縦：3.0　横：1.0　厚さ：0.9　孔径：0.1　重さ3.1	土製	221	151下	
SI-17-9	丸玉	住居中央南寄り床面	縦：(2.3)　横：0.9　厚さ：0.8　孔径：一　重さ(2.0)	土製	221	151下	両端欠損
SI-33-5	臼玉	中央南東寄り覆土	縦：0.9　横：0.9　厚さ：0.4　孔径：0.1　重さ0.4	滑石	222	—	

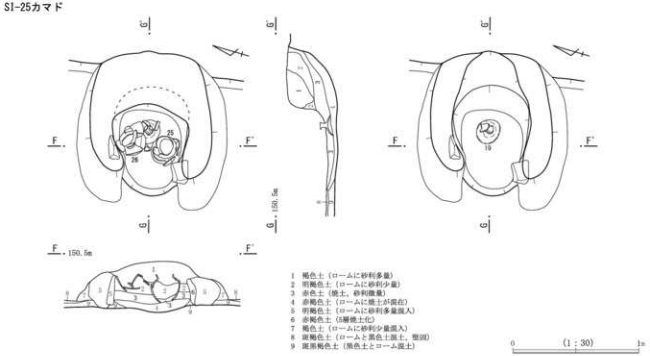


第219図 SI-17･33実測図

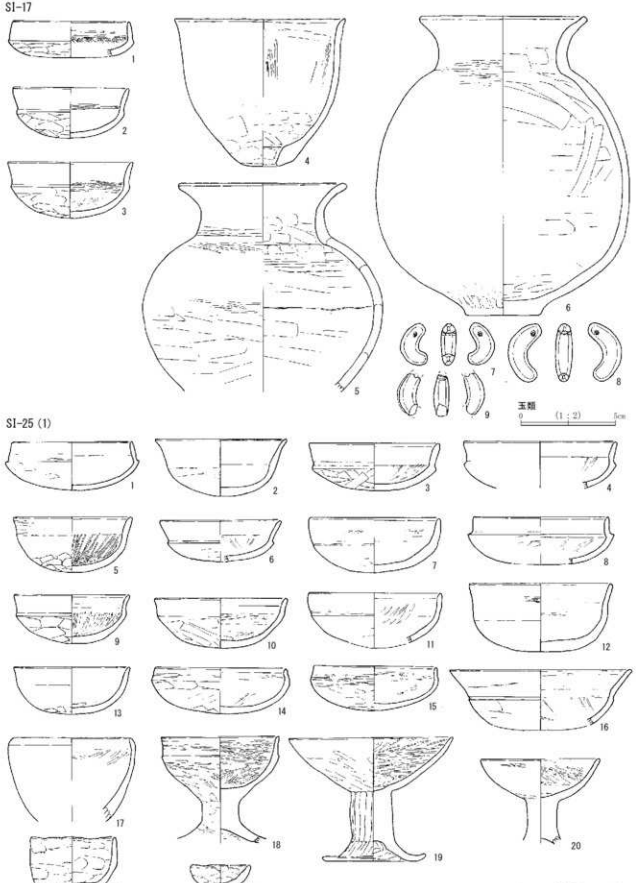
SI-25



SI-25カマド

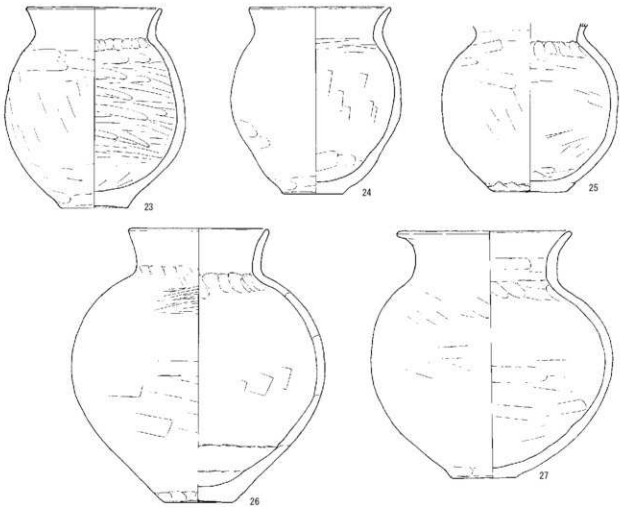


第220図 SI-25実測図

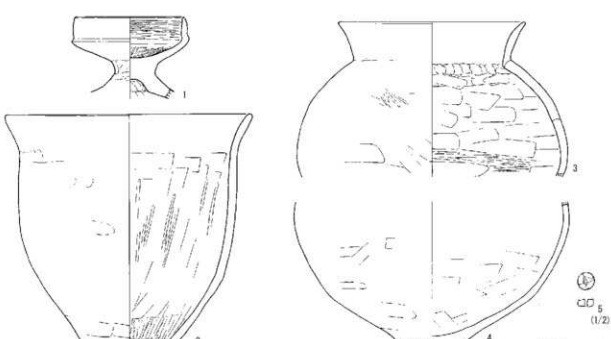


第221図 SI-17·25(1) 出土遺物実測図

SI-25 (2)



SI-33



第222図 SI-25(2)·33 出土遺物実測図

（2）古墳

古墳は、縄文中期の竪穴住居跡や土坑が濃密に分布している調査区南側の中央から南西端にかけて2基確認した。横穴式石室と周溝の一部を検出したが、いずれも削平が著しく遺存状況は良くない。両古墳の間隔は現況の周溝外縁で6mほどであるが、削平以前はもっと狭かったと考えられる。

1号墳（第223・224・225・227図、図版137～144・151・152）

位置：調査区南端中央、I-4グリッドに位置する。墳丘盛土は削平されており、西側周溝と横穴式石室の下方が残るのみである。南側は調査区外となる。50基以上の土坑、3軒の竪穴住居跡が重複する。

規模・墳形：石室を中心として残っている周溝から推定すると墳径23mほどの円墳と考えられる。

周溝：西側が長さ15mほど残るのみである。最も残りの良い部分で上場幅2.8m、下場幅2.3mで、確認面からの深さは30cmである。底面は平坦で、立ち上がりは墳丘側が約50°であるが、外側は約80°で傾斜がきつい。覆土は自然堆積で、ローム粒を多く含む暗褐色土が壁際に堆積した後、黒色土で埋まっている。

主体部：古墳中央から凝灰岩切石で構築された横穴式石室が検出されている。主軸方向はN-8°-Wである。石室部分はSK-474・475・477・488と重複する。石室底面から40～50cm上は削平されている。玄室は底面で長さ318cm、幅は奥壁側で150cm、中央で170cm、羨門付近で150cmを測り、わずかに胴張の長方形の形態となる。奥壁は凝灰岩の幅の広い大きな切り石の一枚岩、幅165cm、厚さ30cm、高さ60cmほど残る。側壁は幅100～30cm、厚さ40～20cmの凝灰岩の切り石を切組積みしている。奥壁及び側壁の根石を据えるため浅い窪みが認められる。断面図からもわかるように上方がやや内傾させて設置している。底面は凝灰岩の割石を敷き、隙間には凝灰岩の小破片を詰めている。羨道側の框石は西側のみ残る。その南側は幅135cm、長さ60cmほどの狭い前室で、西側のみ玄室から延びる切石の側石が残る。大きな閉塞石と思われる凝灰岩が散乱している。掘り方は長さ430cm、幅315cmの長方形である。裏込めはロームと今市軽石、今市軽石主体、今市軽石と粘土の層が層状に堆積している。

墓道：SI-29・SK-476と重複する。玄室から長さ2.3mほど確認した。幅70～75cm（調査区境のSI-29の断面では表土下で幅100cm、深さ55cm）で、断面は逆台形状である。石室に向かい緩やかに傾斜して深くなる。最下層の今市軽石を多量含む黒色土は硬く締まっている。その上は白色粘土や凝灰岩破片、それらを含む黒色土が層状に堆積している。

遺物：石室内からは、直刀、刀子、鉄鏃各1点、塗鞘された環状鉄製品2点、勾玉4点、白玉1点が出土した。直刀と勾玉・白玉は奥壁西側、鉄鏃は西壁際中央、環状鉄製品は東壁際中央から出土している。ほかは土師器の壺と甕の小破片各1点が周溝中から出土したのみである。

2号墳（第223・226・227図、図版145～148・151）

位置：南側は調査区外となる。50基以上の土坑、3軒の竪穴住居跡が重複する調査区南西端、I-2b・c、I-3a・dグリッドに位置する。1号墳同様、墳丘盛土は削平されている。北東周溝と横穴式石室が残るのみである。縄文時代中期の3軒の竪穴住居跡、20基以上の土坑と重複している。

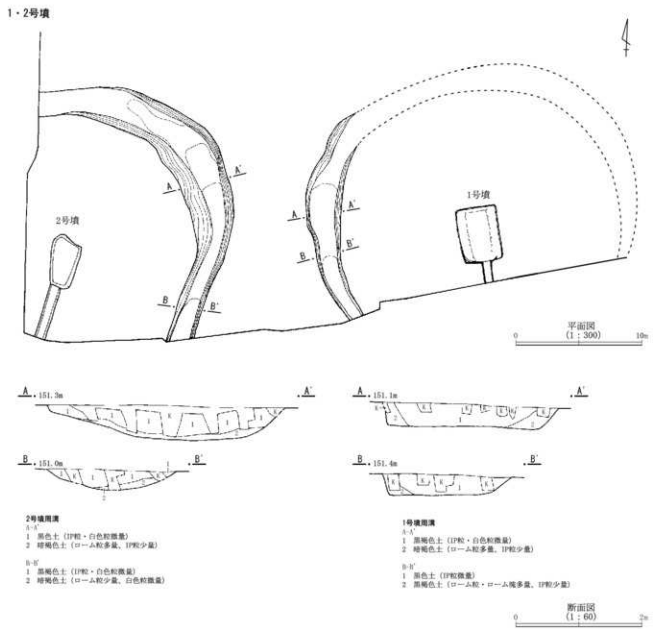
規模・墳形：石室を中心として残っている周溝から推定すると墳径20mほどの円墳と考えられる。調査範囲は古墳の北東部、全体の1/3ほどである。

周溝：北側がほぼ削平されているが、東側は残っている。北西で3.7m、深さ55cm、東側で幅2m、深さ30cmである。底面は緩やかに湾曲しており、なだらかに立ち上がる。最も幅の広い北東部で、立ち上がりは内側の墳丘側が約15°、外側は約40°で1号墳同様、墳丘側より外側が傾斜はきつい。覆土は自然堆積で、1号墳同様ローム粒を多く含む暗褐色土が壁際に堆積した後、黒色土で埋まっている。

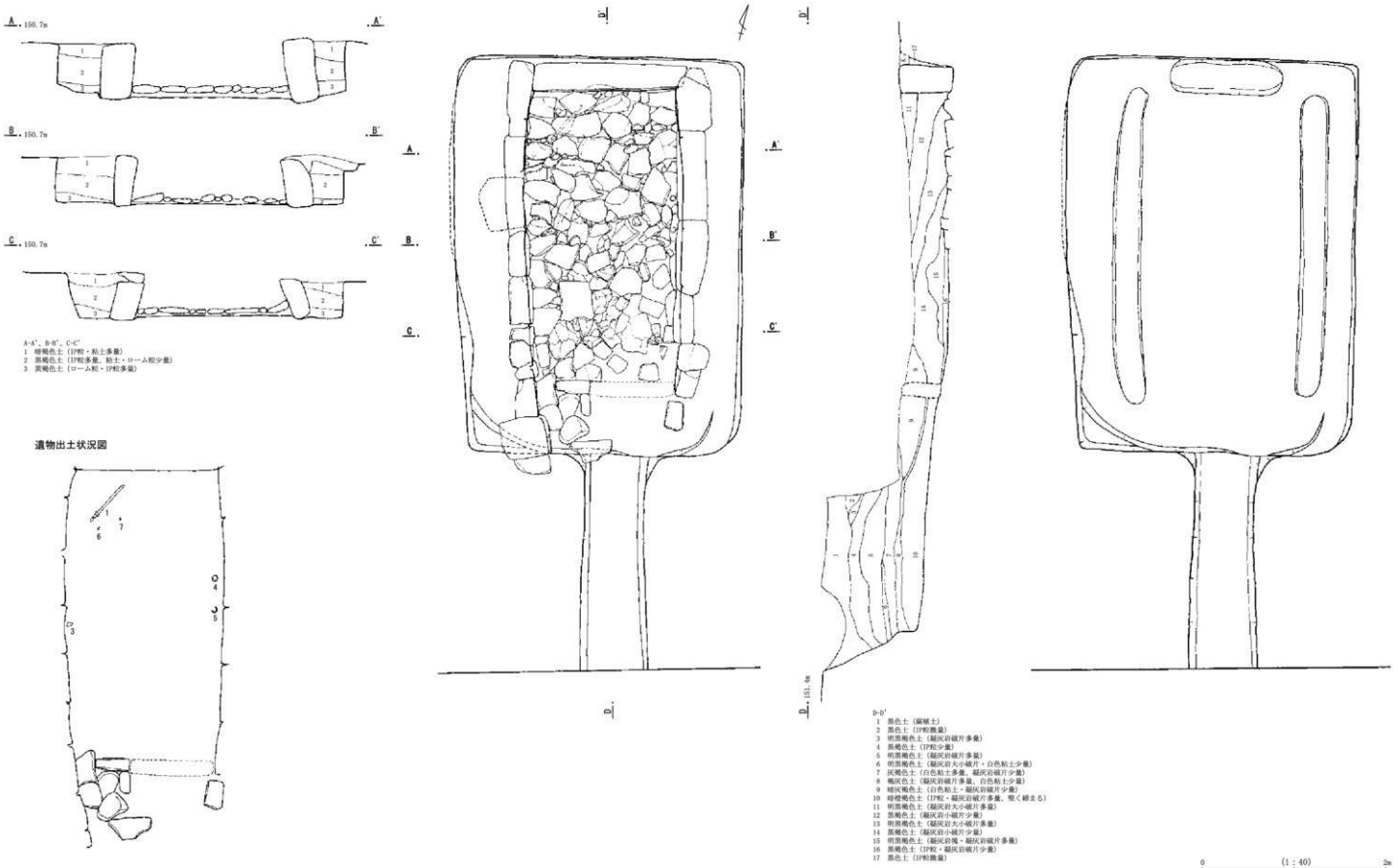
主体部：大半が縄文時代の竪穴住居跡SI-36と重複する。たくさんの凝灰岩の切り石や破片が出土しており、1号墳同様横穴式石室と考えられるが、原位置をとどめているものがなく不明である。主軸方向はN-16°-Eである。掘り方は長さ490cm（下場365cm）、幅は奥壁側で240cm（下場180cm）、入口側で130cm（下場90cm）、奥壁側が広い縦長の隅丸台形である。確認面からの深さは60cm、底面は平坦で、立ち上がりは奥壁側の側面がややなだらかである。墓道との比高は25cmである。

墓道：幅80～85cmで玄室から4.3mほど確認した。確認面からの深さ26cm、底面はほぼ平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。玄室から2.1m南側は20cmほど深く掘られている。石室に近い方の覆土には凝灰岩破片や白色粘土が多く含まれる

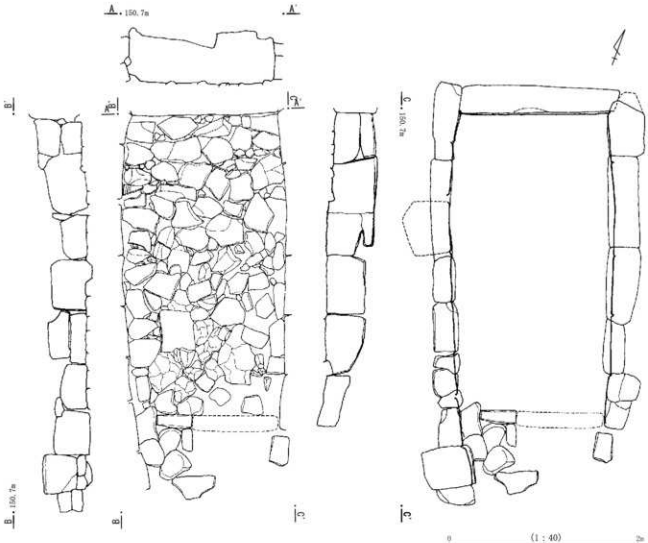
遺物：墓道の底面から20cmほど浮いて完形の土師器甕が横転状態で出土している。ほかに周溝覆土中から坏の破片3点、甕の口縁部破片1点、垂飾1点が出土している。垂飾はコハク製で、両端を欠くため全形は不明であるが幅1cm、厚さ0.4cmで、断面レンズ状で穿孔が施されている。周溝は多くの縄文時代の土坑と重複しており、古墳に伴うものか検討を要する。



第223図 1･2号墳全体図及び周溝断面図

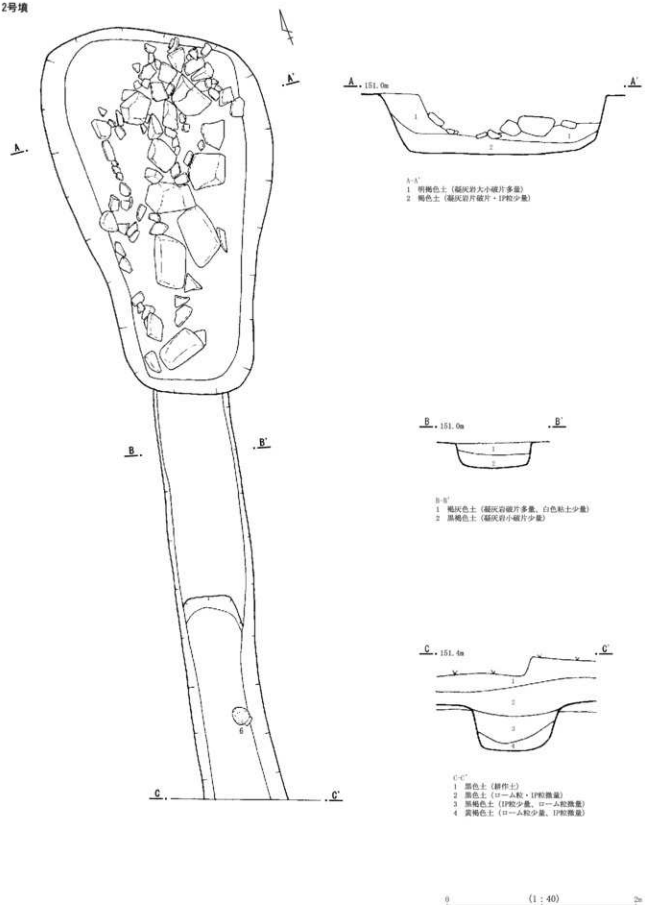


第224図 1号墳石室及び墓道実測図

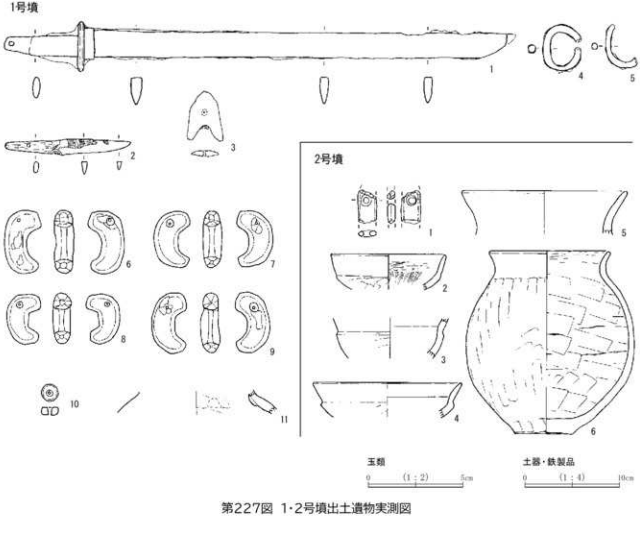


第225図 1号墳石室展開図及び根石実測図

2号墳



第226図 2号墳主体部及び墓道実測図



第227図 1・2号墳出土遺物実測図

第25表 古墳出土土器観察表

出土遺構-No.	器種	法量	出土状況	成形・調整の特徴	胎土・焼成	色 調	遺存状況	写真図版	備 考
1号墳-11	壺	頸径:[12.4]	覆土破片出土	外:ヘラナデ、 内:貼土部接合部ユビ押え	黒色微砂粒少量、 白色微砂粒微量、良好	外5YR6/6橙 内2.5YR6/6橙	頸部小破片	—	
2号墳-2	坏	口径:[12.4] 器高:(3.8)	覆土破片出土	外:口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内:ヘラミガキ	白色微砂粒少量、 黒色砂粒微量、良好	外10R4/3赤 内10R4/3赤	1/5遺存	—	内外面赤彩
2号墳-3	坏	脚径:[12.4] 器高:(4.5)	覆土破片出土	外:口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内:一	黒色微砂粒少量、 赤色砂粒微量、良好	外10R6/3赤橙 内2.5YR7/3橙	小破片	—	内面剥落顕著
2号墳-4	坏	口径:[16.0] 器高:(3.7)	覆土破片出土	外:口縁ヨコナデ、体部ヘラケズリ 内:ヘラナデ	白色微砂粒少量、 赤色砂粒微量、良好	外10R5/3赤 内10R5/3赤	小破片	—	内面及び口縁部外面赤彩
2号墳-5	壺	口径:[17.6] 器高:(4.8)	覆土破片出土	外:ヨコナデ、 内:ヘラナデ・ヨコナデ	黒色微砂粒少量、 白色微砂粒微量、良好	外2.5YOR6/8橙 内5YR7/6橙	口縁部小破片	—	
2号墳-6	壺	口径:13.0 胴径:18.0 器高:19.5 底径:(6.2)	墳道部底面10cm上から横転状態で出土	外:口縁ヨコナデ、胴部ヘラケズリ・ヘラナデ 内:口縁ヘラナデ、胴部ヘラナデ	黒色砂粒多量、 白色細砂粒少量、良好	外2.5YR6/8橙 内5YR2/1黒褐	口縁部1/2、胴部1/4欠損	151	

第26表 古墳出土鉄製品・玉類観察表

出土遺構-No.	種別	出土状況	素材	計測値(長さcm、重さg)	写真図版	備 考
1号墳-1	直刀	石室内	鉄	全長(53.4)　刀部長さ(43.8)　幅2.8～2.9　厚さ0.9～1.2 鋒5.3×4.5　茎長さ7.8　目釘孔0.6×0.4　重さ472	152	切先1cmほど欠く
1号墳-2	刀子	石室内	鉄	長さ13.5　幅1.6　厚さ0.7　重さ18	152	木質一部残存
1号墳-3	鏃	石室内	鉄	長さ(5.4)　幅3.8　厚さ0.6　重さ13	151上	先端を欠く
1号墳-4	環状鉄製品	石室内	鉄	長さ5.0　幅0.8　厚さ0.8　重さ38	151上	塗膜
1号墳-5	環状鉄製品	石室内	鉄	長さ(4.7)　幅0.6　厚さ0.6　重さ24	151上	1/3欠損、破片1(接合不可)、塗膜
1号墳-6	勾玉	石室内6～9まとまって出土	メノウ	縦:3.4　横:1.2　厚さ:0.9　孔径:0.1～0.4　重さ7.2	151下	
1号墳-7	勾玉		メノウ	縦:3.0　横:1.3　厚さ:1.0　孔径:0.1～0.6　重さ6.6	151下	
1号墳-8	勾玉		メノウ	縦:2.7　横:1.2　厚さ:0.9　孔径:0.1～0.3　重さ5.6	151下	
1号墳-9	勾玉		メノウ	縦:3.2　横:1.7　厚さ:(0.9)　孔径:0.1～0.7　重さ6.8	151下	
1号墳-10	臼玉	石室内	滑石	縦:0.9　横:0.9　厚さ:0.4　孔径:0.1～0.4　重さ0.5	—	
2号墳-1	垂飾	周溝覆土上面	コハク	縦:(1.7)　横:1.0　厚さ:0.4　孔径:0.3～0.6　重さ(3.0)	151上	両端欠損、縄文時代か

第4章　まとめ

1．旧石器時代

遺構確認中に出土した有舌尖頭器・エンドスクレーパーからなる石器群と、基本土層Ⅶ層（暗色帯）中位から出土した安山岩を主体とする台形様石器・剥片・石核からなる石器群のふたつの時期の存在が確認された。前者は旧石器時代終末～縄文時代草創期、後者は後期旧石器時代の前半段階と考えられ、森嶋秀一の栃木県の後期旧石器の編年（Ⅰ～Ⅵ期区分）のⅡ期（暗色帯からハードローム下面のATにかけて）の前半に位置付けられる(1)。近隣では茂木町並松遺跡や中根遺跡でⅠ期の石器が出土している(2)が、那須烏山市では最古段階の資料である。

2．縄文時代

検出された遺構は、中期の竪穴住居跡24軒と土坑669基、集石2基、捨て場2か所である。調査区のほぼ中央F-４a・b、G-４c・dに無遺構地帯（広場）をもち、周囲に竪穴住居と土坑が重複しながら密に分布する環状配置の集落跡と考えられる。各時期の竪穴住居跡の数は土坑に比べかなり少ない。調査区の南及び東側に遺構が広がることは明らかで、南側調査区際には完掘できない竪穴住居跡が7軒あることからも、土坑群の外側に住居跡があることが予想される。

竪穴住居跡　加曽利E1式期（Ⅵ期）の土器がややまとまって出土しているSI-26・30を除き、ほとんどが数点の破片資料である。さらに土坑との重複も多く時期の決定を難しくしている。平面形は小型の円形（SI-10・11）、楕円形（SI-14・16・22・23・34）、隅丸方形（SI-12・24・28・35・37・38）、長軸5～6mほどの大型の楕円形（SI-8・9・15・21・30・36）、円形（SI-26）のプランがある。小型円形の住居は炉を有しないものがほとんどである。4本主柱の13・24・28などはⅣ～Ⅴ期のものが多いと考えられる。大型の楕円形住居は6～8本主柱で地床炉をもつものが多い。浄法寺類型の土器（Ⅵ期）が出土したSI-15は炉を有さないものの、ほぼ同じ加曽利ＥⅠ式中段階（Ⅵ期）のSI-30で地床炉が検出されていることから、このころから屋内に炉が付設されるものと考えられる。SI-27・29は有段住居である。SI-27は南側が調査区外となり明確ではないが、張出部をもつ珍しい例である。出土した土器は小破片が多いがⅡ期ごろのものである。

土坑　破片資料が多く時期比定は難しいが、時期ごとに分布を概観する。Ⅰ期の遺構は少なく明確でなく、Ⅱ～Ⅲ期の土坑は北側を除き疎らに分布する。Ⅳ・Ⅴ期は南東・南西にやや多く確認され、北側は疎らである。Ⅵ～Ⅶ期は土坑の数が最も多くなる時期で、Ⅶ期に東側を中心にピークを迎える。竪穴住居跡もこの時期のものが多い。Ⅷ期になると前時期に比べ分布エリアが狭くなる。土坑の数も少なくなり、中央広場に近い東側にややまとまって検出されている。Ⅸ期は広場北東に数基の土坑が検出されている程度で終焉を迎える。その後、間をおいて後期初頭の土器が中央北側の土坑から１個出土している。

断面形態では、頸部円筒状のフラスコ状のＥ類がⅡ～Ⅲ期に多く、袋状のＤ類はⅤ期までみられる。円筒状の頸部を有しないものはⅦ期頃までであり、開口部が広くなる傾向がみられる。小ピットは県央から県東部の袋状土坑に顕著にみられるが、本遺跡でも293の土坑で確認されている。Ⅲ期には確認され、Ⅳ・Ⅴ期に徐々に多くなり、Ⅵ～Ⅸ期はかなりの割合で小ピットをもつようになる。個数は１～2個のものが少なくない。5個以上の子ピットをもつ土坑はⅥ～Ⅷ期に多く、SK-138の10個を最多に12基確認されている。一括投棄の多数の土器が出土している土坑は、SK-70の11個を最多にSK-25・70・74・441・522などがある。SK-382では壁際の床面直上からベンガラ入の小型土器が出土しており、注目される。

縄文土器　縄文中期前葉から後葉まで9期に区分し、各時期の土器変遷については詳述を避け、第228図に概要を示した。各時期東関東系と北関東～南東北系の土器を中心に、Ⅲ期に西関東～甲信地方の勝坂式、Ⅲ～Ⅴ期に新潟県中越地方の火炎系土器が数点確認されている。Ⅵ期を中心にみられる口縁部文様帯に波状隆帯を一周させる深鉢は、本遺跡で多く出土しており、深鉢以外にも浅鉢もあり注目される。SK-70・74は口縁上部に一段階古い要素である交互刺突が巡り、那須烏山市小鍋前遺跡や茂木町桧の木遺跡同様、Ⅴ期にはすでに存在していたと考えられる。中村信博も注目しているが(3)、Ⅴ～Ⅵ期の栃木県南東部から茨城県南西部の特徴的な文様といえよう。

つぎに、希少な器種について述べる。破片ではあるが、Ⅴ期のSK-44から出土した注口土器は、県内の縄文中期のものでは最も古く、Ⅸ期のSK-176- 9は東北系の瓜実形の注口土器で南縁の資料として注目される。短頸壺形土器はSK-129・250・266・267・303・396、B区捨て場で出土している。SK-267、B区捨て場で出土している脚付きのものの類例はⅡ～Ⅲ期に多い。SK-396はⅤ期、鍔付（有孔）のSK-129・250・266・303・444はⅦ期を中心とした時期のものであろう。台形土器はSI-14、SK-35・117・164・421・456、B区捨て場で出土している。楕円単孔(SI-14)、円孔2個1対(SK-421・456)があるが、いずれもⅥ期頃のものである。B区捨て場の内面に文様の施したものは、県内では茂木町桧の木遺跡に類例がある。

石器・石製品　磨製石斧は未製品が多く検出されている。また、小型品の擦切り痕（第203図5・9・12）、分割するための細い線が施されているもの（第203図19）などは希少な例である。

遺構には伴わないが、拠点集落から出土する例が多い硬玉製大珠やコハクなども注目される。コハクは捨て場から剥片が出土している。2号墳周溝から出土したコハク製垂飾についても、孔の穿孔方向や多くの縄文時代の遺構を古墳が壊していることを考慮すると、縄文時代のものの可能性が高い。市内では上川井地区の新道平遺跡でも剥片が出土している。分析では曲畑遺跡がいわき産、新道平遺跡が銚子産という結果が報告されている。

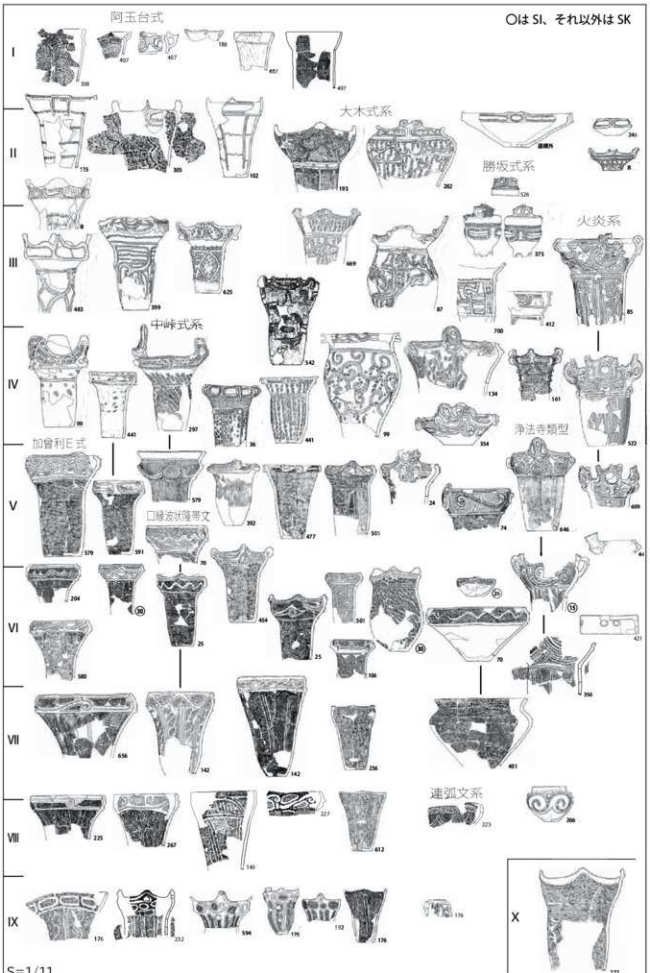
このほか、Ⅱ期のSK-135から出土した大形石棒は県内最古の出土例であり、Ⅶ～Ⅷ期のSK-174・183・209・459出土の小形石棒も中期の希少な例で注目される。高根沢町上の原遺跡や茂木町桧の木遺跡でもⅧ期の遺構からの出土例があり、福島県から北関東の東部で中期後半の資料が増加しつつある。

3．古墳時代

竪穴住居跡3軒と古墳2基が検出された。古墳は調査区南端西側に位置し、調査区外まで延びる。墳丘は削平され、周溝も深いところで30㎝ほど部分的に残るのみであるが、墳径20～23mの円墳と推定される。埋葬施設はいずれも横穴式石室で、底面から高さ50㎝ほどが残る。1号墳は凝灰岩切石積みの横穴式石室で、直刀・刀子・鉄鏃・メノウ製勾玉などが出土している。時期は7世紀代と考えられる。凝灰岩切石の石室は喜連川丘陵西側に多く、北はさくら市早乙女台古墳から南は市貝町石下古墳群・益子町山守塚古墳まで確認されている。2号墳は埋葬施設の攪乱が著しいが、墓道出土の土器から6世紀末葉と考えられる。

竪穴住居跡は古墳の北及び北東に25～30mの間隔を置いて3軒確認されている。いずれも方形プラン・4本主柱でカマドが壁に付設されている。時期はSI-25が6世紀前葉～中葉、SI-17・33が6世紀後葉で、古墳より若干古い時期のものである。

（注）
1　森嶋秀一2002「周辺地域の様相－栃木県－」『茨城県のおける旧石器時代研究の到達点－その現状と課題－』茨城県考古学協会
2　中村紀男1997「1並松遺跡」『茂木町史』第二巻　資料編1　原始古代・中世　茂木町史編さん委員会
3　中村信博2006『桧の木遺跡』Ⅱ　本田技研工業株式会社・桧の木遺跡調査団



第228図 曲畑遺跡縄文時代中期土器変遷図

報 告 書 抄 録

ふりがな A2:I40	そりはたいせき
書名	曲畑遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	那須烏山市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 10 集
編著者名	後藤信祐・鈴木芳英
編集機関	那須烏山市教育委員会事務局生涯学習課
所在地	〒 321-0595　栃木県那須烏山市大金 240
発行機関	栃木県那須烏山市教育委員会
発行年月日	西暦 2025 年 3 月 21 日（令和 7 年 3 月 21 日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	〃〃	〃〃		㎡	
そりはたいせき 曲畑遺跡	なすからすやまし 那須烏山市 そりはたちない 曲畑地内	9215	2830	36° 36′ 26″	140° 5′ 12″	19901004 － 19910912（第 1 次） 19911209 － 19920326（第 2 次）	約 10,000	企業研究 所造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
曲畑遺跡		旧石器 時代	ブロック 1	石器（台形様石器・剥片・石核・有舌尖頭器・エンドスクレイパー）	後期旧石器時代前半（暗色帯中位）出土石器群と旧石器時代終末の石器群。
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 24 軒 土坑　669 基 集積遺構 2 基 捨て場 2 か所	縄文土器（深鉢・浅鉢・鉢・壺・台形土器・注口土器等）・石器（石鏃・石錐・打製石斧・磨製石斧・磨石・石皿等）・土製品（円盤・耳飾・垂飾等）・石製品（硬玉製大珠・石棒・線刻石等）	縄文時代中期の拠点集落跡。土坑の多くは貯蔵穴で、フラスコ状、袋状のものが少なくない。中期後半の土坑底面には、小ピットを複数もつものものが多い。
	集落跡 古墳	古墳時代	竪穴住居跡 3 軒 古墳 2 基	土師器（坏・高坏・甕・甑）・土製品（勾玉）・石製品（勾玉・臼玉）・鉄製品（刀・刀子・鏃）	6 世紀中葉～後葉の竪穴住居跡と 6 世紀末～ 7 世紀初頭頃の円墳。 1 号墳は凝灰岩の切石切組の横穴式石室。

要　約	曲畑遺跡は、1991 ～ 1992 年に発掘調査が実施され。1999 年に写真図版編のみ刊行されている。2022 年から再整理を行い本報告をもって完了となる。 旧石器時代は、暗色帯中位から台形様石器などが出土しており注目される。縄文時代については、中期のこの地域の拠点集落と考えられる。土器は在地系のほか、東北南部や新潟県、西関東・甲信系など各地の土器も出土している。また硬玉製大珠やコハクなども出土しており、広域ネットワークがうかがえる遺跡である。古墳では、県東部喜連川丘陵の西側に特徴的な凝灰岩の切石切組の横穴式石室が発見されている。

那須烏山市埋蔵文化財調査報告　第 10 集
曲 畑 遺 跡

発　行　栃木県那須烏山市教育委員会
栃木県那須烏山市大金 240
TEL　0287-88-6223
令和 7 年 3 月 21 日発行
編　集　那須烏山市教育委員会事務局生涯学習課
印　刷　有限会社　吉成印刷